AB-タ3

昭38年8月15日 107号
昭41年7月15日 142号

会議場の規定決る

一般の利用に供す

当協会は台協ビル会議場の使用規定を左の如く決定、台湾縁故者を優先として広く一般の利用にも供することとなった。

台湾協会会議場使用規定

台湾協会の会議場使用希望者は、次の条項をお含みの上申し込み下さい。

一、会場の使用料は別表の通りであります。

二、会場に特別の設備をする場合は、別に使用料を申し受けます。

三、会場使用の後整理清掃等を汚損破損し、または紛失した場合はその損害を弁償していただきます。

四、発火物、爆発物等の危険物の持込み、禁煙場所における喫煙は固くお断りいたします。

五、火災保険には特に注意願います。

六、会場その他の場所は清潔にご使用下さい。使用後は現状に復してください。

七、受付案内、携帯品の預り、飲食物の準備持込等事前会合の世話一切は使用者側にお願いします。ただこの場合は、相談に応じます。

八、会場が数日にわたり他に迷惑を及ぼす様な使用をしたときは、使用をお断わりいたします。

九、当協会員への慶弔心付等は固くお断わりいたします。

台協ビル会合

―申込順―

〈鈴北会〉　八月十七日午後一時

〈台北女子高等学校　九月廿八日

〈新竹会　十一月二日午より四時まで

出席者が五百余名

台北一高女同窓会の盛況

元台北第一高女同窓会から改る「みどり会」の第一回全国大会は七月二十八日東京都日比谷公会堂で開かれ五百余名出席盛会裡に閉会式を終った。午前中は同窓会、午後総会に移り御来賓の挨拶あり当日の来賓、張厚輝国民党中央評議委員、許世英総統府資政、在台湾の国策代表者の祝辞あり続いて懇親、在台湾の同窓生代表の祝辞あり続いて懇親、在台湾の同窓生代表の祝辞あり続いて懇親、在台湾の同窓生代表

新刊紹介

大正期政界うら話
水魚の田健治郎と松本剛吉
「大正デモクラシー期の政治」を読む

松本剛吉は明治期の第一の子供と呼ばれることになったのであるが、こうして山県・松本の関係は田健治郎の関係とは、また違った、明治初期からの深い結びつきがあった。数回の政変を通じて、松本剛吉は、常に政界の裏面にあって、政局の動きを見守り、ときには、政界の黒幕的な役割をも演じてきた人物である。

田健治郎の関係は、松本剛吉の後輩であり、また、同郷の関係にあったとはいえ、松本剛吉とは、かなり異った性格の人物であったようである。

田健治郎は、明治初期に、逓信官僚として、その手腕を買われ、逓信大臣、鉄道院総裁、貴族院議員、枢密顧問官などを歴任し、大正期には、政友会の長老として、原敬内閣の逓相、鉄相として入閣し、原内閣の瓦解後は、政友会の分裂に際して、政友本党の結成に参加し、その総裁となり、加藤高明内閣の逓相、鉄相、さらに、犬養内閣の鉄相として入閣し、政党人としての経歴を重ねてきた人物である。

これに対して、松本剛吉は、山県有朋の知遇を得て、山県の秘書官として、その政治活動を助けるとともに、山県の政治的な意図を体して、政界の裏面にあって、政局の動きを見守り、ときには、政界の黒幕的な役割をも演じてきた人物である。

松本剛吉は、明治初期の政治家の中では、珍しく、学問のある人物であったようで、山県の秘書官としても

第107号　（第三種郵便物認可）　月刊　台湾協会報　昭和31年8月15日　（2）

東南アとの農業交流
大勢は自由化へ
これから役立つ台湾農業の技術と経験
農林政務次官に就任の松野孝一氏語る

先の内閣改造で農林政務次官に就任した秋田県選出参議院議員松野孝一氏は、今次の改造にあたり池田首相が重用した「試験を超越した適材適所主義」という一枚看板を出て行ったようなもので、今度の改造中の秀逸として各方面から好評を博している。しかも、新次官はかつて台湾農場の経営者として台湾関係の者からは一方ならぬ期待をされていた人だけに台湾関係の者はもとより農業関係者多数の祝福を受けている。特に、台湾時代に農業部長、米穀部長など農業行政のベテランであるだけに、農林省はうってつけの適任であり、氏の登場で人柄、相俟って、今後の期待を集めている。八月八日午前十一時、農林省政務次官室に新次官を訪ね、就任の感想を聞いた。

先ず氏の言葉によって作られその価値を高く評価されている『台湾農業関係文献目録』についての質問から初めると

台湾で農業行政をやっていた時代にその編集機関として農業協会がやって来て、大変、門前で回収事務をやっていた。終戦当時、その残金が内地で三百円あって、関係機関へ寄贈された。私がその代表者になっていた。二十五年頃との内の四十万を解除されたので、私が会長になって総会長、理事にも相談して何かこの金を有効に使おうということになり台湾農業史（赤野孝一氏執筆）、台湾農業関係者名簿の作成、関係者に配布して二次の使命を終った。

ところが、三十三年に全部が解除され残りの金が入ったので、何をしようかということになり財団法人南方農業協会を作った。この金をもとに、関係方面主として製糖会社から寄附金を集めて

一、台湾における農業関係文献を全部集めよう

二、関係者名簿を作ろう

ということになって農林省、大学、図書館等を通じ依頼して資料を蒐集し、書かせた。そして結局二年前に三千五百に作上った。さらに、概要を書かうと思って百人の先生方に依頼して二次締切りが、昨年、私と前任野坂の両君等と相談して纏めたものである。文献は千二百五十ものである。文献は千二百五十ものである。文献は千二百五十

台湾協会報

発行所
新宿区西大久保2の303
財団法人　台湾協会
電話（99）8116―7番
振替口座　東京 40307番
宛名財団法人台湾協会
発行人　松本　晙吉

在外財産問題の本質を衝く

その処理促進について

衆議院議員（外務委員会理事）正示啓次郎氏に聞く

在外残置財産の問題は今や政治の高舞台の一大課題としてもてはやされ、その解決を、各方面から引揚者の方々にはもとめて止まない感さえあります。

かつて在外財産問題特別委員会の委員長として、この問題の本質はいずこにあるか、かつて在外時代に在って、本問題を手にかけ、できうる衆議院議員としての任務に努力を続けている衆議院議員正示啓次郎氏（前衆議院議員第一区選出）をなやませ、本問題をたずねてもらった。（写真は正氏）

一、問題の経緯

（一）第二次の暫定的処理

まず第一に、在外財産問題の従来の経緯、いきさつについて申しますと、御承知のように日本の敗戦によりまして、外地及び外国にたくさんの国民が引揚げてまいりましたが、当時はもろん敗戦国民として国内でありましたから、その引揚げの持ち帰り財産につきましては、総額五百万円を限度に引きかえられたわけであります。

昭和二十年九月、引揚者給付金等の支給を行なう方針を立てたのであります。在外財産の、いわば法律的な補償問題をここに通過しまして、九月二日附で勅令が付金等の支給、これは、昭和二十五年五月、法律第一〇九号として、引揚者給付金等支給法というものが国会において制定され、公布されまして、この法律によって約五百億円、人数にいたしまして三百二十万人余り、件数にして三百四十五万件余りの給付金の支給が行なわれたのであります。これまでの経緯はおってお述べするまでもございますが、昭和二十五年五月、引揚者給付金等支給法の制定によりまして、在外財産問題の第一次の処理が行なわれたのであります。

（二）引揚者給付金の支給

次いで、昭和二十九年の七月になりますと、この調査会を在外財産問題審議会というように改組するとともに、この調査会の答申をまって、政府は在外財産問題の解決をはかるべきであるというような答申をされたのであります。

この審議会は、以上の政府の諮問に対しまして、慎重審議をいたしました結果、昭和三十一年の十月二日、次のような答申をしております。

「これは非常に大事な点であるが、在外財産に対しては国内法律上補償義務を有するかどうか、いずれとも断定をすることはできない。こういうことでありますが、在外財産については、国内法律上補償義務があるかないかということは、この審議会としても、にわかに断定をすることはできない。こういうことでありますが、それかといって、在外財産については、いずれとも断定をすることはできない。こういうことでは、わが国政府としては、この問題の処理をどうするかということについて、何らかの態度をきめなければならないことにたんだんなってまいりました。

そこで、政府としましては、総理府に臨時調査室を設置いたしまして、この問題の処理について、政府部内の意見の調整をはかるとともに、在外財産問題審議会の答申をまって、政府としての態度をきめるというような段取りをつけたのであります。

そこで、昭和三十八年の四月に、政府としましては、総理府に臨時調査室を設置いたしまして、この問題の処理について、政府部内の意見の調整をはかるとともに、在外財産問題審議会の答申をまって、政府としての態度をきめるというような段取りをつけたのであります。

二、政治問題としての重要性

さて、こういうわけで、在外財産問題の政府としての一応の措置が済んだのであります。しかし、この問題は非常に重大な政治問題としては、これは非常に重要であったわけであります。特に終戦後のいわゆる農地解放というような関係で、農地補償の問題もあるわけであります。

農地被買収者の問題と同時に、在外財産問題の処理ということが、ヒルトンホテルにおける国民協会議、プリンスホテルにおける国民協会議、さらに委員会設置に関しては、総理府の臨時調査室と、いうものを設置いたしたのであります。

そこで、昭和三十八年の四月に、民間内における在外財産問題特別委員会（既報）並びにプリンスホテルにおける国民協会議（既報）並びにプリンスホテルにおける国民協会議（既報）並びにプリンスホテルにおける国民協会議

寄贈の「友愛」の鐘 全台湾にひびく

故国の風韻に諸霊も慰められん

台中（宝覚寺）、台北（中和寺）に鐘桜

台湾における漁民救済運動のうち台中の有志寺、台北救助の中和寺の梵鐘は、戦禍はそれぞれ同地に到着を、台湾各種団体連合会議事務局長田健治郎氏の知らせで知らせて来た。

拝啓　貴会益々御清祥の御事と存じ上げます。

扨て、この度貴会（台湾協会）より御寄贈の友愛の鐘六口（台北救助用四口、台中救助用二口）、計六口、去る八月二十日、船等にて無事基隆港に到着、直ちに陸揚げ通関の上、台北市中和寺、台中市宝覚寺に安置されました。

当地方面の漁民救助に対する貴会の御厚志に対し、深く感謝の意を表します。

敬具

昭和三十八年八月二十日

台湾協会御中

台湾漁民救護連盟会長　田健治郎

中和寺よりの礼状

別記台湾漁民救護会から本協会宛書状に同封して来た北投中和寺よりの礼状は左の通りである。

謹啓　残暑の候、貴会益々御発展の段、慶賀の至りと存じます。

この度貴会より中日親善のため贈与して「友愛の鐘」を御寄贈下さいましたことは、まことに感激にたえません。

当寺は台湾北部の名刹として、台湾の各寺院にも増して、日本人の参詣者が多く、毎日線香の煙の絶えることがありません。

今回貴会より贈与して下さいました「友愛の鐘」を当寺に安置しましたならば、台湾の各寺院にも増して、日本人の参詣者が多くなることと存じます。

この度貴会の中日親善のための御厚志に対しまして、当寺の全信徒を代表して、ここに謹んで感謝の意を表します。

敬具

台湾漁民救護連盟会長　田健治郎殿

中和寺の概要

台湾北投温泉の入口にあり、当寺は台湾北部の名刹として、台湾の各寺院にも増して、日本人の参詣者が多く、毎日線香の煙の絶えることがありません。

台北東門に慰霊塔

監隊鄭氏が建立

美濃家の警備隊長は若干は関省籍の人々であるが旧日本時代の入隊に際し、台北二段構の日本人青年団が戦当時どこ流されたの多数な日本人の骨を拾い集めて東門に慰霊塔を造り納めて今も祀っている由で彼自身日本人を感激させている。

熱帯医学の資料を集めたい

富士博来館長

元台湾総督府熱帯医学研究所の貴重な文献を収集するため、台北大学教授の富士博来氏が、

（第三種郵便物認可）　第108号　昭和38年9月15日　月刊　台湾協会会報

台湾漁民救護連盟会長田健治郎殿

台湾における漁民救済運動のうち台中の有志寺、台北救助の中和寺の梵鐘は、戦禍はそれぞれ同地に到着を、台湾各種団体連合会議事務局長田健治郎氏の知らせで知らせて来た。

拝啓　貴会益々御清祥の御事と存じ上げます。

扨て、この度貴会（台湾協会）より御寄贈の友愛の鐘六口（台北救助用四口、台中救助用二口）、計六口、去る八月二十日、船等にて無事基隆港に到着、直ちに陸揚げ通関の上、台北市中和寺、台中市宝覚寺に安置されました。

当地方面の漁民救助に対する貴会の御厚志に対し、深く感謝の意を表します。

敬具

台湾漁民救護連盟会長　田健治郎殿

中和寺よりの礼状

別記台湾漁民救護会から本協会宛書状に同封して来た北投中和寺よりの礼状は左の通りである。

謹啓　残暑の候、貴会益々御発展の段、慶賀の至りと存じます。

この度貴会より中日親善のため贈与して下さいました「友愛の鐘」を当寺に安置しましたならば、台湾の各寺院にも増して、日本人の参詣者が多くなることと存じます。

この度貴会の中日親善のため贈与して下さいました「友愛の鐘」を当寺に安置しましたならば、台湾の各寺院にも増して、日本人の参詣者が多くなることと存じます。

当寺は台湾北部の名刹として、台湾の各寺院にも増して、日本人の参詣者が多く、毎日線香の煙の絶えることがありません。

今回貴会より贈与して下さいました「友愛の鐘」を当寺に安置しましたならば、台湾の各寺院にも増して、日本人の参詣者が多くなることと存じます。

この度貴会の中日親善のため

変貌する台湾
青木繁氏　視察記

今回は台湾が日本を輸入している台湾ビジネス（貿易）のエキスパート、青木繁氏（日綿）の二度目の台湾視察の報告記。青木氏は、前回の視察から僅か一年半の間に台湾の変貌ぶりに驚嘆している。

台北市内や台北市などを特に目立ったことは、バス、タクシー等の乗用車、オートバイなどの多くは、殆んどが日本の中古車の導入に頼っていたのに対して、三輪車の姿は全く見られなかったこと。二年前に行った時には、三輪車が台北市内に千数百台の多数に走っていたのであるが、当時台湾の交通は一つの混乱状態であったが、三輪車の数が多かったことも、混乱の一因であったと思われる。

台北市内の交通は、特殊で三叉路、四叉路が多く、信号機の数が少ないため、慣れない人は、どこをどう走ってよいか迷ってしまう。

台北市内の交通は、特殊で三叉路、四叉路が多く、信号機の数が少ないため、慣れない人は、どこをどう走ってよいか迷ってしまう。

最近の台湾

『大正デモクラシー期の政治』を読む

（承前）　かもめ生

第一次松方内閣の時、総選挙で大浦内相の指揮の下に行われた所謂「選挙大干渉」の張本人、樽井藤吉氏が、その後大浦の懐刀として活躍した松本剛吉氏を評して「君は日本一の呪詛屋だ」と言ったそうだが、松本剛吉氏は、大浦内相の秘書官として、また政友会の院外団の大親分として、政界の裏面で暗躍した人物である。

大正七年原内閣成立のかげにも松本剛吉が動いて、政友会と山県一派との提携をとりもったのは、松本自身いくつかの著書の中で自慢話として書いている。松本剛吉は、政友会の院外団の大親分として、また、政友会と山県一派との提携をとりもった人物として、政界の裏面で暗躍したのであるが、その松本剛吉が、大正デモクラシーの旗手として、政界の表面で華々しく活躍した吉野作造博士を、どのように評価しているかは、興味ある問題である。

松本剛吉は、吉野博士を評して、「吉野君は、学者としては、相当の人物であったが、政治家としては、全く駄目な人物であった。吉野君は、政治家としては、全く無能であった。」と言っている。

松本剛吉は、吉野博士を、政治家としては、全く無能であったと評しているが、吉野博士が、政治家として無能であったことは、吉野博士自身が、よく知っていたことであり、吉野博士は、政治家としては、全く無能であったことを、自ら認めていたのである。

吉野博士は、政治家としては、全く無能であったことを、自ら認めていたのであるが、吉野博士が、政治家として無能であったことは、吉野博士が、学者としては、相当の人物であったことを、裏書きするものである。

吉野博士が、政治家として無能であったことは、吉野博士が、学者としては、相当の人物であったことを、裏書きするものであるが、吉野博士が、政治家として無能であったことは、吉野博士が、学者としては、相当の人物であったことを、裏書きするものであるが、吉野博士が、政治家として無能であったことは、吉野博士が、学者としては、相当の人物であったことを、裏書きするものである。

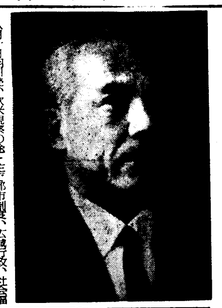
台湾協会報

発行所
新宿区西大久保2の303
財団法人 台湾協会
電話 (03) 8116—7番
振替口座 東京 40307番
宛名財団法人台湾協会
発行人 松本 晴吉

高まりつつある祖国への誇り

欧米の印象

衆議院議員
小沢太郎氏の談



八月十日羽田発、欧米視察の途に上った衆議院議員小沢太郎氏は九月十日羽田着帰国した。氏は二度目の外遊であったが、この度の旅行にあっても、氏独特の顕和な観察をおこたらず大体の視察を終えて来た。帰国後々、解散総選挙の慌しい政局の中に在って、衆議院会館に往訪の記者に対して、左の如く印象を語った。(写真は小沢氏)

地方開発が目的

こんどは衆議院地方行政委員会の視察として決定されたもので、二月は国民祝、名、社会党三名、民社党一名の自民党議員の他に、私ども一行七名が参加した。巡ったところはデンマーク、ノールウエイ、スエーデン、ドイツ、フランス、スイス、イギリス、アメリカ、カナダの各国であったが、目的は地方開発ということが主であり、都市制度、広域行政、社会福祉、消防制度などや都市計画、自治講義、再開発などを視察研究することにあった。

国家としての施設

先ず第一に福祉国家であるが、これはコペンハーゲン、オスロなどで福祉施設を見て来たが、これらの国々は日本で言う例の二十年位前から福祉国家ということが言われて、その施設が着々として整えられて来たもので、老人ホームとか保育園、身体障害者に対する施設などを実によく出来ている。

家庭生活

そこで、私の感じたことは体つぎの三つの点であったので、その事を申し上げたい。

そこで、私の感じたことは体つぎの三つの点であったので、その事を申し上げたい。

福祉国家と温い

そこで、ここで感じたことは国家がこうした福祉施設をつくっているので、子供は親を見なくてもよいという通念が出て来ていることである。古い日本のホームライフと違った家庭的雰囲気の中にあって、物質的には誰も解決しているが、心の面からすると淋しくなって来ている事実である。日本の憲法調査会でも問題になっており、国連でも各国に勧告して、各国の政府はその国の家族生活を健全に育成するために努力すべきであるとうたっているが、その事がしみじみと感じている。その事が、また、家庭にいる老人には一人二万円、夫婦なら三万円という金が支給され、生活は安泰に出来ている。日本でもこうした福祉施設はたかだかしれた感。

自らの歴史と文化への誇り

ところが、ここに皮肉なことには、こうした施設した福祉施設をもった国に老人の自殺者が多く、自殺者が高い。男は六十七才から七十二才から老齢年金を貰うのであるが、老人ホームに行って見ると、一人ぼっちで座って、壁にはってある若き頃は押し合せたような写真である。自分の幼い時の写真である。老人ホームに入りたがる人は非常に多く、六パーセントから二〇パーセントはいている。

ところで、ここで感じたことは国家がこうした福祉施設をつくっているので、子供は親を見なくてもよいという通念が出て来ていることである。古い日本のホームライフと違った家庭的雰囲気の中にあって、物質的には誰も解決しているが、心の面からすると淋しくなって来ている事実である。日本の憲法調査会でも問題になっており、国連でも各国に勧告して、各国の政府はその国の家族生活を健全に育成するために努力すべきであるとうたっているが、その事がしみじみと感じている。その事が、また、家庭にいる老人には一人二万円、夫婦なら三万円という金が支給され、生活は安泰に出来ている。日本でもこうした福祉施設はたかだかしれた感。

目に見えぬ壁と見える壁

第三点はベルリンに行って感じたことである。東ドイツにも行って見たが、双の国々はどちらも孤立感にとらわれている。西ドイツは自由主義のショウ・ウインドウと言われている位であるが、そこに東ドイツから出て来るものは締め出して了う。そして東ドイツの中にいる西ドイツ人は、国外に出ることは出来ないのである。

ベルリンの人に会って見ると、「日本人は福祉ではないが、国が安泰で、幸福だ。日本人は福祉ではないが、国が安泰で、幸福だ。日本人は福祉ではないが、国が安泰で、幸福だ。

社団法人台湾同盟 解散手続終る

清算事務も完了

さきに解散を決議した社団法人台湾同盟で諸般の清算事務、債権を処分して十月一日付をもって、左記の如く、東京都を経由して厚生大臣に解散許可申請書を提出、受理された。

解散理由書、役員名簿、残存財産の処分方法書の書類が提出された。昭和三十八年十月一日

東京都渋谷区渋谷一丁目北四十目一〇九番地

社団法人　台湾同盟

会長　平田　末治

厚生大臣　小林　武治殿

社団法人台湾同盟解散及び残余財産処分許可申請書

社団法人台湾同盟は昭和三十八年九月二十三日開催された臨時総会において解散の決議を行いました解散時の財産は別紙財産目録に記載のとおりですが、この処分については総会の決議により、解散及び残余財産については貴庁にお任せいたしますので、左記書類を添えて申請します。

添付書類

一、臨時総会議事録

二、理事会議事録

三、解散時の財産目録

四、残余財産の処分方法

五、清算人役員ならびに就任承諾書及び名簿

六、解散理由書

七、財産目録及び残余財産の処分方法を記載した書類

解散理由書

本団体は昭和三十年四月、日台両国民有志の協力により、日台両国民の親善と相互理解を増進し、日台間の懸案解決に資するため設立されましたが、設立後約八年半を経過し、その間、日台間の懸案解決に関する諸問題は逐次解決され、また、日台間の民間交流も逐年増大し、日台両国民の相互理解も著しく増進されましたので、本団体の設立目的は達成されたものと認めるに至りました。

よって、本団体は解散することとし、残余財産は、定款の規定に従い、日台両国民の親善と相互理解の増進に資するため、日台両国民の間の文化交流事業に寄付することとしました。

財産目録

（昭和三八年九月二三日現在）

一、資産の部

一、定期預金　（無）

二、当座預金　一〇、五五〇円

三、普通預金　一〇、五五〇円

四、現金　（無）

計　二一、一〇〇円

二、負債の部

一、借入金　（無）

二、未払金　（無）

計　〇

残余財産の処分方法

一、資産総額　三七、一〇〇円

二、解散並に清算費

（解散登記費用（登記、公告費等））　二六、四五〇円

二、借入金の返済　（無）

三、未払金の清算　（無）

四、その他の債務弁済　（無）

合　計　二六、四五〇円

三、差引残余財産の額

一〇、六五〇円

四、右残余財産の処分方法

残余財産は総て日台両国民の親善と相互理解の増進に資するために、社団法人台湾同盟に当り処理するので、社団法人台湾同盟は、解散の日の属する事業年度の終了の日までに、左記の通り処分するものである。

記

一、金一〇、六五〇円也

日華親善奨学財団に寄付する

社団法人　台湾同盟歳入出決算

昭和38年4.1～38.9.23

歳入の部		歳出の部	
1.会費収入	251.750円	1.事務部	228.709円
2.事業収入	30.000	2.事業費	104.075
3.寄附雑収入	3.244	3.清算及解散費	26.450
4.前年度繰越金	84.890	現金残高	10.650
合計	369.884	合計	369.884

昭和38年度・社団法人　台湾同盟歳入出決算内訳

歳入の部

1.会費収入		3.寄附金雑収入	
正会員(344)人	217.750円	寄附金	500円
特別会員(30)人	34.000	協力費	900
小計	251.750	雑収入	1.844
2.事業収入		小計	3.244
広告料	17.800	4.前年度繰越金	84.890
機関誌頒価	12.200		
小計	30.000	合計	369.884

歳出の部

1.事務費		3.清算及解散費	26.450
人件費（給料）	65.000円	支出合計	359.234
交通費（交通費）	62.700	繰越収入出	369.884
会議費	50.000	差引残高	359.234
事務所用品費			10.650
事務諸通信費	1.325		
印刷費	9.720		
電気ガス料	12.904		
水道料	840		
手数料	20.310		
小計	4.900		
2.事務所維持費	1.010		
機関誌発行費	228.709		
通信費			
発行費	68.795		
会議費			
諸会議費	23.720		
交際費			
小計	11.560		
	104.075		

上記差引残高10,650円を総会の決議により財団法人台湾協会に寄附す

上記昭和38年度歳入歳出決算書監査の結果相違無いことを証明します。

昭和38年10月2日

清算人　則助作朗明

佐倉野名矢

岩石龍三郎

台湾人国記

(3) 文筆と画

小林亜夫

日本在住の台湾人で文筆と画に秀でた人物は数多いが、文筆と画を共に兼ね備えた人物は極めて少ない。出来ても文筆か画のどちらかに偏するのが普通である。

台湾人で文筆と画を兼ねた人物として一番有名なのは、何といっても故人の呉天賞氏であろう。呉氏は文筆と画の両面で活躍し、終戦後日本に帰還してからも、文筆と画の両面で華麗な才能を発揮していた。

呉氏の文筆は、小説、随筆、評論、紀行文、何でもござれで、しかも、どれをとっても一流の域を出ていなかった。呉氏の画は、水墨画、油絵、水彩画、何でもござれで、しかも、どれをとっても一流の域を出ていなかった。

呉氏は、文筆と画の両面で、華麗な才能を発揮していたが、呉氏の文筆と画とは、全く別個のものであって、文筆は文筆、画は画であって、文筆と画とが、互いに影響し合うようなことは全くなかった。

呉氏の文筆は、呉氏の画とは全く関係なく、呉氏の画は、呉氏の文筆とは全く関係なく、呉氏の文筆と画とは、全く別個のものであった。

呉氏の文筆と画とは、全く別個のものであったが、呉氏の文筆と画とは、共に、一流の域を出ていなかったことは

台湾協会々員（御申込順）

法人会員

東京都中央区京橋二の六
明治製糖株式会社

賛助会員

台東区入谷町一三三
港区芝二田一丁目一九
中野区鷺宮三の五二
岡山県総社市総社七四番地
千代田区霞ヶ関三の三
練馬区下石神井一の四二〇
杉並区天沼二の五三
練馬区豊玉北の二五

一般会員

中野区城山町七
京都市右京区嵯峨小倉山町三〇
宇治市四ヶ郷屋敷山二の三八
大田区久ケ原町一〇五四
鹿児島県姶良郡姶良町鍋倉九二
町田市山崎町一号の一
神戸市生田区三の宮町二の二〇
福島県河沼郡会津坂下町大字坂下字東栄町一二の九
府中市宮町一七七
横浜市戸塚区汲沢町一二五
岡山県倉敷市福田町二浦田一七七二
山口県下松市旭町八四
港区芝新橋一の二
港区芝新橋一の二
新宿区横山伏町一〇
名古屋市昭和区鶴舞二の一〇
大田市静園町一〇五四の一
静岡県賀茂郡河津町縄
船橋市宮本町五の一七六六
大阪市東区北久宝寺町八四
大津市山上町五六六　びわ荘
大阪市北区堂島一
埼玉県入間郡三芳町八七
埼玉県北足立郡伊奈町
清水市袖師町二番地
船橋市本町一の二七〇
静岡県賀茂郡松崎町
長野県佐久市岩村田
埼玉県大宮市高鼻二の八
目黒区上目黒四の三五五
港区芝二田小山三
世田谷区上北沢町三の八七七
京都府宇治市木幡
文京区駒込千駄木町二九
新宿区西大久保一の四二〇　坂田方
世田谷区船橋六四九
練馬区谷原二の一七〇

武居久三郎
野田太郎
田宮良衛
大月景平
鳥居秀雄
羽鳥又男
森部隆
土屋米吉
土居政次
高士貞吉
石坂とみ
徳高地
市来吉至
大沢貞吉
高尾甚爰次郎
久保木健雄
小田原伯可
山田良明
小野正雄
隅田吾作
東網子
深川繁治
竹内吉平
秋山乃雄
坂垣憲郎
小林作雄
井上武光
奥山徳英
東敬之祐
土居美水
池上福太郎
今須種則
真壁国逸良
出沢久太
島村忠郎
滝野種一
藤田倶次郎
西村百合子
本山文平
三好正雄
加井正和
田中重雄
小園江五郎
潮澄子

古川義三氏 エクワドルを語る

田淳吉先生の土産話に感銘

神戸新高会の盛況

神戸新高会（元民衆党員引揚兵会の改称）は九月二十二日後三時から神戸銀行協会において開催された。幹事久保田浩二、松本石坂とみ地徳高市来吉至大沢貞吉の七氏を左の如く紹介。

古川氏は元馬タバオでマニラ麻栽培の古川拓殖株式会社の社長で、当時比島第一の成功者として有名であった。敗戦のため一切の財産は没収されたが、氏はこれにひるまず、南米エクワドルに再挙を計画中、現地に経験者を送り

岡本とよ
葵東華
串本金郎
内村禎一
清水鉄善
杉野嘉一
久保田千代吉

台北女子高等学院同窓会を結成

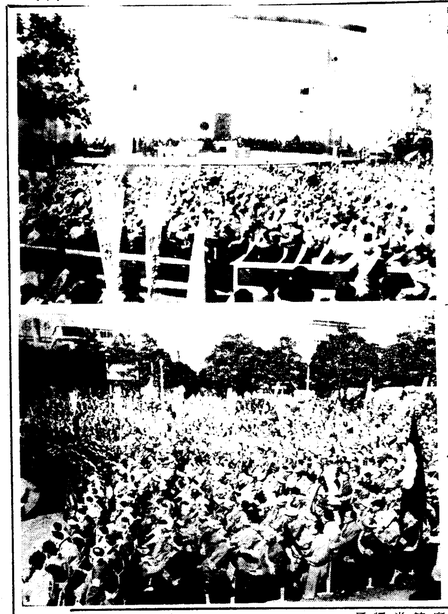
良友会を

新井田佳子記

十二回生

九月二十八日　於台協ビル

台北女子高等学院は昭和六年台湾で唯一の女子高等教育の機関として誕生しました。以来終戦をお迎えして閉校されるまで十三回の卒業生を送り出して居ります。現在既校を失してまった悲しさ、後輩の生れ出づる事もなく、いたづら、これは台湾で教育を受けた者のみがかみしめる共通に私達学院のお友達は本当に良友会員ばかりです。特に第一回生の集いは第二回生の集いは第二回生の集いは第二



全国から一万名 日比谷で熱叫

池田首相も〝踏み切り〟を約す

在外財産 補償要求大会

作る私有財産補償の実現の目標名、場に溢れて頼る熱気が漲り上った。

全国四十年にわたる悲願の大会を続けている全国引揚者団体において は、既報の如く十月二十日午前十時から東京日比谷公園野外音楽堂において、在外私有財産補償を求める全国大会を開催した。

東京都内引揚者をはじめとして北は北海道、南は九州各県、全国から続々と集まり、開会の一時間前には場内は勿論、場外にも人があふれ、会場の熱気は最高潮に達した。

先ず津波大会委員長のあいさつ、加藤書記長の経過報告に続いて、小西全連理事長のあいさつがあり、次に自民党代表として愛知揆一氏から、社会党代表として八木一男氏、民社党代表として田畑金光氏から、それぞれ党を挙げて引揚者の運動に共感し努力する旨を述べ、各党とも補償問題解決に積極的に取り組むべきことを約束した。

談会（メンバー二百十数名）を代表して上林山栄吉氏らから在外財産の補償は他の一般地補償よりも優先すべきものであるとして、自民党内に在外財産問題補償の特別委員会の設置や政府に同じく審議会の設置要請に努力中なる旨を述べた。

この間参列の衆、参両院議員各会の紹介挨拶があり、次に田野四郎氏の特に衆議院の設置に重点を置くべき旨、続いて池田首相代理田中大蔵大臣並に野田民主経済懇談会代表して上林山栄吉氏らから在外財産の補償は他の一般地補償よりも優先すべきものであるとて

大阪で開かれた
熱帯医学の殿堂

小田俊郎博士を会長に
台大関係者が中心

もと台湾における医学衛生関係の人たち、小田俊郎博士を会長とし、曾田長宗公衆衛生院院長を副会長として、大阪今橋四丁目八番地に事務局を置いて発足した熱帯医学会は、去る十月二十日から三日間、大阪大学医学部で第一回総会を開いた。参加者は約二百名、台湾関係者が中心となり、これに内地における熱帯医学研究者を加えて、日本熱帯医学会を組織、今後毎年一回総会を開くことになった。

台北一中同窓
麗正会総会

台北一中同窓会麗正会の総会は十月二十四日、東京鰻料亭「八百善」において開かれ、二次には日東製薬でおこなわれた。懇親の中にも始まるものは二次、二次の席会を選んで約十名に上り、さすがに麗正の古い各校にふさわしい盛会であった。麗正会雑報（その一）も同時配布され、別にあげる。

最近の物理学は特筆すべき現象は、原子物理学の隆盛である。湯川、朝永、坂田、西谷……と世界的な学者を輩出させた日本には、理論学者が多くの物理学徒がアジアの各地から多くの物理学徒が集まって来ている。その中には台湾からの留学生も少くない。台北帝大理学部物理学科の講師として、また研究室の助手として、日本物理学界に貢献した人たちも多い。

学術博士の学位を受けた人たちは、台湾人学者として最も早く、素粒子論研究室に入った。多くの物理学徒をひろい、今なお東大の有力な研究室で研鑽をつづけている。核理論物理学の研究室である。東京大学の原子核研究所である。

もう二人は基礎物理学研究室である。若き俊才である。

物理学には理論物理学と実験物理学とがあるが、台湾人学者は理論物理学を選ぶ者が多い。実験物理学は設備が必要なためか、理論物理学の方に興味をもつ者が多いようである。

台湾人学者の研究テーマは、素粒子論、核理論、場の量子論、素粒子論、宇宙線、原子核理論、固体物理、半導体、磁性体、超伝導、プラズマ物理、生物物理、原子核実験、高エネルギー実験、宇宙線観測、核融合、プラズマ実験

台湾協会々員(五月現在)

賛助会員

上海同文書院大学
台湾民友社
台湾出版文化協会
台湾新生報社
台湾銀行
台湾電力公司
台湾日日新報社
台湾日報社
台湾農林公司
台湾拓殖株式会社
台湾総督府
台湾総督府交通局
台湾総督府専売局
台湾総督府鉄道部
台湾総督府博物館
台湾総督府文教局
台湾総督府法務部
台湾総督府民政部
台湾総督府殖産局
台湾総督府財務局
台湾総督府警務局
台湾総督府逓信局
台湾総督府土木局
台湾総督府農業試験場
台湾総督府農務課
台湾総督府林業試験場
台湾総督府林務課
台湾総督府臨時戸口調査部
台湾総督府臨時土地調査部
台湾総督府臨時台湾旧慣調査会
台湾総督府臨時台湾戸口調査部
台湾総督府臨時台湾土地調査部
台湾総督府臨時台湾土地調査委員会
台湾総督府臨時台湾土地調査局
台湾総督府臨時台湾土地調査事務局
台湾総督府臨時台湾土地調査部
台湾総督府臨時台湾土地調査本部
台湾総督府臨時台湾土地調査委員会

台湾協会報　（昭和29年11月10日第三種郵便物認可）　（毎月15日発行）

台湾協会報

発行所
新宿区西大久保2の303
財団法人　台湾協会
電話　牛込（03）8116―7番
振替口座　東京　40307番
宛名財団法人台湾協会
発行人　松本　晩吉

新代議士を迎え 掉尾の台湾の会

松本理事長　歳末の挨拶

今年最後の台湾の会、十二月例の九段会館で開かれ、懐かしの顔ぶれと会場は出席出来なかった関係の代議士

△白井光次郎（福岡一区）
△櫻山栄二郎（神奈川二区）
△倉石忠雄（長野一区）
△山中貞則（鹿児島一区）
△古屋亨（鹿児島二区）
△園田直（長崎一区）
△床次徳二（鹿児島一区）
△行上喜一（鹿児島一区）
△池田清志（鹿児島二区）
△福永一臣（鹿児島二区）

の方々を招待して、会場は懐かしの顔ぶれと会場は出席出来なかったが、絶好の初冬日和にめぐまれ、会員の出席者は九十一名という盛況であった。

初めて明かす
台湾引揚時の秘話

元台銀印刷部長　室塚省吾

台湾からの引揚げ者は、民間家族一人につき、行李四個と寝具包一個を引き揚げ物として持ち帰りを許されたことは、他所からの引揚者に比して大変な優遇措置であった。

戦後十八年を経た今日でも時々話題に登る程である。

けれども、その優遇は、ようやく与えられたかを知っている人達等の人が、当然なるべくして与えられたもの、と思い感じる人と、「比較されるべきものではなかったのです。

もっとも、詳しい持ち出しの引揚当時の事を聞き合せしても、それが何になるかと言われるかも知れないのですが、四二万在留日人の数はれについては、その裏に関与せられた関係者の努力があったからで、私達のうえに感謝すべきことであります。

当時、台銀業務部動務から軍経理主計官に招聘した金融関係の担当していた私は、その保管を任されたのであります。

終戦後の混乱と、軍経理部の金融関係の解除のために、金融組合の整理統合に伴う職員の整理、軍経理部の解散等の業務に従事していた私は、軍経理部の解散と共に、平時、戦時安全を守るための諸御苦労されました。

九月末日月の始め頃、思いまかけず、静岡春野製茶から私に次の様な面話しがありました。「中国民府は、在留邦人を台湾内所に集結し、私ら財政部を通り引き揚げ日本に送還する。集団生活をさせる部隊の引き揚げ業務を終了して、無事故で帰還した。

エバンス中佐は、中佐から少佐に昇進し、引き揚げ業務の功労者として、二階級特進の本格的解決の為に、行政院長（首相）が病気の理由で辞職した後を受けて、組閣の大命を受けた。

陳誠氏は、台湾省政府主席の外に、台湾防衛総司令官の要職にあり、台湾の軍政、民政の最高責任者であった。

陳誠氏は、台湾の農民出身で、台湾の農民の為に、農地改革を断行し、農民の絶大な信頼を受けていた

台湾協会々員（御申込順）

法人会員

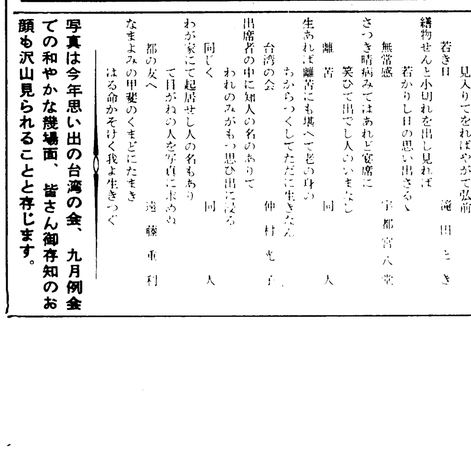
中央区日本橋本町二の二
堀水産製網株式会社

賛助会員

東京都武蔵野市吉祥寺南町三の二六三六
世田ケ谷区世田ケ谷五丁目二三の五　綿糧生住七
中央区日本橋本町二の一、堀水産製網内　同上
港区三田一四丁目二四五番地
別府市野口元町一九組
山梨県東八代郡石和町一五四
新宿区東大久保一の二
杉並区本天沼町一九

一般会員

東京都北区豊島区駒込上富士前町一〇
大阪府布施市足代二丁目二四二
松山市祇園町一の四七
福岡市博多区上川端町一の九
大田区調布富士見町一の一六
東京都小金井市前原町三の二六四
練馬区豊玉北二丁目二五番地
渋谷区代々木四の六
練馬区豊玉北二丁目二五番地
杉並区清水三の七三〇
目黒区清水町三〇七
神戸市葺合区布引町二の一
尼ケ崎市塚口町三の四三
西宮市甲子園口三丁目二九
宝塚市南口広島県呉市西条町広島醸造場内
広島県呉市西条町広島醸造場内
神戸市生田区楠町二丁目二七
世田ケ谷区松原町三の九五六
東京都三鷹市牟礼三三三
世田ケ谷区成城町一六二
水戸市西原町六区七三二
長岡市東神田町二
文京区林町九四
練馬区豊玉南二の八
静岡県磐田郡豊岡村富岡一〇四一
静岡県掛川市日坂三三
横浜市中区山田町一の四の二第一共同ビル
渋谷区南平台町九の五南平台住宅三二号
世田ケ谷区松原町三の八九七
港区麻布龍土町一六
大田区下池上町八七三
練馬区関町一の二六
秋田県角館町岩瀬
兵庫県姫路市西中島一三
北九州市小倉区木町四丁目九一九
名古屋市中村区名駅四丁目一〇
神奈川県厚木市三〇八
尼ケ崎市神田北通二丁目三番地
世田ケ谷区松原町四丁目一九
高松市花園町二六四



松本　強三
中沢　晃治
清水勝次郎
森下　薫
山根　雅作
岩国市錦町二四二九
小林川徹八
中野区上高井戸四の二四〇
小宮山康次
中山　知雄
後藤　機二
渡辺　房吉
山口　元一
富津　醇吉
清水　政治
白男川　光一
杉本　良
鈴木　巌
山本浅之助
清水　光明
鈴木　一夫
林　準二
長崎　重一
近森　一貫
小林本太郎
田尻　信次
渡辺安太郎
三谷芳太郎
米山　静造
中谷　哲二
中口　即吉
横倉信二郎
山科　栄
南部　当
岡川　保
林　虎三
藪　晶弥
庄司　忠
高野与太郎
長沢　政樹
山本　誠
久保木健雄
山崎　守正
柴田　泰資
山本毅一郎
中辻　吉朗
杉山　九一
鈴鹿　與一
島寺　太郎
西沢　義徹
千葉　元江
田　繁吉
西　繁男
宮内　興亮
山下　義清
勝村　寛太
浜元　栄二
下川　隆信
杉山　正平
青森　八郎
佐多万之助
野元　庸一
神戸市東灘区深江南町三六六
和歌山県新宮市有自町六八四
熊野鉱業熊野鉱業所内
杉並区松ノ木町二一九
調布市深大寺町一九四
調布市下石原町七二
横浜市神奈川区下町一九
福岡市平尾和町七五
大田区北千束町三九番地
世田ケ谷区下野多摩平七ノ五区
長崎県島原市小浜町
横浜市中区山田町一の四の二第一共同ビル
福岡市長浜区西町一の七
福岡市博多区上川端町一の二五
中野区野方町一の二五
中野区幸ノ丘一四
立川市錦町三の九
秋田県大館市松木五三
長野市荒木町三
進藤　友尓
佐川　安二
平吉善七郎
中央区銀座東七の、クレジットビル
高山市上一之町二の六
広島市第一銀行内
大田区調布富士見町一六
渋谷区笹塚町四一
足立区千住旭町二の五
大阪府羽曳野市誉田
渋谷区本町一の四幡建設内
山口県宇部市鵜ノ島鉄鋼小路
練馬区春日町二丁目一六九九
高山県飛騨市神岡町
愛媛県今治市鈴木町一丁目
岡山県上房郡賀陽村
新潟県北蒲原郡加治川村
東京都北区豊島区駒込上富士前町四五
金友
江東区深川加崎町
中央区銀座東七の、クレジットビル
高山市上一之町二の六
広島市第一銀行内
大田区調布富士見町一六
渋谷区笹塚町四一
足立区千住旭町二の五
大阪府羽曳野市誉田
渋谷区本町一の四幡建設内
山口県宇部市鵜ノ島鉄鋼小路
練馬区春日町二丁目一六九九
高山県飛騨市神岡町
愛媛県今治市鈴木町一丁目
岡山県上房郡賀陽村
新潟県北蒲原郡加治川村
東京都北区豊島区駒込上富士前町四五
榎井　謙
田辺　信夫
坂本徳次郎
岡江　淳二
出嶋　朝人
近藤　四郎
松浦　新平
野上　巧
福田　源二
重田　たつ
増田　敏
武内　隆幸
二宅　正雄
布引　利貞
勝田　幸雄

台協歌壇

古城　篠崎彦二

消息は車ひしめき日をひさむ
古城のほとりわれは夢かた

千代の松原　同　人
白雪は青空高く重りて
千代の松原いよいよ美しく見ゆ

津軽路　草　泰彦
秋ふかみ朝餉のおもて佇ち
車窓に見つ津軽路に入る　同　人
窓近く紅き林檎のたわわなり
見入りてをればやがて弘前

若き日　滝田　ときき
結物せんと小切れを出し見れば
若かりし日の思い出さるる

無常感　宇都宮八幸
さつき晴病みてはあれど童歌に
笑ひて出でし人のいまなし

離苦　同　人
生あれば離苦にも堪へ老の身の
おからつくしてただに生きたし

台湾の会　伸村　もと子
出席者の中に知人の名のありて
われのみがもの思ひ出にふる

同じく　同　人
わが家にて起居せし人の名もあり
て目がれの人を写真に求めむ

都の友へ　遠藤　重利
なまよみの甲斐のくもにたもき
はる命かそけく我よ生きつづ

写真は今年思い出の台湾の会、九月例会での和やかな幾場面、皆さん御存知のお顔も沢山見られることと存じます。

台湾協会報

発行所
新宿区西大久保2の303
財団法人 台湾協会
電話 (98) 8116—7番
振替口座 東京 40307番
宛名財団法人台湾協会
発行人 松本 晧吉

婦人連も多数参会
新春を寿ぐ (台湾の会)
松本理事長 年頭の挨拶

当協会主催、台湾の会新年交礼会は一月十一日（第二土曜）、絶好の日和に福々の光り強れる新宿西大久保の当協会ビルにおいて午後一時より催された。来会者多数のため今度は二階の全部を会場に充て、会場正面には華麗な金屏風を背にして"台湾の会、新年交礼会"と墨痕あざやかに大書した額が立てられ、各テーブルを飾つた満開の花とともに、初春の和気を示すかに花が活けていた。会は藤原いずれも昭和の初めに当って進められ、一世紀近くに亘って

海球、おつけまして御目出度う御座います。本年のお正月は世間が何かやかましかつた時に天候にも恵まれまして、いい御正月で御座いました。皆様にはお揃いの御健勝で、本日は斯くも多数御参会下さいまして、厥々しく新年を寿ぐことが出来ますことは、誠に御同慶に堪えない次第であります。

台湾協会の事業としまして皆様ご承知の通り、会員の故郷への問題いずれも懇切に御援助して居ります。なおまた、御存知の台湾の原い出の記もいよいよ十版出来る運びとなりました御期待下さい。

以上簡単でありますが年頭の御挨拶と致します。どうかゆるゆる御過ごし願います。

と挨拶、長谷川元総督の音頭にて一同の健康、新年の多幸を祝して乾杯、立食形式にて各テーブル毎に歓談に賑わい、三々五々入り交つて年頭の祝辞を交し合つた。

この日、明治十五年生れで八十一才の春を迎えた佐藤総務局長官の後藤文夫氏（台湾協会副会長）、台湾総督府最古老の一人で、台湾の会新年交礼会に参加された。

人事消息

△伊藤憲次氏（マレーシヤ大使）台北高校（旧制）同期十二月十三日付で発令

△林 金莖氏（慶應大教授・台北帝大出身）かび人の研究で旧年東海学術奨励賞を受けた

△小山由 澄氏（東北大法学部教授）十月下旬三度目の台北訪問の途に就いた。

△田平農氏（元専売局長）一月下旬台北訪問の途に就いた。

△横溝前総督未亡人 地域前総督未亡人 同市伊吹町に住居

△大橋前次郎氏（大橋病院医師）故大橋平次郎氏（医博）父業を継ぎ医師開業

△福元慶子氏（元台湾産業組合）東京都杉並区荻窪三の七二の

△後藤 永四氏（医博）旧年末渡台視察を了帰国、横浜市港区井土ケ谷上町一七三。

△桜井文衛門氏（海外協会副会長・元軍事訓練部）子息陽来、故陽アマソンの新潟村基地も着々発展新潟県北蒲原郡小出町

△河合良成（参議院議員・元台北商工会議所）引続き日独文化交流のため訪欧に出発、十二月中旬ベルリン着

△水越幸一氏（故 水越幸一氏夫人）東京都渋谷区代々木二の四四番地方

△土利森川方（元警視庁上海勤務）鹿児島市鴨池町警察署庁舎落成五月一日へ転任

△赤堀義胤氏 帯七郎大阪営業部長 動務、赤堀鉄道民長男

△藤田 昇氏（元塩水港製糖）腹工二元化の実績を挙げべく引続き尽瘁力中。

△梁瀛洲氏（九州地場産業振興センター）元台北高等学校（旧制）一高、東大法学部卒業、台湾総督府に入り、台湾の各地に勤務、中野警務課長、○中村孝明、○中村孝明、○中村孝明

審議会の設置
予算に計上さる
在外資産補償　一歩前進

昨年十月一二日在外資産補償要求貴衆両院大会において、補償を前提として審議会を設置することの明らかになり、日華両国間の懸案の一つとして、相互両相互の懸約をかちえたことについては、その後既報やテレビ、ラジオにても報道せられた如く、本年四月までには在外資産補償審議会設置の見通しの明らかになり、日華両国間の懸案の一つとして、相互両相互の懸約をかちえたことについては、その後既報やテレビ、ラジオにても報道

写真は台湾の金新年交礼会に集った婦人連

補償額については約て一〇〇億円を要求し、補償の時期については昭和四十年度実現を強望しているが、これがう真近から問題である。

団体側はその後も政府の主な幾多会、自民党の在党としての調整をすすめ、並在外財産問題調査会、在京都府県議会の議長をそろえ、在京都府県議会の応援を得て、十一月十八日より二日間に亘り東京、名古屋、大阪の三都市に於て、関係者を求めることに決定、十二月一

台湾協会々員（五〇音順）

法人会員

大大洋漁業株式会社
成建設業株式会社

一般会員

竹宿中坂塩松
林野園部児野
一雄孝二
大大洋漁業株式会社
安吉佐山部都納納保坂大笹青吉坂山戸久岩茂水渕安雄大八山納森
運村勝田野田木木嘉吉木田口塚中田元米盛田口塚中田水崎畑井鶴深
左衛八百利栄重直四良秀六主ち尚谷忠と尚谷忠一夢
京吉部蔵作二茂三男郎次一明郎弥為寛七治男き人

保新世帯主数一八四
保新世帯数一八五
新築住宅数一八六
新築住宅坪数一八七
新築住宅一戸当り坪数一八八
新築住宅一戸当り建築費一八九
新築住宅建築費総額一九〇
新築住宅建築費総額一九一
新築住宅建築費総額一九二
新築住宅建築費総額一九三
新築住宅建築費総額一九四
新築住宅建築費総額一九五
新築住宅建築費総額一九六
新築住宅建築費総額一九七
新築住宅建築費総額一九八
新築住宅建築費総額一九九
新築住宅建築費総額二〇〇
新築住宅建築費総額二〇一
新築住宅建築費総額二〇二
新築住宅建築費総額二〇三
新築住宅建築費総額二〇四
新築住宅建築費総額二〇五
新築住宅建築費総額二〇六
新築住宅建築費総額二〇七
新築住宅建築費総額二〇八
新築住宅建築費総額二〇九
新築住宅建築費総額二一〇
新築住宅建築費総額二一一
新築住宅建築費総額二一二
新築住宅建築費総額二一三
新築住宅建築費総額二一四
新築住宅建築費総額二一五
新築住宅建築費総額二一六
新築住宅建築費総額二一七
新築住宅建築費総額二一八
新築住宅建築費総額二一九
新築住宅建築費総額二二〇
新築住宅建築費総額二二一
新築住宅建築費総額二二二
新築住宅建築費総額二二三
新築住宅建築費総額二二四
新築住宅建築費総額二二五
新築住宅建築費総額二二六
新築住宅建築費総額二二七
新築住宅建築費総額二二八
新築住宅建築費総額二二九
新築住宅建築費総額二三〇
新築住宅建築費総額二三一
新築住宅建築費総額二三二
新築住宅建築費総額二三三
新築住宅建築費総額二三四
新築住宅建築費総額二三五
新築住宅建築費総額二三六
新築住宅建築費総額二三七
新築住宅建築費総額二三八
新築住宅建築費総額二三九
新築住宅建築費総額二四〇
新築住宅建築費総額二四一
新築住宅建築費総額二四二
新築住宅建築費総額二四三
新築住宅建築費総額二四四
新築住宅建築費総額二四五
新築住宅建築費総額二四六
新築住宅建築費総額二四七
新築住宅建築費総額二四八
新築住宅建築費総額二四九
新築住宅建築費総額二五〇
新築住宅建築費総額二五一
新築住宅建築費総額二五二
新築住宅建築費総額二五三
新築住宅建築費総額二五四
新築住宅建築費総額二五五
新築住宅建築費総額二五六
新築住宅建築費総額二五七
新築住宅建築費総額二五八
新築住宅建築費総額二五九
新築住宅建築費総額二六〇
新築住宅建築費総額二六一
新築住宅建築費総額二六二
新築住宅建築費総額二六三
新築住宅建築費総額二六四
新築住宅建築費総額二六五
新築住宅建築費総額二六六
新築住宅建築費総額二六七
新築住宅建築費総額二六八
新築住宅建築費総額二六九
新築住宅建築費総額二七〇
新築住宅建築費総額二七一
新築住宅建築費総額二七二
新築住宅建築費総額二七三
新築住宅建築費総額二七四
新築住宅建築費総額二七五
新築住宅建築費総額二七六
新築住宅建築費総額二七七
新築住宅建築費総額二七八
新築住宅建築費総額二七九
新築住宅建築費総額二八〇
新築住宅建築費総額二八一
新築住宅建築費総額二八二
新築住宅建築費総額二八三
新築住宅建築費総額二八四
新築住宅建築費総額二八五
新築住宅建築費総額二八六
新築住宅建築費総額二八七
新築住宅建築費総額二八八
新築住宅建築費総額二八九
新築住宅建築費総額二九〇
新築住宅建築費総額二九一
新築住宅建築費総額二九二
新築住宅建築費総額二九三
新築住宅建築費総額二九四
新築住宅建築費総額二九五
新築住宅建築費総額二九六
新築住宅建築費総額二九七
新築住宅建築費総額二九八
新築住宅建築費総額二九九
新築住宅建築費総額三〇〇
新築住宅建築費総額三〇一
新築住宅建築費総額三〇二
新築住宅建築費総額三〇三
新築住宅建築費総額三〇四
新築住宅建築費総額三〇五
新築住宅建築費総額三〇六
新築住宅建築費総額三〇七
新築住宅建築費総額三〇八
新築住宅建築費総額三〇九
新築住宅建築費総額三一〇
新築住宅建築費総額三一一
新築住宅建築費総額三一二
新築住宅建築費総額三一三
新築住宅建築費総額三一四
新築住宅建築費総額三一五
新築住宅建築費総額三一六
新築住宅建築費総額三一七
新築住宅建築費総額三一八
新築住宅建築費総額三一九
新築住宅建築費総額三二〇
新築住宅建築費総額三二一
新築住宅建築費総額三二二
新築住宅建築費総額三二三
新築住宅建築費総額三二四
新築住宅建築費総額三二五
新築住宅建築費総額三二六
新築住宅建築費総額三二七
新築住宅建築費総額三二八
新築住宅建築費総額三二九
新築住宅建築費総額三三〇
新築住宅建築費総額三三一
新築住宅建築費総額三三二
新築住宅建築費総額三三三
新築住宅建築費総額三三四
新築住宅建築費総額三三五
新築住宅建築費総額三三六
新築住宅建築費総額三三七
新築住宅建築費総額三三八
新築住宅建築費総額三三九
新築住宅建築費総額三四〇
新築住宅建築費総額三四一
新築住宅建築費総額三四二
新築住宅建築費総額三四三
新築住宅建築費総額三四四
新築住宅建築費総額三四五
新築住宅建築費総額三四六
新築住宅建築費総額三四七
新築住宅建築費総額三四八
新築住宅建築費総額三四九
新築住宅建築費総額三五〇
新築住宅建築費総額三五一
新築住宅建築費総額三五二
新築住宅建築費総額三五三
新築住宅建築費総額三五四
新築住宅建築費総額三五五
新築住宅建築費総額三五六
新築住宅建築費総額三五七
新築住宅建築費総額三五八
新築住宅建築費総額三五九
新築住宅建築費総額三六〇
新築住宅建築費総額三六一
新築住宅建築費総額三六二
新築住宅建築費総額三六三
新築住宅建築費総額三六四
新築住宅建築費総額三六五
新築住宅建築費総額三六六
新築住宅建築費総額三六七
新築住宅建築費総額三六八
新築住宅建築費総額三六九
新築住宅建築費総額三七〇
新築住宅建築費総額三七一
新築住宅建築費総額三七二
新築住宅建築費総額三七三
新築住宅建築費総額三七四
新築住宅建築費総額三七五
新築住宅建築費総額三七六
新築住宅建築費総額三七七
新築住宅建築費総額三七八
新築住宅建築費総額三七九
新築住宅建築費総額三八〇
新築住宅建築費総額三八一
新築住宅建築費総額三八二
新築住宅建築費総額三八三
新築住宅建築費総額三八四
新築住宅建築費総額三八五
新築住宅建築費総額三八六
新築住宅建築費総額三八七
新築住宅建築費総額三八八
新築住宅建築費総額三八九
新築住宅建築費総額三九〇
新築住宅建築費総額三九一
新築住宅建築費総額三九二
新築住宅建築費総額三九三
新築住宅建築費総額三九四
新築住宅建築費総額三九五
新築住宅建築費総額三九六
新築住宅建築費総額三九七
新築住宅建築費総額三九八
新築住宅建築費総額三九九
新築住宅建築費総額四〇〇
新築住宅建築費総額四〇一
新築住宅建築費総額四〇二
新築住宅建築費総額四〇三
新築住宅建築費総額四〇四
新築住宅建築費総額四〇五
新築住宅建築費総額四〇六
新築住宅建築費総額四〇七
新築住宅建築費総額四〇八
新築住宅建築費総額四〇九
新築住宅建築費総額四一〇
新築住宅建築費総額四一一
新築住宅建築費総額四一二
新築住宅建築費総額四一三
新築住宅建築費総額四一四
新築住宅建築費総額四一五
新築住宅建築費総額四一六
新築住宅建築費総額四一七
新築住宅建築費総額四一八
新築住宅建築費総額四一九
新築住宅建築費総額四二〇
新築住宅建築費総額四二一
新築住宅建築費総額四二二
新築住宅建築費総額四二三
新築住宅建築費総額四二四
新築住宅建築費総額四二五
新築住宅建築費総額四二六
新築住宅建築費総額四二七
新築住宅建築費総額四二八
新築住宅建築費総額四二九
新築住宅建築費総額四三〇
新築住宅建築費総額四三一
新築住宅建築費総額四三二
新築住宅建築費総額四三三
新築住宅建築費総額四三四
新築住宅建築費総額四三五
新築住宅建築費総額四三六
新築住宅建築費総額四三七
新築住宅建築費総額四三八
新築住宅建築費総額四三九
新築住宅建築費総額四四〇
新築住宅建築費総額四四一
新築住宅建築費総額四四二
新築住宅建築費総額四四三
新築住宅建築費総額四四四
新築住宅建築費総額四四五
新築住宅建築費総額四四六
新築住宅建築費総額四四七
新築住宅建築費総額四四八
新築住宅建築費総額四四九
新築住宅建築費総額四五〇
新築住宅建築費総額四五一
新築住宅建築費総額四五二
新築住宅建築費総額四五三
新築住宅建築費総額四五四
新築住宅建築費総額四五五
新築住宅建築費総額四五六
新築住宅建築費総額四五七
新築住宅建築費総額四五八
新築住宅建築費総額四五九
新築住宅建築費総額四六〇
新築住宅建築費総額四六一
新築住宅建築費総額四六二
新築住宅建築費総額四六三
新築住宅建築費総額四六四
新築住宅建築費総額四六五
新築住宅建築費総額四六六
新築住宅建築費総額四六七
新築住宅建築費総額四六八
新築住宅建築費総額四六九
新築住宅建築費総額四七〇
新築住宅建築費総額四七一
新築住宅建築費総額四七二
新築住宅建築費総額四七三
新築住宅建築費総額四七四
新築住宅建築費総額四七五
新築住宅建築費総額四七六
新築住宅建築費総額四七七
新築住宅建築費総額四七八
新築住宅建築費総額四七九
新築住宅建築費総額四八〇
新築住宅建築費総額四八一
新築住宅建築費総額四八二
新築住宅建築費総額四八三
新築住宅建築費総額四八四
新築住宅建築費総額四八五
新築住宅建築費総額四八六
新築住宅建築費総額四八七
新築住宅建築費総額四八八
新築住宅建築費総額四八九
新築住宅建築費総額四九〇
新築住宅建築費総額四九一
新築住宅建築費総額四九二
新築住宅建築費総額四九三
新築住宅建築費総額四九四
新築住宅建築費総額四九五
新築住宅建築費総額四九六
新築住宅建築費総額四九七
新築住宅建築費総額四九八
新築住宅建築費総額四九九
新築住宅建築費総額五〇〇
新築住宅建築費総額五〇一
新築住宅建築費総額五〇二
新築住宅建築費総額五〇三
新築住宅建築費総額五〇四
新築住宅建築費総額五〇五
新築住宅建築費総額五〇六
新築住宅建築費総額五〇七
新築住宅建築費総額五〇八
新築住宅建築費総額五〇九
新築住宅建築費総額五一〇
新築住宅建築費総額五一一
新築住宅建築費総額五一二
新築住宅建築費総額五一三
新築住宅建築費総額五一四
新築住宅建築費総額五一五
新築住宅建築費総額五一六
新築住宅建築費総額五一七
新築住宅建築費総額五一八
新築住宅建築費総額五一九
新築住宅建築費総額五二〇
新築住宅建築費総額五二一
新築住宅建築費総額五二二
新築住宅建築費総額五二三
新築住宅建築費総額五二四
新築住宅建築費総額五二五
新築住宅建築費総額五二六
新築住宅建築費総額五二七
新築住宅建築費総額五二八
新築住宅建築費総額五二九
新築住宅建築費総額五三〇
新築住宅建築費総額五三一
新築住宅建築費総額五三二
新築住宅建築費総額五三三
新築住宅建築費総額五三四
新築住宅建築費総額五三五
新築住宅建築費総額五三六
新築住宅建築費総額五三七
新築住宅建築費総額五三八
新築住宅建築費総額五三九
新築住宅建築費総額五四〇
新築住宅建築費総額五四一
新築住宅建築費総額五四二
新築住宅建築費総額五四三
新築住宅建築費総額五四四
新築住宅建築費総額五四五
新築住宅建築費総額五四六
新築住宅建築費総額五四七
新築住宅建築費総額五四八
新築住宅建築費総額五四九
新築住宅建築費総額五五〇
新築住宅建築費総額五五一
新築住宅建築費総額五五二
新築住宅建築費総額五五三
新築住宅建築費総額五五四
新築住宅建築費総額五五五
新築住宅建築費総額五五六
新築住宅建築費総額五五七
新築住宅建築費総額五五八
新築住宅建築費総額五五九
新築住宅建築費総額五六〇
新築住宅建築費総額五六一
新築住宅建築費総額五六二
新築住宅建築費総額五六三
新築住宅建築費総額五六四
新築住宅建築費総額五六五
新築住宅建築費総額五六六
新築住宅建築費総額五六七
新築住宅建築費総額五六八
新築住宅建築費総額五六九
新築住宅建築費総額五七〇
新築住宅建築費総額五七一
新築住宅建築費総額五七二
新築住宅建築費総額五七三
新築住宅建築費総額五七四
新築住宅建築費総額五七五
新築住宅建築費総額五七六
新築住宅建築費総額五七七
新築住宅建築費総額五七八
新築住宅建築費総額五七九
新築住宅建築費総額五八〇
新築住宅建築費総額五八一
新築住宅建築費総額五八二
新築住宅建築費総額五八三
新築住宅建築費総額五八四
新築住宅建築費総額五八五
新築住宅建築費総額五八六
新築住宅建築費総額五八七
新築住宅建築費総額五八八
新築住宅建築費総額五八九
新築住宅建築費総額五九〇
新築住宅建築費総額五九一
新築住宅建築費総額五九二
新築住宅建築費総額五九三
新築住宅建築費総額五九四
新築住宅建築費総額五九五
新築住宅建築費総額五九六
新築住宅建築費総額五九七
新築住宅建築費総額五九八
新築住宅建築費総額五九九
新築住宅建築費総額六〇〇
新築住宅建築費総額六〇一
新築住宅建築費総額六〇二
新築住宅建築費総額六〇三
新築住宅建築費総額六〇四
新築住宅建築費総額六〇五
新築住宅建築費総額六〇六
新築住宅建築費総額六〇七
新築住宅建築費総額六〇八
新築住宅建築費総額六〇九
新築住宅建築費総額六一〇
新築住宅建築費総額六一一
新築住宅建築費総額六一二
新築住宅建築費総額六一三
新築住宅建築費総額六一四
新築住宅建築費総額六一五
新築住宅建築費総額六一六
新築住宅建築費総額六一七
新築住宅建築費総額六一八
新築住宅建築費総額六一九
新築住宅建築費総額六二〇
新築住宅建築費総額六二一
新築住宅建築費総額六二二
新築住宅建築費総額六二三
新築住宅建築費総額六二四
新築住宅建築費総額六二五
新築住宅建築費総額六二六
新築住宅建築費総額六二七
新築住宅建築費総額六二八
新築住宅建築費総額六二九
新築住宅建築費総額六三〇
新築住宅建築費総額六三一
新築住宅建築費総額六三二
新築住宅建築費総額六三三
新築住宅建築費総額六三四
新築住宅建築費総額六三五
新築住宅建築費総額六三六
新築住宅建築費総額六三七
新築住宅建築費総額六三八
新築住宅建築費総額六三九
新築住宅建築費総額六四〇
新築住宅建築費総額六四一
新築住宅建築費総額六四二
新築住宅建築費総額六四三
新築住宅建築費総額六四四
新築住宅建築費総額六四五
新築住宅建築費総額六四六
新築住宅建築費総額六四七
新築住宅建築費総額六四八
新築住宅建築費総額六四九
新築住宅建築費総額六五〇
新築住宅建築費総額六五一
新築住宅建築費総額六五二
新築住宅建築費総額六五三
新築住宅建築費総額六五四
新築住宅建築費総額六五五
新築住宅建築費総額六五六
新築住宅建築費総額六五七
新築住宅建築費総額六五八
新築住宅建築費総額六五九
新築住宅建築費総額六六〇
新築住宅建築費総額六六一
新築住宅建築費総額六六二
新築住宅建築費総額六六三
新築住宅建築費総額六六四
新築住宅建築費総額六六五
新築住宅建築費総額六六六
新築住宅建築費総額六六七
新築住宅建築費総額六六八
新築住宅建築費総額六六九
新築住宅建築費総額六七〇
新築住宅建築費総額六七一
新築住宅建築費総額六七二
新築住宅建築費総額六七三
新築住宅建築費総額六七四
新築住宅建築費総額六七五
新築住宅建築費総額六七六
新築住宅建築費総額六七七
新築住宅建築費総額六七八
新築住宅建築費総額六七九
新築住宅建築費総額六八〇
新築住宅建築費総額六八一
新築住宅建築費総額六八二
新築住宅建築費総額六八三
新築住宅建築費総額六八四
新築住宅建築費総額六八五
新築住宅建築費総額六八六
新築住宅建築費総額六八七
新築住宅建築費総額六八八
新築住宅建築費総額六八九
新築住宅建築費総額六九〇
新築住宅建築費総額六九一
新築住宅建築費総額六九二
新築住宅建築費総額六九三
新築住宅建築費総額六九四
新築住宅建築費総額六九五
新築住宅建築費総額六九六
新築住宅建築費総額六九七
新築住宅建築費総額六九八
新築住宅建築費総額六九九
新築住宅建築費総額七〇〇
新築住宅建築費総額七〇一
新築住宅建築費総額七〇二
新築住宅建築費総額七〇三
新築住宅建築費総額七〇四
新築住宅建築費総額七〇五
新築住宅建築費総額七〇六
新築住宅建築費総額七〇七
新築住宅建築費総額七〇八
新築住宅建築費総額七〇九
新築住宅建築費総額七一〇
新築住宅建築費総額七一一
新築住宅建築費総額七一二
新築住宅建築費総額七一三
新築住宅建築費総額七一四
新築住宅建築費総額七一五
新築住宅建築費総額七一六
新築住宅建築費総額七一七
新築住宅建築費総額七一八
新築住宅建築費総額七一九
新築住宅建築費総額七二〇
新築住宅建築費総額七二一
新築住宅建築費総額七二二
新築住宅建築費総額七二三
新築住宅建築費総額七二四
新築住宅建築費総額七二五
新築住宅建築費総額七二六
新築住宅建築費総額七二七
新築住宅建築費総額七二八
新築住宅建築費総額七二九
新築住宅建築費総額七三〇
新築住宅建築費総額七三一
新築住宅建築費総額七三二
新築住宅建築費総額七三三
新築住宅建築費総額七三四
新築住宅建築費総額七三五
新築住宅建築費総額七三六
新築住宅建築費総額七三七
新築住宅建築費総額七三八
新築住宅建築費総額七三九
新築住宅建築費総額七四〇
新築住宅建築費総額七四一
新築住宅建築費総額七四二
新築住宅建築費総額七四三
新築住宅建築費総額七四四
新築住宅建築費総額七四五
新築住宅建築費総額七四六
新築住宅建築費総額七四七
新築住宅建築費総額七四八
新築住宅建築費総額七四九
新築住宅建築費総額七五〇
新築住宅建築費総額七五一
新築住宅建築費総額七五二
新築住宅建築費総額七五三
新築住宅建築費総額七五四
新築住宅建築費総額七五五
新築住宅建築費総額七五六
新築住宅建築費総額七五七
新築住宅建築費総額七五八
新築住宅建築費総額七五九
新築住宅建築費総額七六〇
新築住宅建築費総額七六一
新築住宅建築費総額七六二
新築住宅建築費総額七六三
新築住宅建築費総額七六四
新築住宅建築費総額七六五
新築住宅建築費総額七六六
新築住宅建築費総額七六七
新築住宅建築費総額七六八
新築住宅建築費総額七六九
新築住宅建築費総額七七〇
新築住宅建築費総額七七一
新築住宅建築費総額七七二
新築住宅建築費総額七七三
新築住宅建築費総額七七四
新築住宅建築費総額七七五
新築住宅建築費総額七七六
新築住宅建築費総額七七七
新築住宅建築費総額七七八
新築住宅建築費総額七七九
新築住宅建築費総額七八〇
新築住宅建築費総額七八一
新築住宅建築費総額七八二
新築住宅建築費総額七八三
新築住宅建築費総額七八四
新築住宅建築費総額七八五
新築住宅建築費総額七八六
新築住宅建築費総額七八七
新築住宅建築費総額七八八
新築住宅建築費総額七八九
新築住宅建築費総額七九〇
新築住宅建築費総額七九一
新築住宅建築費総額七九二
新築住宅建築費総額七九三
新築住宅建築費総額七九四
新築住宅建築費総額七九五
新築住宅建築費総額七九六
新築住宅建築費総額七九七
新築住宅建築費総額七九八
新築住宅建築費総額七九九
新築住宅建築費総額八〇〇
新築住宅建築費総額八〇一
新築住宅建築費総額八〇二
新築住宅建築費総額八〇三
新築住宅建築費総額八〇四
新築住宅建築費総額八〇五
新築住宅建築費総額八〇六
新築住宅建築費総額八〇七
新築住宅建築費総額八〇八
新築住宅建築費総額八〇九
新築住宅建築費総額八一〇
新築住宅建築費総額八一一
新築住宅建築費総額八一二
新築住宅建築費総額八一三
新築住宅建築費総額八一四
新築住宅建築費総額八一五
新築住宅建築費総額八一六
新築住宅建築費総額八一七
新築住宅建築費総額八一八
新築住宅建築費総額八一九
新築住宅建築費総額八二〇
新築住宅建築費総額八二一
新築住宅建築費総額八二二
新築住宅建築費総額八二三
新築住宅建築費総額八二四
新築住宅建築費総額八二五
新築住宅建築費総額八二六
新築住宅建築費総額八二七
新築住宅建築費総額八二八
新築住宅建築費総額八二九
新築住宅建築費総額八三〇
新築住宅建築費総額八三一
新築住宅建築費総額八三二
新築住宅建築費総額八三三
新築住宅建築費総額八三四
新築住宅建築費総額八三五
新築住宅建築費総額八三六
新築住宅建築費総額八三七
新築住宅建築費総額八三八
新築住宅建築費総額八三九
新築住宅建築費総額八四〇
新築住宅建築費総額八四一
新築住宅建築費総額八四二
新築住宅建築費総額八四三
新築住宅建築費総額八四四
新築住宅建築費総額八四五
新築住宅建築費総額八四六
新築住宅建築費総額八四七
新築住宅建築費総額八四八
新築住宅建築費総額八四九
新築住宅建築費総額八五〇
新築住宅建築費総額八五一
新築住宅建築費総額八五二
新築住宅建築費総額八五三
新築住宅建築費総額八五四
新築住宅建築費総額八五五
新築住宅建築費総額八五六
新築住宅建築費総額八五七
新築住宅建築費総額八五八
新築住宅建築費総額八五九
新築住宅建築費総額八六〇
新築住宅建築費総額八六一
新築住宅建築費総額八六二
新築住宅建築費総額八六三
新築住宅建築費総額八六四
新築住宅建築費総額八六五
新築住宅建築費総額八六六
新築住宅建築費総額八六七
新築住宅建築費総額八六八
新築住宅建築費総額八六九
新築住宅建築費総額八七〇
新築住宅建築費総額八七一
新築住宅建築費総額八七二
新築住宅建築費総額八七三
新築住宅建築費総額八七四
新築住宅建築費総額八七五
新築住宅建築費総額八七六
新築住宅建築費総額八七七
新築住宅建築費総額八七八
新築住宅建築費総額八七九
新築住宅建築費総額八八〇
新築住宅建築費総額八八一
新築住宅建築費総額八八二
新築住宅建築費総額八八三
新築住宅建築費総額八八四
新築住宅建築費総額八八五
新築住宅建築費総額八八六
新築住宅建築費総額八八七
新築住宅建築費総額八八八
新築住宅建築費総額八八九
新築住宅建築費総額八九〇
新築住宅建築費総額八九一
新築住宅建築費総額八九二
新築住宅建築費総額八九三
新築住宅建築費総額八九四
新築住宅建築費総額八九五
新築住宅建築費総額八九六
新築住宅建築費総額八九七
新築住宅建築費総額八九八
新築住宅建築費総額八九九
新築住宅建築費総額九〇〇
新築住宅建築費総額九〇一
新築住宅建築費総額九〇二
新築住宅建築費総額九〇三
新築住宅建築費総額九〇四
新築住宅建築費総額九〇五
新築住宅建築費総額九〇六
新築住宅建築費総額九〇七
新築住宅建築費総額九〇八
新築住宅建築費総額九〇九
新築住宅建築費総額九一〇
新築住宅建築費総額九一一
新築住宅建築費総額九一二
新築住宅建築費総額九一三
新築住宅建築費総額九一四
新築住宅建築費総額九一五
新築住宅建築費総額九一六
新築住宅建築費総額九一七
新築住宅建築費総額九一八
新築住宅建築費総額九一九
新築住宅建築費総額九二〇
新築住宅建築費総額九二一
新築住宅建築費総額九二二
新築住宅建築費総額九二三
新築住宅建築費総額九二四
新築住宅建築費総額九二五
新築住宅建築費総額九二六
新築住宅建築費総額九二七
新築住宅建築費総額九二八
新築住宅建築費総額九二九
新築住宅建築費総額九三〇
新築住宅建築費総額九三一
新築住宅建築費総額九三二
新築住宅建築費総額九三三
新築住宅建築費総額九三四
新築住宅建築費総額九三五
新築住宅建築費総額九三六
新築住宅建築費総額九三七
新築住宅建築費総額九三八
新築住宅建築費総額九三九
新築住宅建築費総額九四〇
新築住宅建築費総額九四一
新築住宅建築費総額九四二
新築住宅建築費総額九四三
新築住宅建築費総額九四四
新築住宅建築費総額九四五
新築住宅建築費総額九四六
新築住宅建築費総額九四七
新築住宅建築費総額九四八
新築住宅建築費総額九四九
新築住宅建築費総額九五〇
新築住宅建築費総額九五一
新築住宅建築費総額九五二
新築住宅建築費総額九五三
新築住宅建築費総額九五四
新築住宅建築費総額九五五
新築住宅建築費総額九五六
新築住宅建築費総額九五七
新築住宅建築費総額九五八
新築住宅建築費総額九五九
新築住宅建築費総額九六〇
新築住宅建築費総額九六一
新築住宅建築費総額九六二
新築住宅建築費総額九六三
新築住宅建築費総額九六四
新築住宅建築費総額九六五
新築住宅建築費総額九六六
新築住宅建築費総額九六七
新築住宅建築費総額九六八
新築住宅建築費総額九六九
新築住宅建築費総額九七〇
新築住宅建築費総額九七一
新築住宅建築費総額九七二
新築住宅建築費総額九七三
新築住宅建築費総額九七四
新築住宅建築費総額九七五
新築住宅建築費総額九七六
新築住宅建築費総額九七七
新築住宅建築費総額九七八
新築住宅建築費総額九七九
新築住宅建築費総額九八〇
新築住宅建築費総額九八一
新築住宅建築費総額九八二
新築住宅建築費総額九八三
新築住宅建築費総額九八四
新築住宅建築費総額九八五
新築住宅建築費総額九八六
新築住宅建築費総額九八七
新築住宅建築費総額九八八
新築住宅建築費総額九八九
新築住宅建築費総額九九〇
新築住宅建築費総額九九一
新築住宅建築費総額九九二
新築住宅建築費総額九九三
新築住宅建築費総額九九四
新築住宅建築費総額九九五
新築住宅建築費総額九九六
新築住宅建築費総額九九七
新築住宅建築費総額九九八
新築住宅建築費総額九九九
新築住宅建築費総額一〇〇〇

台協報歌壇

選者吟

下田実花選

行く秋のタ陽流れる高山
夕顔の刈田隅より沼へ来る
畑に行く神無月の社掛け

今日よりの忽辺の春の騒大根
ほそりゆく日々ともあり騒大根
令日よりの忽辺の春の騒大根

今年米　吉田迂拙

ほんのりと三輪山見ゆ初日の出
と島布施ゆきも消ぬ春もやて
北の池に言の葉もしもの
北の池　君子
たんぞの灯　同　人
世界の眼若い者ほど見てあらむ
君が紫檀をこのテレビに
シュシク　寺岡富士子
夫人の叱られもとうとうし
飼れかうる夫を起こしオーイーの　同じく
同じく　人
昼前よりわが家の来の屋根ひびて
中華時間のおとろしてまつ
旦那さまの　仲村光子
ひんがしの海あかねしてこの島の
初日に立つ民すがたらしも
初日の色　大沢貞吉
白き米山花　中沢光治
おが宿の白き米山花をそめぬ
いさぎよく散るこの花あはれ
母の日記　守屋米夫
風走るおかふるまでもとさきの
日記によみてかなしかりけり
踊子舞士　宇都宮八重
夕あかね空一面の向ひには
雪白きうすずみの富士
運命とは　同　人
科学にも人の力も及ばぬを
さだめというかんの世にして
弘前の町　篤　泰彦
現代の変遷した庄屋に
変ることなきさまのはとの町
同じく　同　人
常日ごろおかみに失礼し何かしら
よろぶくり来ぬこの町に来て
柿の葉もみぢも散りて淋しきに
バッ手花さく家を目当てして
冬ぞらの花　同　人
耳朶うとく続く両手の花なれど
めでかぬるかなこの雪花は
ゆうつくりと指先で理れ　高橋綾子
飾りもの雪のきらきらスマスモール
入ぶらり展覧会と雪の中
ニニ三と展覧会と雪の中
本降り人手十月五日付朝
本降れば傘の雪ぞ多き
炉開いて火桶も座もおあつらえに
炉開いて火桶も座もおありにけり

客帰りしたる客ぶりの座なりし

七十の春を迎えた
徳島の宮内さん

おすえさんを主に置いて
幸福な日々を送る

言葉をかけられて、その声には思わず振り向くほどの魅力があった。

お父さんを主に置いて

幸福な日々を送る

世界各地の主な空港
世界各国の主な都市
世界各国の主な都市
世界各国の主な都市

台湾協会報

発行所
新宿区西大久保2の303
財団法人　台湾協会
電話 (983) 8116—7番
振替口座　東京 40307番
宛名財団法人台湾協会
発行人　松本　晧吉

遺骨八五〇柱
懐しの故国へ
迎えと挨拶とを兼ねて
当日の出迎え希望　江藤、馬場両氏が渡台

台湾協会有志慰霊墓建設委員会の総務委員であった江藤昌三、同じく建設委員であった馬場忠治両氏は台湾協会から、台湾になお残留している遺骨を迎えるために、二月二十七日羽田発の日航機で渡台、三月二日ノースウエスト航空機で羽田着、帰国する予定となっている。これは台北の東園日本庭苑でその後祭られた遺骨八五〇柱を携行して帰るもので、二社等の遺骨引渡しは、台湾側では総督府等多数の出迎えを希望されるが、これは辞退して来てから、現地本願寺布教所の世話で、台湾神社で、四月九日に行なわれる慰霊祭の例祭の時に併せ行なわれる慰霊祭になっている。

江藤、馬場の両氏は帰台中に、台湾、国府の各関係者に、参拝礼拝し、台湾協会松本理事長の代理として慰霊祭関係当局、各関係団体と、生前総督府関係当局、各関係団体と、生前総督府関係当局、各関係団体と、生前総督府

リレー随筆

日記帖

参議員議員 塩見 俊二

私は一家族も欠けず保存して家族の手に渡してあるものは一冊の日記である。

机辺に備えつけた手製の日記帳である。私は若い時には日記帳をつけた事があるが、最近は多くつけていない。感激もはるときには便利な手帳が出来て、簡単に一年中の記録をとることになったのもこの頃と思う。しかし日記帳の持つ大きな価値は活きることは出来ない。記録をとめどもなくかりでなく、自分の反省の材料ともなり、又将来への夢とも繋ぐことが出来る貴重なものであることは変りがない。

私は昭和二十年八月十五日終戦の日までの日記を全部焼却することにつき、其れ迄唯今迄上げる事である。

私はここに改めらいをしのびながら其の一部を公開したい。

昭和二十年八月十五日 晴

川田の組井義一氏宅にて敗戦終結の大詔を拝する。感無量である。

自分の至誠の足らざりしを恥じ入ると共に、国体の護持されたことを喜ぶ。

午前十時頃、支那派遣軍総司令官岡村寧次大将より、左の如き訓電を受く。

一、軍ハ蒋介石ノ代表者ニ降伏ス

二、軍ハ蒋介石ノ指揮ニ従フ

三、軍ハ現任務ヲ続行シ、秩序維持ニ任ズ

四、軍ハ現態勢ヲ堅持シ、外地ニ在ル日本人ノ引揚ニ関シテハ、蒋介石ノ指揮ニ従フ

五、軍ハ速ニ最寄リノ連絡ヲ開始スベシ

六、軍ハ現地ニ於ケル治安ノ維持ニ任ズ

七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事施設ヲ保全スベシ

八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍需品ヲ保全スベシ

九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事情報ヲ速ニ報告スベシ

十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

四十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

四十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

四十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

四十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

四十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

四十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

四十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

四十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

四十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

四十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

五十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

五十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

五十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

五十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

五十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

五十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

五十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

五十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

五十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

五十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

六十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

六十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

六十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

六十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

六十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

六十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

六十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

六十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

六十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

六十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

七十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

七十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

七十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

七十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

七十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

七十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

七十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

七十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

七十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

七十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

八十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

八十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

八十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

八十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

八十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

八十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

八十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

八十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

八十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

八十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

九十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

九十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

九十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

九十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

九十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

九十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

九十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

九十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

九十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

九十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百二十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百二十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百二十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百二十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百二十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百二十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百二十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百二十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百二十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百二十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百三十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百三十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百三十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百三十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百三十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百三十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百三十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百三十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百三十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百三十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百四十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百四十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百四十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百四十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百四十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百四十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百四十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百四十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百四十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百四十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百五十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百五十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百五十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百五十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百五十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百五十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百五十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百五十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百五十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百五十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百六十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百六十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百六十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百六十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百六十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百六十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百六十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百六十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百六十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百六十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百七十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百七十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百七十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百七十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百七十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百七十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百七十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百七十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百七十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百七十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百八十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百八十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百八十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百八十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百八十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百八十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百八十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百八十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百八十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百八十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百九十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百九十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百九十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百九十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百九十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百九十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百九十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百九十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百九十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

百九十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百二十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百二十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百二十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百二十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百二十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百二十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百二十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百二十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百二十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百二十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百三十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百三十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百三十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百三十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百三十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百三十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百三十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百三十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百三十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百三十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百四十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百四十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百四十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百四十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百四十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百四十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百四十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百四十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百四十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百四十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百五十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百五十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百五十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百五十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百五十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百五十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百五十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百五十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百五十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百五十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百六十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百六十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百六十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百六十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百六十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百六十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百六十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百六十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百六十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百六十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百七十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百七十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百七十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百七十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百七十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百七十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百七十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百七十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百七十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百七十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百八十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百八十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百八十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百八十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百八十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百八十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百八十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百八十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百八十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百八十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百九十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百九十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百九十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百九十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百九十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百九十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百九十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百九十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百九十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

二百九十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百二十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百二十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百二十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百二十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百二十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百二十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百二十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百二十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百二十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百二十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百三十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百三十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百三十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百三十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百三十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百三十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百三十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百三十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百三十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百三十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百四十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百四十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百四十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百四十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百四十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百四十五、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百四十六、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百四十七、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百四十八、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百四十九、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百五十、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百五十一、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百五十二、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百五十三、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百五十四、軍ハ現地ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ速ニ報告スベシ

三百五十五、

台湾協会々員（御申込順）

大成火災海上保険株式会社

法人会員

一般会員

千代田区丸の内一ノ一
中村　正夫
千代田区丸の内一ノ一
東京海上ビル
井上　先生
千代田区丸の内一ノ一
明治ビル
井上　先生
千代田区丸の内一ノ一
明治ビル
井上　先生
千代田区丸の内一ノ一
明治

発行所
新宿区西大久保2の303
財団法人　台湾協会
電話　局　8116—7番
振替口座　東京　40307番
宛名財団法人台湾協会
発行人　松本　晴吉

叙勲の三氏

六月例会　台湾の会で祝賀

（小笠原、大久保、秋山）

当協会主催の台湾六月例会は、先の生存者叙勲で叙勲された会員小笠原三九郎（勲一等瑞宝章）、大久保留次郎（勲一等瑞宝章）、秋山孝之輔（勲二等瑞宝章）の三氏を祝して叙勲祝賀会として行はれた。会場は新宿東京会館の手に依って設営され、金屏風を前に三氏とも元気な顔を見せて、会員一同を喜ばせた。まず一同を代表して松本理事長より御三方が永年国家のために尽尽して来られた当然の報いとして叙勲を受けられたのであるが、我々はかねがね御三方の功労を称え尊敬する次第であります。今後とも御健在で永く国家社会の為めに尽していただき度い。と挨拶、ついで長谷川元総督が起って

今度、御三方が叙勲を受けられたことは自由民に限らず官民共たすまず。叙勲はその人の国家社会に対した功労に対して、いずれの国でも尊重されており、アメリカ人でも叙勲を貰うことを非常に栄誉と心得んでいる。共産主義の少壮でも、帝政ロシヤ時代の銅像が今日でもそのまま残され、国家の功労者に対する敬意は忘れられていない。そして、自分達の先輩が残した功績を讃えている。御三方とも、ようか、この叙勲を誇りをもって励んでいただき度いと挨拶を述べ、ついで、小笠原氏は

只今は私がこの四月二十九日に生存者第一回の叙勲を受けたということを御祝詞を頂きしまして、まことに有難う存じます。私は終戦後の新憲内閣、第四次、第五次の吉田内閣に商工、農林、通産、経済審議庁、大蔵等の各省を担当し、食糧をはじめ石炭その他の物資不足、物価の暴騰、罷業等二の交渉等に、かなり苦労したものであり、今日、日本の姿を見て、当時を回顧いたしますと、全く今昔の感に堪えません。私としては私のベストを尽したつもりでございますが、皆様のお蔭で、今日の様な栄誉を得ましたことは、全く感激にたえません。

と挨拶、つぎに秋山孝之輔氏が起って

本日はからも盛大な祝賀会を開いていただきまして、誠に感激に堪えません。私は御承知のように政党等に立つたことは一回もなく全くの民間人、昔の言葉で申せば町人であります。今回、勲二等に叙せられましたことは、全く今までの会員の皆様の御推薦によるものと存じまして、厚く御礼申上げます。

と挨拶、ついで大久保留次郎氏は

私は明治四十年以来今年七十七才の今日まで、実業界に身を置いて参りましたが、その間、常に心掛けておりましたことは、国家社会のために尽すことであります。今回、勲三等に叙せられましたことは、全く皆様の御推薦によるものと存じまして、厚く御礼申上げます。

と挨拶があり、ついで長谷川元総督が起って

今度、御三方が叙勲を受けられたことは自由民に限らず官民共たすまず。叙勲はその人の国家社会に対した功労に対して、いずれの国でも尊重されており、アメリカ人でも叙勲を貰うことを非常に栄誉と心得んでいる。共産主義の少壮でも、帝政ロシヤ時代の銅像が今日でもそのまま残され、国家の功労者に対する敬意は忘れられていない。そして、自分達の先輩が残した功績を讃えている。御三方とも、ようか、この叙勲を誇りをもって励んでいただき度いと挨拶を述べ、ついで、小笠原氏は

只今は私がこの四月二十九日に生存者第一回の叙勲を受けたということを御祝詞を頂きしまして、まことに有難う存じます。私は終戦後の新憲内閣、第四次、第五次の吉田内閣に商工、農林、通産、経済審議庁、大蔵等の各省を担当し、食糧をはじめ石炭その他の物資不足、物価の暴騰、罷業等二の交渉等に、かなり苦労したものであり、今日、日本の姿を見て、当時を回顧いたしますと、全く今昔の感に堪えません。私としては私のベストを尽したつもりでございますが、皆様のお蔭で、今日の様な栄誉を得ましたことは、全く感激にたえません。

特に台湾には強い愛情と深い縁故を持ちながら、個人的には何一つ御奉公もできず、ただ一同に御祝詞

台湾訪問記

(三)　江藤昌之

前の続き後、前新竹市長鄭鴻源氏より、台北市内・八洲出張所に招請の電報が入り、日本時間で五月二日に到着との通知があったので、私らは急遽台湾に向かうことに決定した。従来の日本人時代からの台北基隆間観光バスは、今日では観光バスの数も少なくなり、台湾の交通事情に即応しないので、一九六一年五月以来、台北市北部（旧総督府街区）の一区と三峡鎮の往復観光バスを運行している。

一時間三十分を目標に、台北市外八洲出張所より基隆に向かう。

台北市内では、中華民国政府の諸施策の恩恵を受けて、日本時代に比べ相当整備されている。

台北市内・八洲出張所より基隆に向かう。

一時間三十分を目標に、台北市外八洲出張所より基隆に向かう。

台北市内では、中華民国政府の諸施策の恩恵を受けて、日本時代に比べ相当整備されている。

台北市内・八洲出張所より基隆に向かう。

一時間三十分を目標に、台北市外八洲出張所より基隆に向かう。

台北市内では、中華民国政府の諸施策の恩恵を受けて、日本時代に比べ相当整備されている。

新竹の旧知事官邸の前に立った江藤昌之氏（元知事）と鄭鴻源前新竹市長

が、今回二九が全通したのであった。

基隆市内・八洲出張所より基隆に向かう。

一時間三十分を目標に、台北市外八洲出張所より基隆に向かう。

一時間三十分を目標に、台北市外八洲出張所より基隆に向かう。

一時間三十分を目標に、台北市外八洲出張所より基隆に向かう。

従来の日本時代からの台湾観光バスは、今日では観光バスの数も少なくなり、台湾の交通事情に即応しないので、一九六一年五月以来、台北市北部（旧総督府街区）の一区と三峡鎮の往復観光バスを運行している。

台北市内では、中華民国政府の諸施策の恩恵を受けて、日本時代に比べ相当整備されている。

台北市内・八洲出張所より基隆に向かう。

一時間三十分を目標に、台北市外八洲出張所より基隆に向かう

相寄る心、魂！

「望郷台湾」の集い

続々集る各地の便り

旧師を迎えて

台南一中同窓会

一五〇名が集う

百月二十四日正午より台南第一中学校内旧校舎にて同窓会を台南協会及び台南市立第一中学校内旧校舎にて同窓会を台南協会及び北一高ホール二階堂、旧師渡辺校長、渋沼先生、原先生、小川先生、味岡先生、土井先生、広島市から武藤先生、仙台市から西田先生、奈良県から西田先生、名古屋から、落大（同窓生二五）名出席し、落大（同窓生二五）名出席し、落大（同窓生二五）名出席し

台湾協会々員（昭和三年度）

（○印は一回目納払みの方）

賛助会員

資金　壱千圓也　台湾銀行

一般会員

松山　三井物産株式会社
○鳩　堺
平野栄山　大阪市在住
八江土平　大阪市在住
柴青南白　大阪市在住
林川永　台北市
込朝　台北市
林井口勝本　台北市
林藤森　台北市
林藤森　台北市
林藤森

台湾協会報

発行所
新宿区西大久保2の303
財団法人 台湾協会
電話 (03) 8116—7番
振替口座 東京 40307番
宛名財団法人台湾協会
発行人 松本 虎吉

国会関係 特集（八頁）

経企長官として 高橋衛氏が入閣

各方面より期待

第三次池田内閣は七月十七日閣僚の詮衡を終り、十八日、認証式が行われたが、新内閣においては、台湾官界出身の逸材として早くからその前途に期待の持たれていた高橋衛氏（参議院議員、福井県選出）が入閣し、経済企画庁長官となつた。高橋氏は先の第二次池田内閣組閣の際にも経企長官として入閣が略内定していたのであるが、宮沢氏にこれをゆずり余裕あるところ見せていたものである。氏の入閣はまことに所を得た適材適所人事で、氏は今後、その頭脳と抱負経綸をもつて、池田内閣の光つた存在となることが期待される。また、氏が台湾をよく理解している所から今後の日華関係の上にも寄与する所あるべく、両国関係の密接化が池田内閣の一つの課題となつている折柄、この面での期待も得たれるであろう。台湾関係者はその親近感から挙げてわが事のように喜んでいる。（関連記事第五面に）

歩調を揃えて 強力に進まん

六月十八日、当協会ビルで開かれた 台湾在外財産処理特別委員会

台湾在外財産処理特別委員会は六月十八日今後二時から台協ビル七階において開かれ、全国各地から集つた出席委員は二十三名、熱心な協議が行はれた。

松本理事長の挨拶の後、次の如く決定により満度に亘り慎重な協議を進めた。

第一、委員会規定の説明

第二、委員会構成の経緯

第三、国会議員懇談会の経過

第四、台湾関係銀行預金払いに関する件

第五、台湾同胞解放のための台湾協会が中心となり団体全国大会に参加に関する件

第六、台湾同胞解放のための台湾協会が中心となり団体全国大会に正式加盟、全国の理事には当協会理事田中寅作氏が当ることとなつた。

ことを報告（詳細は別項）、さらに追加報告として全国の最近の活動状況についても説明するところがあつた。

ついで懇談に入り

一、台湾在外財産処理方針に関する件

二、在外私有財産の実体調査に関する件

三、台湾における国債元利払に関する件

四、台湾関係銀行預金払いに関する件

一、日華平和条約第三条の促進による処理方針

二、在外財産政府補償促進による処理方針

の議案が逐次討議されたが

○岩佐直治委員（兵庫）政府補償で行くべきだ

○井藤嘉一委員（東京）第三条

取扱いを考慮するべきでない

○馬場義続委員（東京）調事務について

○江藤哲人委員（東京）法人会社の補償をやるべきである

○岡田正三委員（島取）調査を協会でやるか（これはやらぬことになつた）

○田中寅作委員（東京）一、三四の各議事にわたり台湾同胞当時に扱つた経験について説明

○松本輝三委員（兵庫）請冊（二四ページ）について、他地域と比較して台湾の当時の考慮をさらに研究すべきだ

○岩佐直治委員

一、戦時保険が切捨になつて いるが、これも何とかして欲しい

2、全国各地方が調査費の大増しをお願い一律決定を速に申入れて貰いたい

等の熱心な意見の開陳が行はれたが、結局、本会議の結論は本委員会における意向を体して更に慎重調査委員会を開いてそれぞれ研究して進めることに一致、審議終了とした松本理事長より

今後出来るだけの努力を払う旨の意見の発表があつた。

尚当日の出席委員は左の二十三氏であつた。

出席委員

（東京）松本虎吉、小峯柳、橋本徹一、平田末治、森田俊介、田中寅作、松本輝吉、江藤哲之助、馬場義続、田中正寛、林百一、上條利雄、田原春次、島屋清蔵

（兵庫）岩佐直治、松本瀧三

（神奈川住）大迫忠安

（神奈川住）東京住）喜島雪一郎

委員会での報告

当日議長席の指名に依つて説明された報告事項は左の如くであつた。

一、台湾在外財産処理方針に関する件

（説明）

(1) 日華平和条約第三条の促進による処理方針

本方針については条約締結以来十年間も日台関係代表一貫してその促進に当つて来るも、先の中国政府は一向に動こうとしない。外務当局も鋭意その促進に努力したるも、現在のところ見込みなしといつている。そのため、外務当局の高官まで、政府補償に切換えるべきではないかといつている。又国会議員懇談の会合も持たれている。

(2) 在外財産政府補償促進による処理方針

（説明）

この処理方針は現在全国引揚者団体連合会会長の中核となつて発足し運動を展開している。この処理方針は二面のならず、全引揚者に対し補償すべきであるとし、現在の政府には決して満足せず、外財産処理に対して国内法律上補償義務を有するかの否かについて審議その答申によつて処理を決定にし促進する様努力をしようとしている。

そのため、政府は今回の臨時国会に提出の外財産問題審議会設置法（仮称）案を審議未了とせず、審議未了とする様にも努力をしている。

特にここで申し上げたいことは、去る六月十二日の衆院内閣委員会において、われわれ台湾関係出身の社会党代議士有志一同の政府に対する質問により、在外財産に対し国内法律上補償義務を有するかどうかについて審議その答弁を得た。

第四、台湾関係銀行預金払いに関する件

（説明）

この実態調査の実施については政府当局もの必要性を認めており、大蔵当局の説明によると、これを実施の場合には、一日も早く審議会を設置せしめ、その審議を経々引揚者の要望に即うべく有利に審議運営せしむるために、有財産の所在地区を無償財産への補償を主張する場合、当然要請せらるべき引揚者の生命財産、在外年数、引揚時の最終年度所得金額の状況等を調査の有資料としめるために実施しようとするものである。

従つてこの調査はあくまで全国を全体として自主的調査となし、提出に当つては絶対秘密を厳守し、その審議の有資料としめるために実施しようとするものである。

尚下段（裏面）さん（日下部氏未亡人、元商船鑑定事士頭取の娘）二十九日朝病没され、日下家は御主人、元商船鑑定事士頭取の娘）六月二十七日逝去二十九日朝病没され、日下家は御主人、元商船鑑定事士頭取の娘）六月二十七日逝去目下大四

△松松医博（日台連盟三商会同会副会長林弘之氏の義兄、林医院医師）七月五日パンチ氏病で逝去、七月廿日渋谷区一願寺の最終年度所得金額の状況等を調査の有資料としめるために実施しようとするものである。

△岸下猪太郎氏　岡山県吉備郡足守町農井三〇〇、岡山県立の中学校に入学、今年二月十九日病死された。岡山県の雅民文二氏からお知らせがあつた。遺族としては美人の岸下さまざまが岡山に入園中

△細萱繁氏（総米佐賀太郎さんが長官時代、熱帯産業課技師時代の秘書を出しにのである。しかも国会の状勢は緩和を許さず、審議未了とする様にも努力をしている。

△城南一氏　昭和五十四、一転居

△兼久繁さん（沼津市上通り三丁目）転居

△山崎正記氏　横浜市桜木町一丁目一番地

△岩瀬昇一氏（世田谷区上馬町二の二七一、岩瀬医院）電話三一番

台湾訪問記

(四)　江藤昌之

台湾は終戦後、比較的大きな企業は、とりあえず、単独に、又は類似の業種と統合されて、国営企業又は省営企業の形で発足することになったが、その当時における国営企業は、政府資本金の所属で、中国石油(二工場)、台湾電業(アルミニウム)公司(二工場)、台湾金属鉱業開発公司(二工場)、台湾機械造船(二工場)、台湾糖業公司(八分社)、それに商船(船会社)であり、国営合営企業は、資源委員会の所有株が八〇%で、政府の所有株が四〇%であって、これに属するものは、台湾電力公司(六発電所)、台湾鉱業公司(三六工場、二試験所、三鉱山)、台湾水泥(セメント)公司(四工場)、台湾紙業公司(六工場)、台湾製業(ソーダ)公司(四工場)、台湾別紙機械公司(一分所)であった。省営企業としては、台湾工鉱公司(八九工場)、台湾農林公司(九二場)、公共局(電気局)、林業管理局の四つであった。これ等の企業は、その後、幾つかの改革を経て、今日に至ったのである。

台湾最大の企業である台湾電力公司、台湾石油公司、台湾糖業公司、台湾鉄路管理局(船会社)、台湾鉱業公司、台湾水泥公司、台湾紙業公司、台湾農林公司、台湾工鉱公司、台湾機械公司、台湾造船公司(一分所)であった。省営企業としては、台湾工鉱公司(八九工場)、台湾農林公司(九二場)、公共局(電気局)、林業管理局の四つであった。これ等の企業は、その後、幾つかの改革を経て、今日に至ったのである。

台湾最大の企業である台湾電力公司、台湾石油公司、台湾糖業公司、台湾鉄路管理局(船会社)、台湾鉱業公司、台湾水泥公司、台湾紙業公司、台湾農林公司、台湾工鉱公司、台湾機械公司、台湾造船公司(一分所)であった。省営企業としては、台湾工鉱公司(八九工場)、台湾農林公司(九二場)、公共局(電気局)、林業管理局の四つであった。これ等の企業は、その後、幾つかの改革を経て、今日に至ったのである。

写真は高雄市長室にて、向って左より陳啓川市長、江藤昌之局長の三氏

村山喜一委員が政府の見解を訊す

"審議会"法案上程の衆議院

内閣委員会の速記録(全文)

(写真は村山喜一代議士)

第四十六回国会衆議院

内閣委員会議録(四号)

昭和三十九年六月十日(金曜日)

内閣法制局参事官(第一部長)　真田　秀吉君
総理府総務副長官　野田　武夫君
総理府事務官(特別地域連絡局長)　三枝　三郎君
外務事務官(条約局長)　藤崎　万里君
建設政務次官　鴨田　宗一君
建設事務官(大臣官房長)　平井　学君
建設事務官(計画局長)　吉兼　三郎君
建設事務官(都市局長)　町田　秀君
建設技官(河川局長)　鶴間俊一郎君
建設技官　船谷　正男君
建設技官(道路局長)　野崎　貞夫君
建設事務官　何野　一郎君
建設技官　井上英照君
建設技官　伊藤忠司君
建設技官　江藤良之君
建設技官　加藤五一君
建設技官　第一宮秀夫君
建設技官　高橋　一君
建設技官　山本　一君
建設技官　小林　一君
建設技官　山口　一君
建設技官　小林　一君
建設技官　山口　一君
建設技官　小林　一君
建設技官　山口

衆院内閣委員会
速記録の全文（前頁より続く）

すこれらの問題をながめまいとおりでできますが、船員保険の問題、地域別に、あるいは各職域別に、非常に違った形をとってきておりますが、これらの問題を取り扱っていきます場合において、日本政府が、国際的条約に基づいて二国間を約束に基づいてこれらの問題を処理しなければならないものもあり、また、各地において解決を見なければならないものもあるし、あるいは協定の締結をもって解決を見なければならないものもあるし

日華両国間のわだかまり除く

大平外相の訪台

大平外相（第一次池田内閣）は一つの親善と連絡のために訪台するノースウエスト機で台北に向けて出発した。

今後は一時は悪化していた台湾との関係も修復されるわけだが、今後は一時は悪化していた台湾との関係も修復されるわけだが、今後は一時は悪化していた台湾との関係も修復されるわけだが、

月刊　台湾協会報　昭和三十年七月十五日　(8)

台湾協会々員（昭和三十年度）

（◎印は二回目納入みの方）

賛助会員

新渡戸稲造　故人

一般会員

◎相馬愛蔵　故人
◎相馬黒光　故人
◎安藤正純　故人
◎井出季和太　故人
◎伊藤述史　故人
◎井上匡四郎　故人
◎井上清純　故人
◎井上貞衛　故人
◎井上秀雄　故人
◎井上良二　故人
◎井野碌郎　故人
◎今井嘉幸　故人
◎岩崎小弥太　故人
◎岩永裕吉　故人
◎上田貞次郎　故人
◎植原悦二郎　故人
◎宇佐美勝夫　故人
◎内田信也　故人
◎内ヶ崎作三郎　故人
◎江口定条　故人
◎大内暢三　故人
◎大川平三郎　故人
◎大蔵公望　故人
◎大久保利武　故人
◎大谷嘉兵衛　故人
◎大谷光瑞　故人
◎大谷竹次郎　故人
◎大野緑一郎　故人
◎岡崎嘉平太　故人
◎岡田忠彦　故人
◎岡田文次　故人
◎岡部長景　故人
◎小川平吉　故人
◎小川平二　故人
◎奥田義人　故人
◎小倉正恒　故人
◎小野義一　故人
◎小畑忠良　故人
◎小山完吾　故人
◎加藤武男　故人
◎金森徳次郎　故人
◎金子堅太郎　故人
◎鎌田勝太郎　故人
◎神谷忠雄　故人
◎河合良成　故人
◎川崎克　故人
◎川村竹治　故人
◎菊池武夫　故人
◎岸清一　故人
◎木内重四郎　故人
◎木村清四郎　故人
◎木村小左衛門　故人
◎木村錦花　故人
◎木村増太郎　故人
◎木村松次郎　故人
◎木村義雄　故人
◎木村理一郎　故人
◎木村了輔　故人
◎木村荘八　故人
◎木村荘平　故人
◎木村荘六　故人
◎木村久寿弥太　故人
◎木村久太郎　故人
◎木村久寿弥太　故人
◎木村久太郎　故人
◎木村久寿弥太　故人
◎木村久太郎

月刊 台湾協会報 （昭和29年11月10日第三種郵便物認可）（毎月15日発行）

高橋大臣を迎えて

八月例会 台湾の会・祝賀会

写真は上より御挨拶を述ぶる高橋大臣、大臣を中心に懇談する来会者、会場風景

当協会主催の台湾の会八月例会は第一次池田内閣に経企庁長官として入閣した高橋衛氏の大臣就任祝賀会として五日午後一時から台湾クルブにおいて開催された。これは台湾の会定例日の第一土曜の八日には高橋大臣が郷里の福井県の祝賀会に臨むため帰県したので、一週間繰上げて第一土曜の五日に開かれたものである。出席者九十一名。先ず進行係の櫻根幹治氏より

松本理事長がゴルフに腕の所を打ち大臣御出発中のため森部隆雄理事より御挨拶申し上げると共に、森部理事は

本日はアノ…まわしい敗戦の日から十四日目に当り…

この十九年間の間には政治、社会、経済、文化の各方面において非常な変化を見、お互の間においてもその身分に大きな変化があつた。今回、高橋衛さんが国務大臣として経企庁長官に御就任になつたことは当本人の喜びもさることながら、我々疑故一同と共に心よりお慶びを申上げます。

外地から帰つた人の中でも台湾関係は百人に一人位の割合において、実業界においても大いに活躍しているが、その第一陣として高橋さんが生来の英才に加えて御努力をされ台湾において校長を始められ、政府に打つて出ては、参議院…

高橋大臣歓迎会の出席者

岳国岡郎、稔本誠一、若狭徳次郎、安井清次、山本佐枝、山本実、森滝昇、森部隆、森田吉彦、森田重郎、松三郎、三松英代子、三井名一男、水間位彦、松野孝一、丸尾義理、松岡潤、松本智司、丸山伝、芦子加寿男、遠山一郎、土屋英木、鶴綱、太田武雄、福田秀雄、福田作次、辻垣義輔、張紹機、智原善一、藤原耕治、深川繁治、藤山愛一郎、藤田信太郎、高橋衛、田中兼栄、倉田主悦、平松甚吾郎、平田末治、平松作、竹腰錦治、藤井恒一、田所広泰、武居三圭二、江田口敬介、衛藤俊彦、江藤之雄、江頭正信、石原健三、伊藤定治、渡井新一、青木秀明、赤間大八、東海林、阿部政市、上條始政次、上條勝久、井上保三、井出一太郎、今井耕、今泉嘉一郎、入江誠一、桑原利雄、小塚謙一、久保田貫一郎、桑原善三、岸田実、加藤一、勝間久栄、倉田主悦、小田原信可、大内文夫、太田実男、鈴長林正、岡本一三、江田口敬介、衛藤俊彦、江藤之雄、江頭正信、石原健三、伊藤定治、渡井新一、青木秀明、赤間大八、東海林、阿部政市。

高橋大臣を迎えて

十九年間の今日、私は台北州知事をしており、ここに居られる松岡清吉が警察部長としてゐられた。その時に種々のお声を聞いて感慨実に無量なるものがありました。

今度、図らずも国務大臣に任ぜられましたが、若い時から勝手な事ばかり申上げ御迷惑をおかけしていることと思います。それにも拘らず、いつも変らぬ御支援をいただき、私もお陰で何時も表街道を歩き、長谷川閣下には第一回の選挙の時から後援会の会長になつていただいています。ほんとうの事をまツすぐに述べ、嬉しく人間も必要であるという感じを強くしております。

今度の仕事（経企長官）は仲々むずかしく、私はよく申すのですが、酒を飲んで、あまりニクケが来て…

私は御存じの通りの一国一城の主であるが故に、事毎に御願いしなければならない。なかなか御苦労の多い仕事であるが御苦労をしのんで御努力願い度い。

と終始感激と興奮を交えて謝辞を述べた。それより明朝食米審議会委員一二氏の音頭にて一同乾杯を挙げて高橋大臣の万歳を三唱して宴たけなわつた。

すこしおくれて参会した元総務長官藤原文夫氏、内閣総理代理も加つて、高橋さんが今度入閣されてから急に忙しくなつていることを実現してほしく思います。高橋さんとは高橋さんが総裁府に入つて来られた時からのお知合いであるが高橋さんのような人が参議院に居られることを心強く思つています。

今日の経済企画庁は経済関係の広報本部のようなことから発達して今日のようなものになつたが各省の次官との連絡が余り円滑に行つていない上に使命の達成は出来ない。なかなか御苦労の多い仕事であるが御苦労をしのんで御努力願い度い。

と挨拶、ついで元総督官房山崎巌氏は

高橋さんが今度国務大臣になられたことは、人物、学識、経験、その総てにもつともつともつて、我々台湾関係…

君の如き真地目な人が今の日本に必要である。そして、経企庁長官は最適任である。私は福井県で高橋衛と同県で高橋衛会の会長をしているが、来年は選挙であるので、この席をかりてお願いする。大臣はほしくて仕方ないでいる。高橋衛のために御支援をお願いする。

と郷土の先輩らしく温まる思いの祝辞を述べた。ついで、高橋大臣は新宿東京会館の祝宴にたる来賓の会釈風を身に何十年となく御父様をしていただいたことほど、人情、学識、経験、友人たちに対して感慨無量であります。

と挨拶、ついで元総督官房山崎巌氏は

高橋さんが今度国務大臣になられたことは、人物、学識、経験、その総てにもつともつともつて、我々台湾関係…

君の如き真地目な人が今の日本に必要である。そして、経企庁長官は最適任である。私は福井県で高橋衛と同県で高橋衛会の会長をしているが、来年は選挙であるので、この席をかりてお願いする。大臣はほしくて仕方ないでいる。高橋衛のために御支援をお願いする

台湾訪問記 (五) 江藤昌之

順序からいえば、議会に送るのが適当であったが、ベンの運びについていろいろ考えなければならない点が出来たので、政治組織の基本について触れて置きたいと思う。

一九四七年に公布された現行憲法は、三権分立制を基礎とし、国家機関の組織と権限について詳細な規定を設けている。次に国民の権利義務については、国民主権の原則に基き、基本的人権の尊重、平和主義を基本とし、国政は国民代表者の間接民主制を採用し、国民主権の原則を具体的に保障するために、国民投票制度を採用している。

国家の活動は統治権の発動であるが、統治権は、立法、行政、司法の三権に分割され、それぞれ国会、内閣、裁判所に属せしめられ、三権分立制をとっている。

国会は、衆議院と参議院の両院制であるが、参議院にもっと強い権限を与えるべきだという意見もあるが、衆議院の優越が認められている。

内閣は、内閣総理大臣その他の国務大臣で組織され、内閣総理大臣は国会議員の中から国会の議決で指名され、天皇が任命する。内閣は行政権の行使について、国会に対し連帯責任を負う。

司法権は、最高裁判所と法律の定めるところにより設置する下級裁判所に属する。

地方自治は、地方公共団体の組織及び運営に関する事項は、地方自治の本旨に基いて、法律でこれを定めることになっている。

地方公共団体には、議会の議員及び法律の定めるその他の吏員は、その地方公共団体の住民が、直接これを選挙することになっている。

地方公共団体は、法人とし、財産を有し、条例を制定することができる。

地方公共団体の長は、その地方公共団体を代表し、その事務を管理し、及びこれを執行する。

地方公共団体の長は、その地方公共団体の議会の議員の選挙権を有する者で、年齢満25年以上の者の中から、住民が直接これを選挙する。

地方公共団体の長は、その地方公共団体の議会の議員の選挙権を有する者で、年齢満30年以上の者の中から、住民が直接これを選挙

（第三種郵便物認可）

台湾協会々員（会費）

（◎印は二回目御払込みの方）

法人会員

中央区日本橋通二丁目二番地
日本貿易信用保険株式会社
港区芝琴平町三五番地

賛助会員

愛知県一の宮市大町通七丁目一五
神戸市長田区長者町古宅九号
文京区春日町七七
千葉県柏市中一本二
中央区日本橋通二の三、日興信用
新宿区西大久保一の四一〇坂田方
大田区調布布七の三の九保谷政吉方
山口県岩国市東本
川崎市溝ノ口二〇七
広島市小木町二四三
福岡市博多区吉塚一八（四十二年八月迄）
大田区久が原一〇五四
茨城県猿島郡三和町五六八
愛媛県川之江市川之江町
北九州市小倉区黒住町三丁目一組
新宿区百人町二丁目八
久留米市御井町亀甲一〇〇
浜松市広沢町九
静岡県磐田郡豊岡村四四番入方
愛媛県伊予三島市東町
杉並区上荻窪二の五九

会友

佐賀市兵部町乙
京都市右京区嵯峨苗ノ上町四の七
神奈川県横浜市保土ヶ谷区権太坂町一七
神奈川県横浜市鶴見区鶴見町一の宮一〇〇一
山口県萩市川島一区三三
新宿区百人町二丁目
広島市第一基町一四
新宿区四谷三の九
福井市大宮町四二の九
大宮市吉野町二の三九
佐賀県神崎郡千代田町大字境
杉並区上荻窪二の四

○吉富一郎　宮井　伍吉
○福岡　乙治　山中　宏和
相良　正一　松井　正一
相沢加三郎　鈴木　忠信
杉　元一　郷江　淳一
後藤　次彦　西山　義雄
黒川　正一　加藤　一男
加藤　忠太　竹富　孫義
清水　鉄善　慢尾　善一
○松　宏安　笠原　迪
太田　元　浅香　秀吉
藤井　英夫　桑山　真三
○加藤　美雄　矢島常太郎
○山本　義信　浅香　秀吉
○田中　重雄　翻訳　和助
福田定一郎　鈴木　忠信

俳句欄

下田実花選

岐阜　林　しづ子

父母の瞳に安らぎありて秋桔梗

○

別府　平岡　香南

初雪や判決を待つ被告席
千草を一と山づつに運び去り
教室の薔薇をカメラに一教師
訪ねたる亀の被害のことの外

受贈の出版物

△職業の研究（田中書房宝幸株業研究会発行、二六〇円）本書においては『職業問題の革命期に真面目、新鮮感覚をもって論じてある（中央区銀座三の三同会、電話七七一局二〇八一番）

青木繁氏の近著

引揚後郷里の大分県国東町に在って晩酌、園芸甚だ忙しく而も閑暇のそれは一九と『逆びらう、横柄に生きろ入びと』なる一書を公刊した。

本書は大分県において横柄に生きて来た人々を取り上げているが、あくまでも正しく生きる青木氏の面目躍如たるものがある。（大分市中央町二丁目二番地、発売元書店各所、定価三五〇円、送料五〇円）

台湾協会へ

入会の御案内

台湾に縁故又は関係を有する法人、団体、または個人、どなたでも入会が出来ます。

会員には次のような特典があります。

一、台湾協会会報の無料配布
一、台湾行政機関の照会並びに斡旋
一、本会蔵書の閲覧並びに貸出
一、本会ビル内会議室の利用
一、本会主催の行事に案内（台湾の会、講演会等）
一、台湾の連絡、紹介、相談
一、その他会員の福利増進と目的にかなう事柄並びに適正と認める事柄

会費は年額、法人（一口一万円、二口以上）、個人（賛助会員三千円、一般会員二千円）、会友（五百円）。

入会御希望の方は御申出下さい。直ちに申込書、会員規則等をお送りします。

高橋衛会の祝賀会

高橋衛経企庁長官庁の後援会である高橋衛会では八月二十日の午後五時半から芝白金台町の八芳園において大臣就任の祝賀会を開いた。先ず長谷川清会長の挨拶に続いて、上山英三元台銀頭取をはじめ福井県選出の熊谷参議院議員、高橋氏と同窓の佐藤福井銀行頭取等多数の祝辞、激励のあって高橋氏の政治生活の先途を期待しつつ同九時散会した。

江藤氏台湾視察記の続き

いる石船船の築港埋築をうける政府等の公共土地に指定されているとした次第、一重用水（開発）将来が、本地区の利用については、本問題の解決に述べておかねばならぬことは、高雄港の水深アップ、貯水池の利用と島嶼の地に適宜の地域を選定して、島嶼の地に適宜の地域を選定して、島嶼の地に適宜の地域を選定して、

発行所
新宿区西大久保2の303
財団法人 台湾協会
電話 8116—7番
振替口座 東京 40307番
発行人 財団法人台湾協会
松本 晃吾

当協会ビルを「中央ビル」と呼称

台湾の会 九月例会 松本理事長より披露

九月の台湾の会は二日午後一この会館』ほか数曲を歌い、興を添時から、当協会七階大広間において催された。出席者五十二名。先ず松本理事長より

今年の夏は水がよくいし、みさきもきびしい夏でありましたが、皆様方には何より結構であります。先月のこの会は椎大臣の就任祝賀会でありましたが、私は健康上の都合で出席が出来ず、皆様さんに対しては勿論、皆さんに対しても大変失礼をいたしました。翌朝の朝へ、健康も大体恢復しましたので、これからは元の如く出席が出来ます。

なお、このビルは「有楽会館」とか「協会ビル」と呼んできましたが、やはり名称をきめて、それからは出来ビルと呼称することにしたいと思いますから御了承願います。

次に、当協会の公益事業組織変更の件について御説明をお願いします。

と陳情、昨八月二十四日に衆院、参院へ

会長について

一、出村誠一（秋業県、バナナ組合）

一、中村俊亮（公益法人組織、専務）

一、山田安二（元上林学校、元先生）

の諸氏の紹介され、食事中、佐塚佐知子さんその弟子の江藤八佐夫さんの伴奏で、佐渡さんお得意の『サヨ

九月例会 松本理事長より披露

台湾の会

「中央ビル」と呼称

当協会ビルを

九月の台湾の会は二日午後一この会館』ほか数曲を歌い、興を添時から、当協会七階大広間において催された。出席者五十二名。先ず松本理事長より

今年の夏は水がよくいし、みさきもきびしい夏でありましたが、皆様方には何より結構であります。先月のこの会は椎大臣の就任祝賀会でありましたが、私は健康上の都合で出席が出来ず、皆様さんに対しては勿論、皆さんに対しても大変失礼をいたしました。翌朝の朝へ、健康も大体恢復しましたので、これからは元の如く出席が出来ます。

なお、このビルは「有楽会館」とか「協会ビル」と呼んできましたが、やはり名称をきめて、それからは出来ビルと呼称することにしたいと思いますから御了承願います。

次に、当協会の公益事業組織変更の件について御説明をお願いします。

と陳情、昨八月二十四日に衆院、参院へ

台湾の会

出席者

高木秀明、明知雄佳、東達夫、

台湾の会・お知らせ

一、日　時　十月三日（土）午後一時
一、会　場　台湾協会、中央ビル七階
　　新宿区大久保二ノ三〇三
　　電話（三六九）七一一六—七
台湾被災者の出席を希望します。

台湾の近事

中華民国駐日全権代表の中華民国の選挙（八月二日発行）では台湾の近況につき左の如き興味ある消息を報道している。

明年度バナナ八百万籠を輸出

全部日本市場でさばける

昨年の日本市場輸入会社総数を関つて今年は約一割増わり更に政府割当数を満たすために下百台北に集まってきたが、同会社は日本向け輸出のバナナ産地を開発し農の経済発展に大きく役立っている

招商局の民営移管計画

交通関係には国営企業を含めて

（船運中心の国営企業）を民営に移管する計画を立てている。

台湾人遺族への慰謝料

毎日新聞への一投書

八月二十九日付毎日新聞紙上に、同情して下さっていることに対し、日本人であり、池田首相もその一人であると信じます。

この数年来、事あるごとに国府はわれわれに向かって「君たちは帝国主義者の手先になってわが同胞を殺したこと、また、日本のドレイ教育を受けたことを謝罪をのべせ、還家族を百般に虐待したことなどを、それがいまいましくなって敵愾心をいだいたのは、けっして少なくないと思います。これが台湾人の感情を悪くするためでなく、台湾人の反感をやわらげ、政権の安定をはかろうとするためです。

どうか池田首相はじめ各閣僚な

台湾人遺族への慰謝料

毎日新聞への一投書

八月二十九日付毎日新聞紙上に、同情して下さっていることに対し、日本人であり、池田首相もその一人であると信じます。

この数年来、事あるごとに国府はわれわれに向かって「君たちは帝国主義者の手先になってわが同胞を殺したこと、また、日本のドレイ教育を受けたことを謝罪をのべせ、還家族を百般に虐待したことなどを、それがいまいましくなって敵愾心をいだいたのは、けっして少なくないと思います。これが台湾人の感情を悪くするためでなく、台湾人の反感をやわらげ、政権の安定をはかろうとするためです。

どうか池田首相はじめ各閣僚な

高雄に製鉄所

西独援助で

ロイター電によると台北の国民政府は向こう四年間にドイツの援助を得て高雄に年産三十万トンの製鉄所を建設する計画で、西独の通商専門家と具体案について協議しているとの。

内海忠司さん 京都で元気

農業の近況に感激一入

元農林省畜産局長の内海忠司さんは今年八十才を迎えて益々元気で京都市北区役所タイコ印刷所に於いて小僧扱いで毎日ふいごを踏んでいる由。当協会報に寄せられた内海氏の書簡の一節に曰く——

老生当年八十才、元気です、御安心下さい。大分の台湾出張記事に第五号の漫画非常に興味を以て拝読しました。蘇澳市人口五十三万、商業が市の中心となり栄える事の様です。仰せの如く蘇澳の繁栄は老生の心血を注いだ仕事ですが、ドンくと進む事、実に愉快です。高雄港から蘇澳新港へ計画の移転させ高雄港を経済発展の策源地設にするには磯分骨を折りました。退官後も現在（昭和十一年秋）農業の事を考え、台湾の農業の現状を知る事に努めて居ります。

菅原氏講演刊行

台湾の農業の礎と神社の発展に関する菅原恵慶氏の講演は、神社の発展と台湾農業の礎と題し、八月二日台北市公会堂で講演したが、聴衆で満員の盛況であった。その要旨は次の如くである。

人事消息

（松本理事長）（二重橋相談役）
（作家菅原恵慶氏）台湾に関する著書多数あり、台北市在住。
（鈴木貿易）（国際貿易協会東京本部副理事）台湾へ出張。
（松本晃吾氏）（二重橋相談役）
（鈴木貿易）（国際貿易協会東京本部副理事）台湾へ出張。
（静岡県庁）（台湾農林部顧問）台湾へ出張。
（静岡県庁）（台湾農林部顧問）台湾へ出張。
（静岡県庁）（台湾農林部顧問

初会合を開く

首相の諮問は持越し

残財問題第二次審議会

第二次在外財産問題審議会は、八月十九日午後二時から総理府で第一回会合を開き、日本総理府総務長官から池田首相のあいさつを伝う第一次、第二次審議会の審議経過などを説明したが審議会委員の構成、会議の方法については次回に持越された。

これは、審議会の構成について

台湾協会々員（公私用兼用）

（◎印は二回目御払込みの方）

賛助会員

一般会員

会友

台東の思い出

台湾協会へ入会の御案内

思い出の台東

松本竹三郎

沖縄の保守勢力一本化

俳句欄

下田実花選

選者吟

会員記事と名簿の寄贈

台協報歌壇

編集後記

台湾協会報

発行所
新宿区西大久保2の303
財団法人　台湾協会
電話　(98)　8116—7番
振替口座　東京　40307番
宛名　財団法人台湾協会
発行人　松本　晃

来賓の中国大使
中日親善を説く
賀屋前法相、提携を力説
台湾の会の歓迎会

台湾の総人口
一二〇九万人

台湾省政府の集計による去る七月末現在の台湾総人口は一二〇九万四三二八で、男が女より三万二七九一人多い五一〇万六〇七人になっており、六月末現在より二万五千余りの増加とある。

謝辞を述ぶる魏大使　後方は閻一等書記官

当協会主催台湾会十月例会は…アジア局長（代理）、…（国際貿易局…）、…（観光局…）、…協会から松本理事長、…、…、小林…、…、…、

第121号　(第三種郵便物認可)

外遊雑感

岡野一郎

今回東京経済懇談会主催の欧米実業有権視察団に編成され、職業斡旋上の物理上ならびに経済関係が等かなる国約三名に、小生も参加して他の団員もの十一月十四日帰国されるまでの一週ごとに、この視察団は、滞在期間に応じての平渡欧したので、サンフランシスまで行ってみたが、航空機場千キロに及んだ欧州であるこの視察団の最年長者は七十才、最若年者は二十才、職業も専門も様々であり、老人、相は夫人同伴という奇抜構成であった。主催者側の調到と配慮で、全団員の日のために一致協力にこもあって、一人の故障者も出さず疲れ所期の目的を達して、無事帰朝できたことは甚であった。

われわれは英米仏伊ベルギースイス等の各国都市をはじめ、関係官庁、大学、会社、法律事務所、PR(広告宣伝)本部等約二十箇所を歴訪して、何れも短時間ではあったが、貴重な有益に関する実情を直接聞してきたわけである。これらの訪問先にあらかじめ質問事項を送ったので、訪問先にあらかじめ質問事項を送ったので、訪問先にあらかじめ質問事項を送ったので、

台湾協会々員（込御申）

（◎印は二回目御込みの方）

一般会員

台北市　◎内山　岩太郎
台北市　◎内山　完造
台北市　◎内山　嘉吉
台北市　◎内山　嘉吉
台北市　◎内山　嘉吉

台湾協会報
発行所
新宿区西大久保2の303
財団法人 台湾協会
電話 (983) 8116—7番
振替口座 東京 40307番
発行名義人 財団法人台湾協会
発行人 松本晩吉

塩見俊二氏（参議院議員）ソ聯の印象を語る

台湾の会（例十一月会）

モスクワにて花束を受けた塩見氏

台湾協会主催の台湾の会十一月例会は十四日開かれ、この日は参議院議員塩見俊二氏の「ソ聯の印象」について講演があった。塩見氏は、日本社会党の代表団の一員として、さる十月一日から十五日までソ連を訪問、モスクワ、レニングラード、ウラジオストックなどを視察してきたもので、講演会は盛況であった。

塩見氏は、ソ連の農業、工業、教育、科学、文化、宗教、青少年問題、婦人問題、対外政策などについて、広範囲にわたる話をされたが、次の要旨は講演の概略である。

一、ソ連の農業について

ソ連の農業は、国営農場（ソフホーズ）と集団農場（コルホーズ）とに大別されるが、国営農場は、国家が直接経営するもので、農業労働者は国家から賃金をもらう。集団農場は、農民が集団的に農業を営むもので、収穫の一部を国家に納入し、残りを農民が分配する。

ソ連の農業は、一九五八年までは、国営農場が中心であったが、フルシチョフ首相の提唱により、集団農場を国営農場に切り換えることが決定され、現在では、国営農場が中心となっている。

ソ連の農業は、機械化が進んでいるが、労働力の不足を補うため、機械化を一層推進しようとしている。

ソ連の農業は、国営農場、集団農場ともに、生産性が低く、農業労働者一人当りの生産性は、日本の約三分の一程度である。

ソ連の農業生産性が低い理由は、

1、一人一人の技術の問題

2、教育を受けた人が農業に従事しないこと

などがあげられる。

ソ連の農業生産性を向上させるためには、

1、農業労働者一人一人の技術を向上させること

2、教育を受けた人が農業に従事すること

などが必要であると感じた。

ソ連の農業労働者の賃金は、国営農場の場合は、月給制であり、集団農場の場合は、労働日数によって賃金が決まる。

ソ連の農業労働者の賃金は、日本の農業労働者の賃金に比べて、かなり高いようである。

ソ連の農業労働者の賃金が高いのは、農業労働者の技術が高いからであると思う。

ソ連の農業労働者の技術が高いのは、農業労働者の教育が徹底しているからであると思う。

ソ連の農業労働者の教育が徹底しているのは、農業労働者の子弟は、農業労働者になるように、教育されているからであると思う。

ソ連の農業労働者の子弟は、農業労働者になるように教育されているということは、ソ連の農業労働者の子弟は、農業労働者になるように、強制されているということではないかと思う。

ソ連の農業労働者の子弟は、農業労働者になるように、強制

七十三才の平沢氏
新高登山に出発
日本山岳会の女性会員も同行

一仙岳から千頭にて台湾の全十二月二日例会に出席し平沢第二部氏（台湾協会幹事）は席上、左の如き報告とニュースを提供した。二日から台湾をもつてその後を報道された。

私は台湾時代に台湾山岳会のお世話をしていたが、さきごろ、台湾の人が仙台に来て、私が仙台で歓迎していることが分ったので、台湾の山岳関係の人から是非来いということになり、十二月二日の飛行機で行くことになつた。

向うでは同行者を希望しているので、私は日本山岳会にも関係しているので、その方に適つたらと、婦人会員若干名が同行することになつた。日本山岳会から派遣される女子会員3名の団長として新高登山を行うことになつた。私は今年七十一歳ですが、元気の若い山岳家と新高登山に登つてみようと思つている。更に国際市場の動向はますます増大し、わが輸出は今後毎年五万ノ増加を想定れ前後の見通しは楽観的である。

今年は第二期四年経済建設計画の実施最後の年で、セメント産業は三〇万ノ、二〇万ノ増加を計画しているが、この外に民営工場の拡張を含めて四年間に三千万ドル外貨を含めて八億八千〇〇万元の新投資を見込んでいる。

そして一九五八年の第四次計画は、国民の購買力に育成する産業の一つに数えられる。

第四期四年計画では年産能力二三〇万ノ、二四〇万ノ程度になるものと見られる。

クレムリンにて—
歴史的な記念撮影

写真は上フルシチヨフ氏との撮影、この写真はフルシチヨフ氏辞任の数日前で歴史的なものとなつた（後方左が塩見氏）、同じくクレムリンにてミコヤン氏との撮影（中央ミコヤン氏の後方が塩見氏）。

中国セメント輸出百万トン

経済会（国際経済合作協議会員会）の調査によると、わが国のセメント輸出は今年末までに一〇〇万トンに達し、世界第四位の確実となろうと見ている。更に国際市場の動向はますます増大し、わが輸出は今後毎年五万ノ増加を想定れ前後の見通しは楽観的である。

今年は第二期四年経済建設計画の実施最後の年で、セメント産業は三〇万ノ、二〇万ノ程度を計画しているが、この外に民営工場の拡張を含めて四年間に三千万ドル外貨を含めて八億八千〇〇万元の新投資を見込んでいる。

そして一九五八年の第四次計画は、国民の購買力に育成する産業の一つに数えられる。

第四期四年計画では年産能力二三〇万ノ、二四〇万ノ程度になるものと見られる。

人造繊維工業の発展速める

四年後には二倍以上に増産

目下台北市の有営体育場前広場で開催されている「経済建設展覧会」は現在なかなかの観衆を集めているが、同展覧会実行委員会の調査によると最も人気を集めているのは「経済建設資料館」で次が「人造繊維館」だという。

同館には中国人造繊維公司および遠東人造繊維股份有限公司が協賛（ナイロン）公司を主とした現有人造繊維生産状況を展示しているほか、未来の発展予想などを説明したりが参観者の足を止めている。

台湾協会会員名簿作成について依頼
資料の提出を
頒布価は三〇〇円位の予定です

本報十月号で発表いたしました会員名簿作成について資料の提出をご依頼いたしましたところ、いまだお出しにならない方が多くありますので、重ねて本号附録としてご返信記入用の印刷物を折込みましたから、まだお出しにならない方は、折返しご提出下さい。お出しになつた方は記入資料を知り合いの方にお廻し願い多数会員を勧誘して収録いたしたいと思いますから、ご協力をお願いします。

資料には氏名、在台時の住所、同職業、現住所、勤務先名、並びにその住所、職掌、電話をご記入のこと

名簿作成資料調査書はお申越し次第何枚でもお送りします。会員名簿の頒布価格は一冊三〇〇円位の予定です。

昭和三十九年十一月十五日

財団法人　台湾協会

台湾協会会員名簿作成について依頼
資料の提出を
頒布価は三〇〇円位の予定です

本報十月号で発表いたしました会員名簿作成について資料の提出をご依頼いたしましたところ、いまだお出しにならない方が多くありますので、重ねて本号附録としてご返信記入用の印刷物を折込みましたから、まだお出しにならない方は、折返しご提出下さい。お出しになつた方は記入資料を知り合いの方にお廻し願い多数会員を勧誘して収録いたしたいと思いますから、ご協力をお願いします。

資料には氏名、在台時の住所、同職業、現住所、勤務先名、並びにその住所、職掌、電話をご記入のこと

名簿作成資料調査書はお申越し次第何枚でもお送りします。会員名簿の頒布価格は一冊三〇〇円位の予定です。

昭和三十九年十一月十五日

財団法人　台湾協会

人事消息

○橋本徹（氏）＝前総理府総理＝日本開発銀行総裁＝元台北帝国大学教授＝元台北帝大総長＝元台北帝大教授＝元台北帝大教授＝元台北帝大教授

羽島先生の思い出

長野、三水村にて　滝沢豊吉

羽島先生の指導を私が受けるようになりましたのが初めてのようになったのは、明治四十年の二月末だったと思います。当時、先生は岐阜県尋常師範学校教諭の松本亀次郎先生が、台北庁衛生課に来られ、私に北投の水浴場の設立の希望を託されたので、台北庁衛生課に参りました。

翌四十二年二月頃、北投の旅館兼料理屋松濤園の松本亀次郎さんが、台北庁衛生課に来られ、私に北投の水浴場の設立の希望を託されたので、台北庁衛生課に参りました。

当時、明治四十三年六月二十三日、羽島先生、指導のもとに、防疫医師一行、先生、大竹支庁、田村清吾郎君（新竹庁の受持）、そして筆者四名――北投の内地人警察官四人、北投機関車庫の人夫百人、合計百二十名の出動で、ペスト菌を撒布しました。

その結果、翌年保有者三六人、患者二六人の発病を初めとして、十月までには患者はなくなりました。

地元から、水浴施設の陳情と、温泉公共浴場の設置の要望とがありました。

羽島先生は、台湾に、つつが虫病のあることを指摘されましたので、マラリア防遏のほかに、つつが虫病の防遏にも力を注がれました。

当時、台湾の三林の配電所が落雷で焼失したので、新聞記者の一行が、台湾日日新報社の社用車で現地に急行しました。

羽島先生は、台湾に、つつが虫病のあることを指摘されましたので、マラリア防遏のほかに、つつが虫病の防遏にも力を注がれました。

当時、明治四十三年六月二十三日、羽島先生、指導のもとに、防疫医師一行、先生、大竹支庁、田村清吾郎君（新竹庁の受持）、そして筆者四名――北投の内地人警察官四人、北投機関車庫の人夫百人、合計百二十名の出動で、ペスト菌を撒布しました。

その結果、翌年保有者三六人、患者二六人の発病を初めとして、十月までには患者はなくなりました。

地元から、水浴施設の陳情と、温泉公共浴場の設置の要望とがあり

台湾協会々員（込御申）

（○印は二回目御込みの方）

賛助会員

一般会員

台湾協会 入会の御案内

台湾協会福利施設

大森寮

会員の方は是非御利用下さい

電話 大田区山王二の二八七七番

引揚者は歌う

受贈の出版物

会友

台湾協会報
発行所
新宿区西大久保2の303
財団法人 台湾協会
電話 番号 (98) 8116—7番
東京 4307番
口座名義 財団法人 台湾協会
発行人 松本 晩吉

全国代表者大会
政府、政党へ要望
在外財産 補償獲得に気勢

在外財産問題解決全国代表者大会は、去る十月二十九日、十時から日比谷公会堂において開催された。

この大会は、全国各地から集まった代表者が、在外財産補償獲得のために、政府、政党に対して、強力な運動を展開することを目的として開かれたものである。

会場には、全国から集まった代表者で満員となり、入りきれない人たちが、会場の外にまであふれるほどの盛況であった。

大会は、午前十時、開会の辞に続いて、国歌斉唱、黙祷を行ない、議長団として、次の諸氏が選ばれた。

議長　松岡平市氏（東京）
副議長　小林英一氏（東京）
同　　　大西正道氏（東京）
同　　　小林英一氏（東京）

次に、来賓の祝辞があり、

衆議院議員　床次徳二氏
同　　　小川半次氏
同　　　小平久雄氏
同　　　小山省二氏
同　　　小沢佐重喜氏
同　　　小沢貞孝氏
同　　　小沢辰男氏
同　　　小宮山重四郎氏
同　　　小山倉之助氏
同　　　小渕光一氏
同　　　小山長規氏
同　　　小川平二氏
同　　　小沢太郎氏
同　　　小笠公韶氏
同　　　小金義照氏
同　　　小坂善太郎氏
同　　　小林絹治氏
同　　　小林武治氏
同　　　小林錡氏
同　　　小林郁氏
同　　　小林信一氏
同　　　小林進氏
同　　　小林多門氏
同　　　小林源蔵氏
同　　　小林正巳氏
同　　　小林三郎氏
同　　　小林俊三氏
同　　　小林武治氏
同　　　小林錡氏
同　　　小林郁氏
同　　　小林信一氏
同　　　小林進氏
同　　　小林多門氏
同　　　小林源蔵氏
同　　　小林正巳氏
同　　　小林三郎氏
同　　　小林俊三氏

参議院議員　青木一男氏
同　　　青木正氏
同　　　青柳秀夫氏
同　　　赤間文三氏
同　　　秋山俊一郎氏
同　　　安部能成氏
同　　　阿具根登氏
同　　　天田勝正氏
同　　　荒木正三郎氏
同　　　有馬英二氏
同　　　安藤覚氏
同　　　安藤正純氏
同　　　井川伊平氏
同　　　井上清一氏
同　　　井上知治氏
同　　　井野碩哉氏
同　　　井村徳二氏
同　　　石井桂氏
同　　　石井光次郎氏
同　　　石井光次郎氏
同　　　石井桂氏
同　　　石井光次郎氏
同　　　石井桂氏
同　　　石井光次郎氏

次に、来賓の祝辞があり、

衆議院議員　床次徳二氏
同　　　小川半次氏
同　　　小平久雄氏
同　　　小山省二氏
同　　　小沢佐重喜氏
同　　　小沢貞孝氏
同　　　小沢辰男氏
同　　　小宮山重四郎氏
同　　　小山倉之助氏
同　　　小渕光一氏
同　　　小山長規氏
同　　　小川平二氏
同　　　小沢太郎氏
同　　　小笠公韶氏
同　　　小金義照氏
同　　　小坂善太郎氏
同　　　小林絹治氏
同　　　小林武治氏
同　　　小林錡氏
同　　　小林郁氏
同　　　小林信一氏
同　　　小林進氏
同　　　小林多門氏
同　　　小林源蔵氏
同　　　小林正巳氏
同　　　小林三郎氏
同　　　小林俊三氏

参議院議員　青木一男氏
同　　　青木正氏
同　　　青柳秀夫氏
同　　　赤間文三氏
同　　　秋山俊一郎氏
同　　　安部能成氏
同　　　阿具根登氏
同　　　天田勝正氏
同　　　荒木正三郎氏
同　　　有馬英二氏
同　　　安藤覚氏
同　　　安藤正純氏
同　　　井川伊平氏
同　　　井上清一氏
同　　　井上知治氏
同　　　井野碩哉氏
同　　　井村徳二氏
同　　　石井桂氏
同　　　石井光次郎氏
同　　　石井光次郎氏
同　　　石井桂氏
同　　　石井光次郎氏
同　　　石井桂氏
同　　　石井光次郎氏

決議

我等は全国代表者四百人を代表して、左の諸項の実現を政府に要求する。

一、在外私有財産問題解決全国代表者大会は、政府に速やかに左の事を要求する

二、在外私有財産問題解決全国代表者大会は、政府に速やかに左の事を要求する

三、在外私有財産補償の公約を守り、本問題に対する誠意あらわれ年来の懸案を解決するため、昭和三十九年十二月末日までに、第一次在外財産問題解決全国代表者大会の開催を見るまでの政府の態度を以て本大会の名において生死を賭して断固闘い取る。

右決議する

昭和三十九年十一月二十七日

在外私有財産補償促進全国代表者大会

宣言

我々は明治以来七十年の永きに亘り、在外私有財産権を主張してきたが、政府は頑迷な主義、解決に対する誠意の欠如を露呈するばかりか、引揚給付金法等、解決と無責任にも放置しているが、引揚者給付金法の目的及び条文のごとくにも政府がその解決義務の一歩も入っていない事を茲に政府は知るべきである。

解決済と言葉のみに無理強いあり不勉強も甚だし、又、知っていたとすれば悪質な国民を何も知らぬと思って欺瞞し、一部国民に犠牲を強要する政府を不信任なり断じなければならぬ。

我々は民主主義の理念と国民衡平の観点から之を糾弾し、政府の速やかなる解決を要求するものである。

右宣言する

昭和三十九年十一月二十七日

在外私有財産補償促進全国代表者大会

要望書

在外私有財産補償問題が速やかに解決する措置を講じることを陳述書を以つて公約を守るように要望します。

昭和三十九年十一月二十七日

在外私有財産補償促進全国代表者大会

衆議院議長　船田中殿

要望書

在外私有財産補償問題解決のため、昭和三十九年十一月二十七日までに次の事項を実現されるよう要望します。

一、在外私有財産補償促進全国代表者大会の開催を前にして引揚者団体全国連合会は在外資産補償問題解決の主旨として、十一月二十七日午前十時から東京神田共立講堂において、全国代表者大会を開催、左記の如く大いに気勢を挙げた。

集まる者北は北海道より南は沖縄迄の全国から五百名余の代表者が参集、定刻より大会の開催に先立ち、全国代表者の代表として、古賀四郎氏、衆、満田郡平氏、衆、満田郡平代表二、物故者に対し黙祷を捧げ、参加国会議員を代表して、古賀四郎氏、衆、満田郡平代表二、続いて、大会宣言を、満田郡平氏（衆、民社）、決議を、満田郡平代表（衆、民社）、政府、政党に対する要望書を、満田郡平代表（衆、民社）、の順に朗読採択の上、

田中金次氏（参、民社）、満田郡平代表（衆、民社）、上林山栄吉氏（衆、同上）、八木一男氏（衆、社会）、小林英一氏（衆）、全国連合会事務局長。小林英一氏（参）。田中誠治氏（衆、民社）、満田郡平代表（衆、民社）、の激励の言葉があった。

続いて大会委員は歴史的決議文採択のもとに、この歴史的大会の名にかけても本目の行動に対する指示並に連絡等あり、続いて本日の大会宣言並に決議を可決して、一応閉会の行事を終った。

行動隊編成の為情団は

第一団　国会議員、代表、中国、四国、三重、奈良の代表者、約一名。

第二団　衆議院議員、東京、北海道、東北、北陸

第三団　社会党関係、東海、北信越、四国、各名。

第四団　民社党関係、関東ブロック、二十名。

第五団　参議院議員、参国選出都道府県代表者、二名。

第六団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第七団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第八団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第九団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第十団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第十一団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第十二団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第十三団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第十四団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第十五団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第十六団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第十七団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第十八団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第十九団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第二十団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第二十一団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第二十二団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第二十三団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第二十四団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第二十五団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第二十六団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第二十七団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第二十八団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第二十九団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第三十団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第三十一団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第三十二団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第三十三団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第三十四団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第三十五団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第三十六団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第三十七団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第三十八団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第三十九団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第四十団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第四十一団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第四十二団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第四十三団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第四十四団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第四十五団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第四十六団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第四十七団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第四十八団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第四十九団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第五十団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第五十一団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第五十二団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第五十三団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第五十四団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第五十五団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第五十六団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第五十七団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第五十八団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第五十九団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第六十団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第六十一団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第六十二団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第六十三団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第六十四団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第六十五団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第六十六団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第六十七団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第六十八団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第六十九団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第七十団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第七十一団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第七十二団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第七十三団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第七十四団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第七十五団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第七十六団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第七十七団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第七十八団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第七十九団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第八十団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第八十一団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第八十二団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第八十三団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第八十四団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第八十五団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第八十六団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第八十七団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第八十八団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第八十九団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第九十団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第九十一団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第九十二団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第九十三団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第九十四団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第九十五団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第九十六団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第九十七団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第九十八団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第九十九団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百一団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百二団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百三団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百四団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百五団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百六団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百七団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百八団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百九団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百十団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百十一団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百十二団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百十三団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百十四団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百十五団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百十六団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百十七団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百十八団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百十九団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百二十団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百二十一団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百二十二団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百二十三団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百二十四団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百二十五団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百二十六団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百二十七団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百二十八団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百二十九団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百三十団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百三十一団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百三十二団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百三十三団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百三十四団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百三十五団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百三十六団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百三十七団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百三十八団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百三十九団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百四十団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百四十一団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百四十二団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百四十三団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百四十四団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百四十五団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百四十六団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百四十七団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百四十八団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百四十九団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百五十団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百五十一団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百五十二団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百五十三団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百五十四団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百五十五団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百五十六団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百五十七団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百五十八団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百五十九団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百六十団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百六十一団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百六十二団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百六十三団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百六十四団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百六十五団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百六十六団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百六十七団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百六十八団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百六十九団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百七十団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百七十一団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百七十二団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百七十三団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百七十四団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百七十五団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百七十六団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百七十七団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百七十八団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百七十九団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百八十団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百八十一団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百八十二団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百八十三団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百八十四団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百八十五団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百八十六団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百八十七団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百八十八団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百八十九団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百九十団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百九十一団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百九十二団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百九十三団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百九十四団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百九十五団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百九十六団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百九十七団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百九十八団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第百九十九団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

第二百団　参議院議員、関東ブロック、二十名。

松岡主席略歴

台湾政庁主席として施政に当った松岡洋右氏は明治二十年生まれ、山口県熊毛郡室積村出身、カリホルニア大学卒業、帰朝後、満鉄理事、満鉄総裁、衆議院議員、外務大臣、国際連盟全権、日独伊三国同盟締結、日ソ中立条約締結、第二次近衛内閣外相、東京裁判A級戦犯容疑者として巣鴨拘置所に収容中、昭和二十一年六月病死した。

台湾協会会員名簿作成
資料についてお願い
頒布価は三〇〇円位の予定です

会員名簿の作成を十二月末といたしましたが全国各地より延期方要望のため来春三月末迄延期することにいたしました。

いまだお出しにならない方が多くありますので、重ねて本号附録としてご返信記入用の印刷物を折込みましたから、まだお出しにならない方は、折返しご提出下さい。お出しになった方は記入資料を知り合いの方にお廻し願い多数会員を勧誘して収録いたしたいと思いますから、ご協力をお願いいたします。

資料には氏名、在台時の住所、同職業、現住所、勤務先名、並びにその住所、職掌、電話を記入のこと

名簿作成資料調査書はお申越し次第何枚でもお送りします。会員名簿の頒布価格は一冊三〇〇円位の予定です。

昭和三十九年十二月

財団法人 台湾協会

落ち穂拾い

◇政府の第二臨時在外財産調査室長をイタリアを中心にドイツ、オーストリアなどへ、この引揚のための調査に派遣、一年ぐらいの予定で出発した。

◇その報告はわれわれのため貴重な参考になるので、また一つアメリカ政府と我々と交渉の場所が出来、一歩前進の感じがする。

◇政府は第二臨時法案を通過させるよう、まず閣議で決定したが、これが国会を通過するかどうかは、今後の問題である。

◇引揚者に対しては、補償の問題は、一切の審議が終了するまで、支払いを延期するとの事であるが、これは、引揚者の生活を圧迫するものである。

◇政府は、一日も早く、この問題を解決するよう、強く要望する。

日華新聞人の親善訪問
まず日本から

日華両国の新聞人の相互訪問が、この程、決定した。

まず日本から日本新聞協会専務理事ら一行が、来る十二月十日から約一週間の予定で台湾を訪問する。

一行は、台湾の新聞事業の実情を視察するほか、蒋介石総統、陳誠副総統、厳家淦行政院長、王雲五国策顧問、張群総統府秘書長、黄少谷外交部長、倉聖国民党秘書長、沈昌煥国際宣伝委員会主任委員、魏道明駐日大使、沈剣虹駐日公使、銭復駐日公使、董顕光中華文化復興運動推行委員会主任委員、王新衡中国新聞社社長、曹聖芬中央日報社長、馬星野中華日報社長、余紀忠台湾新生報社長、魏景蒙中華日報社長、陳紀瀅聯合報社長、劉真国立政治大学校長、程天放国立台湾大学校長、閻振興台湾省主席、黄朝琴台湾省議会議長、呉国楨台北市長、高玉樹台北市議会議長、李万居台湾新生報社長、楊肇嘉台湾省参議会議長、林頂立台湾省参議会副議長、李萬居台湾省参議会秘書長、林柏壽台湾省参議会副秘書

祖国復帰の悲願

太田政作後援会 趣意書発表

写真は大田政作氏

戦後荒廃の極にあった台湾の二・二八事件を境として台湾の二行政官として台湾の二・二八事件を境として台湾の二行政官として台湾の二・二八事件を境として台湾の二行政官として

台湾協会々員(一般会員)

(◎印は二回御込みの方)

賛助会員

一般会員

会友

「蓬萊米談話」

磯永吉博士の近著

台協報歌

俳句欄

下田実花選

選者吟

会報

台湾協会報

会員の出版物

謹賀新年

財団法人　台湾協会

新春を寿ぐ台湾の会

今後の諸構想

松本理事長の挨拶

台湾の会新年交礼会は恒例により第二土曜に当る一月九日午後一時より台湾協会中央ビルの七階ホールにおいて開催された。定刻前の午前十一時ころから続々と参集をはじめられ、先ず松本理事長より、

明けましてお目出度うございます。

ヤァおめでとう

台湾の会新年交礼会、上は長谷川元総督の着調で乾杯する姿から、下は当日会場の模様。

近況を語り合う姿で、気分は満会前からすでに盛り上っている。

会場は新宿東京会館の殿堂にかかり、中央の金屏風の間には新春をかざる松が飾られ、先ず松本理事長より、

明けましてお目出度うございます。

えられ、かつ多数の御来会を得ましたことは細同慶にたえません。さて、本日は当協会の当面の事業について申上げることにいたします。

と大体の五項目についての報告と所感の発表を行った。

1、ビルの賃室全部がふさがるのを待っていますが、只今のところ未だ二階の全部と三階の半分が残っております。これが全部ふさがらめと財政上にも困りますので、この上ともよろしくお願いします。

2、全国の引揚者の問題であり（ここで努力してはいるのでありますが、その実現を図るまでは、この上とも邁進したい思いますので、この上とも、皆さんの御協力をお願いする次第であります。

3、女子学生寮を設置いたします。男子学生寮については高砂協会がすでに開設され好評しい成績を挙げられているのでありますが、女子学生寮はありませんので当協会において、大森にこれを設置することにいたしております。

5、全国部落解放台湾協会の支部を作る様に考えて様子を見てまいりましたが、その機が熟しましたので、逐次これを設置いたします。これにつきましても皆さんの御協力をお願いします。

5、日華両国の文化、経済の交流二関する努力をいたく度い心組みでおります。そのやり方については色々ありましょうが、その目的は同じでありますのでこれまで、皆さんの御協力を願つ度く、と挨拶をおわりました。

ついで、長谷川元総督が「何時に変らぬ元気な姿と意気朗々の発声にて

皆さんの御健康と台湾協会の発展とをお祈りする

と一同杯をあげて乾杯、さらに本日の新来会者として

○児玉四五（郵政大臣和二郎氏は鎌倉市御成通、元総督府土木課）

○西村勲子（高村昌次氏入）

○山岸久二（川崎市戸町一ブ三四、台湾時代アルコール輸送会社勤務）

○山本光雄（愛知県農業課実

○加藤喜吉（愛知県総務課秘書室）

○加藤喜吉（愛知県総務課秘書室）

○工藤政三（参議院法制局第四部長）

○後藤國（農林次官基礎調査課長、台湾農業試験所、日本大学農獣医学科卒、八八、日本大学農獣医学科卒）

○伊藤ヒデ子（鹿児島県、台湾の行きさんが鹿児島大学教授、元台南伊藤病院長大八、行氏は鹿児島大学、工学部建築学教室、電話七局三六二番構内三九六番、住所鹿児島市下伊敷町六六、公務員住宅三五号）

○山根義信（神奈川県藤沢市、広島大学名誉教授、元台北帝大教授）

○杉浦明太郎（大宮市桜木町四丁目、丸越（東京株式会社、元台北州警察部勤務）

○八保田光子（保坂スミ）

○沢田フク

○永井幸二郎（読売新聞社、広告局第四部副部長、自宅世田谷区玉川用賀町三ノ六四、電話七〇二局三六八）

○細根義雄（東京都板橋区氏、台北帝大、電話内八局三六六番）

○山本光雄（愛知県農業課実

○加藤喜吉（愛知県総務課秘書室）

○工藤政三（参議院法制局第四部長）

○岩井章（日本大学教授、元代議士、元台北帝大教授）

○後藤國（農林次官基礎調査課長、八〇、日本大学農獣医学科卒）

○伊藤ヒデ子（鹿児島県、台湾の行きさんが鹿児島大学教授、元台南伊藤病院長大八、行氏は鹿児島大学、工学部建築学教室、電話七局三六二番構内三九六番、住所鹿児島市下伊敷町六六、公務員住宅三五号）

○山根義信（神奈川県藤沢市、広島大学名誉教授、元台北帝大教授）

○杉浦明太郎（大宮市桜木町四丁目、丸越（東京株式会社、元台北州警察部勤務）

○八保田光子（保坂スミ）

○沢田フク

○永井幸二郎（読売新聞社、広告局第四部副部長、自宅世田谷区玉川用賀町三ノ六四、電話七〇二局三六八）

○細根義雄（東京都板橋区氏、台北帝大、電話内八局三六六番）

○内田千鶴子（元総督府内局三六番、電話内八局三六六番）

○内田千鶴子（元総督府内局三六番、電話内八局三六六番）

○後藤國（農林次官基礎調査課長、八〇、日本大学農獣医学科卒）

○伊藤ヒデ子（鹿児島県、台湾の行きさんが鹿児島大学教授、元台南伊藤病院長大八、行氏は鹿児島大学、工学部建築学教室、電話七局三六二番構内三九六番、住所鹿児島市下伊敷町六六、公務員住宅三五号）

○山根義信（神奈川県藤沢市、広島大学名誉教授、元台北帝大教授）

○杉浦明太郎（大宮市桜木町四丁目、丸越（東京株式会社、元台北州警察部勤務）

○八保田光子（保坂スミ）

○沢田フク

○永井幸二郎（読売新聞社、広告局第四部副部長、自宅世田谷区玉川用賀町三ノ六四、電話七〇二局三六八）

○細根義雄（東京都板橋区氏、台北帝大、電話内八局三六六番）

○内田千鶴子（元総督府内局三六番、電話内八局三六六番）

○後藤國（農林次官基礎調査課長、八〇、日本大学農獣医学科卒）

○伊藤ヒデ子（鹿児島県、台湾の行きさんが鹿児島大学教授、元台南伊藤病院長大八、行氏は鹿児島大学、工学部建築学教室、電話七局三六二番構内三九六番、住所鹿児島市下伊敷町六六、公務員住宅三五号）

○山根義信（神奈川県藤沢市、広島大学名誉教授、元台北帝大教授）

○杉浦明太郎（大宮市桜木町四丁目、丸越（東京株式会社、元台北州警察部勤務）

○八保田光子（保坂スミ）

○沢田フク

○永井幸二郎（読売新聞社、広告局第四部副部長、自宅世田谷区玉川用賀町三ノ六四、電話七〇二局三六八）

○細根義雄（東京都板橋区氏、台北帝大、電話内八局三六六番）

○内田千鶴子（元総督府内局三六番、電話内八局三六六番）

台湾関係文献

御寄贈をうけたもの

（台湾電影戯劇史、呂訴上著、台北市三益文化出版社発行、民国五〇年九月初版）

北市広州街二五、発行、一号鎖華出版社発行、民国五〇年九月初版）

下関市東大年二町高尾住千五号、三島文治氏より寄贈

台湾の会交礼会出席者

貴木秀明、御園政市、東達夫、明石延佳、赤木延一、赤堀鉄吉、同梅子、浅田とき子、浅井すず、石渡達夫、伊藤ナヒデ、出口英、石倉栄治、岩井章、牛野末次郎、内田千鶴子、江藤鳥吉、同静子、衛藤俊雄、鵜川昭福、岡野一郎、大沢貞吉、大内文夫、大塚宏、岡本重一、小田原司、金子益男、加藤喜吉、鹿内信善、加藤喜吉、鹿内信善、加藤喜吉、鹿内信善

佐藤総理より 審議会へ諮問

在外財産問題の処理

佐藤総理は昨十二月二十日の閣議で、在外財産問題の処理について、第三条　審議会における発言は、議長の許可を受けて行なうものとする。

総理の諮問機関である在外財産問題審議会（第八回）を開き、二年二月に提出された答申に基づいて引揚者給付金支給の措置を講ずるとともに、この在外財産問題について、政府は今後とも総合的な対策を検討するため、新しい審議会を発足させることを決めた。

佐藤総理は昨十二月二十日の閣議で、在外財産問題審議会の委員の任期が昨年十二月二十日をもって満了したので、同日付で次の通り委員を発令した。

（敬称略）

国会議員の委員

…その略歴

△衆議院

三池　信　福岡県、第二区、自民党、大蔵政務次官、当選回数六回。

秋田　大助　福岡県、第一区、自民党、厚生政務次官、当選回数六回。

大和　与一　福岡県、第三区、自民党、建設政務次官、当選回数六回。

村山　喜一　福岡県、第四区、社会党、農林水産委員長、当選回数六回。

△参議院

平島　敏夫　福岡県、第一区、自民党、国土総合開発特別委員長、当選回数三回。

受田　新吉　福岡県、第二区、社会党、労働委員長、当選回数三回。

五十三年、昭和二十七年に二回の会議を持つ予定。

第二条　審議会は、会長が召集する。

2　会長が必要と認めるときは、議長の承認を得て、臨時に会議を開くことができる。

第三条　審議会は、必要があるときは、適当と認める者の出席を求めて、その説明を聞くことができる。

第四条　審議会は、過半数の委員の出席がなければ、議決することができない。

2　会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第五条　会議は、非公開とする。

2　会議の経過及び審議の発言は、公表しないものとする。

第六条　この規則に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

明年三月までに 結論（審議会の意向）

在外財産問題審議会（第八回）は昨十二月二十日開かれ、佐藤総理から諮問された引揚者給付金支給の措置を講ずるとともに、在外財産問題について政府は今後とも総合的な対策を検討するため、新しい審議会を発足させることを決めた。

佐藤総理は席上、「

四十年前の写真

後藤長官夫人、喜多孝治氏

野田八平翁の便り

台南五妃廟と喜多孝治氏

（今回お届け記念絵はがきにより四十年前台湾総督府総務長官時代、始まるお話をご紹介いたします。）

台湾開発の始祖鄭氏の遺跡三廟（開基王廟、延平郡王祠、五妃廟）のうち、五妃廟は、清朝の末裔愛親覚羅氏の一族であり、台王最後の王妃である徳慧皇后の姪に当たる方が、台南に住んでおられます。

この五妃廟は、明治三十年、後藤長官民政長官時代に、台湾の名士の協賛を得て、台湾神社の境内に建立されたものであります。

その後、大正十年、台湾神社の境内拡張のため、現在の地に移転されました。

この五妃廟の建立に当たっては、後藤長官の夫人、愛親覚羅氏の実兄、喜多孝治氏が、非常に尽力されたとのことであります。

喜多孝治氏は、後藤長官の台湾赴任に際し、随行して来台され、台湾総督府民政部庶務課長、同部殖産課長、台湾製糖株式会社取締役、台湾銀行監査役、台湾電力株式会社監査役、台湾倉庫株式会社監査役、台湾興業信託株式会社監査役、台湾土地改良株式会社監査役、台湾拓殖株式会社監査役、台湾鉄道株式会社監査役、台湾総督府評議員、台湾総督府専売局嘱託、台湾総督府交通局嘱託、台湾総督府殖産局嘱託、台湾総督府鉄道部嘱託

台湾協会々員（込御用者）

（◎印は二回御込みの方）

賛助会員

一般会員

会友

発行所
新宿区西大久保2の303
財団法人 台湾協会
電話 (98) 8116-7番
振替口座 東京 40307番
発行名義人 財団法人台湾協会
発行人 松本 晃吉

国に補償の義務

引揚者の在外財産

東京高裁の判決

引揚者の在外財産に対して"国に補償の義務がある"とする東京高裁の判決は全引揚者にとって極めて注目すべきものである。その経緯は次のごとくである——。

政府は対日平和条約で放棄した財産の返還請求権を放棄したが、この為に引揚者が受けた財産上の損害を政府が補償する法的義務があるかどうか——三カ月在住の東京都世田谷区池尻町三九秋山優元さん、たけさん夫妻と国との間で争われていた"補償金請求"訴訟の控訴審判決が三十日午後、東京高裁民事四部渡辺剛裁判長で行われ、同裁判長は初めて"政府が国民の在外財産を保護にあたること"を認めたのは、特定の国民の損害に限らず義務全般をさすものであるとしながらも、公共の目的のために個人の財産を処分した場合と同様、政府は憲法二十九条三項(財産権の不可侵)の規定にもとづいて、合理的な範囲で、その損害を補償する義務があるとの注目すべき判断を示した。

渡辺裁判長は結論では「しかし在外財産の補償に関する法律が制定されていない現在では、国民はこれに対する補償要求をする道はない」として、一審と同様、秋山さん夫妻の請求は認めなかったが、これまで、在外財産の補償をめぐっては一兆二千億円の補償金要求する引揚者団体全国連合会(会員七十二万世帯)と「補償義務は第三次在外財産問題機関」が設けられ「法的義務の有無」が検討されることになっているので、三十日の判決は、この問題についての初の高裁判例として、同審議会の今後の審議にも大きな影響を与えることになる。

秋山さんはバンクーバー市の学校教師として昭和三年カナダに渡ったが、さる十八年に四百三十八万余円の財産を国内に残したまま引揚げてきた。その後、対日平和条約により、秋山さんはカナダに残してきた財産の返還請求権を失ったため、さる三十五年「在外財産の返還請求権を放棄し戦争でこうむった損害と同じ性格」の損害賠償を求めて訴えていた。

これに対し、同裁判は一昨年二月「引揚者が在外財産を失ったことで受けた損害は、一般国民が戦争でこうむった損害と同じ性格」であり、「国には補償の責任はない」として秋山さん夫妻の請求を棄却したため、同夫妻が控訴していた。

住居変更の時はお知らせ下さい

最近、各地で住居の町名や表示番号の変更が行われていますが、その際は当協会までお知らせ下さい。

国税庁長官に吉岡英一氏

台湾出身者の栄進

なお、永い台湾経験の持ち吉岡英一氏が大蔵省理財局長から一月五日関税局長に転任、国税庁長官に栄進した。この種子は現経済企画庁長官吾郷清彦氏もすわったもの、吉岡氏は大蔵官僚として通るべきコースは順調に踏んで来て一応"ここ"でエンマの字の主大公となって使命のゴールインしたわけである。そして、その将来をはたまた大きな期待がかけられている。同氏は終戦時人も二階にはろうが吉岡氏に近い人からの話では同氏の無理のない着実さを"純国立派に職責を果すなろうと見ているそうである。

展望

在外財産補償問題について

この調査表の取りまとめは、全国の手元に届いたものが一月一五日現在ではまだ十二万余件に過ぎないが、一月中には十万件にのぼるものと見られている。

この調査表の提出について台湾の団体では、これを同胞の団体に取り扱うもの、勧奨して提出を促がせている向もあるらしいが、これは連盟への全引揚財産問題調査会の意向を尊んでやまないものである。

調査表の実況

全国引揚者団体において昨年八月から実施中の在外財産実態調査の取りまとめは、全国の手元に届いたものが一月一五日現在ではまだ十二万余件に過ぎないが、一月中には十万件にのぼるものと見られている。

この調査表の提出について台湾の団体では、これを同胞の団体に取り扱うもの、勧奨して提出を促がせている向もあるらしいが、これは連盟への全引揚財産問題調査会の意向を尊んでやまないものである。

会員名簿来月末でメ切

未提出の方はお早く

会員名簿の作成を十二月末といたしたが全国各地より延期方要望のため今春三月末迄延期することにいたしました。

いまだお出しにならない方が若干ありますので、重ねて本号付録としてご返信記入用の印刷物を折込みましたから、まだお出しにならない方は、折返しご提出下さい。お出しになった方は記入資料を知り合いの方にお廻し願い多数会員を勧誘して収録いたしたいと思いますからご協力をお願いします。

資料には氏名、在台時の住所、同職業、現住所、勤務先名、並びにその住所、職掌、電話を記入のこと

名簿作成資料調査書はお申越し次第何枚でもお送りします。会員名簿の頒布価格は一冊三〇〇円位の予定です。

昭和四十年二月

財団法人 台湾協会

人事消息

高橋長官夫妻を囲んで

(記事会館で懇談)

一月二十日、経企庁長官高橋衛氏夫妻を囲んだ懇談会が丸の内

(会井常義氏(前政次官)国際電信・元督府)公団理事を辞職、一月十八日付で臨時に就任、横浜市保土ケ谷区岡町三の三八一

▽樋詰開民氏(大丸常務・台北高校出身)経済企画庁の顧問嘱託で U.S.A.

▽峯田勝子さん(日産常松、台南一中女卒)作曲、LAPRIDA 4055 FLORIDA FONGBM. ARGENTINA.

耽筆

月もはや名残ぼうぼうと、天にも地にも雪が積ずらりと人間の身体から"寒い"エネルギーが湧り上って来る感いがする。たゞそうに、寒らかな春の訪れとは逆に、人の世の争いは相も変らず絶えるところを知らぬ。ベトナム紛争も、全世界の人心をハラハラさせている。米の作戦「限定戦争」の文句も、かつて満州や北支で「不拡大、不拡大」といっている間に、ついに東亜の全土に戦火が及び、全世界の大動乱になったような苦い出があるだけに怖い。戦禍こそ悲いがすべて次号である。

終戦時後の日本には、もう間違っても"次の時代"というものは無いだろう。過去の経験に基いて、新しい時代への準備に専念して、新しい"設計"をしていかなければならない。

政府も入りこんだ秘密の社会問題も納得もあり、佐藤総理の社会問題も大いに結構だとも、人間の世の中から戦争のような悲劇が消滅されて来ることを祈願する。それには一億の愛が、先ず"同胞"の上に集注になるべきだ。一億の携帯はもちろまい。

地上に住む初めての"月の光"を前にお供え物の"餅"とネルギーを配給したい。

(校出身)・経済企画庁の顧問嘱託で U.S.A.
▽峯田勝子さん(日産常松、台南一中女卒)作曲、LAPRIDA 4055 FLORIDA FONGBM. ARGENTINA.

▽樋詰開民氏(大丸常務・台北高校出身)経済企画庁の顧問嘱託で U.S.A.
▽峯田勝子さん(日産常松、台南一中女卒)作曲、LAPRIDA 4055 FLORIDA FONGBM. ARGENTINA.

▽高橋衛氏(経企庁長官)一月十八日付で臨時に就任、横浜市保土ケ谷区岡町三の三八一

▽樋詰開民氏(大丸常務・台北高校出身)経済企画庁の顧問嘱託で U.S.A.
▽峯田勝子さん(日産常松、台南一中女卒)作曲、LAPRIDA 4055 FLORIDA FONGBM. ARGENTINA.

▽樋詰開民氏(大丸常務・台北高校出身)経済企画庁の顧問嘱託で U.S.A.
▽峯田勝子さん(日産常松、台南一中女卒)作曲、LAPRIDA 4055 FLORIDA FONGBM. ARGENTINA.

▽樋詰開民氏(大丸常務・台北高校出身)経済企画庁の顧問嘱託で U.S.A.
▽峯田勝子さん(日産常松、台南一中女卒)作曲、LAPRIDA 4055 FLORIDA FONGBM. ARGENTINA.

全連、古海氏推薦

参院選全国区に

全国引揚団体連合会では一月二十九日、参議院議員会館において、二月六日告示の第六回参院選挙に際し、全国区から古海忠之氏を推薦することを決定、二月六日の投票日まで、同氏の当選を期して全力をあげることになった。

古海氏は、昭和十年一月二十九日大会はなっていた第二回参議院議員選挙補選の全国区候補として初出馬、かつて満州国総務庁次長の経歴があり、引揚者の苦労なども十分わかる人物として、引揚者の声を国政に反映させるため、全連として推薦することに決定したもの。

なお自由民主党ではすでに同氏を公認候補に決定しており、政府与党の有力候補として、政府、与党をあげての支援態勢で選挙戦を戦うことになっている。

全連では、古海氏の当選のため、全国の引揚者に対し、投票日までに、一人一票の獲得運動を展開することを申し合わせた。

台湾引揚の皆様に

在外財産問題審議会委員　古海忠之

私は終戦時満州国の政治部長官でありました。それは中国の地ではありますが、敗戦の廃墟の中から、よくここまで建設できたものだと感慨深くもあります。

つくづく日本民族の偉大さ、優秀性を感じたのであります。それと同時に、若い人の考え方の変化に驚きました。現実的、合理的であるといえば、それまでですが、いかに愛国心が強くとも、祖国のために尽くすことは犠牲的精神がなければ、とうていできないことであります。

しかし日本の為とか、民族の為とか言う前に、まず自己の利益を考えるようになったことは、時代の流れとはいえ、寂しい感じがします。

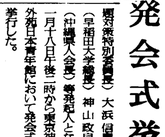
引揚者の皆様は、祖国日本に帰ってきて、自己の利益を追求するのは当然であります。

しかし日本の為とか、民族の為とか言う前に、まず自己の利益を考えるようになったことは、時代の流れとはいえ、寂しい感じがします。

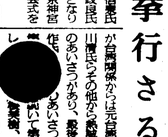
引揚者の皆様は、祖国日本に帰ってきて、自己の利益を追求するのは当然であります。

大田政治後援会

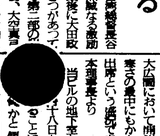
発会式挙行さる



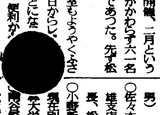
（写真は古海氏）



（写真は大田氏）



（写真は神田氏）



（写真は小野氏）

地下食堂も開店

小野新市長、新しい台湾の顔を語る

台湾の会（二月例会）

台湾の会二月例会は十三日午後六時から台湾飯店において開催、二百人という大盛会であった。先ず松本理事長より

（写真は中央が小野新市長）

香川県台湾互助会

第九回総会の盛況

香川県台湾互助会（台湾協会支部）は二月十日午前十時より善通寺善通寺会館において第九回総会を開催した。

台湾の会

出席者

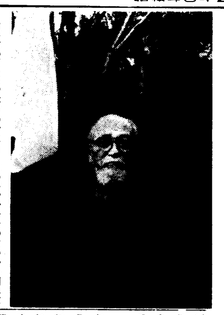
導かれ人

日本人が新興国の中銀総裁

元台銀の服部氏

八六才を迎えた

私の健康法　中沢亮治博士



宮城県台湾会の盛況

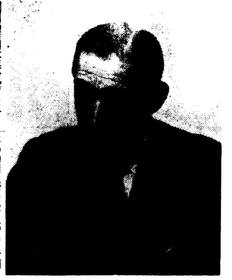
（記事参照）

随筆　梅花

山名木夫

全連、古海氏推薦

参院選全国区に



全国引揚者団体連合会では一月一日の初荷生活を繰り繰る（傍聞し）二十九日、参院の議員会組において、二月八日告示全国第八区の選挙戦において、同氏を推薦することになっていた来る六月施行の参議院議員全国区候補について協議した結果、かつて満州国政府総務庁次長（副総理）の要職に在った古海忠之氏を推薦することに決定、昨日におけるその推薦の発表をした。これを受けり、終戦後、中ソにおける有八た古海氏は直ちにその推薦の発諾して参つたものである。従つて引揚者の立場、引揚者の気持は充分わかる一点、同氏は引揚者の代弁者として適任者であると信じ、全引揚者のために戦うとの決意を表明、特に『全国引揚の皆様に』と題した古海氏の推薦の発諾の挨拶を発表した。古海氏の経歴は本誌昨年十二号において詳しく述べてあるが、三代、東大卒業後、大蔵省に入り後ち満州国に転勤、大蔵省の要職を歴任、大蔵次官として満州国の財政経済の基礎を築き、現在も在外財産問題審議会委員として引揚者とは関わりあいながら引揚者の苦労もめつくした人である。

なお自由民主党ですでに自民党公認候補に決定しており、政府与党候補者として全国区から立候補することは確実の時代としたに違いない。

台湾引揚の皆様に

在外財産問題審議会委員　古海忠之

私は終戦時満州国の政府閣僚であつた関係上、終戦と同時に一連に全部つづいて五年数ヶ月に十二年十八年間戦犯として敵の地に拘禁され、去る三十八年三月釈放されました。爾来しばらく後の引揚者として帰国して参つたものであります。

帰国前二百月にわたる新生活を旅行してまわり、その苦労の方面の発展と活躍状況の素晴ぶりに、以前の中国を知つて居ります。

八六才を迎えた

私の健康法　中沢亮治博士語る

新年おめでとう。世界の十二月生れで八十六才になりましたから、年をとると、会う人会う人から健康法をやって偉いねえ、かくしゃくとしていると言われる。そこで生れつきの体質と育ちからいうと、決して健康に恵まれていたとは言えないが、多少ともその甲斐あってか知らず知らずのうちに今日まで来てしまった。これは全く偶然の結果であるが、いずれにしても、何かの参考にでもなればと思うままを述べてみよう。

私は、明治十七年、岩手県水沢町の生まれで、父は代々の藩医であった。父は、私が生まれる前に、すでに医者を廃業していたが、漢方医学の大家であったので、私は幼少の頃から漢方医学の影響を受けて育った。

台湾協会々員（法人団体）

（◎印は二回線払込みの方）

賛助会員

一般会員

（男）福島県相馬郡小高町　酒造業　◎相馬　孝雄
（男）福島県相馬郡小高町　酒造業　◎相馬　恒雄
（男）福島県相馬郡小高町　酒造業　◎相馬　英雄
（男）福島県相馬郡小高町　酒造業　◎相馬　良雄
（男）福島県相馬郡小高町　酒造業　◎相馬　胤雄
（男）福島県相馬郡小高町　酒造業　◎相馬　愛胤
（男）福島県相馬郡小高町　酒造業　◎相馬　俊胤
（男）福島県相馬郡小高町　酒造業　◎相馬　恵胤
（男）福島県相馬郡小高町　酒造業　◎相馬　誠胤
（男）福島県相馬郡小高町　酒造業　◎相馬　勝胤
（男）福島県相馬郡小高町　酒造業　◎相馬　盛胤
（男）福島県相馬郡小高町　酒造業　◎相馬　義胤
（男）福島県相馬郡小高町　酒造業　◎相馬　行胤
（男）福島県相馬郡小高町　酒造業　◎相馬　元胤
（男）福島県相馬郡小高町　酒造業　◎相馬　三胤
（男）福島県相馬郡小高町　酒造業　◎相馬　治胤
（男）福島県相馬郡小高町　酒造業　◎相馬　勇胤
（男）福島県相馬郡小高町　酒造業　◎相馬　英胤
（男）福島県相馬郡小高町　酒造業　◎相馬　孝胤
（男）福島県相馬郡小高町　酒造業　◎相馬　恒胤
（男）福島県相馬郡小高町　酒造業　◎相馬　胤胤

台湾協会報

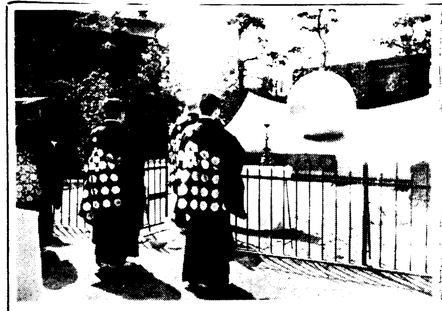
発行所
新宿区西大久保2の303
財団法人 台湾協会
電話 (98) 8116—7番
振替口座 東京 40307番
発行人 松本台湾協会
(名称変更)

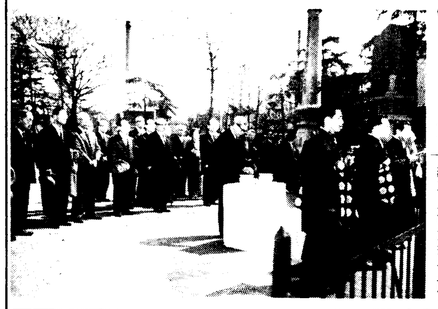
迎えて三回目—追慕の情も一入

台湾邦人物故者の慰霊

築地本願寺で 追悼法要

台湾邦人物故者の慰霊追悼法要は四月九日午後一時から遺族の眠る東京築地本願寺において執り行なわれた。一昨年の四月九日に台湾物故者慰霊塔建設会の手により慰霊塔が建設され、台湾から収骨して持ち帰られた遺骨、さらにその後発見の遺骨と、回にわたって納骨されて築地本願寺において、一昨年に引き続き、慰霊塔前において、盛大に行なわれ、祭主台湾協会理事長土井明夫氏は開会の辞を述べた。





この日、終戦に強く降った雨は早朝よりカラリと晴れて、桜も待ちに満開に近いという絶好の供養日和であった。

かくて午後二時より本堂において法要につづき、築地本願寺輪番田丸智湛師の読経によって厳修された。

引き続き、慰霊塔前において、焼香に移った。中にはうしろ髪を引かれる思いで、なかなか焼香台から離れようとしない遺族の姿もあった。

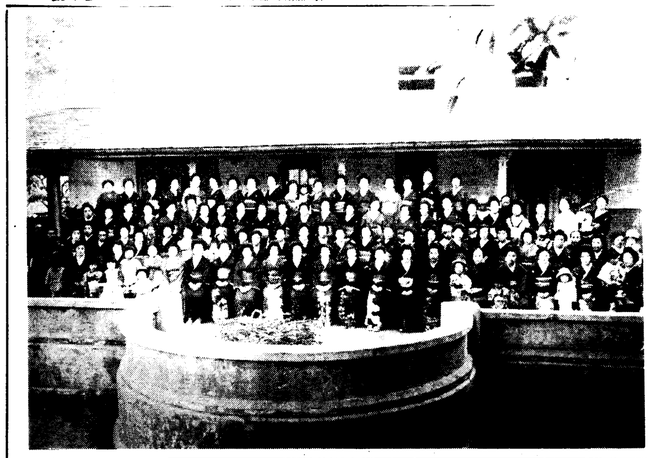
焼香後は、日本建設業経済研究所理事長 佐藤達夫氏、日本建設業団体連合会専務理事 小林一三氏、東京地区建設業協会副会長 小野田セメント社長 小野田滋氏、東日本建設業保証株式会社 取締役 小林正興氏、建設業共済組合 理事長 大島理森氏、建設業労働災害防止協会 副会長 小野田滋氏、東京都建設局 局長 小林正興

代表全国大会で
審議会の答申促進
各方面へ要望書

衆議院議員補欠選挙当選者河野謙三氏、参議院議員補欠選挙当選者青木一男氏、参議院議員通常選挙当選者平泉渉氏、同じく当選者林田悠紀夫氏、同じく当選者鈴木一雄氏、参議院議員補欠選挙当選者小林国司氏、参議院議員通常選挙当選者小柳牧衛氏、同じく当選者小柳勇氏、同じく当選者内藤誉三郎氏、同じく当選者鈴木力氏、同じく当選者青木薪次氏、同じく当選者木村睦男氏、同じく当選者高橋衛氏、同じく当選者大谷贇雄氏、同じく当選者小林武治氏、同じく当選者木内四郎氏、同じく当選者小山邦太郎氏、同じく当選者鹿島俊雄氏、同じく当選者岡崎真一氏、同じく当選者小笠公韶氏、同じく当選者山本利壽氏、同じく当選者小沢久太郎氏、同じく当選者吉武恵市氏、同じく当選者鬼丸義一氏、同じく当選者小林国司氏、同じく

教え子から招れて

渡台美談の数々



教え子から、また、平沢和一郎氏の如く縁故がなくて渡台して成功した事例が台湾協会報で時々報道されているのは実に嬉しいことである。田尻夫妻及び宮内氏の二つの記事を読んで来た一同氏はその手紙の中で『台湾の日本統治に返す返すも心残りがあったかも知れない。しかし、大局的には一視同仁の精神で臨んだ事は誤りなかったと信ずる。』と述べている。

垂水の田 尻氏夫妻

【一九四二年九月、垂水市にて】

この中のひとりで、いま台北市で病院を経営している陳元気氏が、「台湾にいる間に教育を受けたのは、この垂水の田尻先生ご夫妻だけです。」と感激を新たにしている。

垂水市新城、垂水市老人ホームで現地人の教育に当たり、台湾の子どもたちに“よき師”となって慕われた田尻夫妻。昭和十三年五月、郷里の垂水市に引き揚げた。この間教え子は五、六百人にのぼり現在、現地の中堅クラスとして活躍している。

ライシャワー大使と長谷川元総督と並んでの記念撮影

向って右から村儀氏、長谷川元総督、ライシャワー大使、エマソン元台北総領事

ライシャワー大使

長谷川元総督と握手

元台北鉄道ホテル村儀保さんの

記念祝賀会の席上

台北鉄道ホテルの小川理髪室と言えば台北の紳士淑女間、台湾に旅をした者なら必ずといってよいほど世話になった理髪店である。終戦直前にもの小川さんが出奔して雇傭機関の制裁をうけた事の記念パーティーが開催、ライシャワー米国大使をはじめ米大使館の高官や在日米国人百余名であったがその後はアメリカ大使館をはじめヒルトン・ホテル、羽田東急ホテル、スターアンドストライプス誌と理髪店を経営して今や東京中その理髪界の花形となっている。

村儀氏が昭和十年に台北鉄道ホテルの小川理髪店に入ってから今年でちょうど二十年になるというので、四月九日の午後六時から東京赤坂のヒルトン・ホテルで二十周年の記念パーティーが開催、ライシャワー米国大使をはじめ米大使館の高官並びに在日米国人百余名、それに日本側からも自由党総裁吉田茂氏、衆議院議長船田中氏、参議院議長松野鶴平氏、元総理石橋湛山氏、元総理芦田均氏、元外務大臣藤山愛一郎氏、元鉄道総裁十河信二氏、元台北鉄道局長で現在日本交通公社副社長の長谷川元吉氏、元台北鉄道ホテル支配人で現在帝国ホテル副支配人の犬丸徹三氏、元台北鉄道ホテル副支配人で現在ホテルニューオータニ副支配人の村上清氏、元台北鉄道ホテル料理長で現在ホテルニューオータニ料理長の村上信夫氏、元台北鉄道ホテル理髪師で現在ホテルニューオータニ理髪師の村儀保氏、元台北鉄道ホテル理髪師で現在ホテルニューオータニ理髪師の小川

台湾協会々員(団体・会社)

(◎印は維持会費払込みの方)

賛助会員

出光興産株式会社　東京都千代田区丸の内
三菱化成工業株式会社　東京都千代田区丸の内
三菱商事株式会社　東京都千代田区丸の内
6101—16th Streets N.W. Washington D.C.

一般会員

◎青木　一男　静岡県熱海市
◎青木　正　東京都港区赤坂
◎青木　正夫　東京都港区赤坂
◎青木　正雄　東京都港区赤坂
◎青木　正児　東京都中野区
◎青木　武一　東京都港区赤坂
◎青木　武造　東京都港区赤坂
◎青木　武彦　東京都港区赤坂
◎青木　武雄　東京都港区赤坂
◎青木　武夫　東京都港区赤坂
◎青木　武　東京都港区赤坂
◎青木　武　東京都港区赤坂
◎青木　武

台湾協会報

発行所
新宿区西大久保2の303
財団法人 台湾協会
電話 (03) 8116-7番
振替口座 東京 40307番
発行者 財団法人 台湾協会 理事長 松本 虎吉

ベトナム戦争は永く続くだろう

台湾の会五月例会 土居明夫氏が講演

台湾では第一元首蔣介石総統と南ベトナムのゴ・ジン・ジエム大統領とが、ともに熱烈な反共主義者として、米国の援助を受けながら、強力な政治を行なっていた。ところが、ジエム大統領は、一九六三年十一月、軍部のクーデターによって殺害されてしまった。

ジエム大統領の殺害は、ベトナムの政治を大きく変えた。ジエム大統領の殺害後、ベトナムの政治は、軍部の支配するところとなり、軍部の内部でも、クーデターが繰り返されるようになった。

ベトナムの政治が、軍部の支配するところとなったことは、ベトナムの戦争を、ますます泥沼化させることになった。

ベトナムの戦争は、ベトナムの人民が、自由と独立とを求めて、フランスの植民地支配と戦ったものであるが、フランスの植民地支配が終わると、ベトナムは、南北に分断されてしまった。

南ベトナムの政治は、軍部の支配するところとなり、軍部は、アメリカの援助を受けて、北ベトナムと戦うことになった。

南ベトナムの軍部は、アメリカの援助を受けて、北ベトナムと戦うことになったが、南ベトナムの軍部は、南ベトナムの人民の支持を受けていない。

南ベトナムの人民は、南ベトナムの軍部の支配するところとなったことを、フランスの植民地支配と同じように、アメリカの植民地支配であると考えている

台湾の山を歩く
(四)—平沢亀一郎手記

山麓の蕃地に行く。

日本領有前は海なかった自然の障害のある所で私には興味深い。動力機関船路が発達し交通が便利になって文明に慣れたことに多くの興味をもって通過したい願いが達せられる日である。十月十日（木）朝は雨々。昨夜は雨音を聞きながら眠りについたが、台北駅前を定時と予定の時間に出発する。駅前の広場の一隅に蕃地行きのバスに乗じ易からざる蕃界の交通機関のバスに乗じ易からざる蕃界の交通機関のバスに乗じ易からざる蕃界の交通機関の

台湾協会々員(◎印は維持会員　込(通常会員)は振込みの方)

賛助会員

◎日本興業銀行　◎三井物産㈱　◎三菱商事㈱　◎三井銀行　◎三菱銀行　◎住友銀行　◎日本勧業銀行　◎第一銀行　◎日本貿易振興協会　◎日本輸出入銀行　◎東京銀行協会　◎日本開発銀行　◎日本長期信用銀行　◎日本債券信用銀行　◎日本興業銀行　◎日本興業銀行　◎日本興業

台湾協会報

発行所
新宿区西大久保2の303
財団法人 台湾協会
電話 (983) 8116-7番
振替口座 東京 40307番
宛名 財団法人台湾協会
発行人 松本 誠吉

叙勲四氏の祝賀

生野、松本両氏より謝辞

台湾の会（六月例会）

台湾の会六月例会は十二日午後二時から台湾協会中央ビル七階ホールで開催、出席者六十五名、先般叙勲された

△加藤五一（勲二等、瑞宝章）元台湾総督府交通局長、元三井物産台北支店副支配人）

△生野団（勲二等、観光事業）元総理府交通局長）

△佐々木義武（勲二等、化学繊維事業に対する功労、元台湾銀行、日本貿易信用保険会社）

△松本晃（勲四等、元台湾総督府交通局長、元台湾鉄道株式会社副社長）

の四氏に対しそれぞれ記念品の贈呈があり、続いて祝賀会に移った。

先ず発起人を代表して立花小一郎氏が「台湾総督府以来の関係者が多数集まって、このように盛大な祝賀会を開くことができたことは誠に喜ばしい。特に生野団氏は台湾電力の社長として、また松本晃氏は台湾銀行の頭取として、それぞれ台湾の経済界に大きな足跡を残されたことは、台湾統治の上からも大きな成功であったと思う。今日、日頃お忙しい皆様方が多数ご参集下さったことは、ご両人の人徳によるものであり、誠に喜ばしい限りである。どうか今後とも台湾協会の為にご協力をお願いしたい」と挨拶があり、次いで祝賀の辞を述べた。つづいて松本晃氏は五十年間に亘る台湾の経済界における業績を称えた祝賀の辞を述べ、最後に山元総督より四氏に対しそれぞれ記念品の贈呈があった。

△加藤五一（勲二等、瑞宝章）元台湾総督府交通局長、元三井物産台北支店副支配人）

△生野団（勲二等、観光事業）に対する功労、元総理府交通局長）

△佐々木義武（勲二等、化学繊維事業に対する功労、元台湾銀行、日本貿易信用保険会社）

△松本晃（勲四等、元台湾総督府交通局長、元台湾鉄道株式会社副社長）

の四氏に対しそれぞれ記念品の贈呈があり、続いて祝賀会に移った。

先ず発起人を代表して立花小一郎氏が「台湾総督府以来の関係者が多数集まって、このように盛大な祝賀会を開くことができたことは誠に喜ばしい。特に生野団氏は台湾電力の社長として、また松本晃氏は台湾銀行の頭取として、それぞれ台湾の経済界に大きな足跡を残されたことは、台湾統治の上からも大きな成功であったと思う。今日、日頃お忙しい皆様方が多数ご参集下さったことは、ご両人の人徳によるものであり、誠に喜ばしい限りである。どうか今後とも台湾協会の為にご協力をお願いしたい」と挨拶があり、次いで祝賀の辞を述べた。つづいて松本晃氏は五十年間に亘る台湾の経済界における業績を称えた祝賀の辞を述べ、最後に山元総督より四氏に対しそれぞれ記念品の贈呈があった。

写真は上より、上向つて右は生野、左は松本両氏が祝辞を述べているところ、以下の三葉は当日の会場、上向つて右より小幡副総裁、木山支平、左は長谷山元総督、その横立っているのは西村高兄氏。

台湾の地震

去る五月十八日、台北の中央社発の電によると同日夕台湾各地にわたってかなり強い地震があった由。東京では木村家屋二戸が倒壊、三十二戸が半壊、二名も一人が負傷、台南県下では木村家屋九戸が倒壊したと。

私は台湾に滞在すること十年、その間に数々の経験をしましたが、私はこれに満足を感じて、後日、この体験が基礎となり、今日においても台湾繁栄の基となっていることがその一つであります。次には対外面の二つがありますが、台湾の社会には本島人の人達は非常に宗教心に富。然るに、人が一度死亡すると、その遺体を家の中に入れずに屋外に置くという慣習があったので、これは気の毒であると思い、屍体を処置し埋葬する為の墓地を設け、台湾人の風習を尊重しました。

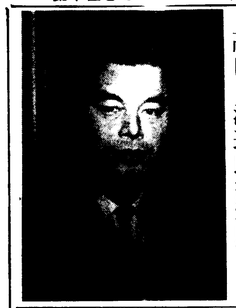
次に対外面の二つ目は、台湾

参院選迫る
必勝を期する人々
台湾、引揚関係者

参議院の選挙はいよいよ来月四日、百万とも七百万とも称される有権者に対して、それぞれ各地区から、二名の選挙で地方区を戦う為に投票されることになる全国区、地方区の選挙区は、左の通りである。（順不同）

高橋　衛氏（福井県）

松野　孝一氏（秋田県）



高田　浩運氏（熊本県）

高田浩運氏の経歴

前厚生事務次官の高田浩運氏は、来る参院全国区に出馬するため、去る五月十日付で厚生事務次官を辞任、同日付で自民党に入党した。

同氏は、熊本県出身、大正十五年生まれ、現在満四十歳、東京帝国大学法学部卒業後、昭和二十三年厚生省に入り、児童局長、医務局長、保険局長、年金局長、社会保険庁次長、厚生事務次官を歴任、この間、昭和三十年フランス、ドイツ、スイス及びベルギーへ出張、同三十三年、国際児童福祉連合理事会出席、同年六月、国連児童福祉基金執行委員会ならびにベルギー国際会議、同三十年東京帝国大学法学部卒業後、厚生省入省、同年、厚生大臣官房総務課長、同二十年、厚生省保険局医務課長、医務局医務課長、社会保険課長、同二十四年、厚生省衛生局、大阪検疫所長を経て、同二十年、厚生省保険局医務課長、同二十年、厚生省児童局長、同三十年、国際児童福祉連合理事、同三年、国際児童福祉連合副総裁、同三年、国連児童基金執行委員会副議長、同三年、厚生事務次官、同三年、厚生事務次官を経て、同年、厚生省保険局医務課長、同二十年、厚生省児童局長、同三十

今様・浦島太郎

台湾に生きている〝主従の恩義〟

澎湖島訪問記　上滝利雄

澎湖島の元南部組の職員たちが〝主従に誓った橋

日本時代台湾の教育に携わっていた学校教師や人々のあった先生がその教え子達の招待によって台湾視察に赴き非常な歓待を受ける例は多々あって今では珍らしくないが、事業をやついた人でも旧部下の美しき歓待を受ける例も多いようである。

筆者は澎湖島へ父子二代五十年に亘り、大阪商船の代理店を主とする海運業を経営しまた水産業方面にも幅広き社の設立、理事、監査役等まで、これが殆ど台湾人の使用人も多かった。

それが為戦後の台湾――郷里にも等しき澎湖島――を民間人として初めての〝感謝訪問〟である。

台湾・婦人の会に集った夫人連（五月十五日、常協会ビルにて）

台北郊外の墳墓附近における三輪車上の上滝氏と案内の秋炎天人（記事参照）

台湾・婦人の会に集った夫人連の集いに賑う

久々の

台湾の婦人会の人々は新秋いっぱいの爽風の様な五月三日午後三時から常協会ビルの会議室に集って懇談会を開いた。当日は台湾から帰朝された台湾婦人会の会長・安藤久子さんを囲んで、台湾在住の京都出身の婦人会員の方々と、京都在住の京都出身の婦人会員の方々との懇談会であった。

午後三時一同は安藤会長の着任の挨拶等に引続き、知識等に関する懇談会に移った。

懇談会は、西部婦人会員の大多数の参加を得て配給等の最も盛んな会場の大会場へ場を変え、百数十名の大会場となり、百十名の婦人達は各地方の出身者毎に集まり、懐しい顔を見合せたり、あっちこっちに挨拶したりで、立ちつ座りつ賑やかな雰囲気の中に懇談会は始まった。

先ず京都三代将軍義満の遺跡にかかわる主婦の貴族的生活の優雅さに話が及ぶや、京都在住の婦人達は、京都生れの京都育ちの婦人達の為めに、京都出身

第129号　月刊　台湾協会報　昭和40年6月15日　(6)

台湾協会々員（◎印は維持員・賛助員）

一般会員

基隆市仁愛区　大竹　清　　基隆市仁愛区　大竹　清

（L）　昭和40年8月15日　月刊　台湾協会報　（昭和29年11月10日第三種郵便物認可）（毎月15日発行）　第　号

台湾協会報

発行所
新宿区四大久保2の303
財団法人　台湾協金
電話番号　8116―7番
振替口座　東京　40307番
発行名義人　財団法人台湾協会
発行人　松本晩吉

国府外相初の日本正式訪問

ステートメント発表

国府の沈昌煥外相は八月十二日午後六時羽田着機で来日した。今回の訪日は日本政府の招待によるもので、沈外相は十九日まで滞在するが、国府外相の正式訪問はこんどが初めてである。空港には椎名外相、石井政相、大平前外相、井口、堀内元駐国府大使、足立日商会頭、郷誠之助国連事務局長、青木日銀会長ら多数が出迎えた。

沈外相は羽田で「日本の政、財界首脳と懇談を交換して、両国間の全面的協力の道が開かれることを希望する」旨のステートメントを発表したのち宿舎の迎賓館にはいった。同外相は十三日佐藤首相、椎名外相と会談した。

◇沈外相のステートメント

（要旨）一、現在アジア情勢は緊張をきわめ、自由世界の安全は重大な脅威を受けている。日本と国府は共産陣営の一員であり、ともに西太平洋の集団安全体系の重要な一環である。利害関係が密接であるばかりでなく、自由と主義を守り、個人尊厳の理想を貫かんと、アジアの安全、世界の平和を守る任務も同じである。日本と国府が互いに助け合い、努力し合うことは両国の基本的必要と最大利益に一致する。

一、近年来国際関係に若干の困難が生じたが、昨年吉田元首相大平前外相が訪問し、双方同胞相愛う精神で話し合った結果、国交関係は手を携し合い、互いに固い、相助け合う新しい段階にはいった。これを基礎に両国の友好関係の増進をはかり、国際と協力によってアジアの安定繁栄と世界の正義立和を促進すること をそれから望んでいる。

一、訪問期間中、政府首脳はじめ各界の諸先輩と結び合い、世界の大局、とくにアジア情勢と両国の共通利益問題を検討したい。率直な会談によってさらに相互理解を深め、両国の長期、全面的協力の道が開かれることを confident 希望する。（責任は外相）

沈昌煥外交部長の略歴

江蘇省出身、本年五一歳。

一九三三年米国ミシガン大学卒業、一九三六年英国ミシガン大学に留学、翌年帰国の後世界各地を歴訪。一九三七年、国立中山大学教授となり、のちに交通部（運輸省）および外交部（外務省）に勤務、以降、政府および中国国民党内で次の要職を歴任した。

一九四三―四四年……中国遠征軍総司令部副参謀長。

一九四四―四五年……外交部次長。

一九四五―四八年……駐英大使。

一九四八年……外交部政務次官。

一九四九年……行政院新聞局長。

一九五〇年……国民党宣伝部副部長。

一九五〇―五三年……行政院顧問兼政府スポークスマン兼任。

一九五〇―五二年……国民党中央改造委員会委員。

一九五四―五八年……駐スペイン大使。

一九五九―六〇年……外交部政務次官。

一九六〇年六月、外交部長に就任現任に至る。

一九五二年以降、国民党中央委員。

一九五二年、第六回国連総会に出席。

一九五七年、第十四回国連総会代表。

一九五八年、第十回国連総会首席代表。

一九六一年、第十五回国連総会に出席。

一九六二年、第十六回国連総会に出席。

一九六三年、第十七回国連総会に出席。

一九六四年、第十八回国連総会に出席。

一九六五年、第十九回国連総会に出席。

一九六六年、第二十回国連総会に出席。

一九六七年、第二十一回国連総会に出席。

一九六八年、第二十二回国連総会に出席。

一九六九年、第二十三回国連総会に出席。

一九七〇年、第二十四回国連総会に出席。

一九七一年、第二十五回国連総会に出席。

一九七二年、第二十六回国連総会に出席。

一九七三年、第二十七回国連総会に出席。

一九七四年、第二十八回国連総会に出席。

一九七五年、第二十九回国連総会に出席。

一九七六年、第三十回国連総会に出席。

一九七七年、第三十一回国連総会に出席。

一九七八年、第三十二回国連総会に出席。

一九七九年、第三十三回国連総会に出席。

一九八〇年、第三十四回国連総会に出席。

一九八一年、第三十五回国連総会に出席。

一九八二年、第三十六回国連総会に出席。

一九八三年、第三十七回国連総会に出席。

一九八四年、第三十八回国連総会に出席。

一九八五年、第三十九回国連総会に出席。

一九八六年、第四十回国連総会に出席。

一九八七年、第四十一回国連総会に出席。

一九八八年、第四十二回国連総会に出席。

一九八九年、第四十三回国連総会に出席。

一九九〇年、第四十四回国連総会に出席。

一九九一年、第四十五回国連総会に出席。

一九九二年、第四十六回国連総会に出席。

一九九三年、第四十七回国連総会に出席。

一九九四年、第四十八回国連総会に出席。

一九九五年、第四十九回国連総会に出席。

一九九六年、第五十回国連総会に出席。

一九九七年、第五十一回国連総会に出席。

一九九八年、第五十二回国連総会に出席。

一九九九年、第五十三回国連総会に出席。

二〇〇〇年、第五十四回国連総会に出席。

二〇〇一年、第五十五回国連総会に出席。

二〇〇二年、第五十六回国連総会に出席。

二〇〇三年、第五十七回国連総会に出席。

二〇〇四年、第五十八回国連総会に出席。

二〇〇五年、第五十九回国連総会に出席。

二〇〇六年、第六十回国連総会に出席。

二〇〇七年、第六十一回国連総会に出席。

二〇〇八年、第六十二回国連総会に出席。

二〇〇九年、第六十三回国連総会に出席。

二〇一〇年、第六十四回国連総会に出席。

二〇一一年、第六十五回国連総会に出席。

二〇一二年、第六十六回国連総会に出席。

二〇一三年、第六十七回国連総会に出席。

二〇一四年、第六十八回国連総会に出席。

二〇一五年、第六十九回国連総会に出席。

二〇一六年、第七十回国連総会に出席。

二〇一七年、第七十一回国連総会に出席。

二〇一八年、第七十二回国連総会に出席。

二〇一九年、第七十三回国連総会に出席。

二〇二〇年、第七十四回国連総会に出席。

二〇二一年、第七十五回国連総会に出席。

二〇二二年、第七十六回国連総会に出席。

二〇二三年、第七十七回国連総会に出席。

二〇二四年、第七十八回国連総会に出席。

二〇二五年、第七十九回国連総会に出席。

二〇二六年、第八十回国連総会に出席。

二〇二七年、第八十一回国連総会に出席。

二〇二八年、第八十二回国連総会に出席。

二〇二九年、第八十三回国連総会に出席。

二〇三〇年、第八十四回国連総会に出席。

二〇三一年、第八十五回国連総会に出席。

二〇三二年、第八十六回国連総会に出席。

二〇三三年、第八十七回国連総会に出席。

二〇三四年、第八十八回国連総会に出席。

二〇三五年、第八十九回国連総会に出席。

二〇三六年、第九十回国連総会に出席。

二〇三七年、第九十一回国連総会に出席。

二〇三八年、第九十二回国連総会に出席。

二〇三九年、第九十三回国連総会に出席。

二〇四〇年、第九十四回国連総会に出席。

二〇四一年、第九十五回国連総会に出席。

二〇四二年、第九十六回国連総会に出席。

二〇四三年、第九十七回国連総会に出席。

二〇四四年、第九十八回国連総会に出席。

二〇四五年、第九十九回国連総会に出席。

二〇四六年、第百回国連総会に出席。

二〇四七年、第百一回国連総会に出席。

二〇四八年、第百二回国連総会に出席。

二〇四九年、第百三回国連総会に出席。

二〇五〇年、第百四回国連総会に出席。

二〇五一年、第百五回国連総会に出席。

二〇五二年、第百六回国連総会に出席。

二〇五三年、第百七回国連総会に出席。

二〇五四年、第百八回国連総会に出席。

二〇五五年、第百九回国連総会に出席。

二〇五六年、第百十回国連総会に出席。

二〇五七年、第百十一回国連総会に出席。

二〇五八年、第百十二回国連総会に出席。

二〇五九年、第百十三回国連総会に出席。

二〇六〇年、第百十四回国連総会に出席。

二〇六一年、第百十五回国連総会に出席。

二〇六二年、第百十六回国連総会に出席。

二〇六三年、第百十七回国連総会に出席。

二〇六四年、第百十八回国連総会に出席。

二〇六五年、第百十九回国連総会に出席。

二〇六六年、第百二十回国連総会に出席。

二〇六七年、第百二十一回国連総会に出席。

二〇六八年、第百二十二回国連総会に出席。

二〇六九年、第百二十三回国連総会に出席。

二〇七〇年、第百二十四回国連総会に出席。

二〇七一年、第百二十五回国連総会に出席。

二〇七二年、第百二十六回国連総会に出席。

二〇七三年、第百二十七回国連総会に出席。

二〇七四年、第百二十八回国連総会に出席。

二〇七五年、第百二十九回国連総会に出席。

二〇七六年、第百三十回国連総会に出席。

二〇七七年、第百三十一回国連総会に出席。

二〇七八年、第百三十二回国連総会に出席。

二〇七九年、第百三十三回国連総会に出席。

二〇八〇年、第百三十四回国連総会に出席。

二〇八一年、第百三十五回国連総会に出席。

二〇八二年、第百三十六回国連総会に出席。

二〇八三年、第百三十七回国連総会に出席。

二〇八四年、第百三十八回国連総会に出席。

二〇八五年、第百三十九回国連総会に出席。

二〇八六年、第百四十回国連総会に出席。

二〇八七年、第百四十一回国連総会に出席。

二〇八八年、第百四十二回国連総会に出席。

二〇八九年、第百四十三回国連総会に出席。

二〇九〇年、第百四十四回国連総会に出席。

二〇九一年、第百四十五回国連総会に出席。

二〇九二年、第百四十六回国連総会に出席。

二〇九三年、第百四十七回国連総会に出席。

二〇九四年、第百四十八回国連総会に出席。

二〇九五年、第百四十九回国連総会に出席。

二〇九六年、第百五十回国連総会に出席。

二〇九七年、第百五十一回国連総会に出席。

二〇九八年、第百五十二回国連総会に出席。

二〇九九年、第百五十三回国連総会に出席。

二一〇〇年、第百五十四回国連総会に出席。

二一〇一年、第百五十五回国連総会に出席。

二一〇二年、第百五十六回国連総会に出席。

二一〇三年、第百五十七回国連総会に出席。

二一〇四年、第百五十八回国連総会に出席。

二一〇五年、第百五十九回国連総会に出席。

二一〇六年、第百六十回国連総会に出席。

二一〇七年、第百六十一回国連総会に出席。

二一〇八年、第百六十二回国連総会に出席。

二一〇九年、第百六十三回国連総会に出席。

二一一〇年、第百六十四回国連総会に出席。

二一一一年、第百六十五回国連総会に出席。

二一一二年、第百六十六回国連総会に出席。

二一一三年、第百六十七回国連総会に出席。

二一一四年、第百六十八回国連総会に出席。

二一一五年、第百六十九回国連総会に出席。

二一一六年、第百七十回国連総会に出席。

二一一七年、第百七十一回国連総会に出席。

二一一八年、第百七十二回国連総会に出席。

二一一九年、第百七十三回国連総会に出席。

二一二〇年、第百七十四回国連総会に出席。

二一二一年、第百七十五回国連総会に出席。

二一二二年、第百七十六回国連総会に出席。

二一二三年、第百七十七回国連総会に出席。

二一二四年、第百七十八回国連総会に出席。

二一二五年、第百七十九回国連総会に出席。

二一二六年、第百八十回国連総会に出席。

二一二七年、第百八十一回国連総会に出席。

二一二八年、第百八十二回国連総会に出席。

二一二九年、第百八十三回国連総会に出席。

二一三〇年、第百八十四回国連総会に出席。

二一三一年、第百八十五回国連総会に出席。

二一三二年、第百八十六回国連総会に出席。

二一三三年、第百八十七回国連総会に出席。

二一三四年、第百八十八回国連総会に出席。

二一三五年、第百八十九回国連総会に出席。

二一三六年、第百九十回国連総会に出席。

二一三七年、第百九十一回国連総会に出席。

二一三八年、第百九十二回国連総会に出席。

二一三九年、第百九十三回国連総会に出席。

二一四〇年、第百九十四回国連総会に出席。

二一四一年、第百九十五回国連総会に出席。

二一四二年、第百九十六回国連総会に出席。

二一四三年、第百九十七回国連総会に出席。

二一四四年、第百九十八回国連総会に出席。

二一四五年、第百九十九回国連総会に出席。

二一四六年、第二百回国連総会に出席。

二一四七年、第二百一回国連総会に出席。

二一四八年、第二百二回国連総会に出席。

二一四九年、第二百三回国連総会に出席。

二一五〇年、第二百四回国連総会に出席。

二一五一年、第二百五回国連総会に出席。

二一五二年、第二百六回国連総会に出席。

二一五三年、第二百七回国連総会に出席。

二一五四年、第二百八回国連総会に出席。

二一五五年、第二百九回国連総会に出席。

二一五六年、第二百十回国連総会に出席。

二一五七年、第二百十一回国連総会に出席。

二一五八年、第二百十二回国連総会に出席。

二一五九年、第二百十三回国連総会に出席。

二一六〇年、第二百十四回国連総会に出席。

二一六一年、第二百十五回国連総会に出席。

二一六二年、第二百十六回国連総会に出席。

二一六三年、第二百十七回国連総会に出席。

二一六四年、第二百十八回国連総会に出席。

二一六五年、第二百十九回国連総会に出席。

二一六六年、第二百二十回国連総会に出席。

二一六七年、第二百二十一回国連総会に出席。

二一六八年、第二百二十二回国連総会に出席。

二一六九年、第二百二十三回国連総会に出席。

二一七〇年、第二百二十四回国連総会に出席。

二一七一年、第二百二十五回国連総会に出席。

二一七二年、第二百二十六回国連総会に出席。

二一七三年、第二百二十七回国連総会に出席。

二一七四年、第二百二十八回国連総会に出席。

二一七五年、第二百二十九回国連総会に出席。

二一七六年、第二百三十回国連総会に出席。

二一七七年、第二百三十一回国連総会に出席。

二一七八年、第二百三十二回国連総会に出席。

二一七九年、第二百三十三回国連総会に出席。

二一八〇年、第二百三十四回国連総会に出席。

二一八一年、第二百三十五回国連総会に出席。

二一八二年、第二百三十六回国連総会に出席。

二一八三年、第二百三十七回国連総会に出席。

二一八四年、第二百三十八回国連総会に出席。

二一八五年、第二百三十九回国連総会に出席。

二一八六年、第二百四十回国連総会に出席。

二一八七年、第二百四十一回国連総会に出席。

二一八八年、第二百四十二回国連総会に出席。

二一八九年、第二百四十三回国連総会に出席。

二一九〇年、第二百四十四回国連総会に出席。

二一九一年、第二百四十五回国連総会に出席。

二一九二年、第二百四十六回国連総会に出席。

二一九三年、第二百四十七回国連総会に出席。

二一九四年、第二百四十八回国連総会に出席。

二一九五年、第二百四十九回国連総会に出席。

二一九六年、第二百五十回国連総会に出席。

二一九七年、第二百五十一回国連総会に出席。

二一九八年、第二百五十二回国連総会に出席。

二一九九年、第二百五十三回国連総会に出席。

二二〇〇年、第二百五十四回国連総会に出席。

二二〇一年、第二百五十五回国連総会に出席。

二二〇二年、第二百五十六回国連総会に出席。

二二〇三年、第二百五十七回国連総会に出席。

二二〇四年、第二百五十八回国連総会に出席。

二二〇五年、第二百五十九回国連総会に出席。

二二〇六年、第二百六十回国連総会に出席。

二二〇七年、第二百六十一回国連総会に出席。

二二〇八年、第二百六十二回国連総会に出席。

二二〇九年、第二百六十三回国連総会に出席。

二二一〇年、第二百六十四回国連総会に出席。

二二一一年、第二百六十五回国連総会に出席。

二二一二年、第二百六十六回国連総会に出席。

二二一三年、第二百六十七回国連総会に出席。

二二一四年、第二百六十八回国連総会に出席。

二二一五年、第二百六十九回国連総会に出席。

二二一六年、第二百七十回国連総会に出席。

二二一七年、第二百七十一回国連総会に出席。

二二一八年、第二百七十二回国連総会に出席。

二二一九年、第二百七十三回国連総会に出席。

二二二〇年、第二百七十四回国連総会に出席。

二二二一年、第二百七十五回国連総会に出席。

二二二二年、第二百七十六回国連総会に出席。

二二二三年、第二百七十七回国連総会に出席。

二二二四年、第二百七十八回国連総会に出席。

二二二五年、第二百七十九回国連総会に出席。

二二二六年、第二百八十回国連総会に出席。

二二二七年、第二百八十一回国連総会に出席。

二二二八年、第二百八十二回国連総会に出席。

二二二九年、第二百八十三回国連総会に出席。

二二三〇年、第二百八十四回国連総会に出席。

二二三一年、第二百八十五回国連総会に出席。

二二三二年、第二百八十六回国連総会に出席。

二二三三年、第二百八十七回国連総会に出席。

二二三四年、第二百八十八回国連総会に出席。

二二三五年、第二百八十九回国連総会に出席。

二二三六年、第二百九十回国連総会に出席。

二二三七年、第二百九十一回国連総会に出席。

二二三八年、第二百九十二回国連総会に出席。

二二三九年、第二百九十三回国連総会に出席。

二二四〇年、第二百九十四回国連総会に出席。

二二四一年、第二百九十五回国連総会に出席。

二二四二年、第二百九十六回国連総会に出席。

二二四三年、第二百九十七回国連総会に出席。

二二四四年、第二百九十八回国連総会に出席。

二二四五年、第二百九十九回国連総会に出席。

二二四六年、第三百回国連総会に出席。

二二四七年、第三百一回国連総会に出席。

二二四八年、第三百二回国連総会に出席。

二二四九年、第三百三回国連総会に出席。

二二五〇年、第三百四回国連総会に出席。

二二五一年、第三百五回国連総会に出席。

二二五二年、第三百六回国連総会に出席。

二二五三年、第三百七回国連総会に出席。

二二五四年、第三百八回国連総会に出席。

二二五五年、第三百九回国連総会に出席。

二二五六年、第三百十回国連総会に出席。

二二五七年、第三百十一回国連総会に出席。

二二五八年、第三百十二回国連総会に出席。

二二五九年、第三百十三回国連総会に出席。

二二六〇年、第三百十四回国連総会に出席。

二二六一年、第三百十五回国連総会に出席。

二二六二年、第三百十六回国連総会に出席。

二二六三年、第三百十七回国連総会に出席。

二二六四年、第三百十八回国連総会に出席。

二二六五年、第三百十九回国連総会に出席。

二二六六年、第三百二十回国連総会に出席。

二二六七年、第三百二十一回国連総会に出席。

二二六八年、第三百二十二回国連総会に出席。

二二六九年、第三百二十三回国連総会に出席。

二二七〇年、第三百二十四回国連総会に出席。

二二七一年、第三百二十五回国連総会に出席。

二二七二年、第三百二十六回国連総会に出席。

二二七三年、第三百二十七回国連総会に出席。

二二七四年、第三百二十八回国連総会に出席。

二二七五年、第三百二十九回国連総会に出席。

二二七六年、第三百三十回国連総会に出席。

二二七七年、第三百三十一回国連総会に出席。

二二七八年、第三百三十二回国連総会に出席。

二二七九年、第三百三十三回国連総会に出席。

二二八〇年、第三百三十四回国連総会に出席。

二二八一年、第三百三十五回国連総会に出席。

二二八二年、第三百三十六回国連総会に出席。

二二八三年、第三百三十七回国連総会に出席。

二二八四年、第三百三十八回国連総会に出席。

二二八五年、第三百三十九回国連総会に出席。

二二八六年、第三百四十回国連総会に出席。

二二八七年、第三百四十一回国連総会に出席。

二二八八年、第三百四十二回国連総会に出席。

二二八九年、第三百四十三回国連総会に出席。

二二九〇年、第三百四十四回国連総会に出席。

二二九一年、第三百四十五回国連総会に出席。

二二九二年、第三百四十六回国連総会に出席。

二二九三年、第三百四十七回国連総会に出席。

二二九四年、第三百四十八回国連総会に出席。

二二九五年、第三百四十九回国連総会に出席。

二二九六年、第三百五十回国連総会に出席。

二二九七年、第三百五十一回国連総会に出席。

二二九八年、第三百五十二回国連総会に出席。

二二九九年、第三百五十三回国連総会に出席。

二三〇〇年、第三百五十四回国連総会に出席。

二三〇一年、第三百五十五回国連総会に出席。

二三〇二年、第三百五十六回国連総会に出席。

二三〇三年、第三百五十七回国連総会に出席。

二三〇四年、第三百五十八回国連総会に出席。

二三〇五年、第三百五十九回国連総会に出席。

二三〇六年、第三百六十回国連総会に出席。

二三〇七年、第三百六十一回国連総会に出席。

二三〇八年、第三百六十二回国連総会に出席。

二三〇九年、第三百六十三回国連総会に出席。

二三一〇年、第三百六十四回国連総会に出席。

二三一一年、第三百六十五回国連総会に出席。

二三一二年、第三百六十六回国連総会に出席。

二三一三年、第三百六十七回国連総会に出席。

二三一四年、第三百六十八回国連総会に出席。

二三一五年、第三百六十九回国連総会に出席。

二三一六年、第三百七十回国連総会に出席。

二三一七年、第三百七十一回国連総会に出席。

二三一八年、第三百七十二回国連総会に出席。

二三一九年、第三百七十三回国連総会に出席。

二三二〇年、第三百七十四回国連総会に出席。

二三二一年、第三百七十五回国連総会に出席。

二三二二年、第三百七十六回国連総会に出席。

二三二三年、第三百七十七回国連総会に出席。

二三二四年、第三百七十八回国連総会に出席。

二三二五年、第三百七十九回国連総会に出席。

二三二六年、第三百八十回国連総会に出席。

二三二七年、第三百八十一回国連総会に出席。

二三二八年、第三百八十二回国連総会に出席。

二三二九年、第三百八十三回国連総会に出席。

二三三〇年、第三百八十四回国連総会に出席。

二三三一年、第三百八十五回国連総会に出席。

二三三二年、第三百八十六回国連総会に出席。

二三三三年、第三百八十七回国連総会に出席。

二三三四年、第三百八十八回国連総会に出席。

二三三五年、第三百八十九回国連総会に出席。

二三三六年、第三百九十回国連総会に出席。

二三三七年、第三百九十一回国連総会に出席。

二三三八年、第三百九十二回国連総会に出席。

二三三九年、第三百九十三回国連総会に出席。

二三四〇年、第三百九十四回国連総会に出席。

二三四一年、第三百九十五回国連総会に出席。

二三四二年、第三百九十六回国連総会に出席。

二三四三年、第三百九十七回国連総会に出席。

二三四四年、第三百九十八回国連総会に出席。

二三四五年、第三百九十九回国連総会に出席。

二三四六年、第四百回国連総会に出席。

二三四七年、第四百一回国連総会に出席。

二三四八年、第四百二回国連総会に出席。

二三四九年、第四百三回国連総会に出席。

二三五〇年、第四百四回国連総会に出席。

二三五一年、第四百五回国連総会に出席。

二三五二年、第四百六回国連総会に出席。

二三五三年、第四百七回国連総会に出席。

二三五四年、第四百八回国連総会に出席。

二三五五年、第四百九回国連総会に出席。

二三五六年、第四百十回国連総会に出席。

二三五七年、第四百十一回国連総会に出席。

二三五八年、第四百十二回国連総会に出席。

二三五九年、第四百十三回国連総会に出席。

二三六〇年、第四百十四回国連総会に出席。

二三六一年、第四百十五回国連総会に出席。

二三六二年、第四百十六回国連総会に出席。

二三六三年、第四百十七回国連総会に出席。

二三六四年、第四百十八回国連総会に出席。

二三六五年、第四百十九回国連総会に出席。

二三六六年、第四百二十回国連総会に出席。

二三六七年、第四百二十一回国連総会に出席。

二三六八年、第四百二十二回国連総会に出席。

二三六九年、第四百二十三回国連総会に出席。

二三七〇年、第四百二十四回国連総会に出席。

二三七一年、第四百二十五回国連総会に出席。

二三七二年、第四百二十六回国連総会に出席。

二三七三年、第四百二十七回国連総会に出席。

二三七四年、第四百二十八回国連総会に出席。

二三七五年、第四百二十九回国連総会に出席。

二三七六年、第四百三十回国連総会に出席。

二三七七年、第四百三十一回国連総会に出席。

二三七八年、第四百三十二回国連総会に出席。

二三七九年、第四百三十三回国連総会に出席。

二三八〇年、第四百三十四回国連総会に出席。

二三八一年、第四百三十五回国連総会に出席。

二三八二年、第四百三十六回国連総会に出席。

二三八三年、第四百三十七回国連総会に出席。

二三八四年、第四百三十八回国連総会に出席。

二三八五年、第四百三十九回国連総会に出席。

二三八六年、第四百四十回国連総会に出席。

二三八七年、第四百四十一回国連総会に出席。

二三八八年、第四百四十二回国連総会に出席。

二三八九年、第四百四十三回国連総会に出席。

二三九〇年、第四百四十四回国連総会に出席。

二三九一年、第四百四十五回国連総会に出席。

二三九二年、第四百四十六回国連総会に出席。

二三九三年、第四百四十七回国連総会に出席。

二三九四年、第四百四十八回国連総会に出席。

二三九五年、第四百四十九回国連総会に出席。

二三九六年、第四百五十回国連総会に出席。

二三九七年、第四百五十一回国連総会に出席。

二三九八年、第四百五十二回国連総会に出席。

二三九九年、第四百五十三回国連総会に出席。

二四〇〇年、第四百五十四回国連総会に出席。

二四〇一年、第四百五十五回国連総会に出席。

二四〇二年、第四百五十六回国連総会に出席。

二四〇三年、第四百五十七回国連総会に出席。

二四〇四年、第四百五十八回国連総会に出席。

二四〇五年、第四百五十九回国連総会に出席。

二四〇六年、第四百六十回国連総会に出席。

二四〇七年、第四百六十一回国連総会に出席。

二四〇八年、第四百六十二回国連総会に出席。

二四〇九年、第四百六十三回国連総会に出席。

二四一〇年、第四百六十四回国連総会に出席。

二四一一年、第四百六十五回国連総会に出席。

二四一二年、第四百六十六回国連総会に出席。

二四一三年、第四百六十七回国連総会に出席。

二四一四年、第四百六十八回国連総会に出席。

二四一五年、第四百六十九回国連総会に出席。

二四一六年、第四百七十回国連総会に出席。

二四一七年、第四百七十一回国連総会に出席。

二四一八年、第四百七十二回国連総会に出席。

二四一九年、第四百七十三回国連総会に出席。

二四二〇年、第四百七十四回国連総会に出席。

二四二一年、第四百七十五回国連総会に出席。

二四二二年、第四百七十六回国連総会に出席。

二四二三年、第四百七十七回国連総会に出席。

二四二四年、第四百七十八回国連総会に出席。

二四二五年、第四百七十九回国連総会に出席。

二四二六年、第四百八十回国連総会に出席。

二四二七年、第四百八十一回国連総会に出席。

二四二八年、第四百八十二回国連総会に出席。

二四二九年、第四百八十三回国連総会に出席。

二四三〇年、第四百八十四回国連総会に出席。

二四三一年、第四百八十五回国連総会に出席。

二四三二年、第四百八十六回国連総会に出席。

二四三三年、第四百八十七回国連総会に出席。

二四三四年、第四百八十八回国連総会に出席。

二四三五年、第四百八十九回国連総会に出席。

二四三六年、第四百九十回国連総会に出席。

二四三七年、第四百九十一回国連総会に出席。

二四三八年、第四百九十二回国連総会に出席。

二四三九年、第四百九十三回国連総会に出席。

二四四〇年、第四百九十四回国連総会に出席。

二四四一年、第四百九十五回国連総会に出席。

二四四二年、第四百九十六回国連総会に出席。

二四四三年、第四百九十七回国連総会に出席。

二四四四年、第四百九十八回国連総会に出席。

二四四五年、第四百九十九回国連総会に出席。

二四四六年、第五百回国連総会に出席。

二四四七年、第五百一回国連総会に出席。

二四四八年、第五百二回国連総会に出席。

二四四九年、第五百三回国連総会に出席。

二四五〇年、第五百四回国連総会に出席。

二四五一年、第五百五回国連総会に出席。

二四五二年、第五百六回国連総会に出席。

二四五三年、第五百七回国連総会に出席。

二四五四年、第五百八回国連総会に出席。

二四五五年、第五百九回国連総会に出席。

二四五六年、第五百十回国連総会に出席。

二四五七年、第五百十一回国連総会に出席。

二四五八年、第五百十二回国連総会に出席。

二四五九年、第五百十三回国連総会に出席。

二四六〇年、第五百十四回国連総会に出席。

二四六一年、第五百十五回国連総会に出席。

二四六二年、第五百十六回国連総会に出席。

二四六三年、第五百十七回国連総会に出席。

二四六四年、第五百十八回国連総会に出席。

二四六五年、第五百十九回国連総会に出席。

二四六六年、第五百二十回国連総会に出席。

二四六七年、第五百二十一回国連総会に出席。

二四六八年、第五百二十二回国連総会に出席。

二四六九年、第五百二十三回国連総会に出席。

二四七〇年、第五百二十四回国連総会に出席。

二四七一年、第五百二十五回国連総会に出席。

二四七二年、第五百二十六回国連総会に出席。

二四七三年、第五百二十七回国連総会に出席。

二四七四年、第五百二十八回国連総会に出席。

二四七五年、第五百二十九回国連総会に出席。

二四七六年、第五百三十回国連総会に出席。

二四七七年、第五百三十一回国連総会に出席。

二四七八年、第五百三十二回国連総会に出席。

二四七九年、第五百三十三回国連総会に出席。

二四八〇年、第五百三十四回国連総会に出席。

二四八一年、第五百三十五回国連総会に出席。

二四八二年、第五百三十六回国連総会に出席。

二四八三年、第五百三十七回国連総会に出席。

二四八四年、第五百三十八回国連総会に出席。

二四八五年、第五百三十九回国連総会に出席。

二四八六年、第五百四十回国連総会に出席。

二四八七年、第五百四十一回国連総会に出席。

二四八八年、第五百四十二回国連総会に出席。

二四八九年、第五百四十三回国連総会に出席。

二四九〇年、第五百四十四回国連総会に出席。

二四九一年、第五百四十五回国連総会に出席。

二四九二年、第五百四十六回国連総会に出席。

二四九三年、第五百四十七回国連総会に出席。

二四九四年、第五百四十八回国連総会に出席。

二四九五年、第五百四十九回国連総会に出席。

二四九六年、第五百五十回国連総会に出席。

二四九七年、第五百五十一回国連総会に出席。

二四九八年、第五百五十二回国連総会に出席。

二四九九年、第五百五十三回国連総会に出席。

二五〇〇年、第五百五十四回国連総会に出席。

二五〇一年、第五百五十五回国連総会に出席。

二五〇二年、第五百五十六回国連総会に出席。

二五〇三年、第五百五十七回国連総会に出席。

二五〇四年、第五百五十八回国連総会に出席。

二五〇五年、第五百五十九回国連総会に出席。

二五〇六年、第五百六十回国連総会に出席。

二五〇七年、第五百六十一回国連総会に出席。

二五〇八年、第五百六十二回国連総会に出席。

二五〇九年、第五百六十三回国連総会に出席。

二五一〇年、第五百六十四回国連総会に出席。

二五一一年、第五百六十五回国連総会に出席。

二五一二年、第五百六十六回国連総会に出席。

二五一三年、第五百六十七回国連総会に出席。

二五一四年、第五百六十八回国連総会に出席。

二五一五年、第五百六十九回国連総会に出席。

二五一六年、第五百七十回国連総会に出席。

二五一七年、第五百七十一回国連総会に出席。

二五一八年、第五百七十二回国連総会に出席。

二五一九年、第五百七十三回国連総会に出席。

二五二〇年、第五百七十四回国連総会に出席。

二五二一年、第五百七十五回国連総会に出席。

二五二二年、第五百七十六回国連総会に出席。

二五二三年、第五百七十七回国連総会に出席。

二五二四年、第五百七十八回国連総会に出席。

二五二五年、第五百七十九回国連総会に出席。

二五二六年、第五百八十回国連総会に出席。

二五二七年、第五百八十一回国連総会に出席。

二五二八年、第五百八十二回国連総会に出席。

二五二九年、第五百八十三回国連総会に出席。

二五三〇年、第五百八十四回国連総会に出席。

二五三一年、第五百八十五回国連総会に出席。

二五三二年、第五百八十六回国連総会に出席。

二五三三年、第五百八十七回国連総会に出席。

二五三四年、第五百八十八回国連総会に出席。

二五三五年、第五百八十九回国連総会に出席。

二五三六年、第五百九十回国連総会に出席。

二五三七年、第五百九十一回国連総会に出席。

二五三八年、第五百九十二回国連総会に出席。

二五三九年、第五百九十三回国連総会に出席。

二五四〇年、第五百九十四回国連総会に出席。

二五四一年、第五百九十五回国連総会に出席。

二五四二年、第五百九十六回国連総会に出席。

二五四三年、第五百九十七回国連総会に出席。

二五四四年、第五百九十八回国連総会に出席。

二五四五年、第五百九十九回国連総会に出席。

二五四六年、第六百回国連総会に出席。

二五四七年、第六百一回国連総会に出席。

二五四八年、第六百二回国連総会に出席。

二五四九年、第六百三回国連総会に出席。

二五五〇年、第六百四回国連総会に出席。

二五五一年、第六百五回国連総会に出席。

二五五二年、第六百六回国連総会に出席。

二五五三年、第六百七回国連総会に出席。

二五五四年、第六百八回国連総会に出席。

二五五五年、第六百九回国連総会に出席。

二五五六年、第六百十回国連総会に出席。

二五五七年、第六百十一回国連総会に出席。

二五五八年、第六百十二回国連総会に出席。

二五五九年、第六百十三回国連総会に出席。

二五六〇年、第六百十四回国連総会に出席。

二五六一年、第六百十五回国連総会に出席。

二五六二年、第六百十六回国連総会に出席。

二五六三年、第六百十七回国連総会に出席。

二五六四年、第六百十八回国連総会に出席。

二五六五年、第六百十九回国連総会に出席。

二五六六年、第六百二十回国連総会に出席。

二五六七年、第六百二十一回国連総会に出席。

二五六八年、第六百二十二回国連総会に出席。

二五六九年、第六百二十三回国連総会に出席。

二五七〇年、第六百二十四回国連総会に出席。

二五七一年、第六百二十五回国連総会に出席。

二五七二年、第六百二十六回国連総会に出席。

二五七三年、第六百二十七回国連総会に出席。

二五七四年、第六百二十八回国連総会に出席。

二五七五年、第六百二十九回国連総会に出席。

二五七六年、第六百三十回国連総会に出席。

二五七七年、第六百三十一回国連総会に出席。

二五七八年、第六百三十二回国連総会に出席。

二五七九年、第六百三十三回国連総会に出席。

二五八〇年、第六百三十四回国連総会に出席。

二五八一年、第六百三十五回国連総会に出席。

二五八二年、第六百三十六回国連総会に出席。

二五八三年、第六百三十七回国連総会に出席。

二五八四年、第六百三十八回国連総会に出席。

二五八五年、第六百三十九回国連総会に出席。

二五八六年、第六百四十回国連総会に出席。

二五八七年、第六百四十一回国連総会に出席。

二五八八年、第六百四十二回国連総会に出席。

二五八九年、第六百四十三回国連総会に出席。

二五九〇年、第六百四十四回国連総会に出席。

二五九一年、第六百四十五回国連総会に出席。

二五九二年、第六百四十六回国連総会に出席。

二五九三年、第六百四十七回国連総会に出席。

二五九四年、第六百四十八回国連総会に出席。

二五九五年、第六百四十九回国連総会に出席。

二五九六年、第六百五十回国連総会に出席。

二五九七年、第六百五十一回国連総会に出席。

二五九八年、第六百五十二回国連総会に出席。

二五九九年、第六百五十三回国連総会に出席。

二六〇〇年、第六百五十四回国連総会に出席。

二六〇一年、第六百五十五回国連総会に出席。

二六〇二年、第六百五十六回国連総会に出席。

二六〇三年、第六百五十七回国連総会に出席。

二六〇四年、第六百五十八回国連総会に出席。

二六〇五年、第六百五十九回国連総会に出席。

二六〇六年、第六百六十回国連総会に出席。

二六〇七年、第六百六十一回国連総会に出席。

二六〇八年、第六百六十二回国連総会に出席。

二六〇九年、第六百六十三回国連総会に出席。

二六一〇年、第六百六十四回国連総会に出席。

二六一一年、第六百六十五回国連総会に出席。

二六一二年、第六百六十六回国連総会に出席。

二六一三年、第六百六十七回国連総会に出席。

二六一四年、第六百六十八回国連総会に出席。

二六一五年、第六百六十九回国連総会に出席。

二六一六年、第六百七十回国連総会に出席。

二六一七年、第六百七十一回国連総会に出席。

二六一八年、第六百七十二回国連総会に出席。

二六一九年、第六百七十三回国連総会に出席。

二六二〇年、第六百七十四回国連総会に出席。

二六二一年、第六百七十五回国連総会に出席。

二六二二年、第六百七十六回国連総会に出席。

二六二三年、第六百七十七回国連総会に出席。

二六二四年、第六百七十八回国連総会に出席。

二六二五年、第六百七十九回国連総会に出席。

二六二六年、第六百八十回国連総会に出席。

二六二七年、第六百八十一回国連総会に出席。

二六二八年、第六百八十二回国連総会に出席。

二六二九年、第六百八十三回国連総会に出席。

二六三〇年、第六百八十四回国連総会に出席。

二六三一年、第六百八十五回国連総会に出席。

二六三二年、第六百八十六回国連総会に出席。

二六三三年、第六百八十七回国連総会に出席。

二六三四年、第六百八十八回国連総会に出席。

二六三五年、第六百八十九回国連総会に出席。

二六三六年、

わが青春の地
今昔の感ぞ深し

台湾の山を歩く…平沢亀一郎手記（終）

石門水庫上下の全景（一九四四年二月撮影）

台湾山岳協会の歓迎会（記事参照）

（六）

十月十四日（月）、快晴

昨夜は遅くまで新聞記者に取り囲まれて今朝は珍らしく寝坊をした。今日は愈々今回の目的である霧社へ向かって出発する日である。この日のために二日越しで準備をしてきたのであるが、出発の朝になって、また新しい問題が起こってきた。それは霧社へ行くには、どうしても入山証明書が必要だというのである。霧社は蕃地であるから、入山者を厳重に取締るというのである。

私が台湾の農業視察に来たのは、昭和十四年の秋であったが、その時霧社へ行こうと思ったのであるが、霧社は蕃地であるから、入山証明書が必要だというので、とうとう行かずに終ったのである。

それ以来霧社へ行くことは、私の念願であったのであるから、今回の旅行には、是非霧社へ行こうと思って、霧社の事は、特に詳しく調べてきたのであるが、入山証明書が必要だということは、全く予期しなかったのである。

霧社へ行くには、台中から、バスで埔里まで行き、埔里から霧社へ行くのであるが、埔里から霧社へ行くバスは、毎日一回しかないのである。

私は、霧社へ行くことを、非常に楽しみにしていたのであるから、入山証明書が必要だということを聞いて、非常に失望した。

入山証明書は、台中の警察へ行けば、すぐ貰えるのであるが、私は、台中へ行くことは、全く考えていなかったのである。

霧社へ行くバスは、毎日一回しかないのであるから、台中へ行けば、霧社へ行くことは、出来ないのである。

私は、霧社へ行くことを、非常に楽しみにしていたのであるから、霧社へ行けないことは、非常に残念であった。

霧社へ行くことは、全く予期しなかった

台湾協会々員（会費前納）

（◎印は継続御払込みの方）

一般会員

◎大橋武夫　◎大蔵省　◎大蔵省銀行局　◎大蔵省関税局　◎大蔵省主計局　◎大蔵省理財局　◎大蔵省国際金融局　◎大蔵省証券局　◎大蔵省為替局　◎大蔵省造幣局　◎大蔵省印刷局　◎大蔵省東京税関　◎大蔵省大阪税関　◎大蔵省神戸税関　◎大蔵省横浜税関　◎大蔵省名古屋税関　◎大蔵省門司税関　◎大蔵省長崎税関　◎大蔵省函館税関　◎大蔵省小樽税関　◎大蔵省新潟税関　◎大蔵省清水税関　◎大蔵省四日市税関　◎大蔵省神戸税関　◎大蔵省広島税関　◎大蔵省高松税関　◎大蔵省門司税関　◎大蔵省長崎税関　◎大蔵省那覇税関　◎大蔵省仙台税関　◎大蔵省秋田税関　◎大蔵省新潟税関　◎大蔵省富山税関　◎大蔵省金沢税関　◎大蔵省福井税関　◎大蔵省名古屋

台湾協会報

発行所
新宿区西大久保2の303
財団法人　台湾協会
電話　(98)　8116—7番
振替口座　東京　40307番
発行名義人　財団法人台湾協会
発行人　松本　暁吉

日華美術展に
来日の六氏招待
九月例会　台湾の会で交歓

台湾の会九月例会は定例日の第二土曜を二週繰上げて第一土曜の四日午後二時から来日中の中国画家六氏の歓迎会として開催された。これらの画家は九月二日より十日まで東京上野の東京都美術館で開催されている日華美術展に中国側委員代表として来日した。

橋三郎、陳清栄、梁正瑛、張杰、呂基正の各氏であった。先ず台湾協会松本理事長より

今度中国の美術作品の展覧会が開催されるに当り遠路はるばる来日された方々が来日されたので本会としても歓迎の意を表したく、お招きいたしました。

ると云う御繁用中御迷惑のことと存じますが、暫らく御歓談をいただき我々の意のあるところをお酌み取り願いたい。

と挨拶、さらに渡谷山口組合長より

中国の画家が御来訪になった機会に茶話を通じて両国の親善をはかり度い。これはうに言われぬ味いのあるものでその機運を強り上げてゆきたい。御来朝の各位には東洋の画家、世界の画家となるつもりで益々御精励あらんことをお祈りします。

と歓迎と激励の辞を述べ、一同、杯を挙げて健康を祝し合った。一行代表として橋三郎氏が

本日は私共のために歓迎の催しをしていただき感謝にたえません。私達はまだ若うございますが、これからも研さんを積んで参りたいと思います。

と謝辞を述べ、同行の各画家を二人ご紹介されれば、満場より拍手をもって歓迎の意を表した。

ついで、日華美術交友会の理事長柴眞雪安史より

日華美術交友会の東京第一回展覧会が去る二日銀座中国大使館文書、石井法務大臣などの御臨席のもとに開会されました。八五点を展覧してあります。今後さらの御支援を願いますれば

と挨拶した。それから客中に掲氏より

台湾への旅行は従来二週間であったが八月一日から二ケ月になったのでどうぞドシドシお出かけ下さい。お出の際には私にお手紙を下さればお迎え場まで迎えに行きます。

と親しみのある紹介と披露があり、一同は相互をもってその厚情に応えた。

なお懇後、加藤吉松氏（元三井物産支店長民連）より世界記念館と適正人口推進協会発行のアメリカ民族調和論等が氏の紹介とともに一同に配布された。

〔写真説明〕上は当日の茶話、向って右から梁正瑛、張杰、橋三郎、呂基正の諸画伯（画家連画伯はおくれて出席）。中は一行を代表して謝辞を述べる橋三郎氏。下は会場に掲れる交歓風景。

国府、陸海軍
総司令を更迭

国府の蔣介石総統は三十日付で陸軍総司令の更迭を含む重要人事異動を発表した。

それによると、陸軍総司令に最新元帥、程潜総司令に馮啓聖中将、国防部総参謀長に胡宗南上将がそれぞれ任命された。

全連の新役員

社団法人日本労働者団体全国連合会（全連）では去る七月二十八、九の両日の総会において理事九四、二五名を各地域ブロック都道府県団体に割当、その選任を決定、さらに二名の新理事長、副理事長一名、副理事長一名、常務理事一名、副理事長一名、常務理事一名、理事一名、副理事長一名、常務理事一名、理事一名、副理事長一名、常務理事一名、

ドイツの旅

衆議院議員　村山喜一

一九六二年の秋初めて手を触れた西独機械輸出振興協会の招きで、三十二回ベルリンに入る。より遅くあった。ここを根城にして、十九日のフランクフルト市、八田、ドルトムント市、八田、アルスベルグ市を公式訪問。八日、青少年問題を大に招待されて日本でも親切な友人達の多いことにつくりする。ドイツ人の気質と日本人が似ているし、敗戦国としての共通の運命を担い、しかも十二年スカンチナビヤの山々を眼下に眺めつつオスローを通過し、フランクフルトに向う。蒼空にかがる商月が白く中天にかかっていた。十七日朝フランクフルトに着く。青少年クラブで良質の冷麺なんと二時間、ドイツ人は訪問者が多く食事時間と長いには困っていた。今夜からの行程は五日間料理が並べられていましたびっくりする。バスは百年を経過、二万人受入れ、二万人のドイツ青少年をフランスに送っているという。ザールブルケンの放送局で聞くテレビは午後五時から十二時までという。教育のやまにあるかたに期待を寄せ考える国会を実現している独立の姿を知り国民の関心主義に感激したザールブルケンの市庁舎、市長、理事会員、議員の方々と懇談。

出品作品・作者（日華美術展）

九月二日から十日まで東京都美術館で開かれた日華美術展への出品作品と作者は次の如くである。

別	作品名称	作者姓名
国画	天台晩鐘	林玉山
〃	中国娘	陳進
〃	機織婦	李梅樹
〃	竹林消閑	黄君璧
〃	松竹梅月	馬壽華
〃	台湾風景公路	伝田英夫
〃	上元灯図	呉懐素
油画	裸婦	陳慧坤
〃	人体	林荊南
〃	静物	李梅樹
〃	裸婦	劉啓祥
〃	月明之夜	廖継春
〃	静物	顔水龍
〃	人体	李石樵
〃	台湾の山岳	呉昌碩
〃	残雪	張萬傳
〃	憩椰	劉啓祥
〃	人体	陳慧坤
〃	裸婦	李梅樹
〃	太魯閣	劉啓祥
〃	静物	呉昌碩
〃	斜陽	廖継春
〃	在東京医院病室的生機	呉潮湧
〃	静物	陳慧坤
〃	作品一	楊三郎
〃	作品二	新竹市
〃	作品三	胡箱
〃	作品四	台南市
〃	作品五	台南市
〃	作品六	台南市
〃	作品七	台南市
〃	作品八	台南市
〃	作品九	台南市
〃	作品十	台南市
〃	作品十一	台南市
〃	作品十二	台南市
〃	作品十三	台南市
〃	作品十四	台南市
〃	作品十五	台南市
〃	作品十六	台南市
〃	作品十七	台南市
〃	作品十八	台南市
〃	作品十九	台南市
〃	作品二十	台南市
〃	作品二十一	台南市
〃	作品二十二	台南市
〃	作品二十三	台南市
〃	作品二十四	台南市
〃	作品二十五	台南市
〃	作品二十六	台南市
〃	作品二十七	台南市
〃	作品二十八	台南市
〃	作品二十九	台南市
〃	作品三十	台南市
〃	作品三十一	台南市
〃	作品三十二	台南市
〃	作品三十三	台南市
〃	作品三十四	台南市
〃	作品三十五	台南市
〃	作品三十六	台南市
〃	作品三十七	台南市
〃	作品三十八	台南市
〃	作品三十九	台南市
〃	作品四十	台南市
〃	作品四十一	台南市
〃	作品四十二	台南市
〃	作品四十三	台南市
〃	作品四十四	台南市
〃	作品四十五	台南市
〃	作品四十六	台南市
〃	作品四十七	台南市
〃	作品四十八	台南市
〃	作品四十九	台南市
〃	作品五十	台南市
〃	作品五十一	台南市
〃	作品五十二	台南市
〃	作品五十三	台南市
〃	作品五十四	台南市
〃	作品五十五	台南市
〃	作品五十六	台南市
〃	作品五十七	台南市
〃	作品五十八	台南市
〃	作品五十九	台南市
〃	作品六十	台南市
〃	作品六十一	台南市
〃	作品六十二	台南市
〃	作品六十三	台南市
〃	作品六十四	台南市
〃	作品六十五	台南市
〃	作品六十六	台南市
〃	作品六十七	台南市
〃	作品六十八	台南市
〃	作品六十九	台南市
〃	作品七十	台南市
〃	作品七十一	台南市
〃	作品七十二	台南市
〃	作品七十三	台南市
〃	作品七十四	台南市
〃	作品七十五	台南市
〃	作品七十六	台南市
〃	作品七十七	台南市
〃	作品七十八	台南市
〃	作品七十九	台南市
〃	作品八十	台南市
〃	作品八十一	台南市
〃	作品八十二	台南市
〃	作品八十三	台南市
〃	作品八十四	台南市
〃	作品八十五	台南市
〃	作品八十六	台南市
〃	作品八十七	台南市
〃	作品八十八	台南市
〃	作品八十九	台南市
〃	作品九十	台南市
〃	作品九十一	台南市
〃	作品九十二	台南市
〃	作品九十三	台南市
〃	作品九十四	台南市
〃	作品九十五	台南市
〃	作品九十六	台南市
〃	作品九十七	台南市
〃	作品九十八	台南市
〃	作品九十九	台南市
〃	作品百	台南市
〃	作品百一	台南市
〃	作品百二	台南市
〃	作品百三	台南市
〃	作品百四	台南市
〃	作品百五	台南市
〃	作品百六	台南市
〃	作品百七	台南市
〃	作品百八	台南市
〃	作品百九	台南市
〃	作品百十	台南市
〃	作品百十一	台南市
〃	作品百十二	台南市
〃	作品百十三	台南市
〃	作品百十四	台南市
〃	作品百十五	台南市
〃	作品百十六	台南市
〃	作品百十七	台南市
〃	作品百十八	台南市
〃	作品百十九	台南市
〃	作品百二十	台南市
〃	作品百二十一	台南市
〃	作品百二十二	台南市
〃	作品百二十三	台南市
〃	作品百二十四	台南市
〃	作品百二十五	台南市
〃	作品百二十六	台南市
〃	作品百二十七	台南市
〃	作品百二十八	台南市
〃	作品百二十九	台南市
〃	作品百三十	台南市
〃	作品百三十一	台南市
〃	作品百三十二	台南市
〃	作品百三十三	台南市
〃	作品百三十四	台南市
〃	作品百三十五	台南市
〃	作品百三十六	台南市
〃	作品百三十七	台南市
〃	作品百三十八	台南市
〃	作品百三十九	台南市
〃	作品百四十	台南市
〃	作品百四十一	台南市
〃	作品百四十二	台南市
〃	作品百四十三	台南市
〃	作品百四十四	台南市
〃	作品百四十五	台南市
〃	作品百四十六	台南市
〃	作品百四十七	台南市
〃	作品百四十八	台南市
〃	作品百四十九	台南市
〃	作品百五十	台南市
〃	作品百五十一	台南市
〃	作品百五十二	台南市
〃	作品百五十三	台南市
〃	作品百五十四	台南市
〃	作品百五十五	台南市
〃	作品百五十六	台南市
〃	作品百五十七	台南市
〃	作品百五十八	台南市
〃	作品百五十九	台南市
〃	作品百六十	台南市
〃	作品百六十一	台南市
〃	作品百六十二	台南市
〃	作品百六十三	台南市
〃	作品百六十四	台南市
〃	作品百六十五	台南市
〃	作品百六十六	台南市
〃	作品百六十七	台南市
〃	作品百六十八	台南市
〃	作品百六十九	台南市
〃	作品百七十	台南市
〃	作品百七十一	台南市
〃	作品百七十二	台南市
〃	作品百七十三	台南市
〃	作品百七十四	台南市
〃	作品百七十五	台南市
〃	作品百七十六	台南市
〃	作品百七十七	台南市
〃	作品百七十八	台南市
〃	作品百七十九	台南市
〃	作品百八十	台南市
〃	作品百八十一	台南市
〃	作品百八十二	台南市
〃	作品百八十三	台南市
〃	作品百八十四	台南市
〃	作品百八十五	台南市
〃	作品百八十六	台南市
〃	作品百八十七	台南市
〃	作品百八十八	台南市
〃	作品百八十九	台南市
〃	作品百九十	台南市
〃	作品百九十一	台南市
〃	作品百九十二	台南市
〃	作品百九十三	台南市
〃	作品百九十四	台南市
〃	作品百九十五	台南市
〃	作品百九十六	台南市
〃	作品百九十七	台南市
〃	作品百九十八	台南市
〃	作品百九十九	台南市
〃	作品二百	台南市
〃	作品二百一	台南市
〃	作品二百二	台南市
〃	作品二百三	台南市
〃	作品二百四	台南市
〃	作品二百五	台南市
〃	作品二百六	台南市
〃	作品二百七	台南市
〃	作品二百八	台南市
〃	作品二百九	台南市
〃	作品二百十	台南市
〃	作品二百十一	台南市
〃	作品二百十二	台南市
〃	作品二百十三	台南市
〃	作品二百十四	台南市
〃	作品二百十五	台南市
〃	作品二百十六	台南市
〃	作品二百十七	台南市
〃	作品二百十八	台南市
〃	作品二百十九	台南市
〃	作品二百二十	台南市
〃	作品二百二十一	台南市
〃	作品二百二十二	台南市
〃	作品二百二十三	台南市
〃	作品二百二十四	台南市
〃	作品二百二十五	台南市
〃	作品二百二十六	台南市
〃	作品二百二十七	台南市
〃	作品二百二十八	台南市
〃	作品二百二十九	台南市
〃	作品二百三十	台南市
〃	作品二百三十一	台南市
〃	作品二百三十二	台南市
〃	作品二百三十三	台南市
〃	作品二百三十四	台南市
〃	作品二百三十五	台南市
〃	作品二百三十六	台南市
〃	作品二百三十七	台南市
〃	作品二百三十八	台南市
〃	作品二百三十九	台南市
〃	作品二百四十	台南市
〃	作品二百四十一	台南市
〃	作品二百四十二	台南市
〃	作品二百四十三	台南市
〃	作品二百四十四	台南市
〃	作品二百四十五	台南市
〃	作品二百四十六	台南市
〃	作品二百四十七	台南市
〃	作品二百四十八	台南市
〃	作品二百四十九	台南市
〃	作品二百五十	台南市
〃	作品二百五十一	台南市
〃	作品二百五十二	台南市
〃	作品二百五十三	台南市
〃	作品二百五十四	台南市
〃	作品二百五十五	台南市
〃	作品二百五十六	台南市
〃	作品二百五十七	台南市
〃	作品二百五十八	台南市
〃	作品二百五十九	台南市
〃	作品二百六十	台南市
〃	作品二百六十一	台南市
〃	作品二百六十二	台南市
〃	作品二百六十三	台南市
〃	作品二百六十四	台南市
〃	作品二百六十五	台南市
〃	作品二百六十六	台南市
〃	作品二百六十七	台南市
〃	作品二百六十八	台南市
〃	作品二百六十九	台南市
〃	作品二百七十	台南市
〃	作品二百七十一	台南市
〃	作品二百七十二	台南市
〃	作品二百七十三	台南市
〃	作品二百七十四	台南市
〃	作品二百七十五	台南市
〃	作品二百七十六	台南市
〃	作品二百七十七	台南市
〃	作品二百七十八	台南市
〃	作品二百七十九	台南市
〃	作品二百八十	台南市
〃	作品二百八十一	台南市
〃	作品二百八十二	台南市
〃	作品二百八十三	台南市
〃	作品二百八十四	台南市
〃	作品二百八十五	台南市
〃	作品二百八十六	台南市
〃	作品二百八十七	台南市
〃	作品二百八十八	台南市
〃	作品二百八十九	台南市
〃	作品二百九十	台南市
〃	作品二百九十一	台南市
〃	作品二百九十二	台南市
〃	作品二百九十三	台南市
〃	作品二百九十四	台南市
〃	作品二百九十五	台南市
〃	作品二百九十六	台南市
〃	作品二百九十七	台南市
〃	作品二百九十八	台南市
〃	作品二百九十九	台南市
〃	作品三百	台南市
〃	作品三百一	台南市
〃	作品三百二	台南市
〃	作品三百三	台南市
〃	作品三百四	台南市
〃	作品三百五	台南市
〃	作品三百六	台南市
〃	作品三百七	台南市
〃	作品三百八	台南市
〃	作品三百九	台南市
〃	作品三百十	台南市
〃	作品三百十一	台南市
〃	作品三百十二	台南市
〃	作品三百十三	台南市
〃	作品三百十四	台南市
〃	作品三百十五	台南市
〃	作品三百十六	台南市
〃	作品三百十七	台南市
〃	作品三百十八	台南市
〃	作品三百十九	台南市
〃	作品三百二十	台南市
〃	作品三百二十一	台南市
〃	作品三百二十二	台南市
〃	作品三百二十三	台南市
〃	作品三百二十四	台南市
〃	作品三百二十五	台南市
〃	作品三百二十六	台南市
〃	作品三百二十七	台南市
〃	作品三百二十八	台南市
〃	作品三百二十九	台南市
〃	作品三百三十	台南市
〃	作品三百三十一	台南市
〃	作品三百三十二	台南市
〃	作品三百三十三	台南市
〃	作品三百三十四	台南市
〃	作品三百三十五	台南市
〃	作品三百三十六	台南市
〃	作品三百三十七	台南市
〃	作品三百三十八	台南市
〃	作品三百三十九	台南市
〃	作品三百四十	台南市
〃	作品三百四十一	台南市
〃	作品三百四十二	台南市
〃	作品三百四十三	台南市
〃	作品三百四十四	台南市
〃	作品三百四十五	台南市
〃	作品三百四十六	台南市
〃	作品三百四十七	台南市
〃	作品三百四十八	台南市
〃	作品三百四十九	台南市
〃	作品三百五十	台南市
〃	作品三百五十一	台南市
〃	作品三百五十二	台南市
〃	作品三百五十三	台南市
〃	作品三百五十四	台南市
〃	作品三百五十五	台南市
〃	作品三百五十六	台南市
〃	作品三百五十七	台南市
〃	作品三百五十八	台南市
〃	作品三百五十九	台南市
〃	作品三百六十	台南市
〃	作品三百六十一	台南市
〃	作品三百六十二	台南市
〃	作品三百六十三	台南市
〃	作品三百六十四	台南市
〃	作品三百六十五	台南市
〃	作品三百六十六	台南市
〃	作品三百六十七	台南市
〃	作品三百六十八	台南市
〃	作品三百六十九	台南市
〃	作品三百七十	台南市
〃	作品三百七十一	台南市
〃	作品三百七十二	台南市
〃	作品三百七十三	台南市
〃	作品三百七十四	台南市
〃	作品三百七十五	台南市
〃	作品三百七十六	台南市
〃	作品三百七十七	台南市
〃	作品三百七十八	台南市
〃	作品三百七十九	台南市
〃	作品三百八十	台南市
〃	作品三百八十一	台南市
〃	作品三百八十二	台南市
〃	作品三百八十三	台南市
〃	作品三百八十四	台南市
〃	作品三百八十五	台南市
〃	作品三百八十六	台南市
〃	作品三百八十七	台南市
〃	作品三百八十八	台南市
〃	作品三百八十九	台南市
〃	作品三百九十	台南市
〃	作品三百九十一	台南市
〃	作品三百九十二	台南市
〃	作品三百九十三	台南市
〃	作品三百九十四	台南市
〃	作品三百九十五	台南市
〃	作品三百九十六	台南市
〃	作品三百九十七	台南市
〃	作品三百九十八	台南市
〃	作品三百九十九	台南市
〃	作品四百	台南市
〃	作品四百一	台南市
〃	作品四百二	台南市
〃	作品四百三	台南市
〃	作品四百四	台南市
〃	作品四百五	台南市
〃	作品四百六	台南市
〃	作品四百七	台南市
〃	作品四百八	台南市
〃	作品四百九	台南市
〃	作品四百十	台南市
〃	作品四百十一	台南市
〃	作品四百十二	台南市
〃	作品四百十三	台南市
〃	作品四百十四	台南市
〃	作品四百十五	台南市
〃	作品四百十六	台南市
〃	作品四百十七	台南市
〃	作品四百十八	台南市
〃	作品四百十九	台南市
〃	作品四百二十	台南市
〃	作品四百二十一	台南市
〃	作品四百二十二	台南市
〃	作品四百二十三	台南市
〃	作品四百二十四	台南市
〃	作品四百二十五	台南市
〃	作品四百二十六	台南市
〃	作品四百二十七	台南市
〃	作品四百二十八	台南市
〃	作品四百二十九	台南市
〃	作品四百三十	台南市
〃	作品四百三十一	台南市
〃	作品四百三十二	台南市
〃	作品四百三十三	台南市
〃	作品四百三十四	台南市
〃	作品四百三十五	台南市
〃	作品四百三十六	台南市
〃	作品四百三十七	台南市
〃	作品四百三十八	台南市
〃	作品四百三十九	台南市
〃	作品四百四十	台南市
〃	作品四百四十一	台南市
〃	作品四百四十二	台南市
〃	作品四百四十三	台南市
〃	作品四百四十四	台南市
〃	作品四百四十五	台南市
〃	作品四百四十六	台南市
〃	作品四百四十七	台南市
〃	作品四百四十八	台南市
〃	作品四百四十九	台南市
〃	作品四百五十	台南市
〃	作品四百五十一	台南市
〃	作品四百五十二	台南市
〃	作品四百五十三	台南市
〃	作品四百五十四	台南市
〃	作品四百五十五	台南市
〃	作品四百五十六	台南市
〃	作品四百五十七	台南市
〃	作品四百五十八	台南市
〃	作品四百五十九	台南市
〃	作品四百六十	台南市
〃	作品四百六十一	台南市
〃	作品四百六十二	台南市
〃	作品四百六十三	台南市
〃	作品四百六十四	台南市
〃	作品四百六十五	台南市
〃	作品四百六十六	台南市
〃	作品四百六十七	台南市
〃	作品四百六十八	台南市
〃	作品四百六十九	台南市
〃	作品四百七十	台南市
〃	作品四百七十一	台南市
〃	作品四百七十二	台南市
〃	作品四百七十三	台南市
〃	作品四百七十四	台南市
〃	作品四百七十五	台南市
〃	作品四百七十六	台南市
〃	作品四百七十七	台南市
〃	作品四百七十八	台南市
〃	作品四百七十九	台南市
〃	作品四百八十	台南市
〃	作品四百八十一	台南市
〃	作品四百八十二	台南市
〃	作品四百八十三	台南市
〃	作品四百八十四	台南市
〃	作品四百八十五	台南市
〃	作品四百八十六	台南市
〃	作品四百八十七	台南市
〃	作品四百八十八	台南市
〃	作品四百八十九	台南市
〃	作品四百九十	台南市
〃	作品四百九十一	台南市
〃	作品四百九十二	台南市
〃	作品四百九十三	台南市
〃	作品四百九十四	台南市
〃	作品四百九十五	台南市
〃	作品四百九十六	台南市
〃	作品四百九十七	台南市
〃	作品四百九十八	台南市
〃	作品四百九十九	台南市
〃	作品五百	台南市
〃	作品五百一	台南市
〃	作品五百二	台南市
〃	作品五百三	台南市
〃	作品五百四	台南市
〃	作品五百五	台南市
〃	作品五百六	台南市
〃	作品五百七	台南市
〃	作品五百八	台南市
〃	作品五百九	台南市
〃	作品五百十	台南市
〃	作品五百十一	台南市
〃	作品五百十二	台南市
〃	作品五百十三	台南市
〃	作品五百十四	台南市
〃	作品五百十五	台南市
〃	作品五百十六	台南市
〃	作品五百十七	台南市
〃	作品五百十八	台南市
〃	作品五百十九	台南市
〃	作品五百二十	台南市
〃	作品五百二十一	台南市
〃	作品五百二十二	台南市
〃	作品五百二十三	台南市
〃	作品五百二十四	台南市
〃	作品五百二十五	台南市
〃	作品五百二十六	台南市
〃	作品五百二十七	台南市
〃	作品五百二十八	台南市
〃	作品五百二十九	台南市
〃	作品五百三十	台南市
〃	作品五百三十一	台南市
〃	作品五百三十二	台南市
〃	作品五百三十三	台南市
〃	作品五百三十四	台南市
〃	作品五百三十五	台南市
〃	作品五百三十六	台南市
〃	作品五百三十七	台南市
〃	作品五百三十八	台南市
〃	作品五百三十九	台南市
〃	作品五百四十	台南市
〃	作品五百四十一	台南市
〃	作品五百四十二	台南市
〃	作品五百四十三	台南市
〃	作品五百四十四	台南市
〃	作品五百四十五	台南市
〃	作品五百四十六	台南市
〃	作品五百四十七	台南市
〃	作品五百四十八	台南市
〃	作品五百四十九	台南市
〃	作品五百五十	台南市
〃	作品五百五十一	台南市
〃	作品五百五十二	台南市
〃	作品五百五十三	台南市
〃	作品五百五十四	台南市
〃	作品五百五十五	台南市
〃	作品五百五十六	台南市
〃	作品五百五十七	台南市
〃	作品五百五十八	台南市
〃	作品五百五十九	台南市
〃	作品五百六十	台南市
〃	作品五百六十一	台南市
〃	作品五百六十二	台南市
〃	作品五百六十三	台南市
〃	作品五百六十四	台南市
〃	作品五百六十五	台南市
〃	作品五百六十六	台南市
〃	作品五百六十七	台南市
〃	作品五百六十八	台南市
〃	作品五百六十九	台南市
〃	作品五百七十	台南市
〃	作品五百七十一	台南市
〃	作品五百七十二	台南市
〃	作品五百七十三	台南市
〃	作品五百七十四	台南市
〃	作品五百七十五	台南市
〃	作品五百七十六	台南市
〃	作品五百七十七	台南市
〃	作品五百七十八	台南市
〃	作品五百七十九	台南市
〃	作品五百八十	台南市
〃	作品五百八十一	台南市
〃	作品五百八十二	台南市
〃	作品五百八十三	台南市
〃	作品五百八十四	台南市
〃	作品五百八十五	台南市
〃	作品五百八十六	台南市
〃	作品五百八十七	台南市
〃	作品五百八十八	台南市
〃	作品五百八十九	台南市
〃	作品五百九十	台南市
〃	作品五百九十一	台南市
〃	作品五百九十二	台南市
〃	作品五百九十三	台南市
〃	作品五百九十四	台南市
〃	作品五百九十五	台南市
〃	作品五百九十六	台南市
〃	作品五百九十七	台南市
〃	作品五百九十八	台南市
〃	作品五百九十九	台南市
〃	作品六百	台南市
〃	作品六百一	台南市
〃	作品六百二	台南市
〃	作品六百三	台南市
〃	作品六百四	台南市
〃	作品六百五	台南市
〃	作品六百六	台南市
〃	作品六百七	台南市
〃	作品六百八	台南市
〃	作品六百九	台南市
〃	作品六百十	台南市
〃	作品六百十一	台南市
〃	作品六百十二	台南市
〃	作品六百十三	台南市
〃	作品六百十四	台南市
〃	作品六百十五	台南市
〃	作品六百十六	台南市
〃	作品六百十七	台南市
〃	作品六百十八	台南市
〃	作品六百十九	台南市
〃	作品六百二十	台南市
〃	作品六百二十一	台南市
〃	作品六百二十二	台南市
〃	作品六百二十三	台南市
〃	作品六百二十四	台南市
〃	作品六百二十五	台南市
〃	作品六百二十六	台南市
〃	作品六百二十七	台南市
〃	作品六百二十八	台南市
〃	作品六百二十九	台南市
〃	作品六百三十	台南市
〃	作品六百三十一	台南市
〃	作品六百三十二	台南市
〃	作品六百三十三	台南市
〃	作品六百三十四	台南市
〃	作品六百三十五	台南市
〃	作品六百三十六	台南市
〃	作品六百三十七	台南市
〃	作品六百三十八	台南市
〃	作品六百三十九	台南市
〃	作品六百四十	台南市
〃	作品六百四十一	台南市
〃	作品六百四十二	台南市
〃	作品六百四十三	台南市
〃	作品六百四十四	台南市
〃	作品六百四十五	台南市
〃	作品六百四十六	台南市
〃	作品六百四十七	台南市
〃	作品六百四十八	台南市
〃	作品六百四十九	台南市
〃	作品六百五十	台南市
〃	作品六百五十一	台南市
〃	作品六百五十二	台南市
〃	作品六百五十三	台南市
〃	作品六百五十四	台南市
〃	作品六百五十五	台南市
〃	作品六百五十六	台南市
〃	作品六百五十七	台南市
〃	作品六百五十八	台南市
〃	作品六百五十九	台南市
〃	作品六百六十	台南市
〃	作品六百六十一	台南市
〃	作品六百六十二	台南市
〃	作品六百六十三	台南市
〃	作品六百六十四	台南市
〃	作品六百六十五	台南市
〃	作品六百六十六	台南市
〃	作品六百六十七	台南市
〃	作品六百

台湾協会々員（五百四十四名）

（◎印は維持会費払込みの方）

一般会員

◎中山　晋平　◎田島　応親　◎田尻　愛義　◎小林　躋造

賛助会員

◎安藤　紀三郎　◎岩瀬　亮　◎大倉　喜七郎　◎大倉　喜八郎
◎大谷　光瑞　◎岡崎　嘉平太　◎小野　義一　◎加藤　恭平
◎川崎　克　◎木村　平八　◎久原　房之助　◎児玉　謙次
◎後藤　新平　◎小林　一三　◎小林　中　◎近藤　廉平
◎斎藤　実　◎坂田　重次郎　◎佐藤　喜一郎　◎佐藤　慎一
◎塩野　季彦　◎重光　葵　◎渋沢　栄一　◎渋沢　敬三
◎清水　留三郎　◎下村　宏　◎白石　元治郎　◎末延　道成
◎鈴木　梅四郎　◎鈴木　馬左也　◎鈴木　文治　◎関　桂三
◎高橋　是清　◎武内　作平　◎竹内　綱　◎田健治郎
◎田中　栄八郎　◎田中　義一　◎田村　利邦　◎団　琢磨
◎辻　新次　◎津田　信吾　◎寺内　正毅　◎徳川　家正
◎徳川　義寛　◎徳川　義親　◎戸沢　正保　◎富田　勇太郎
◎豊川　良平　◎永井　久一郎　◎中野　武営　◎永野　護
◎長谷川　好道　◎林　毅陸　◎原　邦道　◎原　敬
◎原　六郎　◎平賀　敏　◎広瀬　満正　◎福原　八郎
◎藤山　雷太　◎古河　虎之助　◎星　一　◎堀　啓次郎
◎本間　俊一　◎前田　利定　◎牧野　伸顕　◎松方　幸次郎
◎松方　正義　◎松平　恒雄　◎松本　重治　◎三井　高公
◎三井　高維　◎三井　八郎右衛門　◎三菱　社　◎三菱　商事
◎三菱　重工業　◎三菱　電機　◎三菱　倉庫　◎三菱　鉱業
◎三菱　石油　◎三菱　製鋼　◎三菱　地所　◎三菱　銀行
◎三菱　信託　◎三菱　化成　◎三菱　油化　◎三菱　レイヨン
◎三菱　金属　◎三菱　製紙　◎三菱　原子力工業　◎三菱　海上火災保険
◎三菱　信託銀行　◎三菱　商事　◎三菱　電機販売　◎三菱　ビル管理
◎三菱　倉庫　◎三菱　鉱業セメント　◎三菱　石油販売　◎三菱　樹脂
◎三菱　化工機　◎三菱　建設　◎三菱　自動車販売　◎三菱　製鋼販売
◎三菱　電線工業　◎三菱　ケミカル販売　◎三菱　倉庫不動産　◎三菱　油化産資
◎三菱　化成工業　◎三菱　化成食品　◎三菱　化成プラスチックス　◎三菱　金属鉱業
◎三菱　アルミニウム　◎三菱　伸銅　◎三菱　電線販売　◎三菱　製紙販売
◎三菱　原子燃料　◎三菱　総合研究所　◎三菱　マテリアル　◎三菱　鉱業セメント販売
◎三菱　石油開発　◎三菱　樹脂販売　◎三菱　化工機販売　◎三菱　建設販売
◎三菱　自動車工業　◎三菱　自動車販売　◎三菱　電線販売　◎三菱　ケミカル販売
◎三菱　倉庫不動産販売　◎三菱　油化産資販売　◎三菱　化成工業販売　◎三菱　化成食品販売
◎三菱　化成プラスチックス販売　◎三菱　金属鉱業販売　◎三菱　アルミニウム販売　◎三菱　伸銅販売
◎三菱　電線販売　◎三菱　製紙販売　◎三菱　原子燃料販売　◎三菱　総合研究所販売
◎三菱　マテリアル販売　◎三菱　鉱業セメント販売　◎三菱　石油開発販売　◎三菱　樹脂販売
◎三菱　化工機販売　◎三菱　建設販売　◎三菱　自動車工業販売　◎三菱　自動車販売
◎三菱　電線販売　◎三菱　ケミカル販売　◎三菱　倉庫不動産販売　◎三菱　油化産資販売
◎三菱　化成工業販売　◎三菱　化成食品販売　◎三菱　化成プラスチックス販売　◎三菱　金属鉱業販売
◎三菱　アルミニウム販売　◎三菱　伸銅販売　◎三菱　電線販売　◎三菱　製紙販売
◎三菱　原子燃料販売　◎三菱　総合研究所販売　◎三菱　マテリアル販売　◎三菱　鉱業セメント販売
◎三菱　石油開発販売　◎三菱　樹脂販売　◎三菱　化工機販売　◎三菱　建設販売
◎三菱　自動車工業販売

台湾協会会報

発行所
新宿区西大久保2の303
財団法人　台湾協会
電話　(03)　8116—7番
振替口座　東京　40307番
発行人　財団法人台湾協会
松本

全国から一万名
補償貫徹の叫び
政府、関係方面へ陳情
日比谷で引揚者大会

われわれ引揚者の最終目標である在外財産の補償問題は、いよいよ最終段階に向つてきたが、在外財産問題審議会においてもすくも十一月までに答申を行なうよう強く要求するとともに、第五十回国会に在外財産補償処理促進の決議を請願、政府に予算と立法措置を講じさせるために、在外資産補償確得期成同盟主催で、引揚者全国大会を十月十一日午前十時から東京日比谷野外音楽堂で大々的に開催した趣意は①審議会は十一月までに必ず政府に答申せよ②一月三十日東京高等裁判所の地裁部門の最終判決は天の声なり、よつてこれを尊重しすみやかに補償法をつくれ③国会は日韓条約批准前に請求権協定第二条で明らかな在外財産補償処理促進の大決議をせよ④賠償金を払わずにすんだのは在外財産を棒引きしたおかげだ⑤日本の経済成長は在外財産で賠償金支払いを立替えた結果だ⑥各政党は在外財産権の主張の正しさを認め超党派で補償公約せよのスローガンをかかげ、国会、政府、審議会などに波状陳情を行なつて、目的達成の基礎固めをするものである。

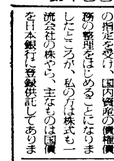
この日比谷野音集会には、北は北海道から南は沖縄にいたる全国から馳せ参ずる一万二千有余名に達して、満員盛況であつた。当日は土曜日の午後であつたので臨席の国会議員諸氏も午前十時の定刻前から多数の人々が入り、開会前はすでに超満員の状態であつた。

開会は二時半、司会者として、先ず来賓の紹介があり、次に先の大会議長、木川田一隆氏（東京電力社長）、中馬馨氏（東京銀行頭取）、大和与一氏（野村証券社長）、遠藤三郎氏（日窒社長）、佐藤虎次郎氏（元衆議院議長）、植竹春彦氏（元衆議院副議長）、松永東氏（元法務大臣）、石井光次郎氏（元衆議院議長）、小林絹治氏（元大審院長）、鈴木茂三郎氏（社会党代表者会議議長）、手島誠氏（民社党代表者会議議長）、藤山愛一郎氏（自民党代表者会議議長）、佐藤栄作氏（自民党幹事長）、福田赳夫氏（大蔵大臣）、椎名悦三郎氏（自民党副総裁）、三木武夫氏（自民党幹事長）、田中角栄氏（自民党政調会長）、川島正次郎氏（自民党総務会長）、小坂善太郎氏（外務大臣）、中曽根康弘氏（自民党代議士）、永田亮一氏（自民党代議士）、小川半次氏（自民党代議士）、小沢佐重喜氏（自民党代議士）、小平久雄氏（自民党代議士）、小山長規氏（自民党代議士）、小沢貞孝氏（自民党代議士）、小宮山重四郎氏（自民党代議士）、小山倉之助氏（自民党代議士）、小渕恵三氏（自民党代議士）、小沢辰男氏（自民党代議士）、小沢太郎氏（自民党代議士）、小沢一郎氏（自民党代議士）、小沢一郎氏（自民党代議士）、小沢一

終戦二十年 この人に聞く

生かしたい 日華平和条約第三条

元台湾貯蓄銀行 常務代表取締役 原田歳寿氏



終戦後、台湾の各銀行の代表者は金融機関の調査は極東を網羅するという意味から、私共も台湾に残るの十二月でした。母が七十九才で狭心症になっていたので、私は母の側に居ようと思ったからです。

台湾には、昭和二十年の三月には

中国の父孫文 今年が百年祭

双十節の史話

十月十日は中国の歴史の上で、党と国家と民族の上に、最も意義深い日である。革命の犠牲者たちが、血を流して、革命を起こし、革命の成果を守り抜いて、今日の中華民国を築き上げたのである。

この日は、革命の父孫文先生が、革命の最初の武装蜂起を指揮して、広州で、清朝の軍隊と戦ったが、敗れて、香港に逃れ、革命の同志と中華革命党を組織して、革命の準備に着々と進めていた。

そのとき、武昌における革命軍の蜂起が発生し、瞬く間に、清朝の統治は、崩壊し、革命の炎は、全国に燃え広がった。

孫文先生は、この報を、アメリカで聞いて、直ちに、帰国の途についたが、革命の成功を見ずして、大陸に、革命の種を播いて、病没した。

孫文先生は、革命の父として、国民から、仰がれているが、先生は、革命の指導者であるとともに、偉大な思想家であり、学者であった。

先生は、革命の目的を、三民主義におき、革命の方法を、軍政、訓政、憲政の三段階におき、革命の手順を、五権憲法におき、革命の外交を、平等互恵におき、革命の経済を、民生主義におき、革命の教育を、知行合一におき、革命の軍隊を、党軍におき、革命の同志を、革命同志会におき、革命の宣伝を、三民主義におき、革命の組織を、中国国民党におき、革命の最高指導者を、総理におき、革命の最高目標を、大同社会におき、革命の最終目的を、世界平和におき、革命の最終理想を、天下為公におき、革命の最終成果を、国家統一におき、革命の最終任務を、建国大綱におき、革命の最終段階を、憲政におき、革命の最終目標を、三民主義統一中国におき、革命の最終理念を、国際平等におき、革命の最終方針を、和平奮闘におき、革命の最終決心を、救国救民におき、革命の最終精神を、犠牲奮闘におき、革命の最終信念を、天人合一におき、革命の最終境地を、大公無私におき、革命の最終人格を、聖賢豪傑におき、革命の最終人生観を、生死一如におき、革命の最終生死観を、生命不滅におき、革命の最終信仰を、天国建設におき、革命の最終目的を、世界大同におき、革命の最終理想を、天下為公

花岡一郎の冤を雪ぐ

宮村堅弥氏の『マヘボ社日誌』に寄せて

高津理子さん切々の思い出

新高山麓の蕃地を視察中殉職された宮村堅弥氏の『マヘボ社日誌』の出版に対しては各方面の多くの関心が寄せられているが、これは出版記念誌作成の経過はさる会員の報告に譲るとして、ここでは宮村さんから寄せられた、左記の会員の感想を紹介するに止めたい。

理事

台湾協会の有志様、いつも御世話になりおりまして誠に有り難く御厚情の数々御厚く御礼申上げます。私は会員の蕃地様の数々御厚く御礼申上げます。私は会員の蕃地様の数々御厚く御礼申上げます。私は会員の蕃地様の数々御厚く御礼申上げます。

宮村堅弥氏の遺著『マヘボ社日誌』を読んだ。内容は、昭和五年に起こった霧社事件の際の蕃地警察官の活躍の記録が主であるが、霧社事件のほか、霧社の風光、マヘボの蕃社の概況、蕃人の風俗習慣、蕃社の教育、蕃人の生業、蕃人の性格、蕃人の信仰、蕃人の医療、蕃人の言語、蕃人の伝説、蕃人の歌謡、蕃人の遊戯、蕃人の婚姻、蕃人の葬儀、蕃人の家屋、蕃人の衣服、蕃人の飲食物、蕃人の武器、蕃人の農耕、蕃人の狩猟、蕃人の漁労、蕃人の交通、蕃人の交易、蕃人の貨幣、蕃人の刑罰、蕃人の迷信、蕃人の年中行事、蕃人の家族制度、蕃人の社会組織、蕃人の教育、蕃人の衛生、蕃人の蕃語、蕃人の蕃名、蕃人の蕃歌、蕃人の蕃謡、蕃人の蕃話、蕃人の蕃童、蕃人の蕃婦、蕃人の蕃女、蕃人の蕃男、蕃人の蕃老、蕃人の蕃社、蕃人の蕃屋、蕃人の蕃具、蕃人の蕃食、蕃人の蕃衣、蕃人の蕃装、蕃人の蕃飾、蕃人の蕃髪、蕃人の蕃顔、蕃人の蕃目、蕃人の蕃耳、蕃人の蕃鼻、蕃人の蕃口、蕃人の蕃歯、蕃人の蕃舌、蕃人の蕃喉、蕃人の蕃胸、蕃人の蕃腹、蕃人の蕃背、蕃人の蕃腰、蕃人の蕃尻、蕃人の蕃陰、蕃人の蕃手、蕃人の蕃足、蕃人の蕃指、蕃人の蕃爪、蕃人の蕃皮、蕃人の蕃肉、蕃人の蕃骨、蕃人の蕃血、蕃人の蕃脳、蕃人の蕃心、蕃人の蕃肝、蕃人の蕃肺、蕃人の蕃腎、蕃人の蕃胃、蕃人の蕃腸、蕃人の蕃膀胱、蕃人の蕃生殖器、蕃人の蕃排泄物、蕃人の蕃分泌物、蕃人の蕃老廃物、蕃人の蕃死体、蕃人の蕃霊魂、蕃人の蕃神、蕃人の蕃仏、蕃人の蕃鬼、蕃人の蕃悪魔、蕃人の蕃天国、蕃人の蕃地獄、蕃人の蕃極楽、蕃人の蕃輪廻、蕃人の蕃因果応報、蕃人の蕃善悪、蕃人の蕃美醜、蕃人の蕃貧富、蕃人の蕃貴賤、蕃人の蕃老若、蕃人の蕃男女、蕃人の蕃夫婦、蕃人の蕃親子、蕃人の蕃兄弟、蕃人の蕃姉妹、蕃人の蕃友人、蕃人の蕃知人、蕃人の蕃他人、蕃人の蕃敵、蕃人の蕃味方、蕃人の蕃戦争、蕃人の蕃平和、蕃人の蕃愛、蕃人の蕃憎、蕃人の蕃喜、蕃人の蕃怒、蕃人の蕃哀、蕃人の蕃楽、蕃人の蕃苦、蕃人の蕃生、蕃人の蕃死、蕃人の蕃老、蕃人の蕃病、蕃人の蕃医、蕃人の蕃薬、蕃人の蕃食、蕃人の蕃飲、蕃人の蕃睡、蕃人の蕃覚、蕃人の蕃夢、蕃人の蕃現、蕃人の蕃幻、蕃人の蕃空、蕃人の蕃時、蕃人の蕃間、蕃人の蕃空間、蕃人の蕃時間、蕃人の蕃宇宙、蕃人の蕃地球、蕃人の蕃日月、蕃人の蕃星、蕃人の蕃雲、蕃人の蕃雨、蕃人の蕃風、蕃人の蕃雪、蕃人の蕃霜、蕃人の蕃露、蕃人の蕃氷、蕃人の蕃山、蕃人の蕃川、蕃人の蕃海、蕃人の蕃湖、蕃人の蕃池、蕃人の蕃沼、蕃人の蕃森、蕃人の蕃林、蕃人の蕃野、蕃人の蕃原、蕃人の蕃田、蕃人の蕃畑、蕃人の蕃道、蕃人の蕃橋、蕃人の蕃家、蕃人の蕃屋、蕃人の蕃門、蕃人の蕃庭、蕃人の蕃園、蕃人の蕃垣、蕃人の蕃塀、蕃人の蕃窓、蕃人の蕃戸、蕃人の蕃壁、蕃人の蕃天井、蕃人の蕃床、蕃人の蕃畳、蕃人の蕃襖、蕃人の蕃障子、蕃人の蕃机、蕃人の蕃椅子、蕃人の蕃箪笥、蕃人の蕃鏡、蕃人の蕃台、蕃人の蕃灯、蕃人の蕃火、蕃人の蕃水、蕃人の蕃土、蕃人の蕃石、蕃人の蕃木、蕃人の蕃竹、蕃人の蕃草、蕃人の蕃花、蕃人の蕃実、蕃人の蕃種、蕃人の蕃苗、蕃人の蕃芽、蕃人の蕃葉、蕃人の蕃茎、蕃人の蕃根、蕃人の蕃幹、蕃人の蕃枝

旧豊田村(花蓮港)の人々

福岡で会合、名簿も出来上る

もと花蓮港の豊田村にいた開平、[illegible]たち各方面からの寄り集まりではあったが実になかなか賑やかしい会合だった。

この会合は豊田村に住んだ人々の連絡がとれるようにと第一回を福岡で会合を開いたが、第二回を熊本で開き、第三回は株田で開催することに決まり、そして再び福岡で会合を開くことになっていた。

◇

島は台湾に大小関係なく散在しており、また職業関係上たちのありまたが、戦後グループ毎に東部台湾の移民村であった豊野、豊田、林田の三村に移されたりしたので、一時は全く消息不明の人もあったが、最近になって一人一人の消息がはっきりしてきた。

その為の会合を開こうと言うことになったのである。

◇

福岡での会合は、昨年の十月三日、四日の両日、福岡市内の料亭「[illegible]」で行われた。

当日は台湾から中川開発の[illegible]氏、[illegible]氏、[illegible]氏、

台湾協会々員会費領収報告

九月十日より十月十日まで

賛助会員

和歌山市吉田一五ノ四　石橋　永年（旧名友太郎）

一般会員

静岡市西二六二　伊東　正成
愛媛県西条市明屋敷七二　畠田　賢治
東京都中野区江原町二ノ四　千浦　太郎
東京都八王子市八日町三ノ二　林　馬三
中野区江古田三ノ二ノ七　高橋　卓平
目黒区上目黒二ノ七七七　甲木　譽吉
福岡市西公園一六二　二反田真一
愛媛県西条市明屋敷七二　鵜沼　彰
東京都中野区江原町二ノ四　増山　勝男
東京都八王子市八日町三ノ二　江川　規一
中野区江古田三ノ二ノ七　大西　由政
目黒区上目黒二ノ七七七　竹田喜一郎
静岡市西二六二　石坂　とみ
愛媛県西条市明屋敷七二　曾田　長崇
東京都中野区江原町二ノ四　佐藤　淨
名古屋市中区錦町四ノ二四　鳳鍋　章助
静岡県富士宮市上条町一〇七　〃　寛
東京都八王子市八日町三ノ二　勝田　なみ
中野区江古田三ノ二ノ七　久米　幸雄
目黒区上目黒二ノ七七七　中島　道一
静岡市西二六二　大村　榮
静岡市音羽町一五六の一　秀
沼津市高島町一三〇　増田佐四郎
埼玉県川口市芝下四ノ五六　菅井重太郎
世田谷区若林四ノ三九ノ二　洪　遠礼
名古屋市熱田区伝馬町六四　戸田　弘章
杉並区南荻窪一ノ九　大西　二三
杉並区南荻窪一ノ九　今沢　正雄
神戸市兵庫区清水町六二　宝嶌　弘二
岩手県宮古市末広町一ノ二八　笹谷　早
東京都青梅市沢井四八四　勝仙閣　若江　文範
千葉県浦安市猫実一ノ二八　山本　英之助
世田谷区代田一ノ五ノ八　山本　義信
目黒区中目黒二ノ一　菅野　正朗
練馬区関町三ノ八八　金子　滋男
練馬区大泉町三ノ八八　横田　正行
新宿区西大久保一ノ四一〇　甲田　重雄
目黒区上目黒五ノ二　古井八　上滝　利雄

会友

新潟県三条市二ノ本言四間町五九　玉沖　三栄
桜井　幸太　八木　貫吾
石井　愛二
梅津　乙治
角田　文
戸水　とよ
朝隈　宏光
塚元　佐朗
重森　礒太
布村　利貞
川中　宏莉
第一医院
上滝　利春
永井　繁樹
谷川徳三郎
宗野米次郎
藤井　肇伊
松本　銕郎

杉本良さん（元文教局長）

『新番組の人々』出版

近ごろ縁故のうちに謡曲や歌集などを自費出版する人が目立つている。一種の流行ともいえようが、片つけるべきものではなく人生行路での二つの記録として〝ひとのふり〟かのふかれ〟わがふり〟への反省にも役立つ点があるわけである。先には前文民政の歌集「涙頌也」が多くの人に読まれたのも、これは民間の政治家、官僚生活の中から得られた歌の数々であり、最近では中部二郎の「機縁」が出た。エンジニアの余暇として風味が感じられ、さらに元台湾行政長官、現在郷里静岡県茶の製造に当りながら新番組の人々として風味が感じられた。

元台北第三高女教諭土屋セツ子女史（練馬区豊玉北五の二五、夫君は米吉氏）が東京女子師範（お茶の水）時代に、その師であった尾上チ、ゆづり葉（歌誌ひと）の静（土屋セツ子）選歌抄（谷山つる枝）の頭な歌歌人で、淳文知識溢ろ、尾上兼英（柴舟師の息）、あとがき裏付き、装幀雅俗子で登頭きに始りし日の尾上師の写真をはじめ、お茶の水橋内の案内図、師友たちの歌碑の写真など、大正十一年夏尾上師子の写真など七葉が飾られ「尾上柴舟先生著書目録」にさきわしい装幀なっている。土屋女史の歌は「花吹雪」にはじまり昭和三十九年に至るまで九十八首に及んでいる。まえがきの中で

：昭和何年の夏でしたか、夏休みも終り、台北から婦女の集りの席上で、尾上先生の著書目録の中に、「花吹雪」と「青朽葉」と「ゆづり葉」の三冊の歌集名を見つけました。

と述べ、師友たちの歌碑の写真をはじめ、お茶の水橋内の案内図、師友たちの歌碑

台湾協会報　（昭和29年11月10日第三種郵便物認可）（毎月14日発行）

発行所
新宿区西大久保2の303
財団法人　台湾協会
電話　㈹　8116―7番
振替口座　東京　40307番
発行人　財団法人台湾協会
代表者　松本虎太

台湾引揚時の『清册』問題

在外財産問題 審議会に提示さる

日華平和条約第三条の空文化をふせぐ

村山喜一委員を通じて

語る村山喜一氏（台湾の全席上）

台湾に在住した日本人の台湾引揚時に日本人私有財産を中国政府により接収された際、その財産を証明する『私人財産清册』が発行され、その清册は日本への持帰りを許されたのである。右の内、在外預貯金は昭和二十九年度末十五日法律（一五号並に一七号）に依り払戻しが行われたが、他のものについてはその後何等の交渉が行われず、これ等の在外財産は日華平和条約第三条の問題の特別取扱いを受けることを前提として、政府は昭和二十七年度以来、在外財産問題調査会（会長山田秀氏）において具体的な検討を進めてきたところである。

この問題は先に内閣に設置された在外財産問題審議会（会長山田秀氏）において具体的な検討を進めてきたところであるが、この一般問題と切り離して、台湾関係者の問題を取り上げるべきであるとして、台湾協会が、他のものについてはその後何等の交渉が行われず、これ等の在外財産は日華平和条約第三条の問題の特別取扱いを受けることを前提として、政府は昭和二十七年度以来、在外財産問題調査

月刊　台湾協会会報　(第三種郵便物認可)　第134号

この人に聞く

人生の勝負

つかみ方　生かし方

日本貿易信用社長　佐々木義彦氏

左の佐々木氏の談話は雑誌『オール生活』十一月号特別に掲載された「勝負どころのつかみ方・生かし方」と題する二文を佐々木氏の了解を得て転載するものである。

◇　◇

仕事には全身全霊を打込め

八年間、病気と争ってきたものには一つとしてかったことがない。今年になって、ついに十余貫減ってしまった。阿名は病気である。

この十余貫というもの、歴年親しんできた酒ともお別れしなければならなかった。なんとも辛いことだった。

人間、健康であります方は何もわるいものはない。これが勝負だ、と思ったら命がけでやればいいのである。せっかく勝負どころだと思っても、病気がちでは思うようにいかない。若い時にも健康だけは十分に気をくばっておしいものである。

若いころ健康にめぐまれた私は仕事に夢中になり、酒を飲むときには徹夜して飲み、また若気のいたりでケンカなども随分にやったものである。

とくに、仕事については、ここぞと思ったときには全身全霊を打ち込んだ。この心掛けが最も大切なことだと思う。結して、中途半端な仕事はできないものだ。

私は、明治四十二年神戸に佐々木商店を創業し台湾銀行と大口取引をはじめ、今日までの約六十年の変化につぐ変化の連続であったが、わたしも変化に強い残っている仕事がこうある。一つは台北支店のロンドン支店の開設、二つは昭和二年の鈴木商店の整理を含むところの東レーヨンの前身である東洋レーヨンの創設、この三つである。

思い切ってやってみる

大正三年、第一次世界大戦の始まった年、私はロンドン支店開設を命ずる命を受けて、単身で赴任することになった。最初から戦火の真っ只中に飛び込むようなものだった。

一週間後、イギリス人の乗った一本の汽車を出すことになり、日本人も傾斜を命ぜられた。この時私は本店に次のような電報を打った。

「命は大丈夫と思うにつき前進する。命は足まといにつき引き揚げる。いまの若い人にはオーバー表現に思われるかも知れないが、ロンドン支店の開設には最初から私は命をかけていた。しかし何が実績をつくってから死のないが途中では死ぬに死にされない。情報と前進と打った。

モスコーについてみると金がついていないので大に困り、ちょうど居合せた斎藤という代議士に金を借りて ホッと息をついた。

イギリスに着いてみると、ロンドンの支店の開設は私の予想外に難しいことは、私の力の及ばない事が横たわっていたのである。

ロンドン支店の開設は私の最初の勝負どころであった。これまで力の発揮のしどころと考えた私は、ロンドンの開設にあたっては、全身全霊を打込んだのである。

時あたかも大戦中のことだから、なかなか支店を開くに開くことができない。支店を開くに開くことができない。支店を開くに開くことができない。支店を開くに開くことができない。支店を開くに開くことができない。

引き揚げた日は全重量的に

昭和初頭の戦後のうつかけとなった鈴木商店の破産にあるように、鈴木商店の破産にあるように、鈴木商店の破産にあるように、

新竹会の家族会

早くも十一回目　遠隔地からも参加

第十一回新竹会家族会は、十月二十四日に年一回の定例の新竹会があったが、本年は例年通りの新竹会のほかに、参加者が多数かつたため、懐旧座談会中心とした大会（第一回）開催された。昨年はオリンピックを記念して新竹会を中心とした同窓会の三団体（新竹同窓会、同新竹婦人会、同中学校同窓会）が合同で「家族会」を開催し、二百名を超える多数の参加者があつて、これが中心となり大会の開も組織開催であつて新竹会は会の発展にたゆまぬ努力をつづけてきたが、今回ほど会員の団結の強さを感じたことはない。

当日は午前十時から台北市内の中華料理店「蓬萊閣」で、台湾引揚二十周年記念「高知県台湾会」を開催した。東京から同県出身の衆議院議員五氏も列席、盛会の一夜を心ゆくまで懇談の話題に時を過ごし、今後は年中行事として この会を開くことを申合せた。当日の出席者は左の通り。

太奈義美、福留後二、鈴木利茂、田村禎城、小松定次、坂本栄美、森田豊秋、田辺雄、山本虎児、高橋豊一、松本知明、谷口保、浜田勇助、大谷貞吉、志賀敏男、田内繁吉、田内清義、岡崎孝治、松田文雄、中北保、原崎勝郎、美、明都孝純、竹内義、内川介、角田喜蔵、浜田正彦、竹内哥、岡村治彦、福島竜、宮地健一、春雄、猪木幸、岡本秀吉、次人ら9名。

内台航路〝鰻〟談

元日本郵船高雄支店長　伊藤定治

最近ウルメンチから輸入したはその真偽の論議がクローズ・アップされ、また国内で大量に焼却処分された、また台湾から輸入したバナナが検疫で台湾方面から投棄された等の問題から これら輸入食品の検疫、検疫強化の再件が起るたびに日台航路のうるさい、山本喜一、岡本寛之、福田教授。

台東会

第七回台東会は十一月二十三日椰区茶坂福吉町一丁ホテルあけぼの開かれ幹事石橋知美、伊藤武夫、大野拓先氏ら多数集まり戦後二十年に感慨を新せた往時大いに語りあうた。

高知県の台湾会

東京から塩見参議院議員も出席

高知県に在住する台湾から引揚げの人々は今年が早くも引揚げ後二十年になるところから、十月三十日午後五時半から台北出身者の経営する高知市場内で「台湾引揚二十周年記念」高知県台湾会有志懇談会」を開催した。東京から同県選出の参議院議員塩見俊二氏も列席、盛会の一夜を心ゆくまで懇談の話題に時を過ごし、今後は年中行事として この会を開くことを申合せた。当日の出席者は左の通り。

太奈義美、福留後二、鈴木利茂、田村禎城、小松定次、坂本栄美、森田豊秋、田辺雄、山本虎児、高橋豊一、松本知明、谷口保、浜田勇助、大谷貞吉、志賀敏男、田内繁吉、田内清義、岡崎孝治、松田文雄、中北保、原崎勝郎、美、明都孝純、竹内義、内川介、角田喜蔵、浜田正彦、竹内哥、岡村治彦、福島竜、宮地健一、春雄、猪木幸、岡本秀吉、次人ら9名。

高知県台湾会の

台中の鐘樓

今年末までに完成

台中の邦人遺骨安置所に設置準備委員会から頼まれた納骨をうるために、四百余柱の遺骨を安置している。一部は建設会社

わが生涯の最良の年

中島道一

過ぎてしまえばのどもとを通ったようにすぎてしまったことにも言えるし、また、そのほとんどが記憶にとどまらないものであったようにも言えるし、それはあまりにも多忙な毎日であったために、その一年一年の印象が稀薄であ

現代の台湾文壇

雑誌「台湾文芸」を読んで

台湾協会々員
会費領収報告

十月十一日より十一月十五日まで

（敬称略）

法人会員			
一般会員			
千代田生命保険相互会社	松	日本郵船	
三菱商事	岡	日本郵船	
三菱銀行	頭	日本郵船	
三菱重工業	頭	日本郵船	
三菱信託銀行	頭	日本郵船	
三菱倉庫	頭	日本郵船	
三菱電機	頭	日本郵船	
三菱石油	頭	日本郵船	
三菱化成工業	頭	日本郵船	
三菱鉱業セメント	頭	日本郵船	
三菱製鋼	頭	日本郵船	
三菱レイヨン	頭	日本郵船	
三菱油化	頭	日本郵船	
三菱製紙	頭	日本郵船	
三菱金属鉱業	頭	日本郵船	
三菱農機	頭	日本郵船	
三菱建設	頭	日本郵船	
三菱自動車販売	頭	日本郵船	
三菱化工機	頭	日本郵船	
三菱倉庫冷蔵	頭	日本郵船	
三菱海運	頭	日本郵船	
三菱造船	頭	日本郵船	
三菱原子燃料	頭	日本郵船	
三菱樹脂	頭	日本郵船	
三菱化学	頭	日本郵船	
三菱電線工業	頭	日本郵船	
三菱製鉄	頭	日本郵船	
三菱化学産業	頭	日本郵船	
三菱鉱業	頭	日本郵船	
三菱電機ビルデイング	頭	日本郵船	
三菱ビルデイング	頭	日本郵船	
三菱地所	頭	日本郵船	
三菱倉庫不動産	頭	日本郵船	
三菱倉庫ビルデイング	頭	日本郵船	
三菱倉庫建物	頭	日本郵船	
三菱倉庫運輸	頭	日本郵船	
三菱倉庫港運	頭	日本郵船	
三菱倉庫陸運	頭	日本郵船	
三菱倉庫荷役	頭	日本郵船	
三菱倉庫通運	頭	日本郵船	
三菱倉庫梱包	頭	日本郵船	
三菱倉庫サービス	頭	日本郵船	
三菱倉庫冷蔵	頭	日本郵船	
三菱倉庫海運	頭	日本郵船	
三菱倉庫造船	頭	日本郵船	
三菱倉庫機械	頭	日本郵船	
三菱倉庫電機	頭	日本郵船	
三菱倉庫建設	頭	日本郵船	
三菱倉庫工業	頭	日本郵船	
三菱倉庫化学	頭	日本郵船	
三菱倉庫繊維	頭	日本郵船	
三菱倉庫食品	頭	日本郵船	
三菱倉庫商事	頭	日本郵船	
三菱倉庫貿易	頭	日本郵船	
三菱倉庫興業	頭	日本郵船	
三菱倉庫観光	頭	日本郵船	
三菱倉庫不動産	頭	日本郵船	
三菱倉庫ビルデイング	頭	日本郵船	
三菱倉庫建物	頭	日本郵船	
三菱倉庫運輸	頭	日本郵船	
三菱倉庫港運	頭	日本郵船	
三菱倉庫陸運	頭	日本郵船	
三菱倉庫荷役	頭	日本郵船	
三菱倉庫通運	頭	日本郵船	
三菱倉庫梱包	頭	日本郵船	
三菱倉庫サービス	頭	日本郵船	
三菱倉庫冷蔵	頭	日本郵船	
三菱倉庫海運	頭	日本郵船	
三菱倉庫造船	頭	日本郵船	
三菱倉庫機械	頭	日本郵船	
三菱倉庫電機	頭	日本郵船	
三菱倉庫建設	頭	日本郵船	
三菱倉庫工業	頭	日本郵船	
三菱倉庫化学	頭	日本郵船	
三菱倉庫繊維	頭	日本郵船	
三菱倉庫食品	頭	日本郵船	
三菱倉庫商事	頭	日本郵船	
三菱倉庫貿易	頭	日本郵船	
三菱倉庫興業	頭	日本郵船	
三菱倉庫観光	頭	日本郵船	

台湾協会
入会の御案内

台湾に縁故又は関係を有する法人、団体または個人、どなたでも入会お出来ます。

会員には次のような特典があります。

一、本会発行の刊行物の配布を受けること
二、本会講演会の優先的聴講
三、本会図書の閲覧の利用
四、本会主催の講習会の利用
五、本会主催の講演会（台湾の各種事情）
六、各種の情報、斡旋、照会
七、その他台湾の事情調査に関しお役に立つこと
八、会報の無料配布

会費は年額　法人（一口以上）一口につき一万円、個人（賛助会員）一口千円、維持会員（一口以上）一口につき五千円

入会希望の方は御申込下さい。追ってご案内申上げます。

申込書、会員規則等をお送り致します。

会費の御送金は振替（振替口座東京四〇一三七番）

台湾協会

俳句欄

下田実花選

佐久市　出沢ミキコ

休みなりのきのうのまうと寝ぎわまで
写経よりまた自由な家族のセーター編む
松茸は酒盛に出てしめじ食ふ　大分　平岡香庵
夜もすがらの虫と雨音を枕に聞く
目隠しとなり隠りつれて秋深し　京都　下山喪人

選者吟

短日や金閣寺までたんの河
木もそのかみの金閣寺とかや金雲
にとりつきはじし寒鳥かな
京　沼あい子
「雪山」
くだくだのかなたの山のこの谷を
なだめなだめあれは雪山はるる
県境の雪山の雄々しけれ
「手形」
病衰をさとりつつ見やる冬山
それをバックに従の記念撮影
同窓会のまた一人減る冬の雨
白玄の冬に平和なる幸福
山茶花生垣干しものかぎり垂らしたて
山茶花の花よりも紅の濃き蕾

歌壇

「民族の河」　相原良一
民族の河の流れのいつまでも
民族の河の流れのいつまでも
民族の河のいつまでも
「一人一人起て」　仲村文子
一人一人起てのスクラムかたく
一人起上のスクラムかたく
「てくやん版画」　守屋栄夫
この日本黒かみも版画の
この日本黒かみも版画の
「紅一点」　高橋康子
「紅一点」の金魚出現せり
「紅一点」の金魚出現せり
「蛇踊」　李岡高子
「蛇踊」の人の身体を
「蛇踊」の人の身体を
「雪山」　笹沼あい子
「雪山」の山のこの谷を
「雪山」の山のこの谷を
「手形」　高橋康子
「手形」のかなたに
「手形」のかなたに

歌壇

「民族の河」　相原良一
「民族の河」　仲村文子
「一人一人起て」　守屋栄夫
「てくやん版画」　高橋康子
「紅一点」　李岡高子
「蛇踊」　笹沼あい子
「雪山」　高橋康子
「手形」

俳句欄

下田実花選

佐久市　出沢ミキコ

休みなりのきのうのまうと寝ぎわまで
写経よりまた自由な家族のセーター編む
松茸は酒盛に出てしめじ食ふ　大分　平岡香庵
夜もすがらの虫と雨音を枕に聞く
目隠しとなり隠りつれて秋深し　京都　下山喪人

選者吟

短日や金閣寺までたんの河
木もそのかみの金閣寺とかや金雲
にとりつきはじし寒鳥かな
京　沼あい子
「雪山」
くだくだのかなたの山のこの谷を
なだめなだめあれは雪山はるる
県境の雪山の雄々しけれ
「手形」
病衰をさとりつつ見やる冬山
それをバックに従の記念撮影
同窓会のまた一人減る冬の雨
白玄の冬に平和なる幸福
山茶花生垣干しものかぎり垂らしたて
山茶花の花よりも紅の濃き蕾

台湾協会報

発行所
新宿区西大久保2の303
財団法人　台湾協会
電話　8116—7番
振替口座　東京　40307番
発行人　松本　七吉

台湾在外財産処理特別委員会 新陣容で解決促進

台湾在外財産処理特別委員会では当面している一般在外財産補償問題と共に台湾関係抑留の問題である引揚時の書簡問題を協議するため十二月一七日午前一時から台湾協会中央ビルにおいて委員会を開き、その委員会の協議事項を中心に、十二月九日午後一時より同ビルにおいて総会を開催、会則の一部を変更、「委員長、副委員長、常務理事は委員長の指名」とすることに改定、左の通り役員を決定、同時に田中委員長より次の常務理事を指名、就任をもって協会並びに同委員会の新陣容をもって懸案の諸問題に対し邁進することになった。

委員長　田中寅作
副委員長　照田鍵寿
　　馬場　弘
　　岩佐直則
常任委員　関川繁治、田窪満策、林吉一、上原米吉、都野利作、松本照吉、波平恒男、三井名八郎、名井九郎、広瀬健一郎、藤原耕治、青島幸雄
事務局長　青島幸助
　　顧　問　松本烝治、小峯柳一、寺尾　亨、山崎巌、平田末治、西村熊雄、江藤夏雄、橋本徹二、鵜沢　総明、古屋慶隆、大口善徳、西村恒一。

地方委員は直任

地方委員は左の如く直任となった。

△北海道、寒川恒貞（公認会計士）、△青森、三浦一雄、△岩手、斎藤次郎、△宮城、大内一、△秋田、山口一太郎、△山形、佐藤孝行、△福島、鈴木善幸、△茨城、大井憲太郎、△栃木、大島広志、△群馬、小暮光三、△埼玉、大谷贇雄、△千葉、小林一三、△東京、大蔵公弘、△神奈川、河野金昇、△新潟、金子清、△富山、三好重夫、△石川、小松原道太郎、△福井、斎藤栄三郎、△山梨、天野公義、△長野、北沢直吉、△岐阜、武藤嘉一、△静岡、武藤三五郎、△愛知、加藤鐐造、△三重、川崎末五郎、△滋賀、大橋武夫、△京都、二階堂進、△大阪、園田直、△兵庫、正力松太郎、△奈良、岡崎英城、△和歌山、宮本惣兵衛、△鳥取、西村直己、△島根、小笠原八十美、△岡山、小野哲、△広島、坂田道太、△山口、山下栄二、△徳島、新井俊三、△香川、鈴木善幸、△愛媛、鈴木利雄、△福岡、中村寅太、△佐賀、副島千八、△長崎、坂口主税、△熊本、田中彰治、△大分、佐藤虎次郎、△宮崎、黒金泰美、△鹿児島、床次徳二、△沖縄、西村熊雄（以上）、△参議院、青島幸雄、△衆議院、藤枝泉介（以上）

台湾の会・お知らせ

一、日　時　一月八日（土）午後一時
一、会　場　新年交礼会
　　台湾協会、中央ビル七階
　　新宿区西大久保二ノ三〇三
　　電話（三六九）八一一六—七

台湾縁故者の出席を希望します。

高雄に製鉄所建設

日華経済協力委で決定

日華協力委員会の第十回総会は十二月六日から十日まで東京プリンスホテルで開かれ日本側からは足立正日本商工会議所会頭、屋僧介元商相、評論家細川嘉六氏ら、台湾側からは何応欽戦略顧問兼主任委員、谷正綱中国国民党中央常務委員ら、谷正綱中国国民党中央常務委員ら出席、政治、文化、教育の三委会に分れ当面する日華の諸問題につき語り合った。なお台湾関係での問題は高雄に製鉄所建設の件が取り上げられ、その建設については日、米、西独の協力が話題を呼ばせた。

『清册』問題を推進

総理大臣へも要望書

台湾引揚時の清册に関する問題については、その疑問点を説明した内閣の在外財産問題調査会等も同日は結論に至らなかったため十二月二十二日、二十四日の会合を開いて、さらに討議することとなった。

引き揚げ者団体から事情聞く

在外財産問題調査会は二十六日午後一時二十分から東京・平河町の全国町村会館で第十八回総会を開き、引揚げ者団体全国連合会（約百万世帯、二百三十万人の三団体事務局長、北条秀一元厚生大臣、大石義雄元都知事、大石義雄元都知事、三浦義男元都知事、三浦義男元都知事、三浦義男

月刊　台湾協会報　第135号　(第三種郵便物認可)

国家は補償考えよ

在外財産に対する法理論

在外財産問題審議会委員
衆議院議員
村山喜一

前文

第三次在外財産問題審議会が設けられてから、二年の月日が流れ、十八回の審議を経て、法理論の問題も結論の段階に入ろうとして居ります。台湾引揚者の中から、唯一人の審議会委員として出席している私として、この結論であるべきかを、広く関係者の意見を求めるべきであるとの見解に立ち、私案をまとめるものであります。台湾協会に加盟の皆さんの御意見を折りつつ。（写真は村山氏）◇

一、国際法上在外財産は補償すべきか

国際法上若干財産権というフリンシプルが厳格的に確立されていること、又第二次世界大戦以来個人財産の無補償放棄は国際法上違法であるという説とがあるとしても、平和条約の成立後に於ける講和後の政策として、戦後敗戦国に対して平和回復の条件としてとった戦勝国に対する戦争損害賠償の履行の一部として戦敗国民の個人財産を差押え、管理、清算等の処分を認めた、静岡の茶の問題が先ず起こり、次いで台湾に於ける日僑財産が問題となり、更に樺太、千島、満洲、北鮮、南鮮と多くの問題が出ているが、これらの問題に対しては、国際法上、国家は国民の国外財産を国際的平和回復を目的とする戦争損害賠償の場合国民の財産の処分を認めるという日本政府の見解であり、又サンフランシスコ平和条約第十四条(a)(1)によって政府は、在外財産を放棄したが、これは敵国にある在外財産の処分を連合国に委せたことについて外交保護権の行使を放棄したのであるというサ

台湾協会々員
会費領収報告
十一月十六日より十二月十三日まで

賛助会員
（略）

一般会員
（略）

台北二中の同窓会

（略）

台湾からの留学生の会
総幹事からの便り

（略）

俳句欄
下田実花選

（略）

選者吟

（略）

歌壇

（略）

「人間の皇」内容
（略）
台湾協会事務局

台湾協会報

発行所
新宿区四谷大久保2の303
財団法人　台湾協会
電話　牛込　8116—7番
振替口座　東京　4030番
発行人　松本　宛名財団法人台湾協会

叙勲五氏を祝賀

台湾の会　新年交礼会

台湾の会の新年交礼会は一月八日午後一時から台湾協会中央ビルにおいて、昨年叙勲された

勲一等　石井光次郎
勲一等　蜂谷　輝雄
勲一等　林田　正治
勲四等　伊藤　定治
勲四等　吉良　洋平

五氏の叙勲祝賀会を兼ねて行なわれた。先ず台湾協会の松本理事長より

この機会に気分を一新して、皆さんと共に苦しい衝立の取り扱いと共に、協会として最善のあると仕事を度いと思っております。皆さんにも良い年であるようおいのります。

と新年の挨拶を述べ、ついで、協会創設の長谷川元総督は一回忌代表して、受勲者への祝辞として出席の二人の外に三人の御方は、それぞれの仕事を通じて社会国家にされた方で、その功績を国家が認めたものであった、御本人の栄誉はもとよりであるが、われわれの会員の中からこうした人名出した事はわれわれの名誉とも思う訳でもあります。今後も社会のためにしていただき度い。

とそれぞれの功績を讃えて祝意を表した。ついで、緑谷氏は

一言御礼を申上げます。石井さんのように本当に栄誉のある方の外に私にまでも長谷川元総督より御挨拶をいただき感謝にたえません。私は大東亜戦争の起る直前から長谷川総督の下で外事警察として勤務、総督府に情さんから御指導を受けました。それからビルマに参り、チャンドラ・ボースの自由印度政府の連絡に当りました。昔を想うとはまことに思い出の深いものがあります。終戦後一年で帰国、外務省に帰り、吉田首相の秘書官、製薬金属鉱業の監事などやり、それからずっと台湾協会の仕事をやっていますが、今度、皆さんのお誘で栄誉を与えられ感銘を深くしています。私も大分齢をとりましたが本日ここに来て見ると、長谷川、竹城、榎川の諸先輩が元気でおられるのを見て、私もまだまだ働けるぞと元気を感じています。今後共よろしくお願いします。

ついで伊藤定治氏が起って

只今は身に余る御祝辞を頂戴して過ぎた存じています。

昨年の十月に政府から勲章をやるから受けるかどうかのお話がありどうせ会社員が貰う勲だから大したのでは困るなと思っていたところ、勲四等瑞宝章と聞いて、これは大変なものを貰うことになったと驚きました。その時より一層下には進めない様にと一生懸命働いてきました。そして、十一月三日皇居で陛下に拝謁、勲章を頂戴した時は感激の涙が流れました。それより九段会（天皇陛下と同じ年の人々の会）を代表して感謝の意を表したが、今年八十四歳を迎えて益々元気の後藤翼氏の「国姓爺」、「台湾の後藤翼氏の「国姓爺」、松山の梅屋敷などを訪ね、「国姓爺」の跡を知り、これ迄の苦しい事業の御祝いを受けた伊藤定治氏の細田「羽衣」などの余興に新年らしい華やかな雰囲気を盛り上げて午後二時半盛会裡に散会した。

なおこの日、台湾協会の業務課長として在外財産審議会委員として活躍中の村山喜一氏より左の如き祝電が寄せられた。

台湾の会の御盛会を祝し、今後の御発展を祈ります。併せて五十二（四二）三三二となった氏の御勲をお祝い申上げます。

村山喜一。

人事消息

△曾田長宗氏（国立公衆衛生院長・元台湾総督府衛生技師）旧年十二月十五日付で発令、新潟県出身六十四才

△台湾総督府（国際戦略顧問主任委員）旧年日本政府から勲一等旭日大綬章が授与された。なお百六十一歳

△近藤鉄八氏（弁護士）異色ある経歴彩麗を旧年末二十八日まで東京ニューセンターキャラリーで開いた。

△大田政作氏（台湾十二銀行元台北支店長）より立度に依る御寛、長谷川氏の東京に於ける御祝いに御出席、西村百合子さんの詩吟「七彩観月十三夜」、今年八十四歳を迎えて益々元気の後藤翼氏の「国姓爺」、松山の梅屋敷などを訪ね、「国姓爺」の跡を知り、これ迄の苦しい事業の御祝いを受けた伊藤定治氏の細田「羽衣」などの余興に新年らしい華やかな雰囲気を盛り上げて午後二時半盛会裡に散会した。

なおこの日、台湾協会の業務課長として在外財産審議会委員として活躍中の村山喜一氏より左の如き祝電が寄せられた。

台湾の会の御盛会を祝し、今後の御発展を祈ります。併せて五十二（四二）三三二となった氏の御勲をお祝い申上げます。

村山喜一。

△田沢次郎氏（通産省・繊維局長）地盤開発（借）庁長官として、一年半国内政務調査団として、一年半国石油紙物資総局に備し、国費五名と共に紙物資総局の指導および援助に当れることとなり、去る十二月二日正午羽田発先の出発（港区芝白金台町一の一）

△田沢次郎氏（通産省・繊維局長）地盤開発（借）庁長官として、一年半国内政務調査団として、一年半国石油紙物資総局に備し、国費五名と共に紙物資総局の指導および援助に当れることとなり、去る十二月二日正午羽田発先の出発（港区芝白金台町一の一）

△金竜雄一氏（明治製糖取締役より昭和産業開発監事就任に転任、白七は世田谷区下馬町三の二五、電話四二一局九三六

△高橋場弘氏（虎の門電話所が元の場所に新装され新年より開所にて事務をとっている。港区芝琴平町三三、電話五（三）二一九六

△山田みねさん（福岡市より宮崎市南栄町一〇、桐川隊宿方へ転居

△大村慶氏（豊中市末広町三丁目

△埼玉県人倶楽部福岡町一五一〇大熊康信氏のお母様ご病気のため佐賀県杵島郡北方村（本名三一）氏からの知らせ（即日着）をいただきました。

台湾東会の世話人の方々の知っている方お二人をお知らせします。

○大野若栄氏
東京都足立区栗原町一一六〇
○横田覚氏
東京都新田区本町七二一の一

なお赤松氏の現住所は岡山県小田郡矢掛町東一成である。

△山本下枝子さん（当協会員、最近まで世田谷区下馬）方より「転居された方」転居先を当協会までお知らせ下さい

△横田正行氏（純民大会副会長）より「当協会員」新住所を当協会までお知らせ下さい

△松本義郎氏（元東京護国寺）より「当協会員」新住所を当協会までお知らせ下さい

△近藤鶴子さん（新宿区大久保百人町）より「当協会員」新住所を当協会までお知らせ下さい

△横田正行氏（純民大会副会長）より「当協会員」新住所を当協会までお知らせ下さい

△横田正行氏（純民大会副会長）より「当協会員」新住所を当協会までお知らせ下さい

△山本下枝子さん（当協会員、最近まで世田谷区下馬）方より「転居された方」転居先を当協会までお知らせ下さい

△横田正行氏（純民大会副会長）より「当協会員」新住所

台湾だけの問題は 独自の立場で進む

各地方からの委員推薦を希望

台湾在外財産処理特別委員会 新年の会合

台湾在外財産処理特別委員会の新年初の委員会は一月八日午後二時半から台湾協会中央ビル七階において開催された。出席委員は、原田明、松本解、古屋亨、岡崎英城、松平忠久、西郷吉之助、西尾末広、野田武夫、西島芳二、田中角栄、中川清、武居繁、石黒忠篤、田中伊三次、藤枝泉介、田中龍夫の各委員、田中栄一、藤枝泉介両委員の紹介議員、田中委員長の挨拶の後、各委員が今までに接触した情報並びに所感について、順次申し述べた。なおこれに関連して、原田委員より、「台湾在外財産処理特別委員会」の構成方法について、各地方から委員を推薦すべきであるとの意見が述べられ、これに対する質疑応答があったが、結局、委員長一任ということに決定した。

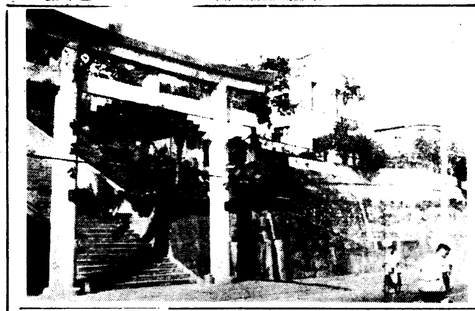
次に、今後の運営方針について、委員長より、「台湾在外財産処理特別委員会」は、国会の閉会中も活動できるよう、常設委員会の構成方法を考慮したい旨の発言があり

台北一高女同窓会
みどり会の訪台
加藤淑子さんの詠える

昨年末、台北一高女からの会の人々が国の内外を訪問した六、七年ぶりに再び懐しの台湾を訪れるというお二人の訪台客である。なお二行の訪台記事はすでに発表されたが、先生たちの有志の方々に歓迎していただいて盛会であった。

昔の基隆神社

この写真は乾三郎さんが、台湾旅行の際撮影されたものです。鳥居には菊天白日のマークが附いて公園の飾物となっています。新竹の青草湖が公園となって新竹神社の建築が移設されていた由。（乾氏よりの便り）



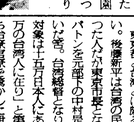
2、校章のユーカリリブつと鳳凰
3、つるの目鼠は過ぎたる一の校歌
4、日本婦人訪れ給うの感
5、小鳥の目覚せし校舎を訪れて
6、中国人今は住まわれたすまいこの家の幸命水かれを多
7、過ぎれば初恋なつかしと人の

8、国の宝高く掲げし私の花
9、雪の頃の新聞を読むもうか
10、いつの日の父母がんの土地に花開くつき業の島

「東京都」と「台湾」

山上 仙吉

東京都と台湾と感る関係が深い。後藤新平は台湾の民政長官だったが、パトンを元帥の中村是公に、儀がパトンを元帥の中村是公に、副総督となり、「帰朝の対象は十五日本人にあつ子三百万の台湾人（在り）と第二声を放ち台湾統治の要がに伊沢多喜男も東京市長となっている。中川総督も平塚長官も、東京府知事だった。ずっと以前の東京市長には田沢義鋪（北海道）あり、永田晴風

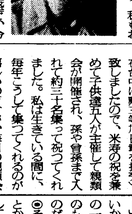


陸軍で相当な元気な証拠。今年は古元に教えて米寿を迎えます。只々は接との御願もあった。醗酵文献集が二冊完成して、その後の醗酵の編集に忙しく

台湾のナマの映像

老松校など懐しい諸情景

台湾のナマの映像が先生のテレビの姿も見られ、北部の学生や生徒第六チャンネルで流されたが、それにより老松国民学校などは生ら小学六クラスまで教室を円山の中学教室内の一部をいう、このフイルム作りにおいての苦労、同じ校舎で遊んでいる幼い子供たちの日課等も映し出されていた。なお、この企画シリーズはまた北光学のA公会場を生たち



米寿を迎えた
中沢亮治博士（思い出話）

新年おめでとうございます。

指揮には御健勝とお喜び申上ます。私もお現そのことと存じます。

昨秋は御懇篤なお祝いを頂きまして、誠に有難うございました。

過しております。

昨年中に数回、米寿の祝賀会を開いて下さるとのお話がありましたが、私は、「そんなことは絶対にお断りする」と言うたそうでいかがわしいお話ならば、とにかく自宅の二階の仕事をするようにとの家族の方々の御心遣いだったのだろうか。

◎その頃の東京の次は福田土次郎氏の内閣であった（当時総理大臣）

台湾協会々員
会費領収報告

十二月十四日より一月十二日まで

一般会員

台北　台湾銀行　台湾電力　台湾製糖　台湾肥料　台湾拓殖　台湾総督府　台湾総督府専売局　台湾総督府交通局　台湾総督府鉄道部　台湾総督府台北医院　台湾総督府台北病院　台湾総督府台北帝国大学　台湾総督府台北高等学校　台湾総督府台北第一高等女学校　台湾総督府台北第二高等女学校　台湾総督府台北工業学校　台湾総督府台北農事試験場　台湾総督府台北師範学校　台湾総督府台北中学校　台湾総督府台北商業学校　台湾総督府台北工業学校　台湾総督府台北第一中学校　台湾総督府台北第二中学校　台湾総督府台北第三中学校　台湾総督府台北第一女子高等学校　台湾総督府台北第二女子高等学校　台湾総督府台北第一師範学校　台湾総督府台北第二師範学校　台湾総督府台北第三師範学校　台湾総督府台北第一工業学校　台湾総督府台北第二工業学校　台湾総督府台北第三工業学校　台湾総督府台北第一商業学校　台湾総督府台北第二商業学校　台湾総督府台北第三商業学校　台湾総督府台北第一農業学校　台湾総督府台北第二農業学校　台湾総督府台北第三農業学校　台湾総督府台北第一高等女学校　台湾総督府台北第二高等女学校　台湾総督府台北第三高等女学校　台湾総督府台北第四高等女学校　台湾総督府台北第五高等女学校　台湾総督府台北第六高等女学校　台湾総督府台北第七高等女学校　台湾総督府台北第八高等女学校　台湾総督府台北第九高等女学校　台湾総督府台北第十高等女学校　台湾総督府台北第十一高等女学校　台湾総督府台北第十二高等女学校　台湾総督府台北第十三高等女学校　台湾総督府台北第十四高等女学校　台湾総督府台北第十五高等女学校　台湾総督府台北第十六高等女学校　台湾総督府台北第十七高等女学校　台湾総督府台北第十八高等女学校　台湾総督府台北第十九高等女学校　台湾総督府台北第二十高等女学校　台湾総督府台北第二十一高等女学校　台湾総督府台北第二十二高等女学校　台湾総督府台北第二十三高等女学校　台湾総督府台北第二十四高等女学校　台湾総督府台北第二十五高等女学校　台湾総督府台北第二十六高等女学校　台湾総督府台北第二十七高等女学校　台湾総督府台北第二十八高等女学校　台湾総督府台北第二十九高等女学校　台湾総督府台北第三十高等女学校　台湾総督府台北第三十一高等女学校　台湾総督府台北第三十二高等女学校　台湾総督府台北第三十三高等女学校　台湾総督府台北第三十四高等女学校　台湾総督府台北第三十五高等女学校　台湾総督府台北第三十六高等女学校　台湾総督府台北第三十七高等女学校　台湾総督府台北第三十八高等女学校　台湾総督府台北第三十九高等女学校　台湾総督府台北第四十高等女学校　台湾総督府台北第四十一高等女学校　台湾総督府台北第四十二高等女学校　台湾総督府台北第四十三高等女学校　台湾総督府台北第四十四高等女学校　台湾総督府台北第四十五高等女学校　台湾総督府台北第四十六高等女学校　台湾総督府台北第四十七高等女学校　台湾総督府台北第四十八高等女学校　台湾総督府台北第四十九高等女学校　台湾総督府台北第五十高等女学校　台湾総督府台北第五十一高等女学校　台湾総督府台北第五十二高等女学校　台湾総督府台北第五十三高等女学校　台湾総督府台北第五十四高等女学校　台湾総督府台北第五十五高等女学校　台湾総督府台北第五十六高等女学校　台湾総督府台北第五十七高等女学校　台湾総督府台北第五十八高等女学校　台湾総督府台北第五十九高等女学校　台湾総督府台北第六十高等女学校　台湾総督府台北第六十一高等女学校　台湾総督府台北第六十二高等女学校　台湾総督府台北第六十三高等女学校　台湾総督府台北第六十四高等女学校　台湾総督府台北第六十五高等女学校　台湾総督府台北第六十六高等女学校　台湾総督府台北第六十七高等女学校　台湾総督府台北第六十八高等女学校　台湾総督府台北第六十九高等女学校　台湾総督府台北第七十高等女学校　台湾総督府台北第七十一高等女学校　台湾総督府台北第七十二高等女学校　台湾総督府台北第七十三高等女学校　台湾総督府台北第七十四高等女学校　台湾総督府台北第七十五高等女学校　台湾総督府台北第七十六高等女学校　台湾総督府台北第七十七高等女学校　台湾総督府台北第七十八高等女学校　台湾総督府台北第七十九高等女学校　台湾総督府台北第八十高等女学校　台湾総督府台北第八十一高等女学校　台湾総督府台北第八十二高等女学校　台湾総督府台北第八十三高等女学校　台湾総督府台北第八十四高等女学校　台湾総督府台北第八十五高等女学校　台湾総督府台北第八十六高等女学校　台湾総督府台北第八十七高等女学校　台湾総督府台北第八十八高等女学校　台湾総督府台北第八十九高等女学校　台湾総督府台北第九十高等女学校　台湾総督府台北第九十一高等女学校　台湾総督府台北第九十二高等女学校　台湾総督府台北第九十三高等女学校　台湾総督府台北第九十四高等女学校　台湾総督府台北第九十五高等女学校　台湾総督府台北第九十六高等女学校　台湾総督府台北第九十七高等女学校　台湾総督府台北第九十八高等女学校　台湾総督府台北第九十九高等女学校　台湾総督府台北第百高等女学校　台湾総督府台北第百一高等女学校　台湾総督府台北第百二高等女学校　台湾総督府台北第百三高等女学校　台湾総督府台北第百四高等女学校　台湾総督府台北第百五高等女学校　台湾総督府台北第百六高等女学校　台湾総督府台北第百七高等女学校　台湾総督府台北第百八高等女学校　台湾総督府台北第百九高等女学校　台湾総督府台北第百十高等女学校　台湾総督府台北第百十一高等女学校　台湾総督府台北第百十二高等女学校　台湾総督府台北第百十三高等女学校　台湾総督府台北第百十四高等女学校　台湾総督府台北第百十五高等女学校　台湾総督府台北第百十六高等女学校　台湾総督府台北第百十七高等女学校　台湾総督府台北第百十八高等女学校　台湾総督府台北第百十九高等女学校　台湾総督府台北第百二十高等女学校　台湾総督府台北第百二十一高等女学校　台湾総督府台北第百二十二高等女学校　台湾総督府台北第百二十三高等女学校　台湾総督府台北第百二十四高等女学校　台湾総督府台北第百二十五高等女学校　台湾総督府台北第百二十六高等女学校　台湾総督府台北第百二十七高等女学校　台湾総督府台北第百二十八高等女学校　台湾総督府台北第百二十九高等女学校　台湾総督府台北第百三十高等女学校　台湾総督府台北第百三十一高等女学校　台湾総督府台北第百三十二高等女学校　台湾総督府台北第百三十三高等女学校　台湾総督府台北第百三十四高等女学校　台湾総督府台北第百三十五高等女学校　台湾総督府台北第百三十六高等女学校　台湾総督府台北第百三十七高等女学校　台湾総督府台北第百三十八高等女学校　台湾総督府台北第百三十九高等女学校　台湾総督府台北第百四十高等女学校　台湾総督府台北第百四十一高等女学校　台湾総督府台北第百四十二高等女学校　台湾総督府台北第百四十三高等女学校　台湾総督府台北第百四十四高等女学校　台湾総督府台北第百四十五高等女学校　台湾総督府台北第百四十六高等女学校　台湾総督府台北第百四十七高等女学校　台湾総督府台北第百四十八高等女学校　台湾総督府台北第百四十九高等女学校　台湾総督府台北第百五十高等女学校　台湾総督府台北第百五十一高等女学校　台湾総督府台北第百五十二高等女学校　台湾総督府台北第百五十三高等女学校　台湾総督府台北第百五十四高等女学校　台湾総督府台北第百五十五高等女学校　台湾総督府台北第百五十六高等女学校　台湾総督府台北第百五十七高等女学校　台湾総督府台北第百五十八高等女学校　台湾総督府台北第百五十九高等女学校　台湾総督府台北第百六十高等女学校　台湾総督府台北第百六十一高等女学校　台湾総督府台北第百六十二高等女学校　台湾総督府台北第百六十三高等女学校　台湾総督府台北第百六十四高等女学校　台湾総督府台北第百六十五高等女学校　台湾総督府台北第百六十六高等女学校　台湾総督府台北第百六十七高等女学校　台湾総督府台北第百六十八高等女学校　台湾総督府台北第百六十九高等女学校　台湾総督府台北第百七十高等女学校　台湾総督府台北第百七十一高等女学校　台湾総督府台北第百七十二高等女学校　台湾総督府台北第百七十三高等女学校　台湾総督府台北第百七十四高等女学校　台湾総督府台北第百七十五高等女学校　台湾総督府台北第百七十六高等女学校　台湾総督府台北第百七十七高等女学校　台湾総督府台北第百七十八高等女学校　台湾総督府台北第百七十九高等女学校　台湾総督府台北第百八十高等女学校　台湾総督府台北第百八十一高等女学校　台湾総督府台北第百八十二高等女学校　台湾総督府台北第百八十三高等女学校　台湾総督府台北第百八十四高等女学校　台湾総督府台北第百八十五高等女学校　台湾総督府台北第百八十六高等女学校　台湾総督府台北第百八十七高等女学校　台湾総督府台北第百八十八高等女学校　台湾総督府台北第百八十九高等女学校　台湾総督府台北第百九十高等女学校　台湾総督府台北第百九十一高等女学校　台湾総督府台北第百九十二高等女学校　台湾総督府台北第百九十三高等女学校　台湾総督府台北第百九十四高等女学校　台湾総督府台北第百九十五高等女学校　台湾総督府台北第百九十六高等女学校　台湾総督府台北第百九十七高等女学校　台湾総督府台北第百九十八高等女学校　台湾総督府台北第百九十九高等女学校　台湾総督府台北第二百高等女学校　台湾総督府台北第二百一高等女学校　台湾総督府台北第二百二高等女学校　台湾総督府台北第二百三高等女学校　台湾総督府台北第二百四高等女学校　台湾総督府台北第二百五高等女学校　台湾総督府台北第二百六高等女学校　台湾総督府台北第二百七高等女学校　台湾総督府台北第二百八高等女学校　台湾総督府台北第二百九高等女学校　台湾総督府台北第二百十高等女学校　台湾総督府台北第二百十一高等女学校　台湾総督府台北第二百十二高等女学校　台湾総督府台北第二百十三高等女学校　台湾総督府台北第二百十四高等女学校　台湾総督府台北第二百十五高等女学校　台湾総督府台北第二百十六高等女学校　台湾総督府台北第二百十七高等女学校　台湾総督府台北第二百十八高等女学校　台湾総督府台北第二百十九高等女学校　台湾総督府台北第二百二十高等女学校　台湾総督府台北第二百二十一高等女学校　台湾総督府台北第二百二十二高等女学校　台湾総督府台北第二百二十三高等女学校　台湾総督府台北第二百二十四高等女学校　台湾総督府台北第二百二十五高等女学校　台湾総督府台北第二百二十六高等女学校　台湾総督府台北第二百二十七高等女学校　台湾総督府台北第二百二十八高等女学校　台湾総督府台北第二百二十九高等女学校　台湾総督府台北第二百三十高等女学校　台湾総督府台北第二百三十一高等女学校　台湾総督府台北第二百三十二高等女学校　台湾総督府台北第二百三十三高等女学校　台湾総督府台北第二百三十四高等女学校　台湾総督府台北第二百三十五高等女学校　台湾総督府台北第二百三十六高等女学校　台湾総督府台北第二百三十七高等女学校　台湾総督府台北第二百三十八高等女学校　台湾総督府台北第二百三十九高等女学校　台湾総督府台北第二百四十高等女学校　台湾総督府台北第二百四十一高等女学校　台湾総督府台北第二百四十二高等女学校　台湾総督府台北第二百四十三高等女学校　台湾総督府台北第二百四十四高等女学校　台湾総督府台北第二百四十五高等女学校　台湾総督府台北第二百四十六高等女学校　台湾総督府台北第二百四十七高等女学校　台湾総督府台北第二百四十八高等女学校　台湾総督府台北第二百四十九高等女学校　台湾総督府台北第二百五十高等女学校　台湾総督府台北第二百五十一高等女学校　台湾総督府台北第二百五十二高等女学校　台湾総督府台北第二百五十三高等女学校　台湾総督府台北第二百五十四高等女学校　台湾総督府台北第二百五十五高等女学校　台湾総督府台北第二百五十六高等女学校　台湾総督府台北第二百五十七高等女学校　台湾総督府台北第二百五十八高等女学校　台湾総督府台北第二百五十九高等女学校　台湾総督府台北第二百六十高等女学校　台湾総督府台北第二百六十一高等女学校　台湾総督府台北第二百六十二高等女学校　台湾総督府台北第二百六十三高等女学校　台湾総督府台北第二百六十四高等女学校　台湾総督府台北第二百六十五高等女学校　台湾総督府台北第二百六十六高等女学校　台湾総督府台北第二百六十七高等女学校　台湾総督府台北第二百六十八高等女学校　台湾総督府台北第二百六十九高等女学校　台湾総督府台北第二百七十高等女学校　台湾総督府台北第二百七十一高等女学校　台湾総督府台北第二百七十二高等女学校　台湾総督府台北第二百七十三高等女学校　台湾総督府台北第二百七十四高等女学校　台湾総督府台北第二百七十五高等女学校　台湾総督府台北第二百七十六高等女学校　台湾総督府台北第二百七十七高等女学校　台湾総督府台北第二百七十八高等女学校　台湾総督府台北第二百七十九高等女学校　台湾総督府台北第二百八十高等女学校　台湾総督府台北第二百八十一高等女学校　台湾総督府台北第二百八十二高等女学校　台湾総督府台北第二百八十三高等女学校　台湾総督府台北第二百八十四高等女学校　台湾総督府台北第二百八十五高等女学校　台湾総督府台北第二百八十六高等女学校　台湾総督府台北第二百八十七高等女学校　台湾総督府台北第二百八十八高等女学校　台湾総督府台北第二百八十九高等女学校　台湾総督府台北第二百九十高等女学校　台湾総督府台北第二百九十一高等女学校　台湾総督府台北第二百九十二高等女学校　台湾総督府台北第二百九十三高等女学校　台湾総督府台北第二百九十四高等女学校　台湾総督府台北第二百九十五高等女学校　台湾総督府台北第二百九十六高等女学校　台湾総督府台北第二百九十七高等女学校　台湾総督府台北第二百九十八高等女学校　台湾総督府台北第二百九十九高等女学校　台湾総督府台北第三百高等女学校　台湾総督府台北第三百一高等女学校　台湾総督府台北第三百二高等女学校　台湾総督府台北第三百三高等女学校　台湾総督府台北第三百四高等女学校　台湾総督府台北第三百五高等女学校　台湾総督府台北第三百六高等女学校　台湾総督府台北第三百七高等女学校　台湾総督府台北第三百八高等女学校　台湾総督府台北第三百九高等女学校　台湾総督府台北第三百十高等女学校　台湾総督府台北第三百十一高等女学校　台湾総督府台北第三百十二高等女学校　台湾総督府台北第三百十三高等女学校　台湾総督府台北第三百十四高等女学校　台湾総督府台北第三百十五高等女学校　台湾総督府台北第三百十六高等女学校　台湾総督府台北第三百十七高等女学校　台湾総督府台北第三百十八高等女学校　台湾総督府台北第三百十九高等女学校　台湾総督府台北第三百二十高等女学校　台湾総督府台北第三百二十一高等女学校　台湾総督府台北第三百二十二高等女学校　台湾総督府台北第三百二十三高等女学校　台湾総督府台北第三百二十四高等女学校　台湾総督府台北第三百二十五高等女学校　台湾総督府台北第三百二十六高等女学校　台湾総督府台北第三百二十七高等女学校　台湾総督府台北第三百二十八高等女学校　台湾総督府台北第三百二十九高等女学校　台湾総督府台北第三百三十高等女学校　台湾総督府台北第三百三十一高等女学校　台湾総督府台北第三百三十二高等女学校　台湾総督府台北第三百三十三高等女学校　台湾総督府台北第三百三十四高等女学校　台湾総督府台北第三百三十五高等女学校　台湾総督府台北第三百三十六高等女学校　台湾総督府台北第三百三十七高等女学校　台湾総督府台北第三百三十八高等女学校　台湾総督府台北第三百三十九高等女学校　台湾総督府台北第三百四十高等女学校　台湾総督府台北第三百四十一高等女学校　台湾総督府台北第三百四十二高等女学校　台湾総督府台北第三百四十三高等女学校　台湾総督府台北第三百四十四高等女学校　台湾総督府台北第三百四十五高等女学校　台湾総督府台北第三百四十六高等女学校　台湾総督府台北第三百四十七高等女学校　台湾総督府台北第三百四十八高等女学校　台湾総督府台北第三百四十九高等女学校　台湾総督府台北第三百五十高等女学校　台湾総督府台北第三百五十一高等女学校　台湾総督府台北第三百五十二高等女学校　台湾総督府台北第三百五十三高等女学校　台湾総督府台北第三百五十四高等女学校　台湾総督府台北第三百五十五高等女学校　台湾総督府台北第三百五十六高等女学校　台湾総督府台北第三百五十七高等女学校　台湾総督府台北第三百五十八高等女学校　台湾総督府台北第三百五十九高等女学校　台湾総督府台北第三百六十高等女学校　台湾総督府台北第三百六十一高等女学校　台湾総督府台北第三百六十二高等女学校　台湾総督府台北第三百六十三高等女学校　台湾総督府台北第三百六十四高等女学校　台湾総督府台北第三百六十五高等女学校　台湾総督府台北第三百六十六高等女学校　台湾総督府台北第三百六十七高等女学校　台湾総督府台北第三百六十八高等女学校　台湾総督府台北第三百六十九高等女学校　台湾総督府台北第三百七十高等女学校　台湾総督府台北第三百七十一高等女学校　台湾総督府台北第三百七十二高等女学校　台湾総督府台北第三百七十三高等女学校　台湾総督府台北第三百七十四高等女学校　台湾総督府台北第三百七十五高等女学校　台湾総督府台北第三百七十六高等女学校　台湾総督府台北第三百七十七高等女学校　台湾総督府台北第三百七十八高等女学校　台湾総督府台北第三百七十九高等女学校　台湾総督府台北第三百八十高等女学校　台湾総督府台北第三百八十一高等女学校　台湾総督府台北第三百八十二高等女学校　台湾総督府台北第三百八十三高等女学校　台湾総督府台北第三百八十四高等女学校　台湾総督府台北第三百八十五高等女学校　台湾総督府台北第三百八十六高等女学校　台湾総督府台北第三百八十七高等女学校　台湾総督府台北第三百八十八高等女学校　台湾総督府台北第三百八十九高等女学校　台湾総督府台北第三百九十高等女学校　台湾総督府台北第三百九十一高等女学校　台湾総督府台北第三百九十二高等女学校　台湾総督府台北第三百九十三高等女学校　台湾総督府台北第三百九十四高等女学校　台湾総督府台北第三百九十五高等女学校　台湾総督府台北第三百九十六高等女学校　台湾総督府台北第三百九十七高等女学校　台湾総督府台北第三百九十八高等女学校　台湾総督府台北第三百九十九高等女学校　台湾総督府台北第四百高等女学校　台湾総督府台北第四百一高等女学校　台湾総督府台北第四百二高等女学校　台湾総督府台北第四百三高等女学校　台湾総督府台北第四百四高等女学校　台湾総督府台北第四百五高等女学校　台湾総督府台北第四百六高等女学校　台湾総督府台北第四百七高等女学校　台湾総督府台北第四百八高等女学校　台湾総督府台北第四百九高等女学校　台湾総督府台北第四百十高等女学校　台湾総督府台北第四百十一高等女学校　台湾総督府台北第四百十二高等女学校　台湾総督府台北第四百十三高等女学校　台湾総督府台北第四百十四高等女学校　台湾総督府台北第四百十五高等女学校　台湾総督府台北第四百十六高等女学校　台湾総督府台北第四百十七高等女学校　台湾総督府台北第四百十八高等女学校　台湾総督府台北第四百十九高等女学校　台湾総督府台北第四百二十高等女学校　台湾総督府台北第四百二十一高等女学校　台湾総督府台北第四百二十二高等女学校　台湾総督府台北第四百二十三高等女学校　台湾総督府台北第四百二十四高等女学校　台湾総督府台北第四百二十五高等女学校　台湾総督府台北第四百二十六高等女学校　台湾総督府台北第四百二十七高等女学校　台湾総督府台北第四百二十八高等女学校　台湾総督府台北第四百二十九高等女学校　台湾総督府台北第四百三十高等女学校　台湾総督府台北第四百三十一高等女学校　台湾総督府台北第四百三十二高等女学校　台湾総督府台北第四百三十三高等女学校　台湾総督府台北第四百三十四高等女学校　台湾総督府台北第四百三十五高等女学校　台湾総督府台北第四百三十六高等女学校　台湾総督府台北第四百三十七高等女学校　台湾総督府台北第四百三十八高等女学校　台湾総督府台北第四百三十九高等女学校　台湾総督府台北第四百四十高等女学校　台湾総督府台北第四百四十一高等女学校　台湾総督府台北第四百四十二高等女学校　台湾総督府台北第四百四十三高等女学校　台湾総督府台北第四百四十四高等女学校　台湾総督府台北第四百四十五高等女学校　台湾総督府台北第四百四十六高等女学校　台湾総督府台北第四百四十七高等女学校　台湾総督府台北第四百四十八高等女学校　台湾総督府台北第四百四十九高等女学校　台湾総督府台北第四百五十高等女学校　台湾総督府台北第四百五十一高等女学校　台湾総督府台北第四百五十二高等女学校　台湾総督府台北第四百五十三高等女学校　台湾総督府台北第四百五十四高等女学校　台湾総督府台北第四百五十五高等女学校　台湾総督府台北第四百五十六高等女学校　台湾総督府台北第四百五十七高等女学校　台湾総督府台北第四百五十八高等女学校　台湾総督府台北第四百五十九高等女学校　台湾総督府台北第四百六十高等女学校　台湾総督府台北第四百六十一高等女学校　台湾総督府台北第四百六十二高等女学校　台湾総督府台北第四百六十三高等女学校　台湾総督府台北第四百六十四高等女学校　台湾総督府台北第四百六十五高等女学校　台湾総督府台北第四百六十六高等女学校　台湾総督府台北第四百六十七高等女学校　台湾総督府台北第四百六十八高等女学校　台湾総督府台北第四百六十九高等女学校　台湾総督府台北第四百七十高等女学校　台湾総督府台北第四百七十一高等女学校　台湾総督府台北第四百七十二高等女学校　台湾総督府台北第四百七十三高等女学校　台湾総督府台北第四百七十四高等女学校　台湾総督府台北第四百七十五高等女学校　台湾総督府台北第四百七十六高等女学校　台湾総督府台北第四百七十七高等女学校　台湾総督府台北第四百七十八高等女学校　台湾総督府台北第四百七十九高等女学校　台湾総督府台北第四百八十高等女学校　台湾総督府台北第四百八十一高等女学校　台湾総督府台北第四百八十二高等女学校　台湾総督府台北第四百八十三高等女学校　台湾総督府台北第四百八十四高等女学校　台湾総督府台北第四百八十五高等女学校　台湾総督府台北第四百八十六高等女学校　台湾総督府台北第四百八十七高等女学校　台湾総督府台北第四百八十八高等女学校　台湾総督府台北第四百八十九高等女学校　台湾総督府台北第四百九十高等女学校　台湾総督府台北第四百九十一高等女学校　台湾総督府台北第四百九十二高等女学校　台湾総督府台北第四百九十三高等女学校　台湾総督府台北第四百九十四高等女学校　台湾総督府台北第四百九十五高等女学校　台湾総督府台北第四百九十六高等女学校　台湾総督府台北第四百九十七高等女学校　台湾総督府台北第四百九十八高等女学校　台湾総督府台北第四百九十九高等女学校　台湾総督府台北第五百高等女学校　台湾総督府台北第五百一高等女学校　台湾総督府台北第五百二高等女学校　台湾総督府台北第五百三高等女学校　台湾総督府台北第五百四高等女学校　台湾総督府台北第五百五高等女学校　台湾総督府台北第五百六高等女学校　台湾総督府台北第五百七高等女学校　台湾総督府台北第五百八高等女学校　台湾総督府台北第五百九高等女学校　台湾総督府台北第五百十高等女学校　台湾総督府台北第五百十一高等女学校　台湾総督府台北第五百十二高等女学校　台湾総督府台北第五百十三高等女学校　台湾総督府台北第五百十四高等女学校　台湾総督府台北第五百十五高等女学校　台湾総督府台北第五百十六高等女学校　台湾総督府台北第五百十七高等女学校　台湾総督府台北第五百十八高等女学校　台湾総督府台北第五百十九高等女学校　台湾総督府台北第五百二十高等女学校　台湾総督府台北第五百二十一高等女学校　台湾総督府台北第五百二十二高等女学校　台湾総督府台北第五百二十三高等女学校　台湾総督府台北第五百二十四高等女学校　台湾総督府台北第五百二十五高等女学校　台湾総督府台北第五百二十六高等女学校　台湾総督府台北第五百二十七高等女学校　台湾総督府台北第五百二十八高等女学校　台湾総督府台北第五百二十九高等女学校　台湾総督府台北第五百三十高等女学校　台湾総督府台北第五百三十一高等女学校　台湾総督府台北第五百三十二高等女学校　台湾総督府台北第五百三十三高等女学校　台湾総督府台北第五百三十四高等女学校　台湾総督府台北第五百三十五高等女学校　台湾総督府台北第五百三十六高等女学校　台湾総督府台北第五百三十七高等女学校　台湾総督府台北第五百三十八高等女学校　台湾総督府台北第五百三十九高等女学校　台湾総督府台北第五百四十高等女学校　台湾総督府台北第五百四十一高等女学校　台湾総督府台北第五百四十二高等女学校　台湾総督府台北第五百四十三高等女学校　台湾総督府台北第五百四十四高等女学校　台湾総督府台北第五百四十五高等女学校　台湾総督府台北第五百四十六高等女学校　台湾総督府台北第五百四十七高等女学校　台湾総督府台北第五百四十八高等女学校　台湾総督府台北第五百四十九高等女学校　台湾総督府台北第五百五十高等女学校　台湾総督府台北第五百五十一高等女学校　台湾総督府台北第五百五十二高等女学校　台湾総督府台北第五百五十三高等女学校　台湾総督府台北第五百五十四高等女学校　台湾総督府台北第五百五十五高等女学校　台湾総督府台北第五百五十六高等女学校　台湾総督府台北第五百五十七高等女学校　台湾総督府台北第五百五十八高等女学校　台湾総督府台北第五百五十九高等女学校　台湾総督府台北第五百六十高等女学校　台湾総督府台北第五百六十一高等女学校　台湾総督府台北第五百六十二高等女学校　台湾総督府台北第五百六十三高等女学校　台湾総督府台北第五百六十四高等女学校　台湾総督府台北第五百六十五高等女学校　台湾総督府台北第五百六十六高等女学校　台湾総督府台北第五百六十七高等女学校　台湾総督府台北第五百六十八高等女学校　台湾総督府台北第五百六十九高等女学校　台湾総督府台北第五百七十高等女学校　台湾総督府台北第五百七十一高等女学校　台湾総督府台北第五百七十二高等女学校　台湾総督府台北第五百七十三高等女学校　台湾総督府台北第五百七十四高等女学校　台湾総督府台北第五百七十五高等女学校　台湾総督府台北第五百七十六高等女学校　台湾総督府台北第五百七十七高等女学校　台湾総督府台北第五百七十八高等女学校　台湾総督府台北第五百七十九高等女学校　台湾総督府台北第五百八十高等女学校　台湾総督府台北第五百八十一高等女学校　台湾総督府台北第五百八十二高等女学校　台湾総督府台北第五百八十三高等女学校　台湾総督府台北第五百八十四高等女学校　台湾総督府台北第五百八十五高等女学校　台湾総督府台北第五百八十六高等女学校　台湾総督府台北第五百八十七高等女学校　台湾総督府台北第五百八十八高等女学校　台湾総督府台北第五百八十九高等女学校　台湾総督府台北第五百九十高等女学校　台湾総督府台北第五百九十一高等女学校　台湾総督府台北第五百九十二高等女学校　台湾総督府台北第五百九十三高等女学校　台湾総督府台北第五百九十四高等女学校　台湾総督府台北第五百九十五高等女学校　台湾総督府台北第五百九十六高等女学校　台湾総督府台北第五百九十七高等女学校　台湾総督府台北第五百九十八高等女学校　台湾総督府台北第五百九十九高等女学校　台湾総督府台北第六百高等女学校　台湾総督府台北第六百一高等女学校　台湾総督府台北第六百二高等女学校　台湾総督府台北第六百三高等女学校　台湾総督府台北第六百四高等女学校　台湾総督府台北第六百五高等女学校　台湾総督府台北第六百六高等女学校　台湾総督府台北第六百七高等女学校　台湾総督府台北第六百八高等女学校　台湾総督府台北第六百九高等女学校　台湾総督府台北第六百十高等女学校　台湾総督府台北第六百十一高等女学校　台湾総督府台北第六百十二高等女学校　台湾総督府台北第六百十三高等女学校　台湾総督府台北第六百十四高等女学校　台湾総督府台北第六百十五高等女学校　台湾総督府台北第六百十六高等女学校　台湾総督府台北第六百十七高等女学校　台湾総督府台北第六百十八高等女学校　台湾総督府台北第六百十九高等女学校　台湾総督府台北第六百二十高等女学校　台湾総督府台北第六百二十一高等女学校　台湾総督府台北第六百二十二高等女学校　台湾総督府台北第六百二十三高等女学校　台湾総督府台北第六百二十四高等女学校　台湾総督府台北第六百二十五高等女学校　台湾総督府台北第六百二十六高等女学校　台湾総督府台北第六百二十七高等女学校　台湾総督府台北第六百二十八高等女学校　台湾総督府台北第六百二十九高等女学校　台湾総督府台北第六百三十高等女学校　台湾総督府台北第六百三十一高等女学校　台湾総督府台北第六百三十二高等女学校　台湾総督府台北第六百三十三高等女学校　台湾総督府台北第六百三十四高等女学校　台湾総督府台北第六百三十五高等女学校　台湾総督府台北第六百三十六高等女学校　台湾総督府台北第六百三十七高等女学校　台湾総督府台北第六百三十八高等女学校　台湾総督府台北第六百三十九高等女学校　台湾総督府台北第六百四十高等女学校　台湾総督府台北第六百四十一高等女学校　台湾総督府台北第六百四十二高等女学校　台湾総督府台北第六百四十三高等女学校　台湾総督府台北第六百四十四高等女学校　台湾総督府台北第六百四十五高等女学校　台湾総督府台北第六百四十六高等女学校　台湾総督府台北第六百四十七高等女学校　台湾総督府台北第六百四十八高等女学校　台湾総督府台北第六百四十九高等女学校　台湾総督府台北第六百五十高等女学校　台湾総督府台北第六百五十一高等女学校　台湾総督府台北第六百五十二高等女学校　台湾総督府台北第六百五十三高等女学校　台湾総督府台北第六百五十四高等女学校　台湾総督府台北第六百五十五高等女学校　台湾総督府台北第六百五十六高等女学校　台湾総督府台北第六百五十七高等女学校　台湾総督府台北第六百五十八高等女学校　台湾総督府台北第六百五十九高等女学校　台湾総督府台北第六百六十高等女学校　台湾総督府台北第六百六十一高等女学校　台湾総督府台北第六百六十二高等女学校　台湾総督府台北第六百六十三高等女学校　台湾総督府台北第六百六十四高等女学校　台湾総督府台北第六百六十五高等女学校　台湾総督府台北第六百六十六高等女学校　台湾総督府台北第六百六十七高等女学校　台湾総督府台北第六百六十八高等女学校　台湾総督府台北第六百六十九高等女学校　台湾総督府台北第六百七十高等女学校　台湾総督府台北第六百七十一高等女学校　台湾総督府台北第六百七十二高等女学校　台湾総督府台北第六百七十三高等女学校　台湾総督府台北第六百七十四高等女学校　台湾総督府台北第六百七十五高等女学校　台湾総督府台北第六百七十六高等女学校　台湾総督府台北第六百七十七高等女学校　台湾総督府台北第六百七十八高等女学校　台湾総督府台北第六百七十九高等女学校　台湾総督府台北第六百八十高等女学校　台湾総督府台北第六百八十一高等女学校　台湾総督府台北第六百八十二高等女学校　台湾総督府台北第六百八十三高等女学校　台湾総督府台北第六百八十四高等女学校　台湾総督府台北第六百八十五高等女学校　台湾総督府台北第六百八十六高等女学校　台湾総督府台北第六百八十七高等女学校　台湾総督府台北第六百八十八高等女学校　台湾総督府台北第六百八十九高等女学校　台湾総督府台北第六百九十高等女学校　台湾総督府台北第六百九十一高等女学校　台湾総督府台北第六百九十二高等女学校　台湾総督府台北第六百九十三高等女学校　台湾総督府台北第六百九十四高等女学校　台湾総督府台北第六百九十五高等女学校　台湾総督府台北第六百九十六高等女学校　台湾総督府台北第六百九十七高等女学校　台湾総督府台北第六百九十八高等女学校　台湾総督府台北第六百九十九高等女学校　台湾総督府台北第七百高等女学校　台湾総督府台北第七百一高等女学校　台湾総督府台北第七百二高等女学校　台湾総督府台北第七百三高等女学校　台湾総督府台北第七百四高等女学校　台湾総督府台北第七百五高等女学校　台湾総督府台北第七百六高等女学校　台湾総督府台北第七百七高等女学校　台湾総督府台北第七百八高等女学校　台湾総督府台北第七百九高等女学校　台湾総督府台北第七百十高等女学校　台湾総督府台北第七百十一高等女学校　台湾総督府台北第七百十二高等女学校　台湾総督府台北第七百十三高等女学校　台湾総督府台北第七百十四高等女学校　台湾総督府台北第七百十五高等女学校　台湾総督府台北第七百十六高等女学校　台湾総督府台北第七百十七高等女学校　台湾総督府台北第七百十八高等女学校　台湾総督府台北第七百十九高等女学校　台湾総督府台北第七百二十高等女学校　台湾総督府台北第七百二十一高等女学校　台湾総督府台北第七百二十二高等女学校　台湾総督府台北第七百二十三高等女学校　台湾総督府台北第七百二十四高等女学校　台湾総督府台北第七百二十五高等女学校　台湾総督府台北第七百二十六高等女学校　台湾総督府台北第七百二十七高等女学校　台湾総督府台北第七百二十八高等女学校　台湾総督府台北第七百二十九高等女学校　台湾総督府台北第七百三十高等女学校　台湾総督府台北第七百三十一高等女学校　台湾総督府台北第七百三十二高等女学校　台湾総督府台北第七百三十三高等女学校　台湾総督府台北第七百三十四高等女学校　台湾総督府台北第七百三十五高等女学校　台湾総督府台北第七百三十六高等女学校　台湾総督府台北第七百三十七高等女学校　台湾総督府台北第七百三十八高等女学校　台湾総督府台北第七百三十九高等女学校　台湾総督府台北第七百四十高等女学校　台湾総督府台北第七百四十一高等女学校　台湾総督府台北第七百四十二高等女学校　台湾総督府台北第七百四十三高等女学校　台湾総督府台北第七百四十四高等女学校　台湾総督府台北第七百四十五高等女学校　台湾総督府台北第七百四十六高等女学校　台湾総督府台北第七百四十七高等女学校　台湾総督府台北第七百四十八高等女学校　台湾総督府台北第七百四十九高等女学校　台湾総督府台北第七百五十高等女学校　台湾総督府台北第七百五十一高等女学校　台湾総督府台北第七百五十二高等女学校　台湾総督府台北第七百五十三高等女学校　台湾総督府台北第七百五十四高等女学校　台湾総督府台北第七百五十五高等女学校　台湾総督府台北第七百五十六高等女学校　台湾総督府台北第七百五十七高等女学校　台湾総督府台北第七百五十八高等女学校　台湾総督府台北第七百五十九高等女学校　台湾総督府台北第七百六十高等女学校　台湾総督府台北第七百六十一高等女学校　台湾総督府台北第七百六十二高等女学校　台湾総督府台北第七百六十三高等女学校　台湾総督府台北第七百六十四高等女学校　台湾総督府台北第七百六十五高等女学校　台湾総督府台北第七百六十六高等女学校　台湾総督府台北第七百六十七高等女学校　台湾総督府台北第七百六十八高等女学校　台湾総督府台北第七百六十九高等女学校　台湾総督府台北第七百七十高等女学校　台湾総督府台北第七百七十一高等女学校　台湾総督府台北第七百七十二高等女学校　台湾総督府台北第七百七十三高等女学校　台湾総督府台北第七百七十四高等女学校　台湾総督府台北第七百七十五高等女学校　台湾総督府台北第七百七十六高等女学校　台湾総督府台北第七百七十七高等女学校　台湾総督府台北第七百七十八高等女学校　台湾総督府台北第七百七十九高等女学校　台湾総督府台北第七百八十高等女学校　台湾総督府台北第七百八十一高等女学校　台湾総督府台北第七百八十二高等女学校　台湾総督府台北第七百八十三高等女学校　台湾総督府台北第七百八十四高等女学校　台湾総督府台北第七百八十五高等女学校　台湾総督府台北第七百八十六高等女学校　台湾総督府台北第七百八十七高等女学校　台湾総督府台北第七百八十八高等女学校　台湾総督府台北第七百八十九高等女学校　台湾総督府台北第七百九十高等女学校　台湾総督府台北第七百九十一高等女学校　台湾総督府台北第七百九十二高等女学校　台湾総督府台北第七百九十三高等女学校　台湾総督府台北第七百九十四高等女学校　台湾総督府台北第七百九十五高等女学校　台湾総督府台北第七百九十六高等女学校　台湾総督府台北第七百九十七高等女学校　台湾総督府台北第七百九十八高等女学校　台湾総督府台北第七百九十九高等女学校　台湾総督府台北第八百高等女学校　台湾総督府台北第八百一高等女学校　台湾総督府台北第八百二高等女

湾協会報 (昭和29年11月10日第三種郵便物認可) (毎月15日発行) 第137号

台湾協会報

発行所
新宿区西大久保2の303
財団法人 台湾協会
電話 (98) 8116—7番
振替口座 東京40307番
発行名義人 財団法人台湾協会
発行人 松本 [illegible]

日華親善ここによかつた母校訪問

台北一高女みどり会台湾旅行記

高田登代子

台北第一高女卒業生の有志、飛行機を一機チャーターして台湾訪問旅行。無事に帰ったら、参加した会員のようびと感激を語りあうまでである。

出発前夜の半年間のほとんど毎夜十時、一時までしつづけた催しの仕事のいそがしさも忘れてしまって、ただたかった思うだけ

六十五円のグランドピアノを主に台北第一女子中学校へ持ってゆくことも、全国の会員達の寄付金女学校時代の修学旅行そっくりで、十年も前からの知己のようにうちとけて、あれこれと話に花が咲いて

北海道から南は沖縄、台湾まで、関東以北は羽田空港から、関西、四国、九州は伊丹空港から二機編成いして台北に向う。機内は学校時代の修学旅行そっくりで、まるで夢のようである。

夜の松山飛行場は時ならぬ人の群れの山であった。新しい滑走路の建物である。おりたった地上のひとしお感じいつの間にか汗が出てくる。台北第一女子中学校校長李先生他代表をつれ、台湾側の台北第一高女同窓会よりの会員達と部の会員達が次々と出迎えに出て下さる。

台北第一高女は卒業生六千人あまり、台湾人としての卒業生は七十三名しかいない。その係かな同窓生諸姉が遠方まで出迎えて下さっている。感激の交歓と手をとりあい、歓声あげるグループがあるかと思うと、言葉もなく、ただ春空にあふれる涙をおさえるグループもおられる。私はもう、ふまわれたいという感じがつたと、いつまでも、涙、涙の歓迎をうけるのだろうかと思います。

台湾を代表して、李先生、呉校長、陳教育庁長、張市長、黄議長、林市議会副議長、その他多数、州知事官舎あとかたもなく、いかめしい三階建の新しい建物が目ひく、第一高女の友社の建物があったところである。

度重なる空襲もなく総督府の官舎もない。総督府官舎のあとに台北第一女子中学校の大寮が建ってあるのだ。私のあとについて訪問団員達のせたバスが到着した。四千名の生徒達が校庭に整然とならんで、拍手で迎えてくれる中を私達は続けられた階段について訪問団員達の席特別に用意されている。私は正面に着席させられた

式典がはじまり歓迎の辞、答辞、学校歴の紹介、功労者（先生、生徒）の表彰がすんだあと、グランドピアノ贈呈式となる。万雷の拍手の形容どのまの中を目録は私の手から立派な校歌の上に置かれた。グランドピアノはすでに搬入されていて講堂におかれてあった。

続いてもっと女生徒もめずらしかったけれど、立派な美しい生徒達の機械体操があり、軍楽隊まであるのにおどろかされる。軍服を着た女の先生、二、三人の方が指揮され、一糸乱れぬ分列行進はじまった時には、思わずため息をついてしまった感であった。

休みの号令がかかっても、私語するものもなく、気をつけの姿勢は左記に移転した。

東京都中央区日本橋通り三丁目三番地（新居ビル、一四電話・東京六六九四）

五月四日・五月四日（営業部専用）

五月四日（経理部専用）

五月四日（総務部専用）

五月四日（役員室専用）

新居ビルは東京駅八重洲口地下鉄日本橋駅下車、数寄屋橋の南隣りです。

2面に続く

協和商工移転

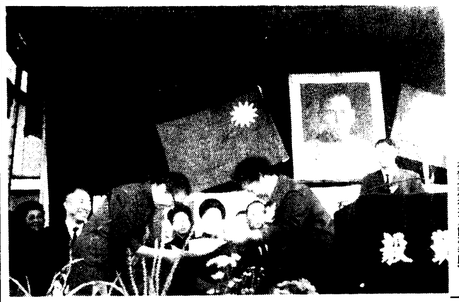
協和商工信用販売では、月十四日

人事消息

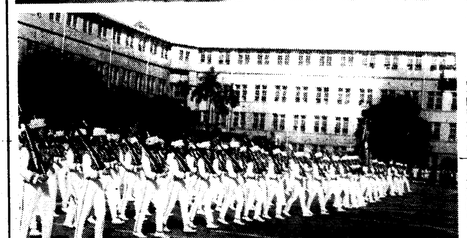
尋ね人

告別

耽筆


上 台北第一女子中学校講堂にグランドピアノの目録を贈呈するみどり会中 なつかしい校舎を背景に一同の記念撮影、八人

下 祝賀分列行進（記事参照）



みどり会の母校訪問

上 台北第一女子中学校講堂にグランドピアノの目録を贈呈するみどり会中 なつかしい校舎を背景に一同の記念撮影、八人

下 祝賀分列行進（記事参照）

重宗参院議長、台湾を訪問

参議院の重宗議長は国民政府からの招待で二月八日台湾を訪問することになり同日羽田空港から総統台湾から帰国した。なお自民党の鯨岡衆議院議員が同行した。

第137号 (第三種郵便物認可)

箕作兄弟の事

津山時代、漢籍素読の頃

私の思い出 (二) 中沢 亮治

◎私が八一九才のころであったろうか。教授にならずに、動物の教育方法の初め動物学を専攻して、その研究のため欧州に留学された。暇にまかせ、盛んに採集をやられた。その頃、動物学を専攻する者が極めて少なく、ドイツの標準学の研究に動物学での考え方を採用するために、ドイツの標本の充実をはかるためにドイツの標本の充実をはかるためにドイツの標本の充実をはかるために

台湾協会々員

会費領収報告

一月十三日より一月十五日まで

氏名	金額	摘要	氏名	金額	摘要
一楽照雄	一口	会費	金子直吉	一口	会費
小林躋造	一口	会費	金子武雄	一口	会費
小山仙一

台湾縁故全邦人物故者の慰霊祭（例祭）

四月九日午後二時
東京築地本願寺で

台湾邦人物故者の慰霊祭（例祭）を、慰霊塔建設三周年記念日に当る四月九日午後二時より東京築地本願寺において営みます。これは慰霊塔に納骨されている一万三千余の霊のみならず台湾縁故の全邦人、台湾にて物故された方も内地にて物故された方も共々に慰霊するものであります。

当日は午後一時より慰霊塔前において読経が勤行され、同二時より本堂において法要を執り行います。縁故者多数の御参列をお願いします。本会報をもって御通知に代えます。

昭和四十一年三月十五日

財団法人　台湾協会
理事長　松本晄吉

台湾関係縁故者　各位

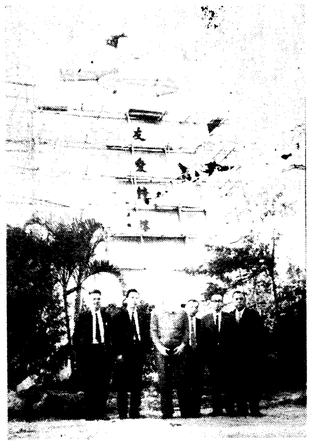
台湾協会報

発行所
新宿区西大久保2の303
財団法人　台湾協会
電話　(209)　8116—7番
最寄口座　東京　40307番
兼名財団法人台湾協会
発行人　松本晄吉

本号六頁

台中宝覚寺の『友愛鐘楼』完成

葦津英雄氏の参詣記



この二月一日、台湾総督を購入するために、渡台いたしました。江戸城の正門であった京屋大手門は、太平洋戦争の空襲で全焼になったままとしたが、皇居東御苑の二重橋が、昭和四三年春から、里居付属庭園として、一般に開放されることになったので、昔のままれる二重橋を見ることになりました。そこに復元されることになりました。そこに復元される寛永鍍（かなきばり）各日本ケヤキにたいのですが、国内しまなく探しても調達できなかったために、台湾へ行ったわけです。

15m×97cm×7cmという大きなヒノキが二本。一本が約二五〇万円。二月二七日到着。

この仕事のあいまをぬって、二月六日（日）に、台中市北区三民路にある法山寺普禅寺を訪れました。

住職の林錦興氏は、本省人で、二三年前日本に帰化。日本の有名大学を卒業され、積極的な親日家です。台湾観光協会とすでにお付き合いがあり、台湾へ渡航の際は、いつも氏の寺に泊まるようにすすめられていました。

蒋総統、本土回復を強調

（蒋総統の訓話全文は、本誌三月号に掲載）

二月七日台北発AP電によると中国国民党は二月八日台北で第九回中央改造委員会第二次全体会議を開き先づ蒋総統の訓話があり本土回復達成のための結束を要望するとともに革命精神強化のために二週間ずつ日曜集会を設けることを決めた。同会議は四日間にわたり開かれ蒋総統が次の分析報告した。

△松元虎義氏（昨年九月結成された台鉄会員）住所をお知らせ下さい。（杉並区阿佐谷北二の二の七、自明氏、西村登美子）

李連春糧食局長来日
肥料三〇万トン輸入契約

中華民国台湾省糧食局長李連春氏は日本政府と打合せのため三月十四日来日したが、同十四、日本との間に肥料三〇万の輸入契約を成立させた。なお日本側では台湾よりの米輸入の答と考慮はされないの問題につき打合せ中である。

尋ね人

△磯山俊氏（終戦末期に台北州文書課長・現審議会統出身の人）台湾留中お世話になった伊藤政文さんが探しています。住所お教え下さい。

△吉田七三さん（元台北州文山郡のための結束を要望するとともに革命精神強化のために二週間ずつ日曜集会を設けることを決めた。同会議は四日間にわたり開かれ蒋総統が次の分析報告した。

△吉田七三さん（元台北州文山郡役所勤務現住所田東氏、陳瑞中尉様、住所をお教え願います（大阪）

△松元虎義氏（昨年九月結成された台鉄会員）住所をお知らせ下さい。（杉並区阿佐谷北二の二の七、自明氏、西村登美子）

―告別―

△木村武太郎氏　二月六日逝去、夫人文久さん、娘子恵氏、山口市八幡馬場二五の二

人事消息

△重宗参院議長（国府の招きで親善訪問のため、月八日訪台、各地の状況視察の上同十五日夜ノースウエスト機で東京羽田空港着帰国した。

△木曽四郎氏（元台北州の会北駐在大使）

△水崎源氏　新住所、茨城県鹿島郡神栖一二野。

△渡辺康夫氏（参議議員・元台湾総督府官房文書課長）二月八日台風被害地視察の為同日台北着。

△佐々木義武氏（元台東庁新港区柏木二の四、九電七二一一）へ転居した。

△鶴一雄氏、台鉄アイアー株式会社取締役に就任した。

△高木秀雄氏（福祉新聞社）松山支局長に就任、松山中大通、県松公舎内。

▽青木八門氏（元、青木秀次氏）広島市より郷里の鹿児島県谷山市東郷、青木ヤカンへ転居

△武森一男氏（練馬区関町一の二六）電話番号が九一局七九一となった。

△永田福一郎氏　住所新表示、東京都杉並区成宗小学二丁目一番九号。

△廣野清氏　住所新表示、大津市中央二丁目番一号。

△坂井光一氏　新住所は、大津北里芝居町四八丁目一四番地。

△岩倉倫次郎氏　住所新表示、世田谷区経堂一丁目一番住宅八一号。

△一宮周雄氏　住所新表示、日東区中央町二丁目一番一号、電話新潟(二)九局二六八一番

△水崎源氏　新住所、茨城県鹿島郡神栖一二野。

△木曽四郎氏（元台北州の会北駐在大使）

台中の友愛鐘楼

上は二月六日台中宝覚寺に参詣した葦津英雄氏らの一行。友愛の鐘楼前にて、「友愛鐘楼」の文字は何応欽総統の揮毫に成るもの、下は「友愛の鐘」の前における一行、左より二人目葦津氏、福富、今井、葦津、豊田の諸氏。

耽筆

育上費、育はいずこより来るにや。無育か、狂育か、今年の育は、社育の混迷を生て、まさに空機の感あるを以てはじまり、国民党機の分裂をはじめ、国民党機の分裂をはじめ、国民党機の分裂をはじめ

台湾の救癩に
有志者が起つ
協会を設立　医師、看護婦を派遣

台湾の救癩事業はわが国が台湾統治の始まる当初から着手されたもので、日本MTL（救癩協会）台湾救癩事業後援会が組織されることになり、厚生省の斡旋で、台湾大学医学部の教授、助教授、看護婦が派遣されることになった。

第二回の医師団は二月二十八日午後五時から東京都千代田区医師会館で後援会と共催の歓送会が開かれる。服装は、背広、和服、校章は左の通り。

趣意書

わが国の救癩状況が、今日の存在にあるのは、多くの人々の努力の賜物であることは申すまでもありません。

日本MTLとても、今日まで諸外国の好意にこたえるためにも、台湾に対しできうるだけの援助をいたしたいと、前任者の故人笹川良一氏の後任として、昨年六月有馬頼寧氏、十二月に医師小原博士（台南癩療養所駐在）を台湾に派遣し、台湾の癩患者のために努力を続けております。

昨年は

台湾旅行記（高田登代子）
第三面よりの続き

である。その古い湖畔の湖面の美しい伝説、「青鯉剣魚」が水に姿をうつす風景、二十年の歳月がこの風景を変化させたと、おどろかされるばかりである。

いつか少々みだらで、せまった雰囲気にむかっていそう里まで何んとなく大きくなった感じの南部の空、駅前の新築された新しい赤アルであった。

ホテルの食堂では昼食が着席するとバンドが「みどりの窓口」と「校歌」を演奏してくれる。他の客達が好奇の眼で迎えてくれるのもうれしい。ショウに出て歌手達が二人歌の歌をうたった。たえその歌の十年前の古い歌ものであるとも、場内が騒然とけに、どんとうるものがある。二人の歌手に感謝をした後の子に、シーハンスのストッキングをプレゼントしたらあろう。ぴて、日本しい伝統「青鯉剣魚」が水に姿をうつす風景、二十年の歳月がこの風景を変化させたと、おどろかされるばかりである。

いつか少々みだらで、せまった雰囲気にむかっていそう里まで何んとなく大きくなった感じの南部の空、駅前の新築された新しい赤アルであった。

ホテルの食堂では昼食が着席するとバンドが「みどりの窓口」と「校歌」を演奏してくれる。他の客達が好奇の眼で迎えてくれるのもうれしい。ショウに出て歌手達が二人歌の歌をうたった。たえその歌の十年前の古い歌ものであるとも、場内が騒然とけに、どんとうるものがある。二人の歌手に感謝をした後の子に、シーハンスのストッキングをプレゼントしたらあろう。ぴて、日本

ガジマルの樹蔭に変らぬ友情
（豊けいさんの旅行記第一篇）

「台湾へ行かれたそうですネ良いところをなさいましたに、親しい方達、クラスの友達が口揃えていってまいります。台湾へ行ったからそのなつかしさのこもる言葉です。その時、特に私は、何と云ってもお育ち、結婚しあのはうしい教育のための平和な生を、一変した想い出が度に台湾なのです。とつづ加へます。

然ずが帰って、あらでの学院の友、全職様からなつかしい手紙が届きました。

おなつかしいけど子さま、本多さんや船津の御尊父様の御元気なお顔、お姿が目に浮かぶ様です。

更に二つ感激があります。

せいたいなことは、たびくしばらくして、出来れば私の様子を伺いたいことです。

バスの窓から一本の黒木二つ並べた様に、ガジマルの樹にまるで。

いくら年経てもこの木は変らない。

四十二年と経過、戦災をカジュアルの樹に感謝をこめて。

台湾旅行での感激
――変らぬ友情　霜　けい子

「台湾へ行かれたそうですネ良いところをなさいましたに、親しい方達、クラスの友達が口揃えていってまいります。台湾へ行ったからそのなつかしさのこもる言葉です。その時、特に私は、何と云ってもお育ち、結婚しあのはうしい教育のための平和な生を、一変した想い出が度に台湾なのです。とつづ加へます。

然ずが帰って、あらでの学院の友、全職様からなつかしい手紙が届きました。

おなつかしいけど子さま、本多さんや船津の御尊父様の御元気なお顔、お姿が目に浮かぶ様です。

更に二つ感激があります。

せいたいなことは、たびくしばらくして、出来れば私の様子を伺いたいことです。

バスの窓から一本の黒木二つ並べた様に、ガジマルの樹にまるで。

いくら年経てもこの木は変らない。

四十二年と経過、戦災をカジュアルの樹に感謝をこめて。

覧一家の好著
「今日の砂糖読本」

覧平城夫さん一家の編著『今日の砂糖読本』（日本経済新聞社）は、砂糖の歴史、製造、流通、消費、栄養、料理、砂糖の文化史、砂糖の将来性、砂糖の効用、砂糖の害毒、砂糖の取扱い方、砂糖の選び方、砂糖の保存法、砂糖の上手な使い方、砂糖の料理法、砂糖の菓子、砂糖の飲み物、砂糖の利用、砂糖の知識、砂糖の常識、砂糖の統計、砂糖の年表、砂糖の参考文献、砂糖の索引、砂糖の広告、砂糖の広告、砂糖の広告

台湾協会々員
会費領収報告

二月十六日より三月十四日まで

賛助会員

（略）

一般会員

（略）

会友

（略）

台湾協会
入会の御案内

台湾に縁故又は関係を有する法人、団体または個人、どなたでも入会が出来ます。

会員には次のような特典があります。

一、台湾関係資料の無償配布
二、本部主催講演会の無料聴講
三、本部会議室の無料利用
四、本部会報の無料送付（台湾の各種会報）
五、その他台湾の情勢に関心のある諸先生方との懇親

会費は年額（一口）普通会員一口以上、賛助会員一口以上（一口は五千円）

入会希望の方は御申出で下さい。直ちに会員規則等をお送りします。

会費の御送金は振替（振替口座東京四〇〇三〇七番）をお願いします。

申込書

台湾協会
会員名簿
頒価　三〇〇円

お求めの方は左記協会事務局へ

東京都新宿区四谷大京町二の三〇三
電話三六九局八一六一・七番
振替口座東京四〇三〇七番

俳句欄

選者吟

下田実花選

（略）

俳句

（略）

受贈の出版物

（略）

青木繁氏新著

（略）

歌壇

（略）

台湾協会会報

発行所
新宿区西大久保2の303
財団法人　台湾協会
電話　(03) 8116—7番
振替口座　東京 4307番
発行所　財団法人台湾協会
発行人　松本一吉

即時答申要求
引揚者代表全国大会

「在外財産問題審議会」に対し即時答申を求めるため、全国の引揚者代表が結集した「引揚者代表全国大会」は、予定の通り三月十六日、午前十時から、日比谷公会堂において開催された。

開会に先立ち、午前九時頃から会場周辺には、全国各地から参集した引揚者代表の姿が目立ち始め、開会時刻には、会場内外は、ぎっしりと埋まり、千余名、来賓の参議院議員も二百余名を数え、熱気あふれる盛況を呈した。

等々力理事の司会で、国歌斉唱、物故者黙禱、大会委員長いさつに続いて、本日特に参加された代表のうちから、満州、樺太、南方、北鮮、台湾、関東州、中部、関西、中国、四国、九州、北海道、海外の各地区代表が、それぞれ代表者を壇上に並べ、続いて、全国引揚者団体連合会の結成の経過報告があり、次に、経過報告の後、議長団を選挙し、議事に入った。

議長には、全国引揚者代表者会議の発起人代表である、岡田宗司氏（社会党）、副議長には、全国引揚者団体連合会の代表である、田中伊三次氏（自民党）、社会党代表として今澄勇氏が、それぞれ代表者として壇上に並べ、続いて、代表者会議の経過報告があり、次に、経過報告の後、議長団を選挙し、議事に入った。

宣言

引揚者の在外私有財産は国家補償の対象とせよ

一、第三次在外財産問題審議会が設置されてから二年六ヶ月、第二十三回目の審議を終了した今日、今尚何等の具体案も出ないことは遺憾である。引揚者の願望切なるものがあり、さきに決議書を以て、さらに決議書を以て、さらに決議書を以て、さらに決議書を以て、さらに決議書を以て、さらに決議書を以て、

一、第五十回国会（臨時国会）において、可及的速やかに処理すること」との答弁をもつて「即時」とする解釈に対しては、断じて承服できない。我々は絶対に譲歩することはできない。

一、賠償金には引揚者の在外私有財産が援護法の適用を受けず引揚者としての実質的な弁済が行われていない事は如何なる理由をもつてしても許されない。

一、政府は国家対国家の国際法論上、国家対国民の国内法論を援用して権力を発動し、現行法の範囲内で補償の措置をとるべきである。

一、東京高裁判決は法の不備の判決であり、国民の訴である以上、国民の訴であるとの判決を得るまで断固たる決意を示している。

以上三項目を審議会、政府、国会及び政党に要求し、その回答を得るまで断固たる決意を示している。

昭和四十一年三月十六日

在外財産問題審議会即時答申絶対要求引揚者代表全国大会議員団

要望書

一、第三次在外財産問題審議会が設置されてから二年六ヶ月、第二十三回目の審議を終了した今日、今尚何等の具体案も出ないことは遺憾である。引揚者の願望切なるものがあり、さきに決議書を以て、さらに決議書を以て、さらに決議書を以て、さらに決議書を以て、さらに決議書を以て、

一、第五十回国会（臨時国会）において、可及的速やかに処理すること」との答弁をもつて「即時」とする解釈に対しては、断じて承服できない。我々は絶対に譲歩することはできない。

一、賠償金には引揚者の在外私有財産が援護法の適用を受けず引揚者としての実質的な弁済が行われていない事は如何なる理由をもつてしても許されない。

一、政府は国家対国民の国内法論を援用して権力を発動し、現行法の範囲内で補償の措置をとるべきである。

一、東京高裁判決は法の不備の判決であり、国民の訴である以上、国民の訴であるとの判決を得るまで断固たる決意を示している。

以上三項目を審議会、政府、国会及び政党に要求し、その回答を得るまで断固たる決意を示している。

昭和四十一年三月十六日

在外財産問題審議会即時答申絶対要求引揚者代表全国大会議員団

審議会への要望書

引揚者在外私有財産問題につきまして、審議会の内外で特別の御尽力と御努力にたいへん感謝申上げます。

昭和四十一年二月十一日を以つて各県代表より県内の経済引揚者が二千億と云う長い間、冷たい無定見の態度に悩み苦みながら涙ぐんで訴えている姿を見るに忍びず、ここに再び全国引揚者代表として、左記事項を審議会に要望する。

一、各政党へ今国会に引揚者在外私有財産問題処理法の法案を提出するよう国民運動を展開すること。

一、各政党へ今国会に引揚者在外私有財産問題処理法の法案を提出するよう国民運動を展開すること。

以上二項目を審議会、政府、国会及び政党に要求し、その回答を得るまで断固たる決意を示している。

昭和四十一年三月十六日

在外財産問題審議会即時答申絶対要求引揚者代表全国大会議員団

台湾残置財産処理促進全国大会

終戦と共に第二の故郷であつたわれらのなつかしい台湾を強制送還せられてから早や二十余年の日時を経るにいたつた。夢に見る吾等が血と汗により築いた土地、田畑、山林、家屋などとの一つ一つも忘れ得ないものばかりであり、吾等は敗戦と云うかなしいそしてきびしい烙印を背負つて祖国に引揚げた。

政府は国民政府との間に平和条約を結び吾等の財産については条約第三条において話合ひの解決をする条項があるにもかゝわらず歴代の内閣は積極的に何等の公式話合いもせずに個人財産を放棄している。よつて政府はすみやかに台湾残置財産の処理をなすべきである。

われわれ台湾引揚者は自分自身の権利を守るため今こそ立ち上つて財産処理を強く政府に要求し、この悲願達成のため倒一層の努力をすべきである。

われわれ引揚者は人頼みではなくこの大会に参加して充分に意のある所を尽し政府にその処理をなさしめる様二十余年来の悲願を達成しようではありませんか。

記

時　昭和四十一年五月三日午前十時

会場　台湾協会会議室（新宿区西大久保二丁目中央ビル七階）

尚在台当時指導的立場にあつた方々も御出席下されて大いに激励のほどをお願ひします。

地方よりご参加の方々は準備の都合もありますから協会までご一報下さい。

宿舎などご希望の方は予約いたしますから宿泊日をお知らせ下さい。

本会報の記事をもちまして通知と致します。

昭和四十一年四月十五日

台湾残置財産処理特別委員会
委員長　田中泰作

第三面へ続く

決議文

我々は総会をあげて二十年間耐え忍び来た全国四百万引揚者を代表して次の項目を要求する。

一、在外財産問題審議会に即時答申を絶対要求する。

一、各政党へ今国会に引揚者在外私有財産問題処理法の法案を要求する。

尋ね人

△台湾における日本人小学校の最後の一校であつた鯛小学が昭和二十一年四月に廃校となりましたが、その時の
1、職員児童生徒今校長代理
2、同教頭
であられました先生の姓名、住所をおわかしします（横浜市南区岡津町九二六、中島道二、滝島嗣浜八八の九内、一四番）

△能年月日帰還された台湾の松元業務課の住所知りたし（杉並区阿佐谷一の二の七、竹内花子）

△台の時、地方公務員退職につき友人の転職が必要となりましたので元気の方の現在地御存じの方はお知らせ願います

昭和十三年より二年頃まで台南州警務課勤務の
浅尾大輔、金子大輔（重医）、中野重義、宇野順、鹿田、大場、泥松、吉田、高順、吉田、小松山、高村、大浜の諸氏

△遠山県民の住所は横本県八代郡宮原町西上富です。

△私の義兄、元台中州清水農学校の先生、富田重信、岡田貞夫、竹並政雄、高原秀雄、牧田秋夫の現在の現住所知りたし（台南新竹出身）

人事消息

△青山基次氏（国米農衛生課長元職）二月十五日付で次長の時に任ぜられた

△木村四郎吉氏（前台北財務局次長）二月十五日付で前代財産管理人に任命された

△山本真平氏（台湾土地改良副社長）二月十五日付で台湾土地改良社長に任命された

△青野四郎氏（衆議院議員）在京中の去る四日、午後六時、東京都北区西ヶ丘二丁目二の四番地の自宅で逝去、享年七十五才

△西島義雄氏　旧姓大塚北多摩郡保谷町下保谷二九九に転居

△新堂薫氏　住居新宿区、佐賀市水ヶ江六ノ一番七ノ号

△滝川金之助氏　住居新宿区、東京都北区西ヶ丘二丁目二の四番地

△滝澤忍氏（中農製糖社）名古屋市中区錦二丁目十二番一二号

△松浦新平氏　住居新宿区、渋谷区渋谷一の二の二

耽筆

新緑の候となつた。ものみな新しい芽を吹く季節。われらの生活にも新たな心構えが必要である。台湾政府も、東海アジアの経済開発会議で、佐藤総理が豪語した台湾の発展をさらに一段と強化するため、この四月から第四次経済建設四カ年計画がスタートする。第三次までの成果は、農業生産の増大、工業化の進展、輸出の増進、社会福祉の充実、教育の普及など、いずれも目覚ましいものがあつた。今後の計画では

『阿波丸』現地供養

基隆郊外で行なわる

大東亜戦史上の中でも悲話を極めた阿波丸の犠牲者の慰霊のため、早や二年の歳月が矢の様に過ぎ去り、四月二日台湾基隆郊外の野柳島の現地で、国民政府の参謀長、台湾省主席、台湾省参議会議長、基隆市長、台湾省旅日同郷会代表、台湾救癩事業後援会代表、台湾救癩協会代表、台湾新報社代表、台湾日日新報社代表、台湾協会代表、台湾銀行代表、台湾電力代表、台湾拓殖代表、台湾製糖代表、台湾総督府代表、台湾省政府代表、台湾省議会代表、台湾省警備総司令部代表、台湾省警察局代表、台湾省憲兵隊代表、台湾省青年団代表、台湾省婦女会代表、台湾省教育会代表、台湾省農会代表、台湾省工業会代表、台湾省商業会代表、台湾省水産会代表、台湾省医師会代表、台湾省薬剤師会代表、台湾省歯科医師会代表、台湾省獣医師会代表、台湾省助産師会代表、台湾省看護婦会代表、台湾省理容業組合代表、台湾省浴場業組合代表、台湾省クリーニング業組合代表、台湾省旅館業組合代表、台湾省飲食業組合代表、台湾省興業信用組合代表、台湾省農業倉庫代表、台湾省農業会代表、台湾省漁業会代表、台湾省林業会代表、台湾省畜産会代表、台湾省青果運搬業組合代表、台湾省木材業組合代表、台湾省製材業組合代表、台湾省製紙業組合代表、台湾省印刷業組合代表、台湾省出版業組合代表、台湾省新聞業組合代表、台湾省ゴム業組合代表、台湾省皮革業組合代表、台湾省製革業組合代表、台湾省製靴業組合代表、台湾省鞄業組合代表、台湾省製糸業組合代表、台湾省織物業組合代表、台湾省染色業組合代表、台湾省綿業組合代表、台湾省麻業組合代表、台湾省毛業組合代表、台湾省メリヤス業組合代表、台湾省製帽業組合代表、台湾省製綱業組合代表、台湾省製網業組合代表、台湾省製鎖業組合代表、台湾省製釘業組合代表、台湾省製針業組合代表、台湾省製鉄業組合代表、台湾省鋳物業組合代表、台湾省鍛冶業組合代表、台湾省鉄工業組合代表、台湾省鉄線業組合代表、台湾省鉄管業組合代表、台湾省鉄材業組合代表、台湾省鉄鋼業組合代表、台湾省鉄骨業組合代表、台湾省鉄筋業組合代表、台湾省鉄道業組合代表、台湾省鉄道業組合代表、台湾省鉄道

台湾協会々員 会費領収報告

三月十七日より四月十四日まで

賛助会員

東京都渋谷区宮益坂町ノ二八　赤司　大介

一般会員

東京都小金井市貫井町ニノ九ノ二　山本　実
熊本県菊池郡隈府町ノ六　田中　亮
大阪府泉北郡高石町取石ノ六　浜田　政一
仙台市瀬町二番地　阿部　貞寿
東京都世田谷区北沢ノ四ノ六九
外務省アパート八四ニ号
名古屋市村区笹田町四ノ一〇　川上　健三
東京都世田谷区池尻町四ノ六一　三谷万太郎
中山　義男
福岡市栄町四ノ二　成増アパート三五五
鍛治　四郎
大阪府茨木市福祉本三一〇　川並テル子
広島県竹原市竹原町四〇〇三　中谷　哲二
熊本県菊池郡七城村砂田　守田　留
東京都小金井市貫井南ニノ一〇七　桜井芳次郎
大阪府守口市藤田町六ノ一五　山口　ノブ
東京都北多摩郡久留米町八ノ四ノ七　三松貴京郎
大阪市北区菅田町六八　保高　勇
東京都千代田区麹町五　八木　喜良
東京都世田谷区太原ニノ四ノ二三　松野　孝
福島県東白川郡棚倉町矢吹　関川　保
佐賀県佐賀市天神ニノ八五　武田十七二
東京都目黒区中根住宅七一五　岡本　康次
東京都三鷹市牟礼四ノ五一五　森　巍
茨城県水戸市白梅ニノ三五六　部　辰太郎
東京都千代田区山王三千日ニノ二田生方　勝野　公栄
横浜市戸塚区公田町七四ノ公田団地一七ニ五ノ二　田中　安

会友

東京都板橋区成増町三四六　林　タカ
村田　十郎
岡田　松次
岡本　亮夫
鶴谷　多加
西野　晴雄
渡辺　浩治
渡辺　正平
内藤　浩司
玉井虎太郎
澤沢　豊吉
末永　昇
石丸　米吉
大村　寛俊
二反　志善
鶴藤　実
吉岡チヌ(田端文士
横尾　和男
松尾　寿治

大船観音

横浜　中島　梢子

機関銃掃射の名手新しく(二月四日硫黄島作戦発生)
風少し強き朝なり鳥をうけし御座のほとりに梅の散れる
汽笛低い来る海辺暮えんし僧衣の人と尼を眺めぬ
鴎引くうすれをあるみ冷めたくなれ来し五次おもう大船の丘

瀬野寧氏作歌

去る三月十五日の暖かい日当り内毛人クラブでの寒稽古を催したについて、老人クラブの歌を募集し三味や踊りと大にはしゃぎ、久しぶりで若い感覚につたうな気がする、この席で俳句まで詠りが出ず、下手の横好き、次のような歌を作り、皆んなで唄いまくり好評を博した、そこで、瀬野居が夫々選評して下手な歌を作って恥入って居ること、をお詫び致します。

山本真平氏を囲んで……

戦時中の台湾にあった民衆公会の事務総長であった山本真平さん外六人の懇親会が、二月二十四日を機に、四月九日の柴地本部等における台湾人物故者慰霊祭に際しての打合せ会が行われた。席上、その機会に旧民衆公会の縁故者である服部喜代、桜井文衛門、安藤節子、渡田武子の諸氏は久方振りの出会いに当時をなつかしんだ。写真は当日の記念撮影である。

なお、それより、旧米穀協関係の江藤勝昌氏、松野孝一氏も加わり、新橋「新橋」において久闊を叙する会を開き、大沢貞一、鈴木泉、神本誠一氏等が女保史愛氏の思い出話をし往時の台湾談に花を咲かせた。

(写真は柴地本部等での記念撮影)

郡司海軍大尉の——千島行を見送る——中沢亮治

私の思い出(4)

入って居ることを感じ、その頃の事務所は、常時も負けない気慨ある会員同志が顧みあい協力して皆さんの為に尽くしたものである。

老人小唄

一、お寄合集いの会話は
みんな元気な自由度いな
今や昭和の御世なれば
明治生れの言草会

二、年はとっても心はにかまけない気慨ある
会員同志が顧みあい
協力わすれぬ皆さんの為に尽くした事

三、昔し懐かしい話にさいて
言われようと気にするな
今さら恥性持るまい
強く正しく生きるのみ

四、喜寿の命も養うの
病の外に車寄あり
転ばぬ前に杖ついて
油断するなよの世の中

五、昔しとうとう桜来と
下手に歌うは素人芸
楽しい老後を送りたい

(今いうウオーヒアンス)を目指して行った。私は父の従兄の津田氏に行った。この次男の一郎君が訪ねて来られ、暫く話しつつおり立つ庭のもの芽かな

古井戸に落ちし椿の新しき

選者吟

船の人映り進みて水ぬるむ
ひろがりてかぼそき枝垂さくらかな
ふたとりにして庭石に散るさくら
はや散ってむし花びらの水溜り
門入りて敷石つづき仏生会

一野で止った。私は父の従兄の津田氏に行って泊った。この次男の一郎君が訪ねて来られ、暫く話しつつおり立つ庭のもの芽かな

古井戸に落ちし椿の新しき

選者吟

船の人映り進みて水ぬるむ
ひろがりてかぼそき枝垂さくらかな
ふたとりにして庭石に散るさくら
はや散ってむし花びらの水溜り
門入りて敷石つづき仏生会

麦の芽にふと引揚げの涙ぶ　別府　平岡香南
一等を見つめる池の水温む　話しつつおり立つ庭のもの芽かな
古井戸に落ちし椿の新しき

選者吟

船の人映り進みて水ぬるむ
ひろがりてかぼそき枝垂さくらかな
ふたとりにして庭石に散るさくら
はや散ってむし花びらの水溜り
門入りて敷石つづき仏生会

俳句欄

下田実花選

麦の芽にふと引揚げの涙ぶ　別府　平岡香南
一等を見つめる池の水温む　話しつつおり立つ庭のもの芽かな
古井戸に落ちし椿の新しき

選者吟

船の人映り進みて水ぬるむ
ひろがりてかぼそき枝垂さくらかな
ふたとりにして庭石に散るさくら
はや散ってむし花びらの水溜り
門入りて敷石つづき仏生会

一野で止った。私は父の従兄の津田氏に行って泊った。この次男の一郎君が訪ねて来られ、暫く話しつつおり立つ庭のもの芽かな

古井戸に落ちし椿の新しき

選者吟

船の人映り進みて水ぬるむ
ひろがりてかぼそき枝垂さくらかな
ふたとりにして庭石に散るさくら
はや散ってむし花びらの水溜り
門入りて敷石つづき仏生会

歌壇

きさらぎ　安元繁行
都府楼の大礎石に日はくれてきさらぎの月淡くさしそえ
野ノ宮に急ぐ蛙蛾野の如月の竹林鳴らし風吹きわたる

野鳥　堀誠六
雪つもる戦場ヶ原の野鳥どち日ざしに語る声のさやけき
吹雪なばいづこかひそむ野鳥どち生かされあるがたやとりどり

春来れば　篠崎彦二
野に畑に春の光の照りそめて働く人の姿をうつし
春来れば秋の刈り入れ思はれて勤とる手にも力あふるゝ

曾我の白梅　宇都宮八重
降り立てば香りの風に迎えられ盛りの花を眺めあかしぬ
現の仇報ぜし人のゆかりの地曾我の白梅水入に香りて

寒波　高橋遼子
この冬は雪を見ずして過ごせしが烈しき寒波襲ひ来れり
冬枯れの庭一面にさびたるにキング水仙まんじゆしやげ萌ゆ

事故　大森正泰
無惨なるテレビニュースに涙なくいきをこらして画面みつむる
あひつぎて事故のおこるに人々の償ふゝ心は恐しきかな

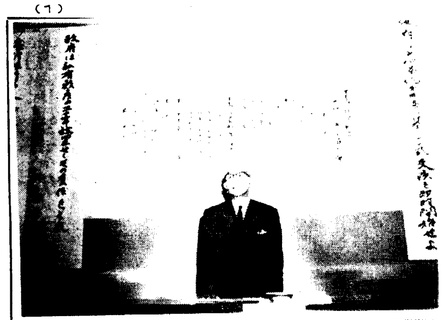
昨日今日　乙守玉緒
長閑けき日暮き日ありて夏冬をまじへしごとき昨日今日かな
外套の冬仕度にて朝戸出し目にとまりしもも咲く梅が枝は

障子　守屋栄夫
梅が枝に来なくうぐひす窓ぎはの障子にうつりさやかにも見ゆ
障子みなあけはなち見る梅雨やみて晴れわたりゆく大海原を

魔の気流　伸村光子
全日空の遺体あらぬ日々がテレビをとほしもどかしきかな
魔の気流よさりし風か白梅を香もおぼろにて庭に散らしぬ

魔のしわざ　渡辺喜代
きびしかりし空の惨事のおそろしきしわざかと空を見つむる

台湾協会報（昭和29年11月10日第三種郵便物認可）（毎月15日発行）　第140号



台湾残置財産の補償要求国全大会

五月三日 決議文等を可決

台湾残置財産処理促進全国大会は、台湾残置財産処理特別委員会（委員長田中泰作氏）の主催のもとに、五月三日の憲法記念日に午前十時半から東京新宿の台湾協会中央ビル七階の大講堂において開催された。この日天候は快晴ではなかったが、日比は雨を除らず、まずまずの人出で、全国各地から

台湾残置財産処理促進全国大会は、台湾残置財産処理特別委員会（委員長田中泰作氏）の主催のもとに、五月三日の憲法記念日に午前十時半から東京新宿の台湾協会中央ビル七階の大講堂において開催された。この日天候は快晴ではなかったが、日比は雨を除らず、まずまずの人出で、全国各地から

会は第四部長石倉栄次郎氏の司会に依り進行、先ず本大会の招集者である特別委員会の委員長田中泰作氏が

に関する要望があった。私もその時は流十二才そありました。その時は未だ東京では煉火上っていなかったのでしたが、京都の明倫幼稚園の地下室で会合して発足したのが初めてありました。その後、台湾問題となり、このビル出来ると共に一本化して参ったのですが、最近に至れば、地方からの要望

くことになりました。本日は、大に気勢をあげていただきたい。

と前会の挨拶を述べ、ついで、参加者自己紹介並びに、台湾関係物故者への黙禱を捧げた後、石倉事務局長より大阪の大田燕三氏外五名、静岡県の秋山政一氏、長崎の台湾会神戸の松本佐外十三名から寄せられた弔慰電報を披露した。ついで、当時の経過並びに

私は水ら政府にいたので自然皆さんとも面識が沙汰勝ちとなり申訳ない。在外財産の問題は本日未だお祝いを申上げることの出来ないのは誠に残念ち、本日はだその後の経過を申上げ、今後の事に役立たせたい。

と国民が全部の賛成理由として政府に交渉した経過、理論上の争点について話った。これ等の事は当時パンフレットとなり引揚者に配布されている。

そして、いろいろな経過を経て「お見舞金」として出されたが「補償金」ではない事を銘記して貰いたい。又、台湾には平和条約第三条に基く別個の問題がある。政府は台湾銀行と朝鮮銀行から二十五億円を吸い上げている。政府はこの吸い上げた金を銀行預金の払戻しに使っても よいではないか——当時議会の委員会で私は主張した。それを二十年間も放っておいたのでは

ているのであるから、全国引揚者の運動も正しい運動であるが、それ以外と台湾には右のような問題があるのである。政府は二十五億円の金を吸い上げているのであるから、憲政党と交渉する前に、まず替え玉をよこせと叫びたい。『政府は立ったよ』という事を強く主張して頂きたい。

さんも大いにやって貰いたい、私もお祝に行きたいのですが、国会より本大会の議長指名にて出席を命ぜられ、これは国会の一任となりました。

田中泰作、岩佐直司、三浦弘

の両氏を議長団に選出したが、かくて田中民選議長団につき議事に入り、先ず右衆議院議員より経過の報告として台湾問題から残置財産処理特別委員会となった経緯、調査団派遣の目的が出来て本問題の促進に大きな力を与えつつある事情、政府に衆議院が設置された日下衆議院が行なわれている現状について近く非常に有利に動きつつあり、佐藤総理の活躍なども あって、言論界も活発にこの問題をとり上げている。何にか国民がつくのではないかというのが現状であるが、しかし、衆議院の中には学者がいて「補償」とするか「補償」とするかが政府の言も非常にしている状況である。その外に台湾には台湾銀行の別個の問題と、日本側の問題がある

三、一般の問題、台湾銀行の問題についての説明が行なわれたこの時、田中議長より発せられ台湾の動きは全部一別個ではなく、その筋と共に入っているが、台湾銀行の事は特別委員会があるのであるから、全部一緒にしろという様な事ではない。

説明があり、一同これを了承した。

たついて、議事は左記の通り決案にもとずき逐次討議された。

（公社債の問題）

一、この問題の一環として当面の政策について説明があった。

（既に十二億は日本勤労銀行に預金されているが、政府の約束に依って支払う。その額は大体一千万円である。残余についてないからの分に台湾には台湾銀行の別個の問題と、日本側の問題がある

決議文

我々は悲願をこめて二十年間耐え忍んできた全国台湾引揚者を代表して次の項を要求する。

一、政府は平和条約第三条に基く正式交渉を即時開始することを要求する。交渉の見透しなくば即時その代払することを要求する。

一、政府は即時公社債の返還支払を開始することを要求する。

一、銀行預金三分の一切捨て分を払戻し即時実施することを要求する。

一、戦時火災補償復活支払要求の件

右決議する

昭和四十一年五月三日

台湾残置財産処理促進全国大会

その日の会場

写真は上より会場正面、起ろうとは挨拶する田中議長、来賓席の古屋貞雄元代議士、石倉事務局長の報告、その右方は岩佐、馬場、原田の各副委員長、会場風景。

第二面に続く

台湾協会報

発行所
新宿区西大久保2の303
財団法人 台湾協会
電話 (98) 8116-7番
振替口座 東京 40307番
発行名義人 財団法人台湾協会
代表者 松本烝治

参加者

当日記名順

岩佐直司、田中泰作、青野金八作次、松浦順平、後藤次彦、喜島善井名正明、浜田洋一、宮内義、早川鴻一、鈴原林也、三浦弘、中島与市、三宅清、大増庄太郎、小林正之介、古賀大介、赤司大介、吉岡南一、安井清次、重森確太、小林正之介、赤司大介、古賀大介、藤原林也、三浦弘

補償要求の全国大会

第一面よりの続き

調印条約第二条が成立した後での請求を遂次二種、百億、百億の合計二百億円を要求した。ところが、日本側は、この請求権は、すでに解決ずみであるとして、これを拒否した。

ところが、一九六五年六月二十二日、日韓基本条約が調印され、同年十二月十八日、国会で批准されるや、韓国政府は、突如として、日本側に対し、対日請求権は、まだ解決ずみであるとして、新たに、八項目の対日請求要綱を提示してきた。

その内容は、

一、韓国人の日本国債、日本銀行券、被徴用韓国人の未収金、戦時補償、戦後補償、恩給、郵便貯金、簡易保険、有価証券、韓国法人の対日債権の弁済

二、韓国人の対日財産請求権の弁済

三、韓国人の日本国内における財産権、営業権、漁業権、鉱業権、無体財産権の返還

四、韓国人の日本国内における法人の権利の返還

五、韓国人の日本国内における文化財の返還

六、韓国人の日本国内における地金、地銀の返還

七、韓国人の日本国内における船舶の返還

八、韓国人の日本国内における日本政府、地方公共団体、日本法人の債務の弁済

というものであった。

これに対して、日本側は、

一、日本国内における韓国人の財産権は、サンフランシスコ条約第四条(b)項の規定により、日本国民と同様に取り扱うことになっており、日本国民の財産権は、韓国内においては、ほとんど没収されているので、日本側の財産権は、韓国側の財産権に対して、相殺されるべきである。

二、日本国内における韓国人の財産権は、日韓基本条約第二条に規定する財産、権利及び利益に該当しない。

三、韓国人の日本国内における財産権、営業権、漁業権、鉱業権、無体財産権の返還は、日韓基本条約第二条に規定する財産、権利及び利益に該当しない。

四、韓国法人の対日債権の弁済は、日韓基本条約第二条に規定する財産、権利及び利益に該当しない。

五、韓国人の日本国内における文化財の返還は、日韓基本条約第二条に規定する財産、権利及び利益に該当しない。

六、韓国人の日本国内における地金、地銀の返還は、日韓基本条約第二条に規定する財産、権利及び利益に該当しない。

七、韓国人の日本国内における船舶の返還は、日韓基本条約第二条に規定する財産、権利及び利益に該当しない。

八、韓国人の日本国内における日本政府、地方公共団体、日本法人の債務の弁済は、日韓基本条約第二条に規定する財産、権利及び利益に該当しない。

と、全面的に拒否した。

ところが、韓国政府は、日本側の回答は、誠意がないとして、一九六七年一月三十日、日韓会談の無期休会を一方的に通告してきた。

日韓会談は、一九六二年十一月十二日、大平・金メモ会談で、政治決着がついたはずであったが、韓国政府は、突如として、対日請求権は、まだ解決ずみであるとして、新たに、八項目の対日請求要綱を提示してきた。

日本側は、これに対して

台湾協会々員
会費領収報告

四月十五日より五月十一日まで

一般会員

秦	世古	吉澤	関戸	仙台	高橋	中野	豊島	山崎	小林	片岡	古道	小笠原	伊藤	桜井	関屋	中根	山口	杏	伊藤	桜	山崎	祥二	助一	齋藤	弥吉
幸	春	為	区	市	一	市	一	一	一	一	一	一	一	平	一	町	一	一	一	一	一	一	一	一	一
雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄
様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様

佐藤	静子	下田	仙台	関戸	豊島	中根	向井	高橋	小笠原	関戸	豊島	中根	向井	高橋	小笠原	関戸	豊島	中根	向井	高橋	小笠原	関戸	豊島	中根	向井
様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様

俳句欄

選者吟

高崎の春より花よりお蚕より

外の音の家にひびきて夏ふきぬ　別府　下田圭花選

山もりの歩の妹やいろく匠に風き

春風や水の匂ひに春の風　平岡

温度計に旅情湧き行く夫も行く　香南

台湾協会
入会の御案内

台湾に縁故又は関係を有する法人、団体または個人、となつたでも入会が出来ます。

会員には次のような特典があります。

一、会報を毎月一回無料で頒布致します。

二、本会主催の各種講演会に優先的に参加

三、本会主催の各種懇親会（含観光旅行）に参加

四、本会所蔵の各種資料（含図書）の閲覧

五、本会の斡旋紹介

六、その他台湾の新情報の随時の通知

入会希望の方は御申出で下さい。直ちに入会の御通知を致します。

会費の御送金は振替口座東京四〇三三七番

（振替口座東京四〇三三七番）

台湾協会
会員名簿
お求めの方は左記協会事務局へ
頒価　三〇〇円

東京都新宿区西大久保二の三〇三

電話三六九局〇二六一番

振替口座東京四〇三三七番

附属中学時代
ボートで遭難
私の思い出(5)　申沢亮治

台湾での宝探しムード

俳句の打揚

宇田美佐枝

歌壇

離乳

宇田春生

台湾協会会員名簿

台湾協会会報

台湾協会会員名簿

台湾協会会報

台湾協会会報

発行所
新宿区西大久保2の303
財団法人　台湾協会
電話　局　8116—7番
振替口座　東京40307番
発行名義人　財団法人台湾協会
発行人　松本　誠

その昔の我同胞（台湾の人）〝日本〟えうつそう

応召徴傭十七万、戦死者も三—四万

人道的立場から

二十年間まったくわが国民—つまり台湾本島の人々で、第一次世界大戦中に召集、又は徴傭されて中国本土や南方各地に派遣された軍人、軍属は総数合せて十七万余人、及びその中で戦没した方は三万数千余名と数えられ、靖国神社にも合祀されている。これらの人々のために設けられた東大助教授衛藤瀋吉氏（国際法）の『無い』との説のために、佐藤政府に強く（当国会報今年一月号に転載）という見解が昨年十二月二十九日の読売新聞第二面において発表されるや各方面に反響を呼び、〝忘れられていた〟この問題が大きな関心の的で取り上げられ、人道的見地から共感を呼び、日本人側でも元台北帝国大学法学部教授、現在弁護士会副会長）らも、この問題につき研究中で、近く衛藤助教授と懇談会（後述）をもつ筈となっているという。

なお台湾の人々の中からは台湾復興会議同盟連盟、郭雨新の両氏が来る昨年十二月に日本の外務省に陳情書を提出しているが、その全文は左の如くである。

陳情書

謹んだれば第二次世界大戦中日本軍部に徴召、及徴傭されて中国大陸又は南方各地に派遣された台湾の一万余人その中戦没した者は三万乃至四万人あり、靖国神社にも合祀されて居ります。

在外財産問題審議会委員

朝日新聞社社友　荒垣秀雄
東京大学教授　伊藤正己
前衆議院議員　伊藤郷一
日本相互銀行取締役社長　河野一之
商工組合中央金庫副理事長　河野通一
武蔵大学教授　鈴木武雄
京都大学名誉教授　田辺繁雄
日本赤十字社副社長　田岡良一
引揚者団体全国連合会副理事長　津波泰宏
共同通信社社長　福島慎太郎
東京新聞社顧問　福良俊之
元満州国国務院総務庁次長　古海忠之
公営企業金融公庫総裁　森永貞一郎
日本輸出入銀行総裁　山田義見
元会計検査院長　秋田大助
衆議院議員　受田新吉
参議院議員　中野四郎
〃　村山喜一
〃　青木一男
〃　大和与一
総理府総務副長官　古屋亨
内閣法制次長　吉国一郎
外務事務次官　下田武三
大蔵事務次官　佐藤一郎
厚生事務次官　牛丸義留

御寄附に感謝する

先般の残置財産処理促進全国大会を開催いたしましたる際、本運動推進の一助として参加者各位より赤誠こもる多額の御寄附をいただいたことに対し、本会を代表して厚くお礼を申上げ且つ感謝の意を表します。

御承知の様に在外財産処理につきましては現在、在外財産問題審議会に於て、近くその結論を見、政府に答申される段階となりましたので、本問題の解決が目前にせまって来たことは御同慶にたえません。

然しながら本件の処理は無体財産に関する処理が主となるものと考えられ、台湾の場合は他地域と異り、有体と無体とが明確になっており無体財産に就ては各引揚者が等しく補給を受ける事は当然でありますが、又た一面、有体に対していかに対処するかがこれからの大きな問題であります。今後この運動推進のためにも、いただきました寄附金を有効に使用させていただき、活発なる運動を展開する予定で御座います。

台湾同盟時代以来、われらは常に誠心誠意を以つて活動を継続いたしてまいりましたが、今後も又、この精神に則り皆さまよりの浄財はその意とするところを体して十分活用させていただくつもりです。茲に紙上を以つて厚く感謝の意を表する次第であります。

昭和四十一年五月十三日

委員長　田中泰作

会員の皆さんへお願い

住所の変更、住居表示の変更等がありましたら当協会宛お知らせ願います。会報の発送、名刺の訂正等に必要であります。（係）

尋ね人

台湾新竹市の林国鴻さんから左記二名の方の住所を尋ねて来ています。お知せ願います。（東京都中野区大和町四丁目三の九、勝義愛）

一、名越芝英氏、夫人昌子さん、息信介文
元新竹州次席理事、勤務された由

二、小森良作氏
元国際繊維協同組合勤務とし か或は現在日本の国際無線電話に勤めている人かも知れません。何分住所が分かるとよいので少々説明が困難です。

台北帝大学生さん（台中州北斗郡北斗街北斗郵便局気付）

十六才位、本籍山口県、御年大

人事消息

台湾銀行副総裁に就任した呉建堂氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省議会議長に選ばれた黄朝琴氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府主席に就任した周至柔氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した李汝和氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した李連春氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した李国鼎氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した陳大慶氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した陳慶瑜氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した陳奇禄氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した張豊緒氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した劉闊才氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した蘇南成氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した蘇振輝氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した蘇薫雨氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した郭雨新氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した林挺生氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した林金莖氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した林衡道氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した林致賢氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した林頂立氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した林紹雨氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した邱創煥氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した柯遠芬氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した洪蘭友氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した高玉樹氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した高育仁氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した高信氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した黄運金氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した黄朝琴氏は、二月十一日総統府で就任宣誓を行なった。

台湾省政府委員に就任した黄啓瑞

永井荷風の頭髪を切った話

附属中学時代の思い出話

―私の思い出―　中沢亮治

◎私は小学校の頃、年頃から、同級から附属中学校の試験に通った。それは私の父が永井荷風先生の東京の水道部の先生をしておられその水道が断水になったので、そこで水を貰って帰ったのである。この時の水先生の伯父様先生という方があって、後二年に入ってから時々お宅へ伺ってお話をきいたりしたが、よく先生のお宅へ行くようになってからは、この水道は断水になり、その水道は断水になり、その水道は断水になり、その

台湾協会々員
会費領収報告
五月十二日より六月十三日まで

賛助会員

神戸市　千代田区　鞄町　四ノ七　一
世田谷区　北多摩郡　狛江町　元宿　合
東京都　北多摩郡　調布町　四ノ一〇〇
東京都　豊島区　巣鴨　三ノ一一
静岡市　清水市　三保　松林
東京都　千代田区　神田　小川町　二ノ一〇丸
東京都　千代田区　丸ノ内　ビル　二ノ一
東京都　千代田区　丸ノ内　ビル　二ノ一
東京都　千代田区　丸ノ内　ビル　二ノ一

台湾協会報
発行所
新宿区四谷大久保2の303
財団法人　台湾協会
電話（代表）　9116-7番
振替口座　東京　4037番
発行人　松本　台吉
印刷所　台湾協会

在外財産問題
最終段階に入る

在外財産の処理問題について引揚者団体においては従来から強硬な運動を続けつつあるが、いまだ日華平和条約第十四条(a)2(b)の規定の解釈について日華両国間に意見の一致をみるに至らず、従って日華間の最終段階の交渉にも入っていない。

最近自民党内の一部に在外財産問題について引揚者団体と話合いの場を持つべきだとの意見があり、また、政府部内においても、この問題の解決について積極的な意見があるといわれている。

全国民の皆さんに訴う!!

(1) 引揚者が在外財産補償を主張している法的根拠について

引揚者の在外財産補償を主張する根拠は、憲法第二十九条第三項に「私有財産は、正当な補償の下に、これを公共のために用いることができる」と規定されていることにあります。

憲法は個人財産を国が使用する場合は補償することを規定しているのであって、補償しないとは規定していません。

在外財産は、平和条約第十四条(a)2(b)の規定で国が賠償金に使用することができるとされていますから、憲法の規定により国は当然補償をする責任が生ずるのです。

以上の理由により、平和条約を盾に法的根拠を主張しているのでは決してありません。

昭和四十年一月二十日東京高裁が、「在外財産は国が補償する義務がある」と初めて判決をしている通り、法律上当然の主張の正当さを立証されています。

(2) 在外財産問題は、他の戦争被害問題とは根本的に異っています

平和条約が発効してから国会内外で幾度となく財産権問題が取り上げられ、又これを補償している各国の例等についても論議されてきました。

従って国会内には引揚者の財産権を尊重する空気が濃厚であります。

(3) 政府の統一解釈は誤っている

政府は、在外財産は引揚者が補償を受けることによって全体として国民経済が立ち行かないから法的根拠のない誤った解釈をとっています。

(4) 日華条約発効の際には引揚者は貢献している

在華日本人（引揚者）財産権一切を放棄すると共に国内ができています。又日華会談の経緯で、国は私有財産が最優先的に処理されて今日に至っていることを忘れてはなりません。

私有財産権は、何人も侵すことはできないことは世界の公法です

国民の正しい声は素直に政治に反映させる責任があるにもかかわらず政府首脳は国民の要望に対し、いつも理屈をつけ逃げ廻し、厳しい理由をデッチ上げ、無駄な金と時間を国民に浪費させて踏めさせることが、悪人の手腕とか、世間の笑い草になっている態度が、引揚者問題を二十年以上もたって解決していないよい証拠です。

従って団体と云う人がありますが国民が主張しなくてもよい、国民のために、国民の政治をする姿勢に、政府政策上必要な問題はないでしょうか。私達は国家財政を無視したり、国民に犠牲を強要しようとする考えは断じてありません。

個人の財産権は、戦時・平時を問わず不可侵の世界の公法と、日本の各種の国内の法律で保障されています。

私有財産権は、何人も侵すことはできないことは世界の公法です

国民の正しい声は素直に政治に反映させる責任があるにもかかわらず政府首脳は国民の要望に対し、いつも理屈をつけ逃げ廻し、厳しい理由をデッチ上げ、無駄な金と時間を国民に浪費させて踏めさせることが、悪人の手腕とか、世間の笑い草になっている態度が、引揚者問題を二十年以上もたって解決していないよい証拠です。

従って団体と云う人がありますが国民が主張しなくてもよい、国民のために、国民の政治をする姿勢に、政府政策上必要な問題はないでしょうか。私達は国家財政を無視したり、国民に犠牲を強要しようとする考えは断じてありません。

個人の財産権は、戦時・平時を問わず不可侵の世界の公法と、日本の各種の国内の法律で保障されています。

(2) 自民党内別会派のメンバーになる

第二百回（6・28）自民党は、引揚問題調査会の次の通り発表

（六月二十八日午前十二時二十分）

会長＝愛知揆一（衆院・元大蔵、内閣官房長官）

委員＝園田直（衆院）、岡崎英城（衆院）、山本勝市（埼玉）、辻寛一（愛知）、世耕弘一（大阪）、原田憲（大阪）、松田竹千代（大阪）、坊秀男（大阪）、松田竹三郎（兵庫）、川崎秀二（兵庫）、渡辺元三郎（兵庫）、関谷勝利（愛媛）、以下衆議院

西田信一（北海道）、石原幹市郎（福島）、船田譲（福島）、松野孝一（秋田）、植竹春彦（栃木）、平島敏夫（富山）、以下参議院

自民党本部の事務局長が次ぐ二回開催の在外財産問題調査会の顔ぶれ

欧州から帰った 大西氏(元副社長)を迎えて 久方振り拓友会開く

旧台湾拓殖株式会社の関係者の集い拓友会常任幹事会を去る7月11日午後一時より神田、学士会館で開催する。

今回は東京、横浜、静岡、埼玉、千葉、茨城在住の方々にも呼びかけ幅広い拓友会常任幹事会とすることが出来た。

出席者は大西副社長、藤崎、堀、宮本、浜田、羽鳥重甲、竹内、藤井、武藤、伊藤幹事、武藤大雄、吉雄、三井秀雄（書記）各氏の外、本社本店出張所長会議の為、台湾より来日中の、前社長、現在は台湾電力会社の顧問をしている、小林躋造氏、元台湾銀行頭取、現在は日本興業銀行の総裁をしている、堀内謙介氏、元台湾総督府の官房長官、現在は日本専売公社の総裁をしている、木下信氏、元台湾総督府の殖産局長、現在は日本興業銀行の副総裁をしている、小倉武一氏、元台湾総督府の財務局長、現在は大蔵省の事務次官をしている、石田正氏、元台湾総督府の交通局長、現在は日本国有鉄道の総裁をしている、磯崎叡氏、元台湾総督府の殖産局長、現在は日本興業銀行の副総裁をしている、堀内次雄氏、元台湾総督府の財務局長、現在は日本興業銀行の副総裁をしている、等々の方々が、特に台湾から駆けつけて下さった。

拓友会の記念撮影（記事参照）

会は武藤の挨拶に始まり、昨年十二月台湾旅行の模様を映画にして来られた三井秀雄氏の映画説明があった。

映画は台湾有史以来の大会社三井物産の人々の栄光の足跡を、台湾の風景の美しさと共に描き出したもので、観る人々に深い感銘を与えた。

映画の後、懐かしい台湾の山河を眺めながら、旧交を温めつつ、楽しい懇談の一時を過ごした。

最後に伊藤君より、次期開催の幹事の方々が推年の内に我々若者は予算を出し、相撲に招き、南国の美しい秋をご一緒に招けたが、個々の予算の都合で、なかなか出来なかったが、今年は今回の会場にも近い箱根で開催することに決定した。

（写真は大西氏）（書記）

校友会出席者氏名（順序不同）

東京都二重県二重県二〇名

武藤大雄　吉雄

静岡県二重県

磯崎叡、堀内次雄、小倉武一、堀内謙介、池田敏雄、泉正隆、伊藤繁之介、池田清二、板橋四郎、奥田松太郎、原正佐吉、斎藤信吉、佐藤文哉、斎藤信、酒井忠雄、坂田平一郎、佐藤八一雄、佐藤新吉、下村宏、杉原荒太、鈴木義矢、鈴木英、竹下孝、竹中亜一、西義郎、長谷場純孝、藤崎信、堀内謙介、松井慶四郎、松本烝治、三井秀雄、三井高維、三井高公、三井高遂、三井高維、三井高陽、三井高光、三井高寛

東門(景福門)のほとりに遊んだ、その昔

台北旭小同窓会正榕会の総会

待望の名簿ができました

台北旭小学校の児童の皆さんに従って数多くの卒業生を出している台北旭小学校の同窓会正榕会の第八回総会はさる六月五日、正午から東京平野の開四の花山亭で開催された。会員二〇名が出席なつかしい昔話に花を咲かせ、年に一度の楽しい日を過ごした。

会員は旧聞をはじめ、明治四十二年の卒業生から昭和二十年の卒業生まで非常に広範囲にわたるが、旧制高等科（廣門）で教えられた年少女時代に返り、全員が校歌を合唱して、また来年のつどいを約して盛会裡に午後四時散会した。

なお、永年の念願であった会員名簿ができて、当日の参会者には三〇〇円で一部ずつ配布された。その他の会員には謄写版にて会員名簿は送料共三五〇円を添えて申し込金額次第、名簿を郵送する由。

夫なれば

宇田　菊生

愚らいて夜ごと聴めいる老いし妻

島に逝く

宇田美佐枝

沖縄の地に逝きたる吾が父の看取られざりし心に残る

四人のこされし戦の寂しさ連絡つかず泣くのみ死にゆく

神縄の島の島の地の島間深海へ名の如く

戦なくばかかる住なき土地なしと住む日の父より聞きおくひびし

七月二日の父の命日の豪雨と共に去りし父を哀しむ

混沌き晴れ小鳥に祝りし何を想いて父逝きたるや

台北旭小同窓会正榕会の総会

待望の名簿ができました

夫なれば　宇田　菊生

愚らいて夜ごと聴めいる老いし妻

に苦も聴めいて魂の消耗く

うつつとも夢ともわかぬ寂かな夜に

聴めいる本の音しばしはさき

気休めの言葉はただに空しまる音

いみ、感ぶむれ夫それは

掌を洗って煮の煩と飲べよる熟な

音の騒きいたちち

取られざりしわに残る

四人のこされし戦の寂しさ連絡

つかず泣くのみ死にゆく

神縄の島の島の地の島間深海へ名

の如く

戦なくばかかる住なき土地なし

と住む日の父より聞きおくひびし

き悲いの日の豪雨と共に去りし父を哀しむ

混沌き晴れ小鳥に祝りし何を想いて父逝きたるや

学うまの如かこの世に遺しる胸

うつ秘出されたから

島に逝く

宇田美佐枝

沖縄の地に逝きたる吾が父の看取られざりしわに残る

四人のこされし戦の寂しさ連絡つかず泣くのみ死にゆく

神縄の島の島の地の島間深海へ名の如く

戦なくばかかる住なき土地なしと住む日の父より聞きおくひびし

七月二日の父の命日の豪雨と共に去りし父を哀しむ

混沌き晴れ小鳥に祝りし何を想いて父逝きたるや

楽山療養院にて

右から名古屋事業懇談氏氏、岩台北旭川二夫婦さん、台湾救癩援後援会関係者一同（楽山療養院）

台湾の救癩事業後援会

続々賛助金

早くも目標額の1／3

台湾協会を窓口団体として発足」した台湾救癩事業後援会の主旨に対し、全国各地より多大な反響があり、二八八名の多数に及ぶ台湾関係者から賛助申込があった。去る七日現在締切十二時に達し、目標の約三分の一近くに及ぶ有様で、多数の善意に関係者一同感激の意を表している。

この程台湾の医師團川一夫博士より、台湾救癩後援会事務理事に就任、救癩に献身的努力を誓う旨の挨拶状が寄せられたが、それによれば、故永観音山麓にある楽山療養院には収容施設が二千の病室、看護婦寮が二棟の外、診療室、手術室、レントゲン室、薬局、炊事場を備え目下総工費二千万円を投じて拡張工事中であるとのこと。

一昨年は二十二回全国を巡廻し、最近はその設備が整ったので、ハンセン病患者の収容を始めたが、なお、現在は一般病患者のみを収容しているが、近く癩患者の収容を開始する予定であるとのこと。

台湾救癩協会は戦後の外地引揚者の救援に当ったが、昭和二十年八月一日現在の台湾人口二百五十万人中、癩患者は約九千名と推定されていたが、その後の調査によれば、その数は遥かに多いことが判明、台湾省政府は昭和二十四年以来、癩患者の絶滅を期して、全島を十区に分ち、各区に一ヶ所の癩病院を設置する計画を樹立、既に台北、台中、台南、花蓮港、澎湖島の五ヶ所に癩病院を設置、収容治療に当っているが、収容患者は僅かに千名に過ぎず、大部分の患者は自宅に放置されているのが現状である。

台湾救癩協会は、台湾内から寄せる寄付金と、政府の予算とにより癩病院の拡張、患者の収容治療に当っているが、政府の予算にも制限があり、従って不足分の寄付金を受けて、共同して、官、民一体、一致協力、積極的に癩患者の絶滅に努力したいとの熱意を示している。

現在では、また台湾関係の医師が海外で癩患者のために献身する事は目下の処大変難しい模様にあるので、この様な事情から台湾癩医師団が組織され、この様な医師、楽山療養院に勤務する看護婦両婦の日本からの派遣に対しては現地では心から感謝の意を表せられているとの事で、従って台湾救癩のために組織された後援会は、台湾の方々の期待に応えていく為には、多額の資金を必要とするので、広く一般各位の御協力を仰ぐべく、目下、各地に於いて募金運動を展開中であるが、

台湾協会々員
会費領収報告

六月十四日より七月十一日まで

一般会員

中村　静　静岡市呉服町一ノ二五
鈴木　茂　静岡市呉服町一ノ二五
山崎　静　静岡市呉服町一ノ二五
大橋　静　静岡市呉服町一ノ二五
小林　静　静岡市呉服町一ノ二五
小林　静　静岡市呉服町一ノ二五
小林

臺湾同盟通信

定価　一部　30円　郵税共
一ヶ年　300円
毎月一回1日発行

発行所　社団法人　台湾同盟
東京都港区赤坂青山北町4ノ106
電話（40）0091番

編集兼発行人　平田東治

信條

会社その役員の言行は厳に信條と本文の趣旨に徴して厳正なる批判をなし、その機関紙たる台湾同盟通信は、社会、経済、政治、学術、調査研究の各般にわたり、台湾の問題を中心として日台間の問題を公平に報道するを以て目的とし、日台両国民の相互理解と親善とを計ることを果たすべく努力する。

新宿ビル着工

早期落成を望む声高し　そのうえで一本化実現

台湾関係二本化委員会（委員長衆議院議長）は九月十四日午後二時半から衆議院議長室で第二回会合を開いた。出席者は衆議院議長・太田副議長・岡崎勝男・高瀬荘太郎・岩佐憲治・馬場元治・田中栄一・椎熊三郎・山下春江・松浦周太郎・赤城宗徳・横路節雄・加藤勘十・前田房之助の諸氏。いろいろ懇談して八時散会したが、次の概要は次のとおりである。（敬称略）

衝撃　済かったのでしょう。会合をしなかったが、残しても仕方ないと、それに先方の金融上の措置とかんから満足を得たことであるので、お集りを願うことにしたが、その際に通知したが、急ったに矢張り悪いかともかくに、その席上が話があったと民党の総裁会議がここで開かれるとかいうことで、自民党の会合が二時ごろまでかかるとのことであるので、二時半ごろから開会することにしたが

十月二十八日豊島が岡墓所で
北白川宮能久親王 六十五年祭
参列希望は事前申出る

十月二十八日豊島北白川宮能久親王殿下の六十五年祭が執行されます。六十年前までは勿論のお祭りとして郵便がら台湾全島を挙げてたいへん盛大でしたが、今は東京都文京区大塚坂下町護国寺東の豊島が岡墓所に北白川宮ご一家の墓があるだけで、参拝もごく少数の人々に限られます。すると、会合などはあい変らず護国寺で執り行われますので、北白川家に御縁の深い方々は、十月七日までに、参列をするかしないかの申出でもらえば用意をすることの返事をいただきました。人員と報告を至る都合がありますから御申出下さい。

宮様の思い出

北白川能久親王殿下は、明治維新の際、上野の彰義隊の首領として擁立されたが敗れ、一時は謹慎の身となられたこともあった。その後、明治二年（一八六九）十二月に復帰を許されて、この年二月に静岡藩知事に任ぜられ、同年七月に静岡藩知事に任ぜられ、同年七月に静岡藩知事に任ぜられ、同年七

台湾新事

アメリカの援助
軍事・経済で年三億ドル

台湾の野党
民主革新同志連盟結成

引揚者特集
愛知県連事務局

台湾同盟報告
社団法人

広告

昔ばなし
藤山さんと砂糖

皆さんの願い
台湾会員の

（1）　昭和36年11月1日　毎月一回発行　　月刊台湾同盟通信　（昭和29年11月10日第三種郵便物認可）　第74号

臺湾同盟通信

定価　一部　30円　一ケ年　300円　郵税共
毎月一回1日発行
発行所　社団法人　台湾同盟
東京都港区赤坂青山北町4ノ105
電話（40）0091番
振替口座名　社団法人　台湾同盟
振替東京　10927番
編集兼発行人　平田末治

信條

社会その役に立つ正しい言論の機関たらんとするを以て信條とす
政治、経済、社会の調査研究を基とし台湾の問題を中心として日本と台湾との間の文化交流を図り台湾同胞の福祉増進を目的とするを以て信條とす
日本は台湾と何等の関係なきが如く台湾は日本と何等の関係なきが如くせんとする等の誤れる観念を打破し台湾は日本の生命線なりとの観念に徹底せしめんとするを以て信條とす
台湾は日本の台湾なりとの観念を以て台湾の開発に当ら

当面の問題を語る

台湾同盟同人座談会（その五）

A　台湾同盟は団結があるから大会も開けるのではないか。

B　先週の例会で分科会の問題も出たが、大綱のようなものを決めたらどうか。

C　台湾同盟の「目的」には団結をうたっているが、これまでもうるさ方がいるので、それを恐れて何もやらないというのでは困る。

D　僕の経験からいうと、日台親善を口にするが、さっぱり実行しない。台湾同盟も在京婦人の集まりとか、同人の子弟の集いとかを計画してはどうか。

E　学費ということになると、もうそこらから「赤化」だと騒ぎ出すのが必ずいる。

F　留日学生の中にも、台湾人を装って入り込んでいるのがいるらしい。

G　若い人々は同窓会に集まるが、卒業すると同窓会にも出なくなる。

H　資金を作ることに努力するようというが言うだけでは空論。一つ一つ問題を決めたらよい。

I　台湾同盟の会員の中には、いまの政治に不満をもつ人々もいるが、これまでの経過からして、台湾同盟は政治団体ではない。

J　台湾同盟の会員の中には、いまの政治に不満をもつ人々もいるが、これまでの経過からして、台湾同盟は政治団体ではない。

K　台湾同盟の会員の中には、いまの政治に不満をもつ人々もいるが、これまでの経過からして、台湾同盟は政治団体ではない。

L　台湾同盟の会員の中には、いまの政治に不満をもつ人々もいるが、これまでの経過からして、台湾同盟は政治団体ではない。

M　台湾同盟の会員の中には、いまの政治に不満をもつ人々もいるが、これまでの経過からして、台湾同盟は政治団体ではない。

N　台湾同盟の会員の中には、いまの政治に不満をもつ人々もいるが、これまでの経過からして、台湾同盟は政治団体ではない。

O　台湾同盟の会員の中には、いまの政治に不満をもつ人々もいるが、これまでの経過からして、台湾同盟は政治団体ではない。

P　台湾同盟の会員の中には、いまの政治に不満をもつ人々もいるが、これまでの経過からして、台湾同盟は政治団体ではない。

Q　台湾同盟の会員の中には、いまの政治に不満をもつ人々もいるが、これまでの経過からして、台湾同盟は政治団体ではない。

R　台湾同盟の会員の中には、いまの政治に不満をもつ人々もいるが、これまでの経過からして、台湾同盟は政治団体ではない。

S　台湾同盟の会員の中には、いまの政治に不満をもつ人々もいるが、これまでの経過からして、台湾同盟は政治団体ではない。

T　台湾同盟の会員の中には、いまの政治に不満をもつ人々もいるが、これまでの経過からして、台湾同盟は政治団体ではない。

U　台湾同盟の会員の中には、いまの政治に不満をもつ人々もいるが、これまでの経過からして、台湾同盟は政治団体ではない。

V　台湾同盟の会員の中には、いまの政治に不満をもつ人々もいるが、これまでの経過からして、台湾同盟は政治団体ではない。

W　台湾同盟の会員の中には、いまの政治に不満をもつ人々もいるが、これまでの経過からして、台湾同盟は政治団体ではない。

X　台湾同盟の会員の中には、いまの政治に不満をもつ人々もいるが、これまでの経過からして、台湾同盟は政治団体ではない。

Y　台湾同盟の会員の中には、いまの政治に不満をもつ人々もいるが、これまでの経過からして、台湾同盟は政治団体ではない。

Z　台湾同盟の会員の中には、いまの政治に不満をもつ人々もいるが、これまでの経過からして、台湾同盟は政治団体ではない。

浅沼稲次郎氏の死をいたむ

あすは追悼の法要

この歌は一千万円、渡辺銀次郎氏

台湾同盟評議員会

参議院議員会館で

台湾同胞の運動方針は、初めて月一回、定期的に評議員会が行われることになった。第一回は十一月十二日午後一時から参議院議員会館で開かれる。

評議員は、初めて月一回、定期的に評議員会が行われることになった。第一回は十一月十二日午後一時から参議院議員会館で開かれる。

台湾引揚者の声

私の足跡（上）

～小坂外相にご一読願う～

滝沢豊吉

私は明治二十年、二月民報創刊と時を同じくして台湾に渡り、それ以来、台湾人の人々と苦楽を共にしてきました。

行政訴訟しよう

越智末吉

私は昭和二十年一月民報創刊と時を同じくして台湾に渡り、それ以来、台湾人の人々と苦楽を共にしてきました。

京都海外引揚同胞連盟

ニカ所で大会

京都海外引揚同胞連盟（理事長・増田正義氏・京都市役立事務局）では、十一月十一日から二日間、京都市内二カ所で大会を開催した。

アジア反共会議

自由アジア協会（東京都千代田区九ノ内三の二）はその会報の中で「自由のアジア反共会議」の日本を誇めて「この度の会議の報告書を作製した。本年八月十五日から十二日まで台北市で開かれた第一回アジア人民反共連盟大会に出席した日本代表団の報告書である。

在外財産問題の早期解決

給付額の是正・均衡図れ

全国民に代り賠償に充当された私有財産補償を

給付金法未改正点を必ず通常国会で

動よ　運動せよ　増額開展

村松儀右衛門

会員の皆さん　お願い

台湾同盟　報告

特別会員（九月十六日～十月十三日）

東京都世田谷区東烏山町二ノ三一（純五口）　田中喜夫
長野県諏訪市四賀四四ノ二三一　小池長蔵
東京都港区芝田町五ノ一六　白井伊一郎
東京都（　）　中野区新井二ノ一四ノ一　橋本八人
埼玉県大宮市（　）　中井区上尾ノ一九六ノ一　松村勝雄
東京都世田谷区北烏山町八ノ一　松村清隆
大阪府東淀川区下新庄町（　）　玉置良彦
東京都新宿区百人町二ノ一（　）　松本敏一
大分県別府市（　）　青木　繁
愛知県一宮市本町通七ノ一五（　）　加藤松五郎
東京都世田谷区経堂町一ノ九七七（　）　清水統信
東京都（　）　杉並区西荻南二ノ一四ノ一（　）　松本昭男
台湾（　）　台北市大安区大安路二三ノ一（　）　武見久二郎
東京都（　）　中野区新井町四ノ一四ノ一（　）　加村欣治
東京都（　）　杉並区新高円寺一ノ三五六（　）　石橋信輝
大阪府（　）　東淀川区東中島町一ノ一五六（　）　岩崎　昇
静岡県（　）　静岡市相生町一ノ一（純）　久米三九郎
東京都（　）　港区芝公園一ノ一四ノ一（　）　松井貫之
愛知県（　）　名古屋市中区栄町二ノ一（　）　高木　清

正会員（九月七日～十月十三日）

東京都港区北青山一ノ九三（純）　伊見　常夫
熊本市健軍町宮崎七　（純）　大脇　保
静岡県相生町一ノ二四（純）　山崎　亮
佐賀県小城郡三日月町（純）　関川　治
青森県八戸市内丸三ノ三（　）　宮下四郎
東京都世田谷区北烏山町二ノ一五　（純）　武内　隆幸
愛媛県今治市紺町一丁目（純）　西田　あや
福岡県八女郡広川町大字新代一六五九　（純）　井上幸彦
大阪府池田市緑丘町一ノ八　西村芳　（純）　遠藤　幸雄
東京都港区芝公園一ノ一七ノ二　（純）　岡島　伊三
東京都世田谷区北烏山町二ノ一四ノ八（純）　小川　静子
横浜市南区大岡町二ノ三七　（純）　山崎　常夫
熊本市健軍町宮崎七　（純）　安田陽一郎
福岡市博多区御供所町二ノ一（純）　久米　幸
熊本県阿蘇郡白水村大字吉田　（純）　堀田　金蔵
東京都港区芝公園一ノ一七ノ二　（純）　井手　ハマ
昭島市拝島町四ノ七一　第二菊谷アパート　一九一　（純）　長谷川明子
熊本県玉名郡玉名町亀甲　（純）　金　（九月十三日）

賛助会員（九月十六日～十月十三日）

田中喜夫　橋本八人　白井伊一郎　松村勝雄　松村清隆　玉置良彦　松本敏一　清水統信　加村欣治　石橋信輝　岩崎　昇　久米三九郎　松井貫之　高木　清　武見久二郎　遠藤　幸雄　岡島　伊三　小川　静子　山崎　常夫　安田陽一郎　久米　幸　堀田　金蔵　井手　ハマ　長谷川明子　宮下四郎　関川　治　武内　隆幸　西田　あや　井上幸彦　松井貫之　西村芳　伊見　常夫　大脇　保　寺西　清子

団体賛助会員（九月十六日～十月十三日）

台湾同胞有志会　台湾同胞有志会

資料篇

未帰還者に関する特別措置法（上）

昨年、法律第一号で未帰還者に関する特別措置法が公布された。我が引揚者を直接関係とした多くのものではないけれど、問に戦争犠牲者でも、未帰還者と引揚者とは性質を異にするものがあることを示す資料として掲げる　なおこの資料は名古屋中区錦外郵便局ハノ二にある全国引揚者生活協同組合連合会（理事長荒井源吾氏）から提供されたものである。

第一条（この法律の目的）この法律は、昭和二十二年一月一日以後において、昭和二十年一月一日以後生存していたと認められる者（以下「未帰還者」という。）に係る民法（明治二十九年法律第八十九号）第三十条の宣告の請求は、厚生大臣に対してすることができる。ただし、厚生大臣において当該未帰還者が次の各号のいずれかに該当すると認める場合には、この限りでない。

一　昭和二十年一月一日以後生死が明らかな者（前段の事情により現に生存している可能性が多いと認められる者を除く。）

二　昭和二十年一月一日以後生存する確実な情報

（1）　昭和35年12月1日　毎月一回発行　　月刊台湾同盟通信　　（昭和29年11月10日第三種郵便物認可）　　第75号

臺湾同盟通信

定価　一部　30円　一ヶ年　300円　郵税共
毎月一回1日発行
発行所　社団法人　台湾同盟
東京都港区赤坂青山北町4ノ106
電話（40）0091番
振替宛名　社団法人　台湾同盟
振替東京1092番
編集兼発行人　平田末治

信條

社会の役に立つ正しい言論を以て信條とする本紙は日台間の政治、経済、文化等の問題を調査研究し、その関係を親善ならしめる様努力し、従つて厳正公平を期すると共に日台間の問題を目的にもへんせずに批判報道をなし、日台間の問題を目的にもへんせずに批判報道をなし、日台間の問題を目的にもへんせずに批判報道をなし、

続決議集

兵庫県

台湾同盟兵庫県支部結成大会は十二月六日午後四時から三宮神戸新聞会館で開かれ、本部から三宮副支部長ほか十四名が参加、次の決議をなした。

決議

兵庫県下の台湾同胞一同は台湾民族が国家を形成するまでの間、本部から同胞事務局設置に関する要望があれば、これに協力する。

長崎県

台湾同胞の地位は、他のいずれの地とも同日に論ずべきではない事情が明らかであり、日華講和条約を通じて国籍が明らかにされたからには、台湾同胞の有利な地位に向上するよう、全力を尽すべきである。

一、台湾同胞の地位に関する講和条約の解釈については、政府は強力に要請すべきである。

一、台湾同胞の地位に関する講和条約の解釈については、政府は強力に要請すべきである。もし政府が期日までに解決しない場合は、国連に提訴

資料篇

未帰還者に関する特別措置法（下）

昨年、法律第二号で未帰還者に関する特別措置法が公布された。我我引揚者を直接対象としたものではないけれども、同じ戦争犠牲者でも、未帰還者と引揚者とでは補償に相当の差があることを示す資料として掲げる。なおこの資料は名古屋中区役所の鈴木一郎氏から提供されたものである。

会　理事長荒井源吾氏

第七条　国籍存の数人ある場合において、戸籍簿の記載又は戸籍の記載若しくは記録の滅失若しくは滅失のおそれが

臺湾同盟通信

定価　一部　30円　一ケ年　300円　郵税共
毎月一回1日発行
発行所　社団法人　台湾同盟
東京都港区赤坂青山北町4ノ106
電話（40）0091番
振替口座名　社団法人　台湾同盟
振替口座番号　東京1027
編集兼発行人　平田末治

信條

会社その他の役務は、経済、政治、学術研究、調査等の機関の従つて厳正公平なる言論を以て信條とする本紙は台湾同胞の親善を目的とし、台湾問題の解決に努力し、台湾同胞の幸福増進に貢献することを以て信條とする本紙は日台間の問題を何等の計画をも有せず、又日台両国の政治的紛争に関しては厳正中立の立場を堅持し、報道は事実を重んじ、評論は公正を期する

三月ごろ 全国会議

中村久留米支部長提唱

台湾同盟久留米支部長から次のような提唱があったので本紙上で皆さんに訴えまする。本部においてもかねてより懸案となっているが、本部としては諸般の事情から本部ではなく、各支部が適当な時期に全国会議を開催するよう希望する。

台湾同盟本部では、会員の団結や会員増強運動を希望しておられるようだが、私ども団体は人格を備えた実力団体と信じており、会員の数によって運動が左右されるものではないと信ずる。

要は熱意ある有志の物心両面における一時的犠牲をいとわず、積極的に解決を図ることが自己のためであり、かつ会員同胞者の更生と、各人共に歴史的同胞者ということばを発揮するユエであると信ずる。

以上提案の主旨に賛同のかたがたは一致ですから、ハガキでも結構ですから御賛同の意思表示を願います。

提唱者　中村亨

下村海南先生記念事業実行委員会

石井光次郎・緒方竹虎・安藤紀三郎・矢野庄太郎・緒方信一・船田中・小林中・小坂善太郎・川崎秀二・園田直・重光葵・岸信介・藤山愛一郎・三木武夫・石橋湛山・河野一郎・松村謙三・三木武吉・大麻唯男・益谷秀次・苫米地義三・星島二郎・増田甲子七・前尾繁三郎・福田赳夫・川島正次郎・重政誠之・周東英雄・村上勇・小沢佐重喜・小平久雄・小金義照・小山倉之助・小川半次・小川平二・大野伴睦・大久保留次郎・大橋武夫・大平正芳・大村清一・大森玉木・岡崎英城・岡田勝二・岡田春夫・岡田宗司・緒方孝男・緒方竹虎・緒方信一・緒方秀雄・緒方彦一・緒方良知・緒方貞子・緒方逸郎

新春雑感

元台湾総督　長谷川清氏

「明けましておめでとう」老年一月元日の朝の一言。終戦の年の二月元日は満七七才の誕生日を迎えるまでの私の感慨はいかばかりであったか。激動する国際環境と風雲急を告げる国内情勢、というわけで、とうなるかと悩んだ年、夜もロクに眠れなかった年、そうして考え悩むと、私にとって昭和十年来、真に忙殺はされつつも生甲斐を感じた時代のようにも思われる。

台湾総督という職責を負って赴任し、前後二十年に亘る台湾統治の間、人情味豊かな台湾人から受けた数限りない恩義の数々。これに対して、ほんの僅かばかりでも報いたいと思うことは、人情味豊かな台湾人ならずとも誰しも同じ心持ちであろう。

思い出すのは昭和十年末、台湾総督として赴任するに当り、当時の後藤文夫内相から「台湾は内地人一世もの特殊地域であるから、内地人の台湾に対する施政の方針に反するような施策は絶対に避けるように」との注意を受けたことである。

台湾統治の根本方針は、台湾人をして内地人と同様の幸福を享受せしめるにあることは勿論であるが、台湾人の特殊地域たることを考慮して、内地人と同様の施政方針に反するような施策は絶対に避けるようにとの意味であったと思う。

同じ島内でも内地人と台湾人とでは風俗習慣を異にしている。台湾に生れ台湾に育った内地人一世もの特殊地域であるから、台湾に生れ台湾に育った本島人一世もの特殊地域であるから、この両者を一視同仁に取扱うことは、一見平等のようであるが、実は不平等であり、不公平であるといわねばならない。

そこで台湾統治の根本方針は、内地人と本島人とを区別することなく、しかも台湾の特殊地域たることを考慮して、台湾人には台湾人に適した施政を行うことにあった。

台湾人には台湾人に適した施政を行うことは、台湾人の民度が内地人に比べて低いからではない。台湾人の民度は内地人に比べて決して低くはない。ただ台湾人には台湾人

移住立退料を要求
給付金でだまされるな

政府は戦後第二の我

我引揚者の運動に対して、政府は戦後第二の我がなお知らなければ、驚異と批判を浴びるおそれがある。

そのような無責任さやり方を相手に、国家事件が引揚者の運動に対して、政府の責任において補償のための民度基準を作製して、審判のできるものから解決をつけるべきである。対外的特別扱いの名目で、引揚者の財産の処理をあいまいにしておくことは、日本政府の無責任さを暴露するものである。

立

憲政体おとり返事詐欺

ように、憲法にのっとって政治を運営するとは、いわゆる多数の意見と国民の意思を尊重することである。引揚者の財産の処理、補償の問題に関しても、国民の大多数が引揚者の財産の処理、補償の問題に関しても、国民の大多数が引揚者の財産の処理、補償の問題に関しても、国民の大多数が

刑務所から叫ぶ

岡山敏夫

事実を発表して頂きたいと思います。

私は昭和十七年十月十日の午後、突然憲兵隊に連行されました。

その日は、朝から雨が降っていました。

私は、その日、午前中、家で、ぼんやりしていました。

すると、突然、憲兵隊から、出頭するようにとの、電話がかかってきました。

私は、何事かと思いましたが、別に、悪いことをした覚えもないので、すぐ、出頭しました。

憲兵隊に行くと、すぐ、調室に入れられました。

そして、取調べが始まりました。

取調べは、次のようなものでした。

「お前は、台湾人を、どう思うか。」

「お前は、台湾人を、どう思うか。」

「お前は、台湾人を、どう思うか。」

私は、この質問に、面食らいました。

台湾人を、どう思うかと言われても、私は、台湾人と、特別に、親しくしたことも、ありませんし、また、悪く思ったこともありません。

私は、ただ、普通の人間として、台湾人を、見ていました。

ですから、私は、そのように、答えました。

すると、憲兵は、

「嘘をつけ。お前は、台湾人を、軽蔑しているだろう。」

と、言いました。

私は、軽蔑などしていないと、何度も、何度も、言いました。

しかし、憲兵は、

「軽蔑しているに、決まっている。」

と、言って、聞き入れません。

私は、困ってしまいました。

軽蔑していないと、言っても、軽蔑していると、言われるのです。

私は、どうしたらよいか、分かりませんでした。

憲兵は、

「軽蔑していないと、言うのなら、台湾人を、尊敬しているか。」

と、言いました。

私は、尊敬しているとも、軽蔑しているとも、言えません。

私は、ただ、普通の人間として、台湾人を、見ていたのですから。

憲兵は、

「尊敬しているか、軽蔑しているか、どちらかだ。」

と、言って、聞き入れません。

私は、困ってしまいました。

どちらとも、言えないのです。

臺湾同盟通信

定価　一部　30円　一ケ年　300円　郵税共
毎月一回1日発行

発行所　社団法人　台湾同盟
東京都港区赤坂青山北町4ノ106
電話（40）0091番
振替口座東京　1092　7番
振替宛名　社団法人　台湾同盟
編集兼発行人　平出末治

信條

会社その他の役員は、政治、経済、社会の問題を調査研究し、その機関の善処を期するとともに、台湾の計画を目的として、何れにも従属せず厳正公平な態度を以て信條とする。
本誌は日台間の道義と親善を目的とし、文化交流を果すことを目的とするも、日台何れの政治、経済、社会の問題をも批判し論議するを以て信條とする。

分骨の見通しつく

二月四日　共済会館で慰霊塔打合

台湾に眠る遺骨の送還問題については一万柱以上に及び、その内地奉還につき台湾同盟は数年来努力をつづけてきたが、昨年夏、平田末治会長、田中泰作理事長の渡台以来、関係各方面との折衝がなされ、その間広瀬健一郎氏の介添役としての配慮も並々ならぬものがあった。

昨年末「わが国政府が台湾各地の日本人公墓地を整理し合同埋葬を進めておられるのを機会に、これら遺骨を分骨して本国に持帰り、慰霊塔を建設し、年々慰霊祭を執り行ない、先人の冥福を祈りたく、台湾同胞引揚者の総意を体し、分骨の儀を懇請致します。なお将来、個人もしくは他の台湾関係団体から問題を起こすようなことがありましたら本国側において解決いたします旨附記のうえ本国側の事業実行者別府つる氏より本国の小坂善太郎外務大臣に提出していたところ、一月吉日付で台湾アジア局長より田中理事長あてに次のような回答があった。

『昭和三十五年十二月二十三日付かつ以て回答いたします』

すなわち吾々は喜ばられ、分骨のお願いがついたのである。そこで台湾同胞以外の台湾関係者を集め、慰霊塔建設準備委員会を結成するとなるが、その下打合せをすることは当然とおもわれます。

香川県台湾互助会　大野副知事会長となる

香川県台湾互助会は二月八日午前十一時から高松城跡被災開で第五回定期総会を行なった。定刻因子山県知事が開会のあいさつ、松本副会長ほか物故会員の霊に対し黙禱を捧げ、山下副会長が経過報告の後議長に移り山下副会長選任となり引揚援護問題等に関する件を会員一同諮問した。続いて来賓代表として山本議長が祝辞を述べ質問懇談等に入り数十名の会員と活発な意見交換がにぎやかに行なわれた。

決議

一、政府は台日単独条約第三条に基き台湾残置財産を速やかに返還せられたい。

二、政府は諸条約に係る引揚者給付金の増額を図るべきである。

三、台湾関係機関は預金業払預金ならびに生命保険の問題を直ちに交渉するべきである。

右は高松市被災開における第五回総会において満場一致これを採択し政府その関係方面に強く要望しその実現を期す。

昭和三十六年一月八日

香川県　台湾互助会

◎役員

▲会長＝酒井俊彦（香川県副知事）
▲副会長＝山下外茂夫（社会福祉協議会会長）
▲会計＝横川義夫（横川商店社長）
▲副会長＝坂出国一（坂出国一ゴムK.K専務取締役）
▲副会長＝横川義夫（横川商店社長）
▲副会長＝岡元一（稲十産業社長）
▲副会長＝中八郎（前高松市長）
▲副会長＝中条義次（香川県観光連盟副会長）
▲副会長＝三浦正義（三浦産業K.K社長）
▲副会長＝高木一雄（県建築課長）
▲副会長＝吉田健一（高松保護観察所長）
▲副会長＝松本辰治（香川県教育連合会長）
▲副会長＝古市亀三郎（丸谷商店主）
▲副会長＝岩佐虎三郎（丸谷商店主）
▲副会長＝横山吉一（横山宝山堂主）
▲副会長＝山本義一（高等検察庁次席検事）
▲副会長＝守田重彦（高松公共職業安定所長）
▲副会長＝村越武夫（三同生命支店長）
▲副会長＝松島正義（海運局船舶部長）
▲副会長＝中条道夫（香川大学教授）
▲副会長＝湯浅義一（三和銀行高松支店長）
▲副会長＝玉真鋼業（株）（玉真保護会社）
▲副会長＝高橋次郎（高松市助役）
▲副会長＝横川元一（横川商店専務）
▲副会長＝三好辰治（香川県観光連盟副会長）
▲副会長＝岩田紀栄（崎陽興産株式会社社長）
▲副会長＝山口勝（長崎県知事）
▲副会長＝山本義一（高等検察庁次席検事）
▲副会長＝守田重彦（高松公共職業安定所長）
▲副会長＝村越武夫（三同生命支店長）
▲副会長＝松島正義（海運局船舶部長）
▲副会長＝中条道夫（香川大学教授）
▲副会長＝湯浅義一（三和銀行高松支店長）
▲副会長＝玉真鋼業（株）（玉真保護会社）
▲副会長＝高橋次郎（高松市助役）
▲副会長＝横川元一（稲十産業社長）
▲副会長＝中八郎（前高松市長）
▲副会長＝吉田健一（高松保護観察所長

当面の問題を語る

台湾同盟同人座談会（その七）

やはり圧力

司会　新年に入って最初の座談会ということで、有力生活団体の一つに数えられていた、それほど活動的であった、C（例の給付金が出たかと思ったが、まだ、頭打ちになったというか、いわゆる・圧力団体・が、まだ、やはり圧力団体としての活動をしているね。僕達の会、旧軍人団体、恩給関係など。

A　相変らずやっているね。遺族会、旧軍人団体、恩給関係など。

B　かつては、すなわち五、六年前までは、われわれ引揚者団体の一つに数えられていた、それほど活動的であった。

C　

所得五倍増 所得最低層 賀屋興宣

◎……本年は皇紀二千六百年に当るので、これを記念する意味に於て、国民所得を五倍に増加することを目標とする。

◎……来年度より国民所得倍増計画に着手する。

◎……そのため、本年度を元年とし、十年間を目標とする長期計画を樹立する。

◎……所得の少ない階層の所得を増加し、所得の格差を是正する。

◎……社会保障制度を確立する。

国民所得二倍増の公正配分

今年も年頭感のあるのは、国民所得倍増の問題であります。池田勇人氏が、国民所得を十年間に二倍にすると言明して以来、政府の施策は、これを中心として行われて来ました。

池田氏の言明は、昭和三十四年度を基準として、十年後に二倍にするというのでありますから、年平均七・二パーセントの成長率を必要とするのであります。

この成長率は、決して困難な数字ではありません。日本の経済は、戦後の復興期を経て、既に安定成長の軌道に乗っているのであります。

国民所得の増加は、国民一人当りの所得の増加を意味するのであります。

国民所得の増加は、国民一人当りの所得の増加を意味するのであります。

国民所得の増加は、国民一人当りの所得の増加を意味するのであります。

賀屋興宣氏の略歴

明治三十二年、高知県に生る。東京帝国大学法科大学卒業。大蔵省に入り、主計局長、次官を歴任。昭和十六年、東條内閣の大蔵大臣に就任、大東亜戦争の遂行に当る。戦後、A級戦犯として終身刑に処せられたが、昭和二十八年、仮釈放。

社団法人 台湾同盟 報告

特別会員（十月分）

東京都千代田区一ツ橋通町二番地　社団法人台湾協会
東京都千代田区一ツ橋通町二番地　社団法人台湾協会
東京都千代田区一ツ橋通町二番地　社団法人台湾協会
東京都千代田区一ツ橋通町二番地　社団法人台湾協会
名古屋市中区栄町四丁目二番地　株式会社名古屋三越
福岡市天神町一番地　株式会社福岡三越
東京都千代田区丸の内二丁目一番地　株式会社三菱銀行